

青森市埋蔵文化財調査報告書 第70集

# 小 牧 野 遺 跡

## 発掘調査報告書

平成14年度

青森市教育委員会

口 絵



環状列石 (N S)



環状列石 (S N)



環状列石南側の内帯、外帯 (W E)



中央帯中心の土坑 (E W)



中央帯中心の立石復元状況 (N S)

## 序

青森市内には特別史跡「三内丸山遺跡」や史跡「小牧野遺跡」をはじめとする約300カ所の遺跡が所在しており、これまでの発掘調査によって、当時の生活の様子が徐々に明らかにされてきました。その一方で、こうした貴重な遺跡を守り、次代に伝えるため、遺跡の保護・保存や整備・活用を図ることも重要な責務であると考えております。

青森市教育委員会では、平成2年度より小牧野遺跡の発掘調査を継続して実施し、平成7年3月17日に環状列石を中心とした約10,000㎡が本市ではじめて国史跡として指定されました。その後、指定地域外の発掘調査を実施したところ、湧水遺構をはじめ貯蔵穴群や捨て場跡などが発見され、史跡範囲が拡大されることになり、平成13年8月13日に約78,000㎡が追加指定されました。これにより小牧野遺跡の史跡範囲は、約88,000㎡となり、この地域一帯が保護されることになりました。

本年度は、遺跡の内容解明を目的に、環状列石の内帯・外帯および中央帯の発掘調査を実施するとともに、平成12・13年度に調査した遺構外出土遺物の整理作業につきましても併行して実施いたしました。本書は、それらの成果をまとめた報告書であります。

ここに本書を刊行することができましたのは、文化庁・県教育庁文化財保護課並びに小牧野遺跡発掘調査会委員の方々はじめ、関係各機関・各位のご指導、さらには地元町会であります野沢町会並びに土地所有者各位のご協力によるものと深く感謝の意を表する次第であります。

平成15年3月

青森市教育委員会

教育長 角田 詮二郎

# 例 言

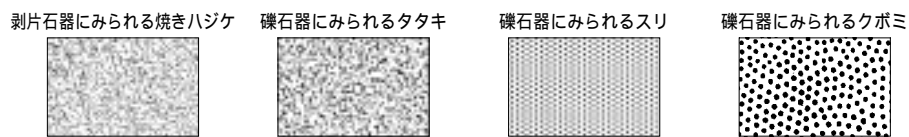
1. 本書は、青森市大字野沢字小牧野に所在する小牧野遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は国ならびに県の補助金交付を受け、平成2年度から継続して実施してきており、本年度は13年目にあたる。初年次から10年次および11・12年次の遺構編についてまとめた報告書（青森市教育委員会1996～2002）は既に刊行しており、本書は8冊目にあたる。
3. 本報告書は、平成14年度調査の概要及び平成12・13年度調査の遺構外出土遺物についてまとめたものである。平成14年度調査の調査成果は、平成17年度に報告する予定としている。
4. 本報告書の主な執筆及び編集は児玉大成が担当したが、第 章第2節2. 石器については蝦名純が担当した。
5. 第 章の各種図面の作成は、「株式会社青森データシステム」に委託した。
6. 第 章の石質の鑑定については、調査員である青森県総合学校教育センター指導主事 工藤一彌氏の協力を得た。
7. 第 章の自然科学的分析については第1・2節を「古代の森研究舎」、第3節を「パリノ・サーヴェイ株式会社」に委託した。
8. 本報告書の土層の注記については、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄1993）に準拠した。
9. 挿図の縮尺は各図に示した。
10. 写真図版の縮尺は土器・礫石器・石皿を1/3、剥片石器・石斧・土製品・石製品等を1/2とした。
11. 図版番号や表番号は、第 ～ 章を「第 図」「第 表」「写真」とし、第 章は各項毎に番号を付した。また、第 章の写真図版の遺物番号については、同章の図版番号と合致する。
12. 出土遺物及び記録図面ならびに写真関係等の資料は、現在、青森市教育委員会が保管している。
13. 発掘調査の実施にあたっては、調査区地権者および地元野沢町会の多くの方々にご協力をいただいた。また、発掘調査ならびに本報告書作成にあたっては、次の機関・諸氏にご指導・ご教示・ご協力を賜った。ここに深く感謝の意を表する次第である。（敬称略）  
文化庁・青森県教育庁文化財保護課・青森県埋蔵文化財調査センター・青森県立郷土館・函館市教育委員会・市立函館博物館・鹿角市教育委員会・鷹巣町教育委員会・五十嵐一治・市川金丸・一町



田 工・上野隆博・江坂輝彌・榎本剛治・岡田康博・岡村道雄・長田友也・加藤真二・鎌田裕二・川口 潤・河原純之・工藤 大・工藤竹久・小久保拓也・小林圭一・小林 克・斉藤嘉次雄・齋藤義弘・佐川正敏・坂本尚史・坂本真弓・櫻田 隆・佐々木由香・佐藤 剛・佐藤智雄・佐々木高雄・佐野一絵・十菱駿武・杉野森淳子・鈴木克彦・鈴木三男・千田茂雄・田澤淳逸・田中寿明・千葉敏朗・富樫泰時・中村 大・成田滋彦・野村 崇・羽生淳子・林 謙作・春成秀彌・福田友之・花海義人・福井淳一・藤井安正・藤沼邦彦・古屋敷則雄・三浦孝一・三浦圭介・三宅徹也・宮尾 亨・村上義直・村木 淳・柳瀬由佳・渡辺 誠

## 凡 例

1. 本報告書内で使用したスクリーントーンは以下の通りである。



2. 土器や石器、土製品の分類については、第 章に記述している。

# 本文目次

序	
例言	
凡例	
本文目次	
図版・表目次	
第 章 遺跡の概要	
第 1 節 調査経過.....	1
第 2 節 遺跡の環境.....	4
第 3 節 基本層序.....	5
第 4 節 これまでの調査成果.....	5
第 章 平成14年度 発掘調査の概要	
第 1 節 調査要項.....	9
第 2 節 調査方法.....	10
第 3 節 調査経過.....	11
第 4 節 調査成果の概要.....	11
1. 環状列石内帯・外帯の調査.....	11
2. 環状列石中央帯の調査.....	12
3. 小括.....	15
第 章 平成12・13年度 発掘調査報告 - 遺構外出土遺物編 -	
第 1 節 調査の概要.....	17
1. 平成12年度の調査.....	17
2. 平成13年度の調査.....	17
第 2 節 遺構外出土遺物.....	17
1. 土器.....	18
2. 石器.....	40
3. 土製品.....	72
4. 石製品.....	89
第 章 自然科学的分析	
第 1 節 放射性炭素年代測定結果.....	138
第 2 節 土坑から出土した炭化材の樹種同定結果.....	140
第 3 節 小牧野遺跡の自然科学分析.....	141
第 章 分析と考察	
小牧野遺跡における縄文後期前半の土器編年について.....	147
まとめ	
引用・参考文献	
報告書抄録	

# 図版・表目次

## 第 章 遺跡の概要

第 1 図	遺跡位置図	1
第 2 図	環状列石	3
第 3 図	地形及び調査区位置図	4
第 4 図	グリッド配置図	7
第 5 図	遺構配置概略図	8
第 6 図	環状列石周辺遺構配置図	2
第 1 表	小牧野遺跡発掘調査・保存の経緯	2

## 第 章 平成14年度 発掘調査の概要

写真 1	環状列石内帯・外帯の調査	13
写真 2	環状列石内帯・外帯の出土遺物	14
写真 3	環状列石中央帯の調査と出土遺物	15

## 第 章 平成12・13年度 発掘調査報告

第 7 図	施文手法・単位文様と土器編年の相関	19・20
第 8 図	東側調査区出土土器( 1 )	24
第 9 図	" ( 2 )	25
第10図	" ( 3 )	26
第11図	" ( 4 )	27
第12図	" ( 5 )	28
第13図	" ( 6 )	29
第14図	" ( 7 )	31・32
第15図	" ( 8 )	33
第16図	" ( 9 )	34
第17図	" ( 10 )	35
第18図	" ( 11 )	36
第19図	南側調査区出土土器	39
第20図	東側調査区出土土器( 1 )	47
第21図	" ( 2 )	48
第22図	" ( 3 )	49
第23図	" ( 4 )	50
第24図	" ( 5 )	51
第25図	" ( 6 )	52
第26図	" ( 7 )	53
第27図	" ( 8 )	54
第28図	" ( 9 )	55
第29図	南側調査区出土土器	69
第30図	東側調査区出土土製品( 1 )	76
第31図	" ( 2 )	77
第32図	" ( 3 )	78
第33図	" ( 4 )	79
第34図	" ( 5 )	80
第35図	" ( 6 )	81
第36図	南側調査区出土土製品	87
第37図	東側調査区出土土製品( 1 )	93
第38図	" ( 2 )	94
第39図	" ( 3 )	95
第40図	" ( 4 )	96
第41図	" ( 5 )	97
第42図	" ( 6 )	98
第43図	" ( 7 )	99

第44図	" ( 8 )	100
第45図	" ( 9 )	101
第46図	" ( 10 )	102
第47図	" ( 11 )	103
第48図	南側調査区出土土製品( 1 )	111
第49図	" ( 2 )	112
第50図	" ( 3 )	113
第 2 表	遺構外出土遺物の概要	17
第 3 表	東側調査区出土土器観察表( 1 )	36
第 4 表	" ( 2 )	37
第 5 表	" ( 3 )	38
第 6 表	南側調査区出土土器観察表	38
第 7 表	遺構外出土土器の概要	40
第 8 表	東側調査区出土土器計測表( 1 )	55
第 9 表	" ( 2 )	56
第10表	" ( 3 )	57
第11表	" ( 4 )	58
第12表	" ( 5 )	59
第13表	" ( 6 )	60
第14表	" ( 7 )	61
第15表	" ( 8 )	62
第16表	" ( 9 )	63
第17表	" ( 10 )	64
第18表	" ( 11 )	65
第19表	" ( 12 )	66
第20表	" ( 13 )	67
第21表	" ( 14 )	68
第22表	南側調査区出土土器計測表( 1 )	70
第23表	" ( 2 )	71
第24表	遺構外出土土製品の概要	72
第25表	東側調査区出土土製品観察表( 1 )	81
第26表	" ( 2 )	82
第27表	" ( 3 )	83
第28表	" ( 4 )	84
第29表	" ( 5 )	85
第30表	" ( 6 )	86
第31表	南側調査区出土土製品観察表	88
第32表	遺構外出土土製品の概要	89
第33表	東側調査区出土土製品観察表( 1 )	103
第34表	" ( 2 )	104
第35表	" ( 3 )	105
第36表	" ( 4 )	106
第37表	" ( 5 )	107
第38表	" ( 6 )	108
第39表	" ( 7 )	109
第40表	" ( 8 )	110
第41表	南側調査区出土土製品観察表( 1 )	114
第42表	" ( 2 )	115
第43表	" ( 3 )	116
写真 4	東側調査区出土土器( 1 )	117
写真 5	" ( 2 )	118
写真 6	" ( 3 )	119

写真7	東側調査区出土土器(4)	120
写真8	東側調査区出土土器(5)	121
写真9	東側調査区出土土器(6)	122
写真10	東側調査区出土土器(7)	123
写真11	南側調査区出土土器	124
写真12	東側調査区出土土器(1)	125
写真13	" (2)	126
写真14	" (3)	127
写真15	" (4)	128
写真16	南側調査区出土土器	128
写真17	東側調査区出土土製品(1)	129
写真18	" (2)	130
写真19	" (3)	131
写真20	南側調査区出土土製品	131
写真21	東側調査区出土土製品(1)	132
写真22	" (2)	133
写真23	" (3)	134
写真24	" (4)	135
写真25	" (5)	136
写真26	南側調査区出土土製品(1)	136
写真27	" (2)	137

## 第 章 自然科学的分析

第1節	放射性炭素年代測定結果	
表1	小牧野遺跡試料の加速器質量分析による放射性炭素年代測定結果	138
第2節	土坑から出土した炭化材の樹種同定結果	
図版1	小牧野遺跡より出土した炭化材	140
第3節	小牧野遺跡の自然科学分析	

図1	試料番号1赤色顔料のX線回折図	143
図2	試料番号2深鉢形土器内面褐色物質のX線回折図	143
図3	試料番号3切断壺形土器の胎土重鉍物組成	144
図4	試料番号4切断壺形土器胎土の三角ダイアグラム	145
図版1	薄片・白色細片・胎土中の重鉍物・貝圧痕およびそのレプリカ	146
表1	試料番号3切断壺形土器の胎土重鉍物分析結果	144

## 第 章 分析と考察

図1	単位文様の分類	148
図2	事例1：第1号遺物集中ブロック	150
図3	事例2：竪穴住居跡・第2号遺物集中ブロック	151
図4	事例3：第5号遺物集中ブロック	152
図5	事例4：第1号竪穴住居跡	153
図6	事例5：環状列石内盛土	154
図7	事例6：環状列石内土器棺墓	154
図8	事例7-1：土坑	155
図9	事例7-2：土坑	156
図10	事例8：三つ重ね土器	156
図11	各事例における共伴関係	157
図12	渦巻文系の主要文様の変遷	159
図13	小牧野遺跡における土器の変遷	160
図14	小牧野遺跡における土器編年(1)	163
図15	" (2)	164
図16	" (3)	165
図17	" (4)	166







本図は、青森市役所発行の「青森市管内図（1:50,000）」を部分的に複製したものである。

第1図 小牧野遺跡位置図

## 第 章 遺跡の概要

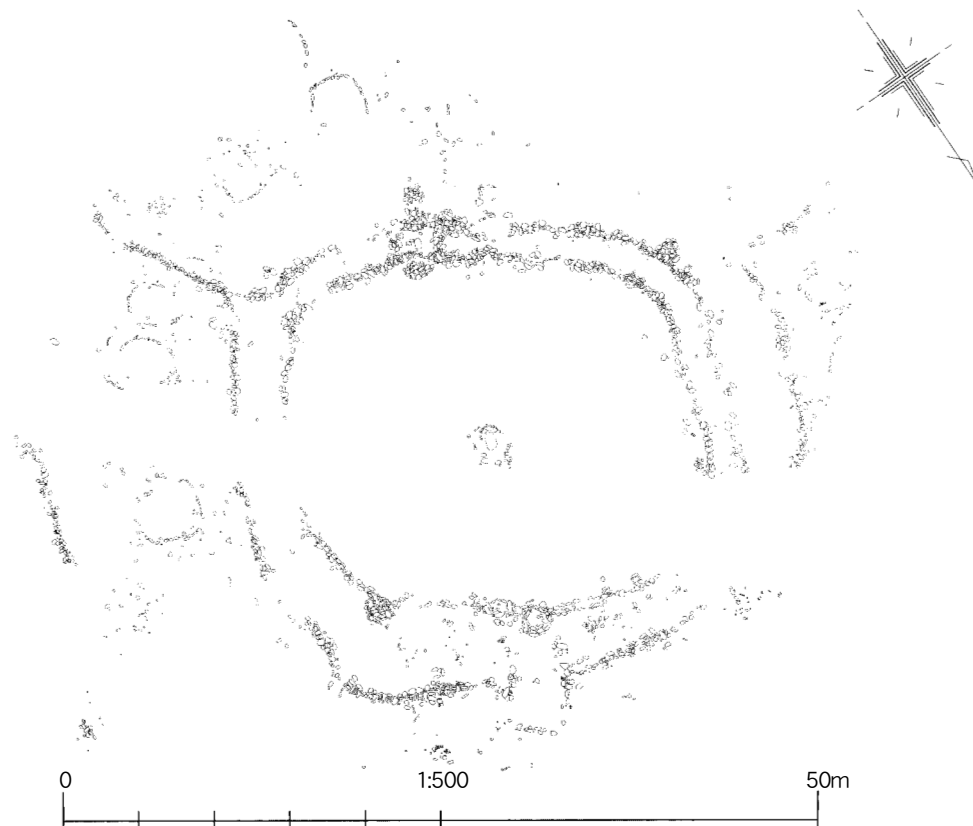
### 第 1 節 調査経過

小牧野遺跡は、昭和60年に青森市教育委員会が高田村史編さん事業の一環として発掘調査を実施しており、縄文時代後期前葉の土器・石器等の遺物が段ボール箱で約2箱分出土している。環状列石は、平成元年に青森山田高等学校により発掘調査が実施され、列石の西側約半分が検出された。遺跡の重要性から、これを契機として、青森市教育委員会では、「小牧野遺跡発掘調査会」を組織し、平成2年度以降、遺跡の内容解明及び史跡公園の実現に向け、継続して国ならびに県の補助金交付を受けて発掘調査を実施してきた。

これまでの発掘調査の経過については、平成2・3年度が環状列石の全体像の確認、平成4～6年度が環状列石構築期の居住区および遺構配置の概要の確認、平成7～11年度が遺跡の範囲確認、平成12・13年度が集落・墓城等の内容確認を目的に発掘調査を実施してきた。本年度は、環状列石の構築過程や作業量等の把握を目的に、列石内帯・外帯及び中央帯の発掘調査を実施した。

また、平成7年3月には、当初からの目標であった国史跡の指定を受けることができ、史跡公園の早期実現に向け、指定地の公有化を部分的に進めてきている。平成12年2月には、文部科学省に追加指定の申請を行い、平成13年8月13日に追加の指定を受け、史跡対象面積が総計87,632㎡となった。

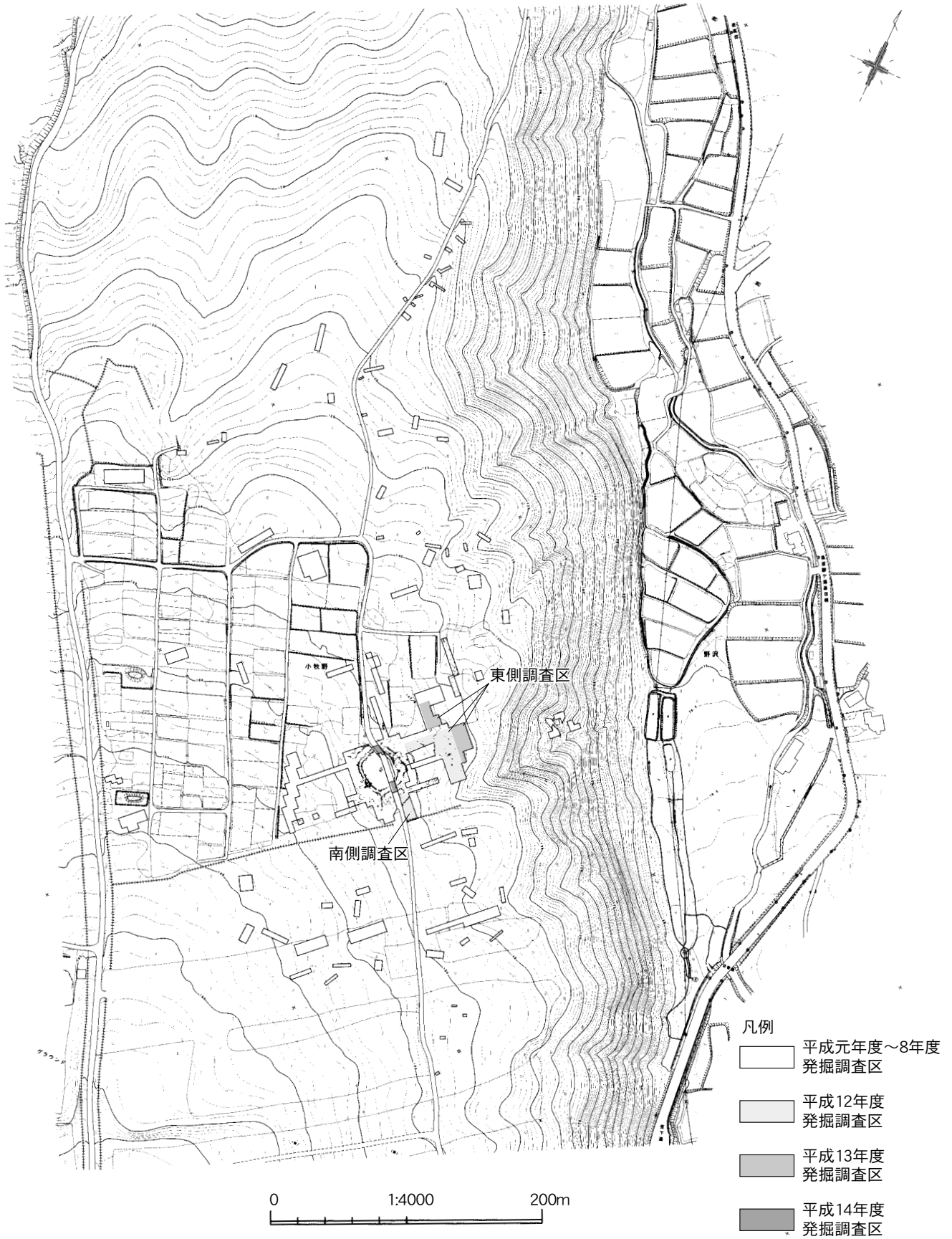
なお、年度毎の発掘調査及び保存・整備の経緯については、第1表のとおりである。



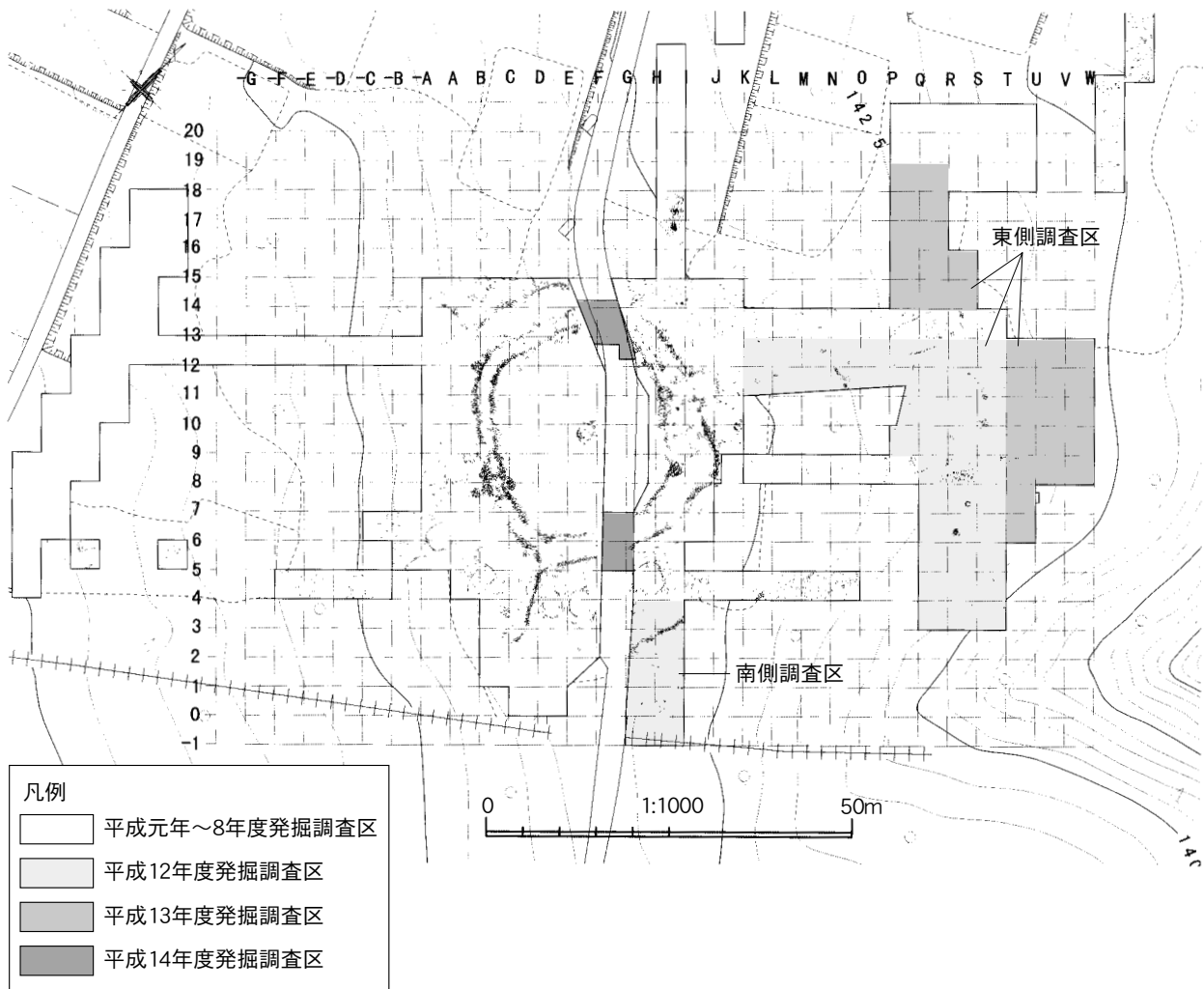
第2図 環状列石

第1表 小牧野遺跡発掘調査・保存の経緯

年度	発掘調査	調査面積 (㎡)	保存整備
昭和60年度	青森市教育委員会による発掘調査 (高田村史編さん事業)		
平成元年度	青森山田高等学校等による発掘調査 (環状列石の発見)		
平成2年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第一次調査、環状列石の調査)	280	
平成3年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第二次調査、環状列石の調査)	850	
平成4年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第三次調査、遺構配置の概要確認)	650	
平成5年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第四次調査、遺構配置の概要確認)	420	
平成6年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第五次調査、遺構配置の概要確認)	1,000	国史跡に指定(平成7年3月17日、指定面積9,766.94㎡)
平成7年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第六次調査、遺跡の範囲確認)	680	環状列石周辺の公有地化
平成8年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第七次調査、遺跡の範囲確認)	952	
平成9年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第八次調査、遺跡の範囲確認)	1,480	
平成10年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第九次調査、遺跡の範囲確認)	1,259	
平成11年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第十次調査、遺跡の範囲確認)	697	小牧野遺跡整備基本構想、および基本計画を策定
平成12年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第十一次調査、遺跡の内容確認)	834	
平成13年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第十二次調査、遺跡の内容確認)	464	史跡の追加指定(平成13年8月13日、計87,632.61㎡) 取付道路部分の公有地化 共有地部分の相続関係の調査 ホームページの開設
平成14年度	青森市教育委員会による発掘調査 (第十三次調査、環状列石の調査)	70	共有地部分の登記整理 中央帯巨石復元作業



第3図 地形及び調査区位置図



第4図 グリッド配置図

## 第2節 遺跡の環境

小牧野遺跡は、青森市の市街地から南方約10kmの野沢字小牧野に所在する縄文時代後期前葉の環状列石を主体とする遺跡である。

本遺跡は、陸奥湾に面し、八甲田山に連なる山々が取り囲む、荒川と入内川に挟まれた舌状に突き出した台地上に立地している。この台地の北端部には、埋没樹木を産する火砕流堆積物が平成10年に発見されており、埋没樹木のAMS法による<sup>14</sup>C年代測定の結果、概ね32,000年前頃の年代値が与られ、青森地域にはあまり知られていなかった大不動火砕流堆積物を確認した。

遺跡周辺における現状植生は、夏緑広葉樹二次林や植林、農耕地などの植生が主体であり、スギやカラマツ、アカマツ等の人工林、クリ、クルミ、コナラ、ミズナラ、畑地雑草群落が広く分布している。スギ等の人工林を除けば、縄文時代の植生を容易に想像できる自然環境となっている。また、平成11年度に調査した湧水遺構には、環境省が指定している絶滅危惧類のニホンザリガニが数多く生息している。遺跡と共に保護しなくてはならない小動物と考える。

かつて、この台地周辺は馬の放牧場として江戸時代から利用され、「小牧野」の地名はそれに由来する。環状列石内には嘉永7年の年号が刻まれた「馬頭観音碑」が建立されており、この周辺に大型の河原石が地表に散在していることから通称「石神平」とも呼ばれていた。



### 第3節 基本層序

本遺跡の基本的な層序の概略は、下記のとおりである。

- 第 層 主に黒褐色を呈する。耕作面や表土を一括した。
- 第 層 主に黒褐色を呈する。平安時代に相当する層。
- 第 層 主に暗褐色を呈する。弥生時代に相当する層。
- 第 層 主に黒褐色を呈する。縄文時代に相当する層。
- 第 層 主に黒褐色を呈する。無遺物層。
- 第 層 主に暗褐色を呈する。第 層から 層への漸移層。
- 第 層 主に褐色を呈する。地山ローム層。

### 第4節 これまでの調査成果

これまでの調査では、縄文時代後期前葉（十腰内 式土器期）の環状列石とともに環状列石を意識して造られたと思われる環状配石炉、土地造成を伴う配石遺構などが検出されているほか、竪穴住居跡や貯蔵穴群、捨て場跡、道路跡、湧水遺構など生活維持に必要な遺構や、土器棺墓や土坑墓群など墓制に関わる遺構も検出されており、複合的な機能あるいは施設を備えた遺跡であることが明らかとなっている。環状列石構築期の検出遺構及び遺物の概要は、以下のとおりである（第5・6図）。

#### 1. 検出遺構

##### 環状列石

本遺跡の主体となる環状列石（第2図）は、直径2.5mの中央帯、29mの内帯、35mの外帯の三重の環から成り立っている。中央帯は、推定約500kgの巨石を中心に据え、その周囲に20～30cmの棒状の石を概ね円形に配している。外帯と内帯は、極めて特異かつ規則的に礫が配置されている。その組み方は、楕円形の石を縦に置き、その両側に扁平な石を階段状に3～6個程積み重ね、これを左右に繰り返すことで形成されており、「小牧野式」と呼ばれる独特な形態を呈している。

環状列石は、中央帯、外帯、内帯の三重構造の列石のほか一部四重にも見える弧状列石、外帯南東側から分岐する直線状列石、内・外帯のコーナー等に配置された特殊組石、外帯を囲むように配置された小型の環状配石などによって構成されている。

##### 竪穴住居跡

環状列石の東側から、径4～5m前後の竪穴住居跡が2軒確認され、未調査部分を含めたとしても数軒程度の集落規模であると推測される。住居跡は、環状列石隣接部分および墓域の中に形成されているが、列石の構築規模から考えるとかなり小規模な集落といえ、列石を維持管理するための集落など、特殊な集落であった可能性が考えられる。

##### 建物跡

環状列石の東側から、複数の柱穴が確認されており、まとまりのある配置状況から建物跡として想定される。現在のところ調査面積が限定されているため、その全容は明らかになっていないが今後の発掘調査で、その用途や規模、棟数等が把握されるものと思われる。

#### 貯蔵穴

環状列石の南東側から貯蔵穴が複数確認されており、いずれもフラスコ状を呈するものである。

#### 捨て場

環状列石の北東側の沢地から、捨て場が確認されている。捨て場からは、土器や石器のほか、三角形岩版や円形岩版等の石製品など祭祀関連の遺物も多く出土している。

#### 道路跡

環状列石の北側から、台地の尾根沿いに走向する道路状遺構が確認されている。本道路状遺構は、集落と集落をつなぐ道路または環状列石構築の際の礫運搬用に使用された道路としての性格が考えられる。遺物がほとんど出土しておらず、時期についてはある程度の幅を考慮する必要がある。

#### 湧水遺構

環状列石から東へ約130m、標高約110mの急斜面から、湧水地が確認されている。湧水自体は、環状列石構築期に掘削された、幅約4m、深さ約1.5m（推定）の遺構である。湧水の東側に隣接して幅6～9m、高さ約4mの盛土も確認されている。この盛土は、湧水内の土壌と同質のものが含まれていることから、主に湧水本体の掘削の際に排出された土によって形成されたものと考えられる。

湧水の南側には、湧水に直結する水路状施設も確認されており、その壁面には、まんべんなく砂が、底面には粘土が貼り付けられていた。

湧水遺構の性格は、土木工事の規模や環状列石との関連性から、飲料水やドングリなどの植物質食料の加工に使われていただけではなく、祭祀性が極めて強い施設であったことが考えられる。

#### 土坑墓

環状列石の東側から100基程の土坑墓が確認されているが未調査部分を含めると200基前後の土坑墓群と推定される。土坑墓からは、石斧や岩版類などの副葬品も出土しているが、その割合は少ない。土坑墓の中には、石を配するものが目立ち、またフラスコ状土坑の埋没後、同じところに掘り込む土坑墓もみられる。

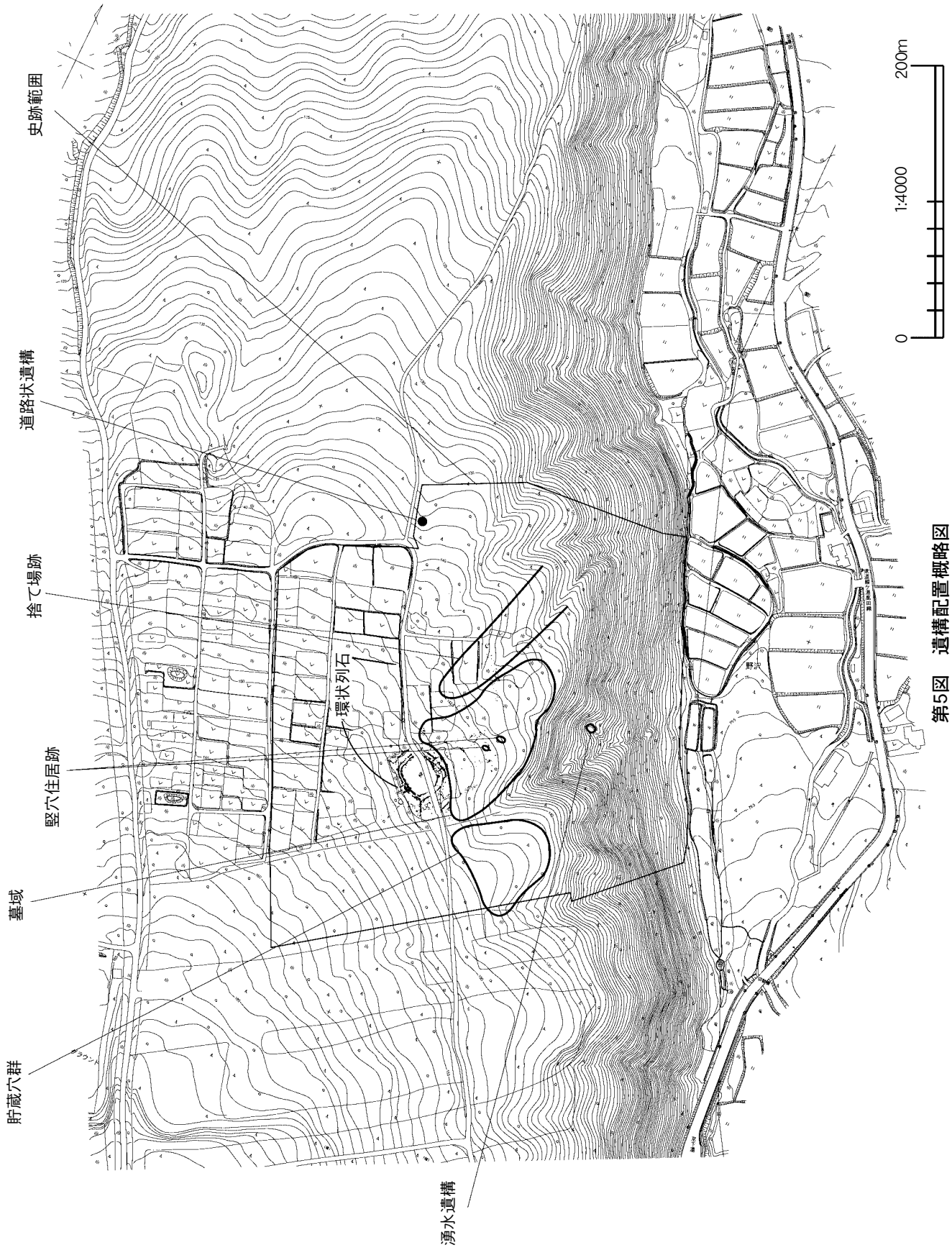
#### 土器棺墓

環状列石の外帯と内帯の間から3基の再葬土器棺墓が確認されている。この土器棺墓の中の人物像は、土坑墓（推定200基前後）と再葬土器棺墓（3基）の割合からみて、環状列石を構築するだけの組織力を持つ首長層や共同体の一機能を専門的に分担する呪術師などに相当する特別な人物であった可能性も考えられる。

## 2. 出土遺物

遺物は、環状列石構築期である十腰内式期のものが主体を占める。次いで、その前段階である蛭沢3群・沖附（2）式や十腰内式との中間型式（小牧野3期土器）の時期のものが多い。また、続縄文時代の遺物も多く、この時代にも環状列石が利用されていることが明らかとなっている。

本遺跡では祭祀的な遺物が豊富に出土しており、動物関連の土器・石皿・土製品、岩版類、土偶、鐙形土製品などで、特に三角形岩版は出土量が圧倒的に多く、この地域特有のものでもある。



第5図 遺構配置概略図



第6図 環状列石周辺遺構配置図

## 第 章 平成14年度 発掘調査の概要

### 第1節 調査要項

#### 1. 調査目的

小牧野遺跡は、特殊な形態をもった環状列石を主体とする縄文時代後期前葉の遺跡である。本遺跡は、縄文時代の精神生活や社会構造を明らかにするとともに、土地造成や多量の大型石の運搬・設置など大規模な土木工事の実態などを詳しく知る上で極めて貴重な遺跡であることから、平成7年3月に国史跡となった。また、平成13年8月には追加指定を受け史跡範囲が確定した。今後、遺跡の解明および保存を図り、地域社会の文化財活用に資する。

本年度は、小牧野遺跡における遺構の復元や保存等の検討の基礎となる資料を得ることを目的に、遺跡の内容解明に向けた発掘調査を実施する。

なお、本事業は、平成2年度から継続して国並びに県の補助金交付を受けて実施しており、本年度は13年次にあたる。

**2. 遺跡名および所在地** 小牧野（こまきの）遺跡 （青森県遺跡台帳番号 01176）  
青森市大字野沢字小牧野

**3. 発掘調査予定期間** 平成14年10月30日～11月20日  
（整理作業予定期間 平成14年4月11日～平成15年3月31日）

**4. 調査予定面積** 70m<sup>2</sup>

**5. 調査指導機関** 文化庁文化財部記念物課  
青森県教育庁文化財保護課

#### 6. 調査体制

遺跡の重要性および将来の遺跡保存の観点から調査の万全を期するため、調査会を組織して臨むことにする。なお、調査会の組織は調査開始の平成2年度から継続しているものである。

調査会の名称は「小牧野遺跡発掘調査会」とする。

##### 調査会組織

調査会長	大 高 興	青森市文化財審議会会長	(考古学)
調査指導員	村 越 潔	青森大学教授	(考古学)
"	小 林 達 雄	國學院大學教授	(考古学)
調査員	三 辻 利 一	大谷女子大学教授	(分析化学)
"	葛 西 勵	青森短期大学助教授	(考古学)
"	高 橋 潤	青森山田高等学校教諭	(考古学)
"	工 藤 一 彌	青森県総合学校教育センター指導主事	(地質学)



調査員 秋元信夫 鹿角市教育委員会生涯学習課文化財班長（考古学）  
調査協力員 鳴海則明 地元野沢町会長

調査事務局 青森市教育委員会事務局

教 育 長 角 田 詮二郎  
教 育 部 長 大 柴 正文  
教 育 次 長 竹 内 徹  
参事・文化財課長事務取扱 遠 藤 正 夫  
課 長 補 佐 工 藤 勝 則  
主 査 木 浪 貴 子（庶務担当）  
文化財主事 小 野 貴 之  
" 木 村 淳 一  
" 児 玉 大 成（調査担当）  
" 設 楽 政 健  
調 査 補 助 員 蝦 名 純

## 第2節 調査方法

### （1）調査区の設定（第4図）

本年度の発掘調査は、環状列石の全体形の確認、石の個数、推定重量等の把握、土地造成に関わる切土・盛土等の土量の把握を目的に、これまで未調査区域であった環状列石を分断する道路部分、および環状列石中央帯の調査を実施した。

発掘調査は、現在露出している環状列石の内帯と外帯部分を結ぶように、道路の北側と南側の2ヶ所の発掘調査区を設定した。調査では、4×4mを1単位とするグリッド法を採用し、さらに1×1mに分割し、平成2～8年度設定のグリッドを拡大延長した。グリッドの呼称については、グリッドの交差点に付されたアルファベットとアラビア数字の組み合わせで示し、具体的には南西隅の表示によるものとした。

### （2）調査面積

本年度の発掘調査面積は、道路北側の調査区（E・F-12～14）が36㎡、南側の調査区（F・G-5・6）が34㎡の計70㎡である。

### （3）検出遺構の精査と遺物の取り上げ

遺物は、原則として位置やレベルを記録して取り上げ、適時写真撮影を行った。

### （4）写真撮影

写真撮影は、35mmモノクロームとカラーリバーサルフィルムを併用し、図化用にデジタルカメラも使用した。

### 第3節 調査経過

発掘調査は、平成14年10月30日から11月20日まで実施した。

10月末、環状列石下部の盛土（列石の配置目的に構築された盛土）の土量計算などのデータを採取するため、1mメッシュでのグリッドを設定し、調査を実施した。

11月初旬、降雪日が続いたことから、作業に遅れが生じ、晴れの日を狙って土・日曜日も調査を実施した。

11月上旬、南側調査区の環状列石の精査を終え、セクションベルトの実測を実施した。また、中央帯の調査を実施し、墓とみられる土坑を検出した。

11月10日（日）、現地見学会を実施した。この日の積雪量が20cmを記録したにもかかわらず、50名程の見学者が訪れた。残念ながら一部分の公開のみに留まった。

11月中旬、北側調査区の環状列石の精査を行い、併行してセクションベルトの実測を実施した。調査終了日まで、雪及び雨による悪天候が続き、当初目標としていた作業を全て終了することができず、環状列石の平面図作成、北側調査区のセクションベルト実測、列石部分のベルト除去などが未達であった。これらについては、平成15年度に実施する予定としている。

### 第4節 調査成果の概要

#### 1. 環状列石内帯・外帯の調査

##### (1) 検出状況（写真1）

環状列石は、直径35m（外帯）の3重の輪から構成されているが、その中央が農道により分断されていたため、全体形が不明であった。

今回は、この農道部分の発掘調査を実施し、遺跡の発見以来はじめて環状列石の全体形を明らかにするものである。調査は、北側と南側の調査区域の2地点で、計70m<sup>2</sup>を対象に実施した。

調査の結果、南側調査区では、連続した列石となっているが、北側調査区では一部途切れているような状態であった。また、これらの石は、道路下にあるため、傷付いた石や、抜けている石などもみられる。石の個数や測定重量などは、平成15年度に確認する予定である。

##### (2) 出土遺物（写真2）

出土遺物は、層と層及び列石下部の盛土内より土器や石器など、ダンボール箱で約1箱分が出土している。

層出土のものは、弥生時代後期相当の続縄文文化に属する後北B～C1式の影響を受けた土器が出土している。1（P-43、61、73）は、深鉢形で口縁に微隆起線が横に2条巡り、胴上半に菱形ないし山形の沈線と、それに沿って横位の帯縄文（RL）と列点文が施されている。2（P-18、19）は、深鉢形で胴上半に波状ないし山形の沈線と横位沈線が施され、それに沿って横位の帯縄文（RL）が施されている。また、沈線間の空間部には、刺突文もみられる。3（P-57）は、深鉢形で胴上半に横位沈線と横位の帯縄文（RL）が施されている。また胴下半には、縦位の帯縄文（RL）が施されている。これらの他にも、横位あるいは縦位の帯縄文が施される土器が数点出土している。

層出土のものは、縄文後期前葉の土器が出土している。4（P-30）は、深鉢形土器で、口縁が波状

を呈し、楕円形の沈線文が施されている。単位文様の内側が赤色で、外側が白色を呈するいわゆる彩文土器である。十腰内 A式に属する。5 ( P-25 ) は、深鉢形で、口縁が平坦を呈し、無文地の粗製土器である。十腰内 A ~ B式に属する。6 ( P-16 ) は、浅鉢形で、口縁が平坦を呈し、胴上半に横位沈線と楕円形文、胴下半がV字状に連続する沈線文が施されている。単位文様の外側には、櫛歯状沈線が施されている。十腰内 B式に属する。7 ( P-55、47、48 ) は、鉢形土器で、南側調査区の列石下部の盛土上面から出土した。口縁が平坦で、無文地の土器である。十腰内 A式に属する。8 ( P-72 ) は、大型の壺形土器である。胴部に楕円形に連続するものである。十腰内 A式に属する。

石器は、いずれも 層から出土し、縄文後期前半に伴うものである。9 ( S-42 ) は、横型の石匙で、つまみの反対側に片面調整の刃部が作出されている。石質は珪質頁岩である。10・11 ( S-30・9 ) は、不定形石器である。11は、縦長剥片の一辺に片面調整の刃部が作出されている。12は、不正円形の一辺に両面調整の刃部が作出されている。

石製品は、 層と盛土から出土している。12 ( S-28 ) は、 層から出土した三角形岩版で、縁辺～頂部にかけて残存する破片資料である。無文である。13 ( S-25 ) は、盛土上面から出土し、特異な形状を呈する搬入礫である。加工痕や使用痕は特にみられないが、近年こうした特異な礫が縄文人によって、意図的に持ち込まれた事例が増加している ( 児玉2002 )。

## 2 . 環状列石中央帯の調査

### ( 1 ) 検出状況 ( 写真 3 )

中央帯は、径2.5mの概ね円形の配石遺構で、その中心に環状列石の中で最も大きい石 ( 巨石 ) を配置した状態で露出展示してきた。巨石は、環状列石が発見された平成元年には道路上に置かれていたが、当時の地主により現位置からトラクターで引き上げられたこと、及びその際の抜き取り痕と考えられる径1m程の窪み ( 攪乱 ) も確認されたことから、平成2年に横置きした状態で暫定的に設置したものである。

今回の調査では、この巨石が立石だったのか横置きだったのかを検証するため、中央帯の調査を実施した。

調査の結果、中央帯の中心つまり巨石が置かれていたところから墓と考えられる150×100cmの楕円形の土坑が検出された。この土坑墓は、中に柱穴をもつタイプのもので、これまでも本遺跡から3例検出されている。この土坑の柱穴状ピットより十腰内 B式の土器片が出土していることから、時期は、環状列石の内帯、外帯よりも土器型式で一段階新しいものと考えられる。

現時点では、土坑の規模や、窪みの位置、石と土坑規模の相関などから立石の可能性が高いと考え、10月末に立石としての復元作業を実施した。

### ( 2 ) 出土遺物 ( 写真 3 )

土坑の大部分は、石の抜き取りに伴う攪乱のため、ほとんど覆土が残存しておらず、遺物もあまり出土しなかった。それでも土坑内の柱穴状ピットについては覆土が良好に保存されており、時期の判別が可能な土器片や自然礫も出土した。1 ( P-1 ) は、深鉢形の胴部片で無文である。2 ( P-2 ) は、浅鉢形ないし鉢形の口縁部片である。口縁には櫛歯状沈線が施されている。十腰内 B式に属する。3は、深鉢形の胴部片である。楕円形の沈線文と櫛歯状沈線が施されている。十腰内 B式に属する。

また、平成元年の調査時にも、十腰内 B式の土器片が中央帯周辺から複数点出土していることから、



環状列石 (N S)



環状列石 (S N)



環状列石 (北側)



環状列石 (南側)



環状列石の堆積状況 (W E)



盛土上の外帯 (W E)



縄文土器出土状況



調査風景 (E W)

写真1 環状列石内帯・外帯の調査

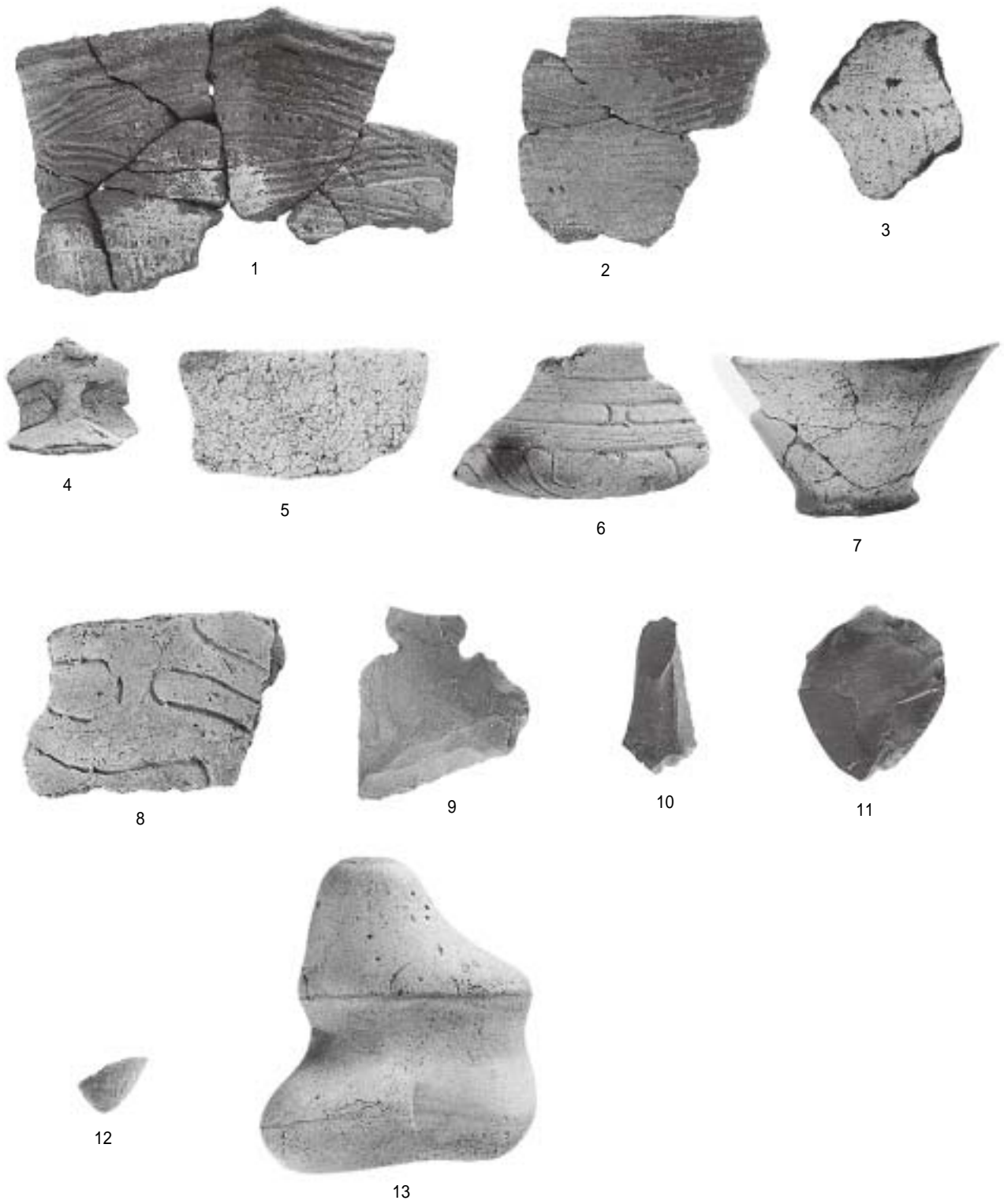


写真2 環状列石内帯・外帯の出土遺物



これらは、巨石の抜き取りの際に出土したものと推察される。

### 3 . 小括

今回の発掘調査は、環状列石の全体形や石の数、重量、土量等を把握することを目的に、これまで未調査区域であった道路部分、および環状列石中央帯を実施した。

道路部分の調査では、環状列石の外帯・内帯を確認し、遺跡の発見以来はじめて全体形が明らかとなった。遺物は、縄文後期前葉の土器や石器のほか、続縄文文化に属する土器も出土した。中央帯の調査では、その中心より楕円形の土坑が検出され、堆積状況などから墓である可能性が考えられる。出土土器から、環状列石外帯・内帯よりも一型式新しい段階で中央帯とともに構築、あるいは使用された可能



平成元年時の調査 (S N)



中央帯中心の土坑 (E W)



中央帯中心の土坑 (S N)



立石の復原状況

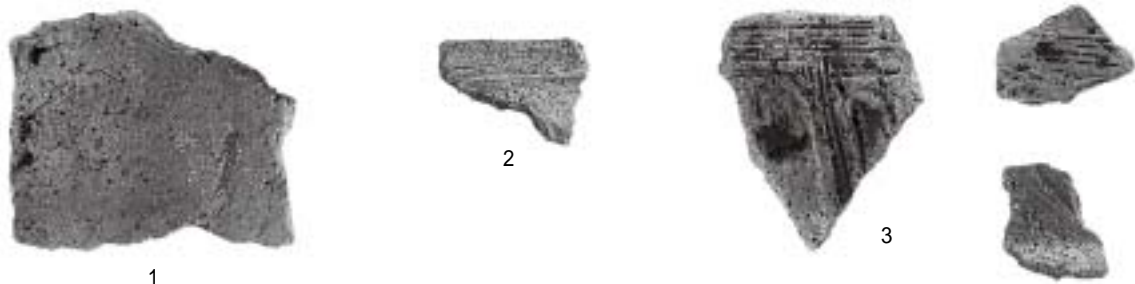


写真3 環状列石中央帯の調査と出土遺物

性が考えられる。また、中央帯中心にあったとされる巨石については、土坑の規模や窪みの位置、石と土坑規模の相関などから立石であった可能性が高く、10月末に立石としての復元作業を実施した。

今後の予定については、平成15年度に環状列石の重量や土量などのデータ採取および環状列石の測量調査を実施するとともに、環状列石構築に関わる投下作業量等を求める予定で、これらについては平成17年度に報告する予定としている。

作業量等の把握は、環状列石を造るためにどのくらいの労力つまり作業人員と作業時間が必要だったかを計算することができ、さらに小牧野遺跡の集落の構成人数や集落が営まれた期間等と比較することにより、一つの集落で造られたものなのか、複数の集落から人が集まって造られたものなのかを明らかにすることができるものとする。例えば本遺跡の集落は、現在2軒の竪穴住居跡が確認されているが、未調査部分を含めると数軒程度の小規模集落であると推測している。環状列石は、大掛かりな土地造成と多量の大型石（平成9年度計算で総重量推定27トン）を運搬して構築されているが、本遺跡の小規模集落だけではこれを成し遂げることは非常に難しいものと思われる。また、竪穴住居跡は、100基をこえる土坑墓に囲まれているが、この集落の人口と葬られた人の数とでは、葬られた人の方が多い感がある。

このように、作業量や集落の人数等を求めることにより、本遺跡の性格や集落の役割、環状列石を造る時や祭りなどの参加者等について、より具体的に追求することができよう。

# 第 章 平成12・13年度 発掘調査報告

## 遺構外出土遺物編

本章では、平成12・13年度調査で出土した遺構外出土遺物について報告する。

なお、検出遺構及び遺構内出土遺物については平成12・13年度に報告している。

### 第1節 調査の概要

#### 1．平成12年度の調査

- (1) 調査期間 平成12年 8月17日～10月28日
- (2) 調査面積 東側調査区 682m<sup>2</sup>  
南側調査区 152m<sup>2</sup> 計834m<sup>2</sup>
- (3) 検出遺構 東側調査区 竪穴住居跡1軒、土坑32基、埋設土器遺構1基、配石遺構4基、集石遺構1基、環状配石炉1基  
南側調査区 盛土遺構1ヶ所、直線状列石1基、土坑1基、焼土遺構1基
- (4) 出土遺物 東側調査区 遺構内 6箱  
" 遺構外 16箱 計22箱  
南側調査区 遺構内 8箱  
" 遺構外 20箱 計28箱 総計50箱

#### 2．平成13年度の調査

- (1) 調査期間 平成13年 7月30日～10月19日
- (2) 調査面積 東側調査区 464m<sup>2</sup>
- (3) 検出遺構 東側調査区 竪穴住居跡1軒、土坑33基、小ピット32基、粘土埋納遺構3基、剥片埋納遺構1基、焼土遺構3基
- (4) 出土遺物 東側調査区 遺構内 27箱  
" 遺構外 53箱 計80箱

### 第2節 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は、土器や石器、土製品・石製品等が89箱分出土している。その内訳は、下表のとおりである。

第2表 遺構外出土遺物の概要

年度別調査区	種別	土 器	石 器	土 製 品	石 製 品	計
H12東側調査区		10箱	4箱(262点)	1箱(157点)	1箱(159点)	16箱
H12南側調査区		15箱	3箱(99点)	1箱(35点)	1箱(85点)	20箱
H13東側調査区		32箱	18箱(392点)	1箱(64点)	2箱(147点)	53箱
合 計		57箱	25箱(753点)	3箱(256点)	4箱(391点)	89箱

## 1. 土器

これまでの発掘調査では、縄文時代前期から平安時代にかけての土器が出土し、下記の6群に区分してきている。

- 第 群 縄文時代前期に属する土器
- 第 群 縄文時代中期に属する土器
- 第 群 縄文時代後期に属する土器
- 第 群 縄文時代晩期に属する土器
- 第 群 弥生時代に属する土器
- 第 群 平安時代に属する土器

平成12・13年度調査区の遺構外出土土器は、東側調査区より42箱、南側調査区より15箱分の土器が出土した。土器は、第 群の縄文後期に属する土器がほとんどで3類～5類土器が出土した（分類説明は、第 章参照）。

第 群土器は、基本的に7種類の手法と複数の単位文様から構成されている。単位文様は、土器に表現される主要文様や区画文様帯などを構成する最小単位の文様を示し、文様の構造上最も基本的なものである。単位文様の呼称については、形状を基準に30種以上の名称を付することができる。また、単位文様は、沈線端部の結合関係により1群から3群の3つのグループに整理され、さらに単位文様と隣接する空間の幅や、単位文様どうしの結合関係によりa～c類の3類に細分することができる。

グルーピングされた単位文様は、土器の型式と密接な関係にあり、時系列的な変遷を追うことを可能とするものである（第7図）。なお、単位文様の模式図や土器編年等については、第 章を参照されたい。

土器の掲載にあたっては、復元されたものを中心に選定し、東側調査区（第8～18図）と南側調査区（第19図）とに分けて掲載した。また、個々の属性等については、第3～6表に譲ることとし、ここでは分類毎の概略について説明する。

### 第 群土器

#### 3類

単位文様3群b類を主体とする土器群によって構成され、2類と3類との間に位置付けられる。十腰内 式第2段階A類（葛西1979）、馬立式後半（鈴木1998）、薬師前式（鈴木2001）に相当する資料である。

深鉢形土器が出土している。深鉢形土器は、波状口縁のもの（第8図3・4）が多くみられるが、平坦口縁のもの（第8図2）も稀にみられる。これらの口縁部は、折り返しや隆帯により、胴部よりも肉厚に成形され、口縁の形状に沿って、長楕円形文が施されることが多い。胴部には、楕円形文や連結曲線文などの単位文様の組み合わせや単位文様どうしの結合により、構成されるものが多い。前者の場合には単位文様の外側に縄文（第8図1）や隆帯（第8図2）が施されるものも多く、後者の場合には単位文様の内側に縄文（第8図3）が施されたり、無文（第8図4）のものもみられる。単位文様の内外に施される縄文や隆帯は、主要文様を効果的に表現するためのもので次段階（4類）になるとあまりみられなくなる手法である。

施文手法

単位文様のグループ

①沈線  
 一般に沈線文と呼ばれるもので、次のa~d類が認められる。

- a 単線
- b 3本組
- c 多条
- d 櫛歯状

②隆帯  
 粘土紐の貼付による带状文様である。

③隆沈線  
 半肉彫的技法、隆沈文などと呼ばれ、沈線文と隆帯文が併用される。

④縄文、撚糸文  
 縄文原体などによる圧痕や回転文、例えば「LR圧痕」、「RL」、「L圧痕」などである。

⑤条痕  
 櫛状施文具で器面全体に縦走するものである。

⑥刺突  
 棒状施文具を器面に突き刺して施されたものである。

第1群  
 単線によるもので「横線文」「縦線文」「斜線文」「曲線文」「C字状文」「Z字状文」「S字状文」「渦巻状文」「蛇行文」「山形文」「弧状文」「重弧状文」などが認められる。

第2群  
 沈線の両端が連結するもの、あるいは他の単位文様に接し、結果的に沈線の端部が連結するもの。「円形文」「楕円形文」「長楕円形文」「方形文」「長方形文」「三角形文」などが認められ、1群と重複する名称には、その語頭に「連結」を付した。「連結C字状文」「連結S字状文」「連結渦巻文」などである。また、3本組の沈線で同様に構成されるものもある。

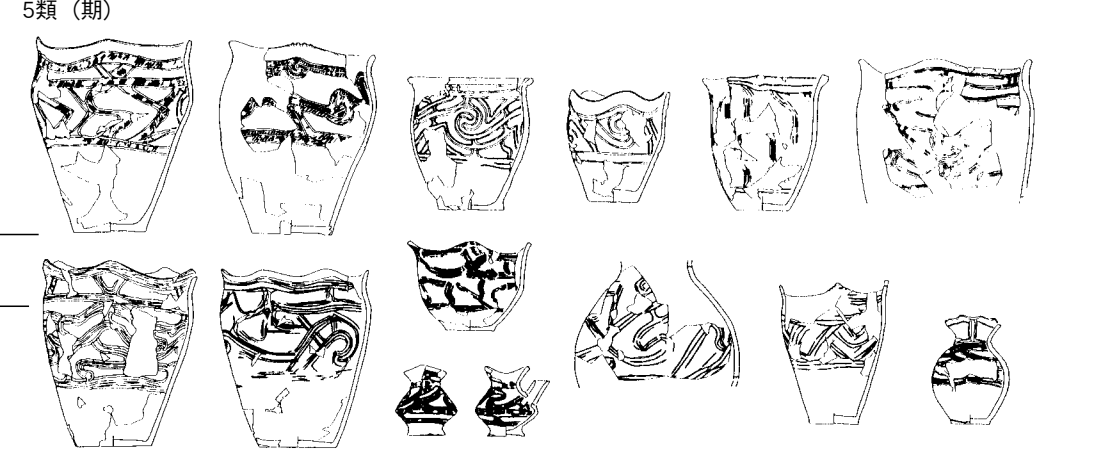
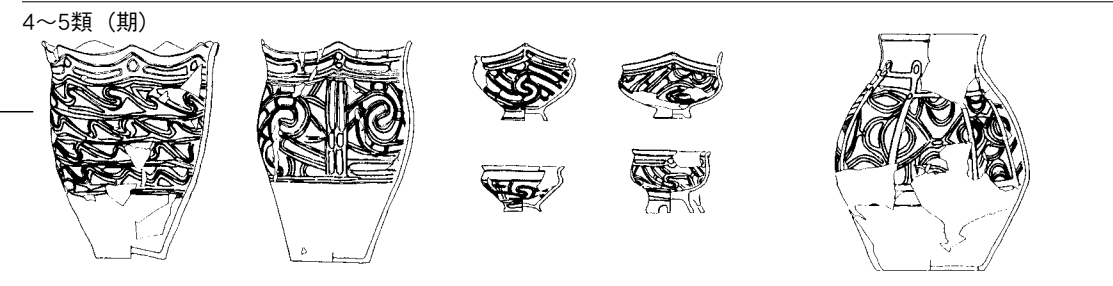
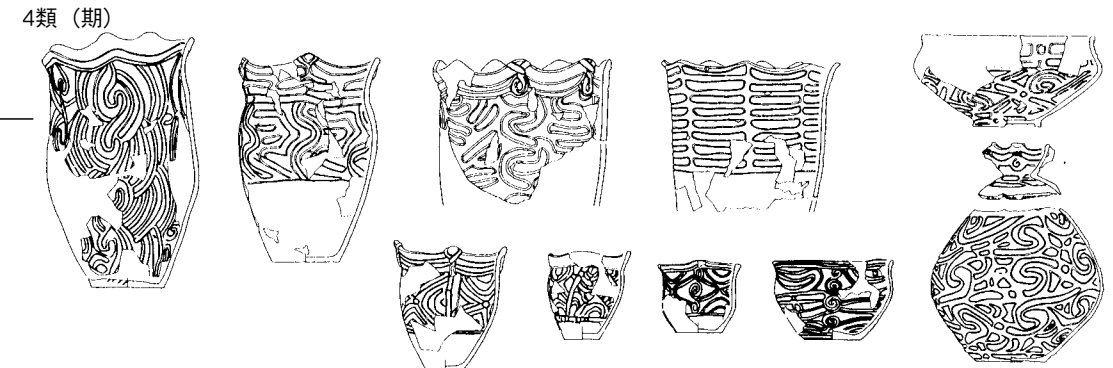
第3群  
 単位文様の屈曲部や端部が、その他の単位文様と結合し同体化しているものである。本群の単位文様を認定するにあたり、沈線のみを目で追って文様を観察しようとすると、どの部分が単位文様なのか見失う、あるいは見当がつかなくなる場合も多い。単位文様どうしが密着していたり、縄文や櫛歯状沈線などの施文効果により、単位文様の反転化が考えられる。このため、本群では、前記の縄文や櫛歯状沈線が施される部分を単位文様として認めることにする。なお、本群の単位文様の名称は、2群の「連結〇〇文」と区別するため、語頭に「連携」を付し、混乱を回避した。「連携S字状文」「連携渦巻文」「連携曲線文」「連携山形文」「連携Y字状文」などが認められる。

a 類  
 単位文様および隣接する空間が、次のb類と比較して幅広のものを本類とした。

b 類  
 単位文様の幅が、前記のa類と比較して狭く、隣接する空間の幅と比べてみても幅狭のものを本類とした。

c 類  
 結合する単位文様が横位展開するものを本類とした。ただし、a・b類の単位文様も結合して横位に展開するものもみられるが、これらの場合、結合する単位文様が重層しているため、本類とは別扱いとする。

編年的分類



(口縁のみ)

(口縁のみ)

第7図 施文手法・単位文様と土器編年の相関

#### 4類

単位文様2群を主体とする土器群によって構成される。十腰内 式第2段階B類(葛西1979)、十腰内 A式土器(成田1989)に相当する資料である。十腰内 式土器の古相として理解される。

深鉢形、鉢形、浅鉢形、壺形、蓋形、異形土器が出土している。

深鉢形土器は、平坦口縁および波状口縁のものがみられ、中には波状口縁の山形突起に8字状の隆帯を加飾するもの(第9図6)もみられる。口縁文様帯には、円形文や長楕円形文が沈線手法によるもの(第9図5・9、第19図1)や隆沈線手法によるもの(第9図6、第10図10)が目立つ。胴部には、沈線手法による連結S字状文(第9図6)や連結渦巻文(第9図5、第19図1)、連結蛇行文(第19図6)が施されるもの、胴上半部に隆沈線手法による連結V字状やJ字を組み合わせ、S字状文の隆帯部を作り出すもの(第10図10)がみられる。

また、胴部には沈線手法による格子目文が施されるもの(第10図10・11、第19図4)、胴部に斜位方向の長楕円形文に渦巻文が付加されるもの(第9図8)などがみられる。

鉢形土器は、平坦口縁および波状口縁のものがみられ、後者の場合には深鉢形と比べ、緩やかに波状する(第11図12・16)。口縁には沈線手法による円形文や長楕円形文が施され(第11図12・15・17)、胴部には沈線手法による連結S字状文や円形文を中心にX字状文を重ねるもの(第11図12)、縦位の長楕円形文と横線文を十字形に組み、X字状の斜線文と弧状文を重ねるもの(第11図16)などがみられる。

なお、第11図16・17の土器は、同図模式図のように次の4～5類に分類される18と三つ重ねの状態出土した。

浅鉢形土器は、胴部から底部にかけて沈線手法による連結曲線文や長楕円形文、底面に2単位一対の連結C字状文が施されるものがみられる(第11図19)。

壺形土器は、小型と中型がみられる。小型のものは、器高が10cm程度で、口径も2cmにも満たない(第11図21・22)。口縁部や胴最張部の文様帯には、隆沈線手法あるいは沈線手法による円形文と長楕円形文が施され、胴部には連結S字状文や単線によるS字状文が施されている。また、口縁付近が切断されているものもある(第11図22)。中型のものは胴部に沈線手法による渦巻文(第11図23)や円形文を中心に連結山形文や長楕円形文を重ねるもの(第12図24)などがみられる。

蓋形土器は、約半分が残存し、器高が2.7cmを計る(第12図27)。蓋の中心付近には、沈線手法による円形文、口縁付近には円形文と長楕円形文が施されている。

異形土器は、器高17.4、幅26.6、奥行25.5cmの直方体を呈し、上面から正面にかけて開口するものである(第14図38)。上面(天井部)は、平面形では馬蹄形に近い形状を呈する。正面は、底部と立ち上がりの開口部口縁に隆帯や楕円形等の窪みによる装飾がみられる。左右の側面は、隆帯により4分割の方形区画が施され、立ち上がり部分には長楕円形文、コーナーの部分には、方形文が3段施されている。底面は、隆帯により、外縁部が1～2単位の楕円形文とその両側に長楕円形文が配され、コーナーや辺の中間から中心に向かって長楕円形の文様が施されている。また、土器断面は極めて厚手で、粘土版数枚を貼り合わせて成形されている。土器の使用法については、深鉢や壺形など煮炊きや貯蔵用の容器とは異なるもので、実用品として使用されたかどうかは不明である。実用品以外での可能性としては、壺形土器などと組み合わせて使用したり、土偶を安置するなど(調査員の葛西氏教示による)祭祀用としての使用が想定される。類例については、青森市月見野遺跡、三内丸山(6)遺跡でも出土している。

#### 4～5類

3本組沈線手法が用いられる土器群である。本類土器は、これまでの調査でも、4類土器及び5類土器のいずれにも共伴関係が認められており、時期的には4類から5類への変遷過程の中で、両時期に併行して推移する土器群として考えられる。

深鉢形、浅鉢形、壺形土器が出土している。深鉢形土器は、波状口縁で隆帯により加飾されるものがみられる。口縁部文様帯には沈線手法による円形文と数条の横線文、胴部には3本組沈線手法によるS字状文や曲線文が施されるもの(第12図28)、胴部に単線による渦巻文と3本組沈線による弧状文が施されるもの(第19図5)がある。これらの土器は、4類に併行する可能性が高い。

浅鉢形土器は、舟形に2単位の山形口縁がみられるもの(第12図29)や平坦口縁のもの(第12図30)がみられる。文様は、胴部に3本組沈線手法による渦巻文が施されるもの(第12図29)や、3本組沈線手法による連携S字状文が横位に展開しているもの(第12図30)がみられる。前者は4類、後者は5類に併行する可能性が高い。

壺形土器は、小型のもの(第13図31)と中型のもの(第13図32～35)とがみられる。小型のもの(第13図31)は、胴部に3本組沈線手法による渦巻文が施され、4類土器(第11図21・22)に類似する。中型のものは、波状口縁で橋状把手が付き、胴部に3本組沈線手法による曲線文(第13図32)や胴部に3本組沈線の弧状文(第13図33・35)が施されるものは4類と併行するものと思われる。また、胴部に3本組手法によるS字状文が横位に展開するもの(第13図34)は、5類と併行する可能性がある。

#### 5類

単位文様3群c類を主体とする土器群によって構成される。十腰内式第3段階(葛西1979)、十腰内B式土器(成田1989)に相当する資料で、十腰内式土器の新相として理解される。

浅鉢形、壺形、注口土器が出土している。浅鉢形土器は、波状口縁で胴部に沈線手法による連携渦巻文が横位に展開し、単位文様内に無節縄文と刺突文が施されている(第13図36)。

壺形土器は、大型のもので、土器棺と思われる(第13図37)。口縁～口頸付近のみが出土・復元されており、胴部については土器棺墓として埋蔵されたままの状態の可能性が高い。口縁と橋状把手は対応関係にあり、6単位となっている。口縁は波状で、その頂部が小波状に成形されている。口縁部文様帯と把手は隆帯により、豪壮に表現されており、隆帯による渦巻文が主要文様である。隆帯の外側は長楕円形や山形、三角形に窪んでいる。また、全体的に肥厚的となっており、把手については、普通サイズの把手に粘土を重ねて作られている。

注口土器は、平坦口縁で口縁直下に注口が付いている(第14図39)。注口の根元部分には、注口の中心に隆帯による加飾がみられる。胴部には、櫛歯状沈線手法による連携S字状文や連携山形文が施されているが反転すると楕円形文や連結C字状文が単位文様となる。

#### 上記以外の土器

時期別に細分が難しいものを一括した。

深鉢形、鉢形、壺形土器が出土している。深鉢形土器は、平坦口縁のものが多い。胴部に撚糸圧痕による格子目文が施されるもの(第15・16図41～43)は、口縁が折り返されたり、肉厚に作られるものが多く、2類～4類に伴って出土する場合が多い。胴部に縦位方向の条痕文が施されるもの(第16・17図

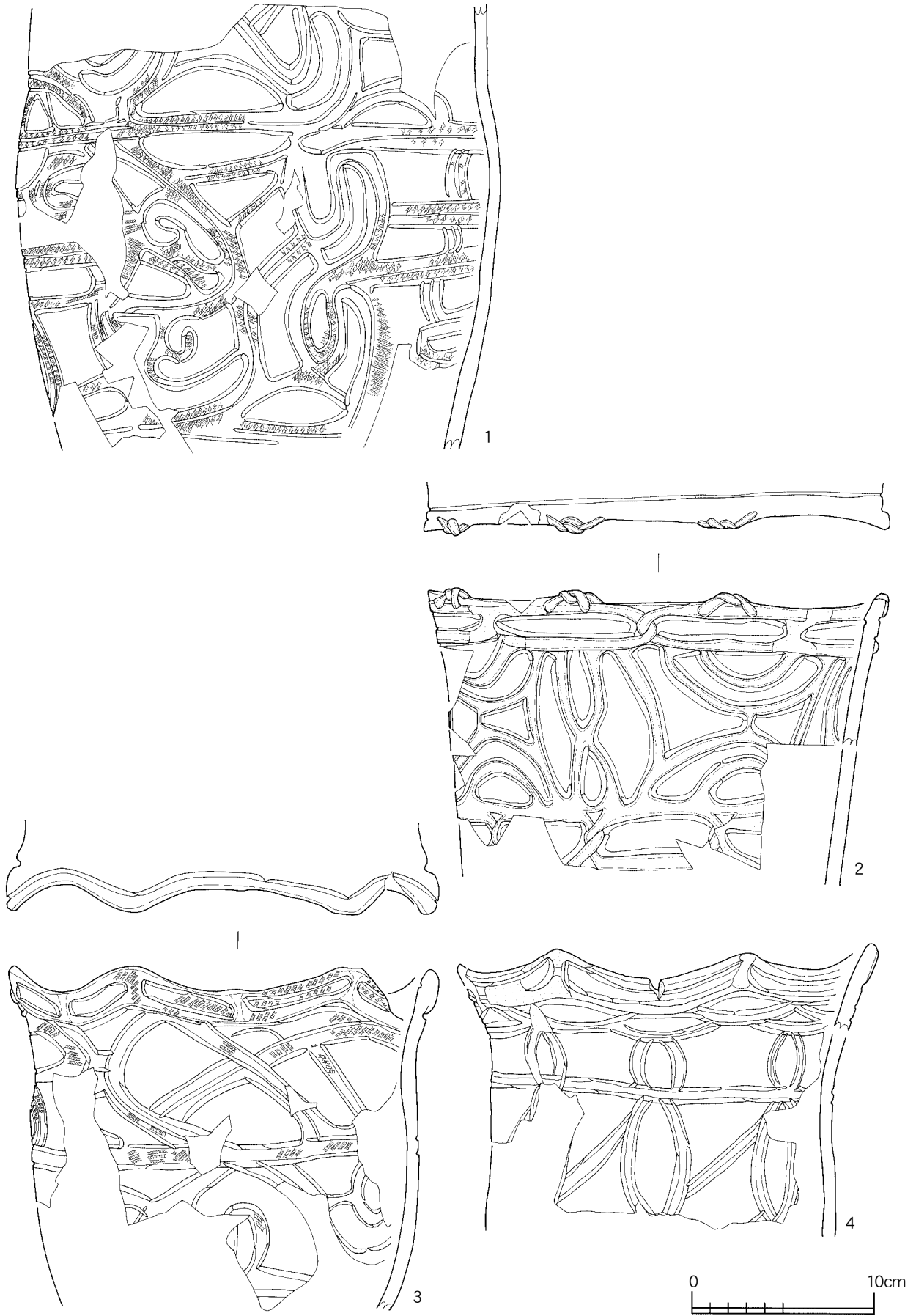
44・45)は、5類土器まで下る可能性がある。小型の深鉢は、波状口縁のもの(第17図46)と平坦口縁のもの(第17図47)とがあり、いずれも無文である。

鉢形土器は、平坦口縁のものがみられ、口縁部に一条の沈線が巡っており、胴部が無文のもの(第17図49)は、4類に属する可能性がある。

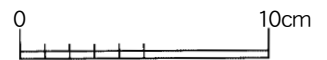
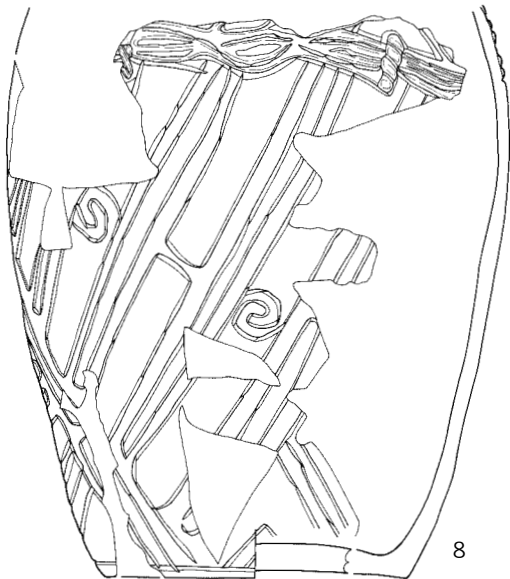
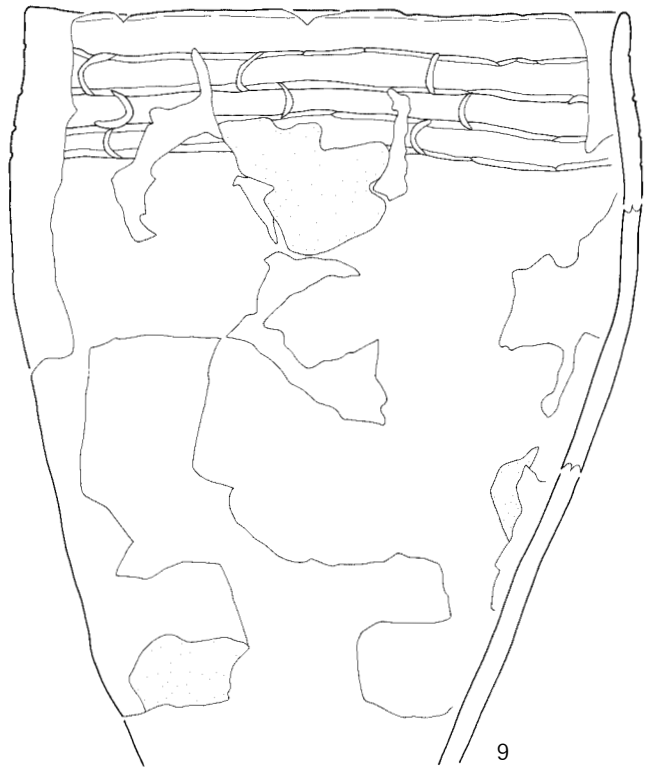
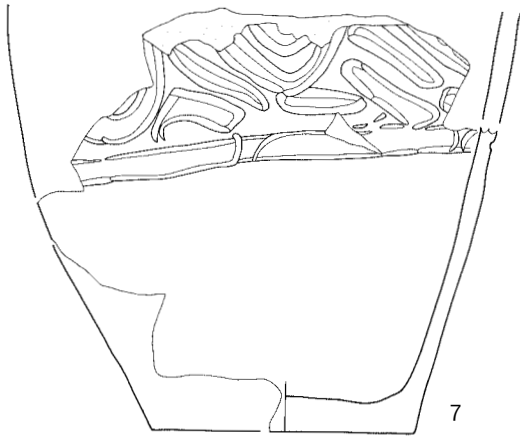
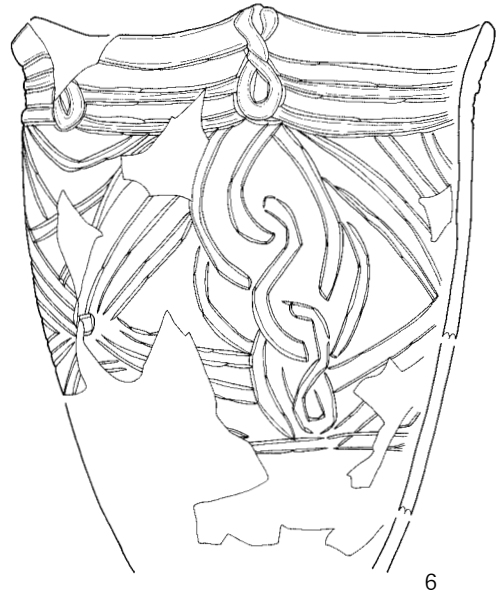
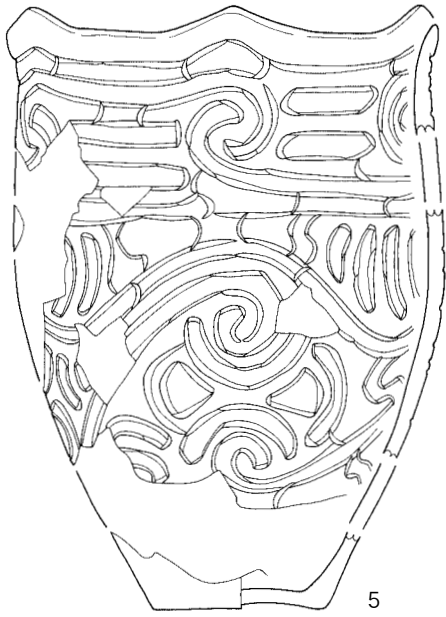
壺形土器は、胴下半がいずれも無文である(第17図51・52)。

また、出土した土器で、群土器の中でも器形や文様等が異なるのが、第18図53・54(同一個体)と55である。53・54は、深鉢形土器の山形口縁で、頂部には円形の隆帯による加飾がみられ、その中心と斜めあたりに2ヶ所の孔が穿たれている。口唇部は刻目が連続し、山形口縁の下部には縦位の沈線が6条程施され、その下位に横位の沈線が数条施されている。また、内面には口縁に沿って不明瞭な沈線が一条巡らされている。55は、鉢ないし浅鉢形土器の平坦口縁で、細い隆帯により8字状に加飾され、それに直交するように横位の低い隆帯の上に、刻目が連続している。その下位には数条の沈線がみられる。53～55の土器の時期は、後期に属するものと思われるが、中期後半まで遡る可能性も否めない。また、53・54の突起部は、岩手県などでみられる門前式にも類似する。今後、類例を求めてゆく必要がある。

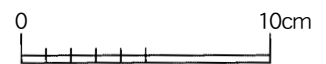
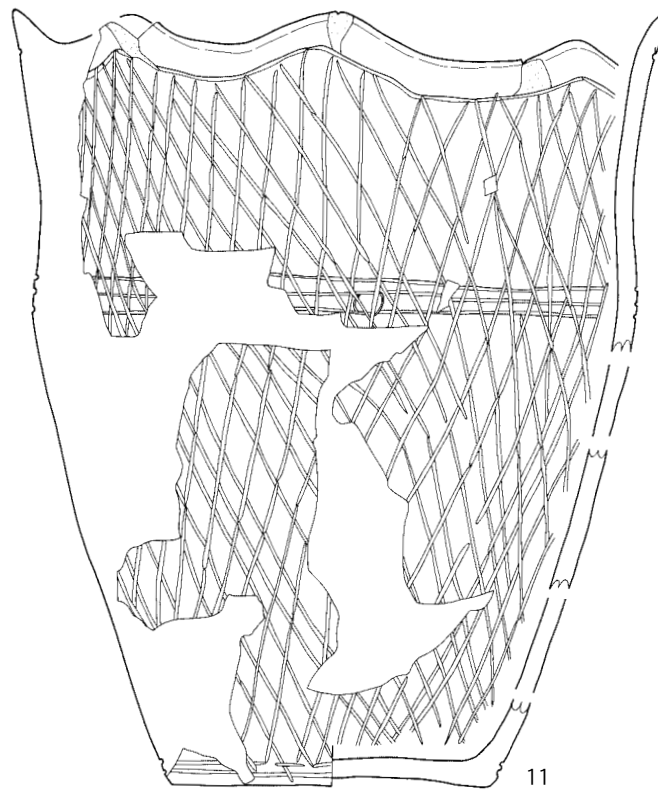
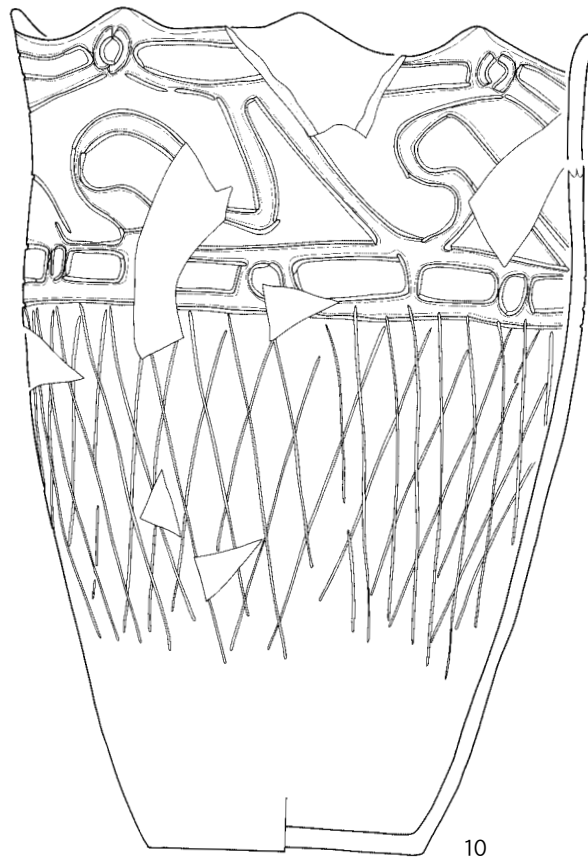




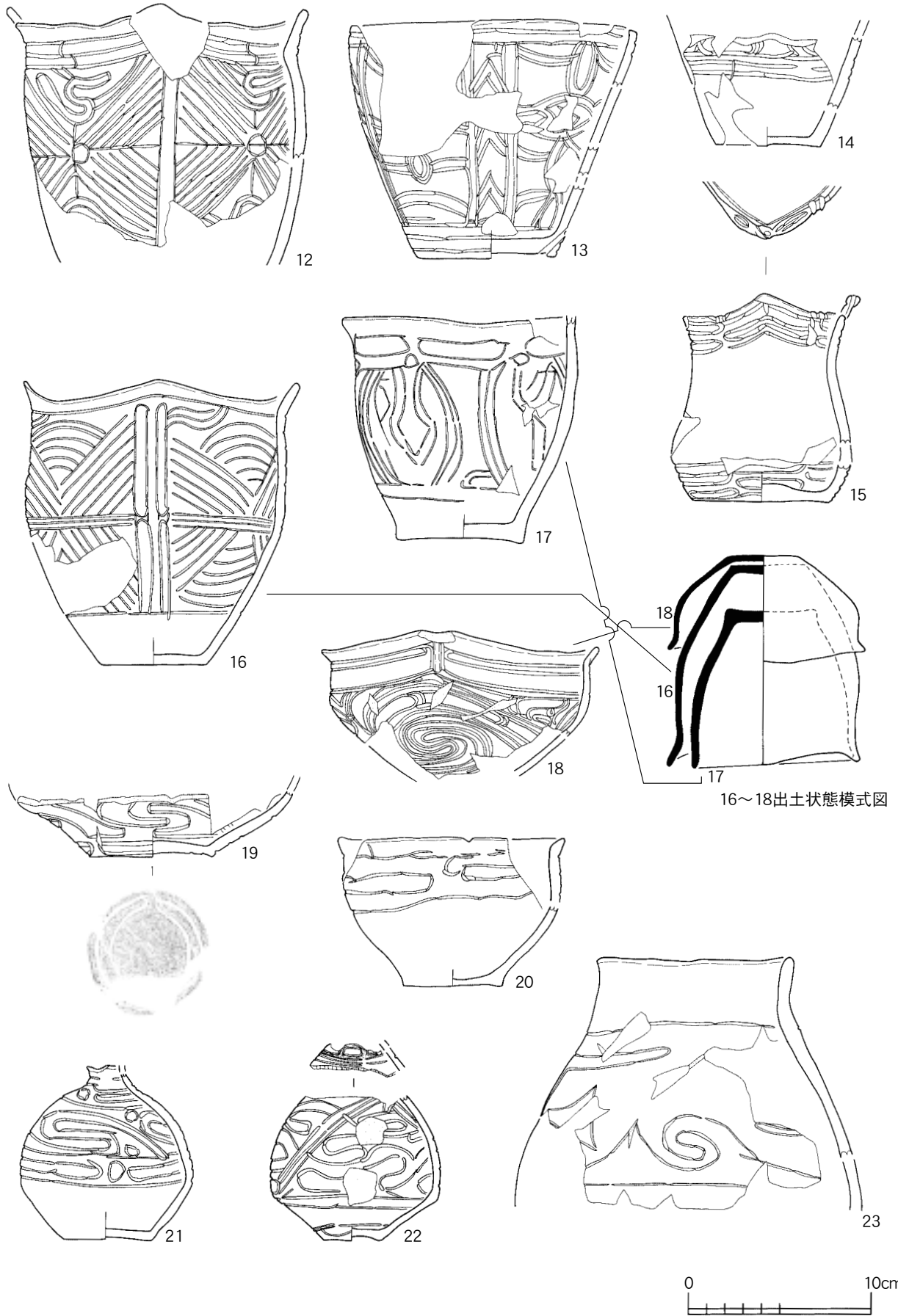
第8図 東側調査区出土土器 (1)



第9図 東側調査区出土土器 (2)

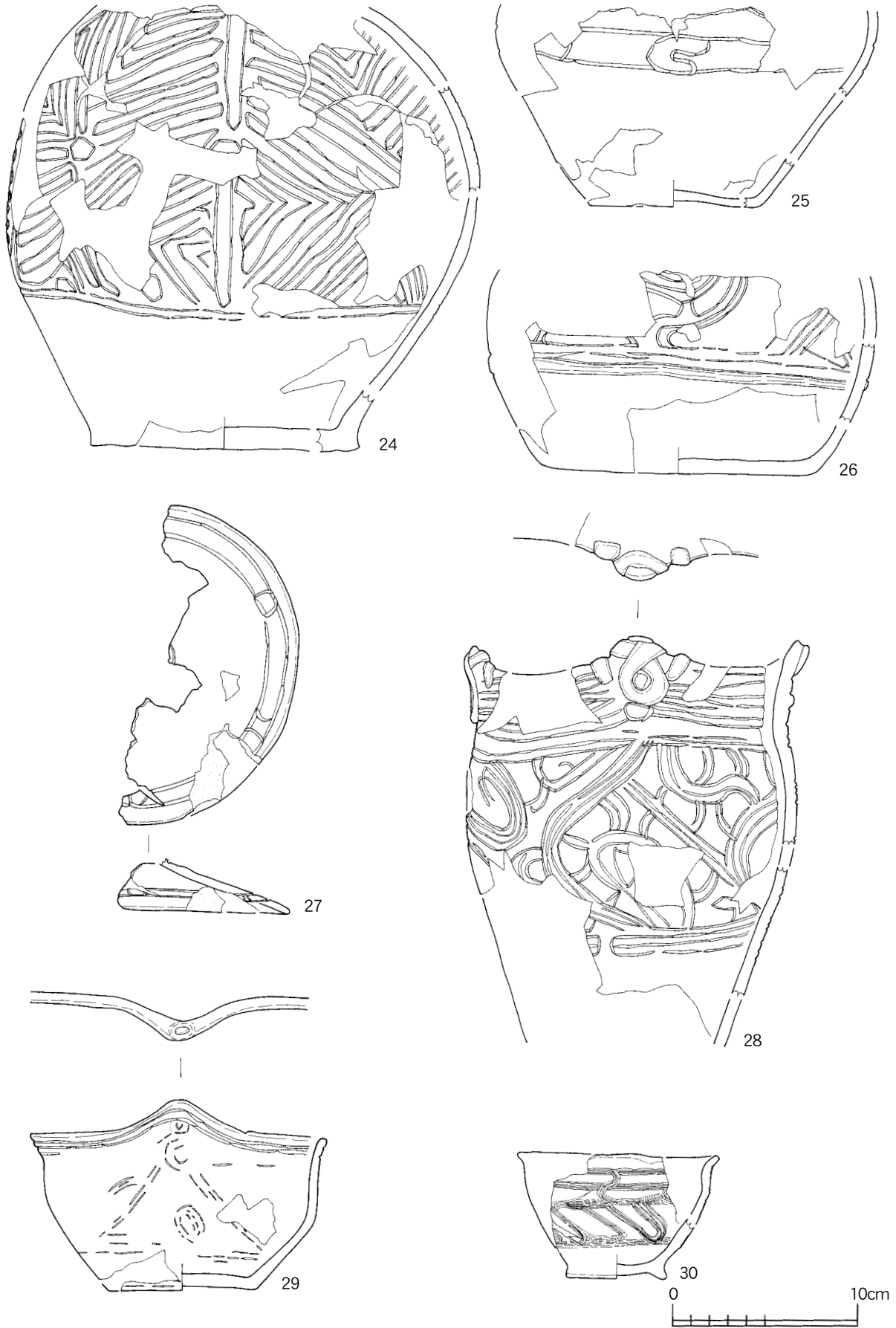


第10図 東側調査区出土土器 (3)

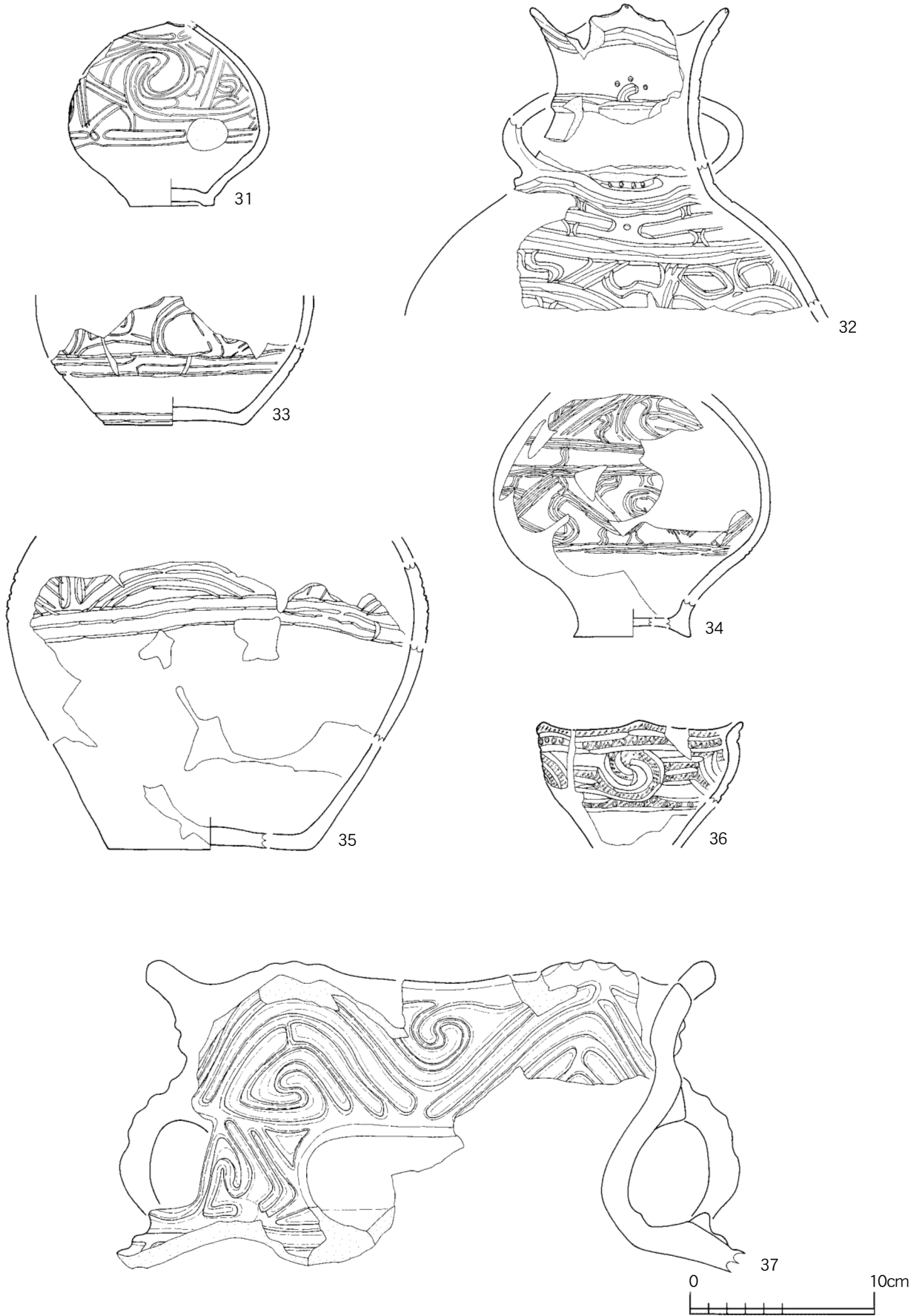


16~18出土状態模式図

第11図 東側調査区出土土器 (4)

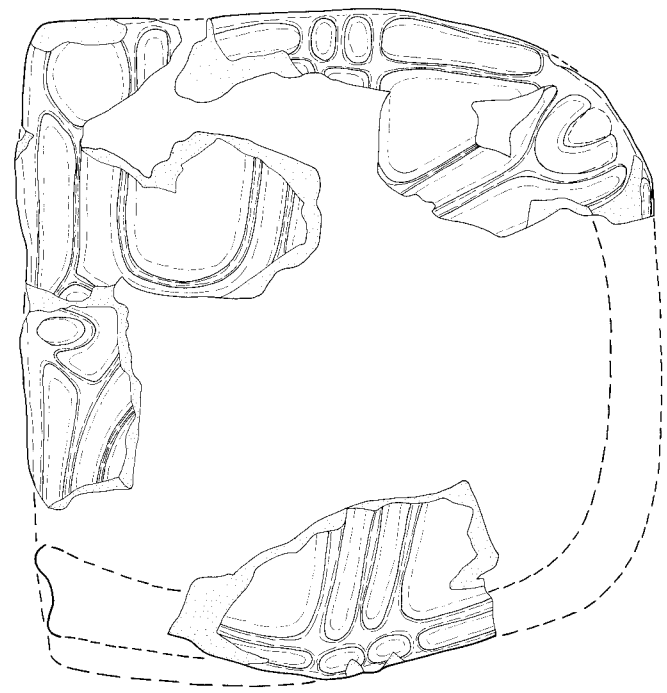


第12図 東側調査区出土土器 (5)

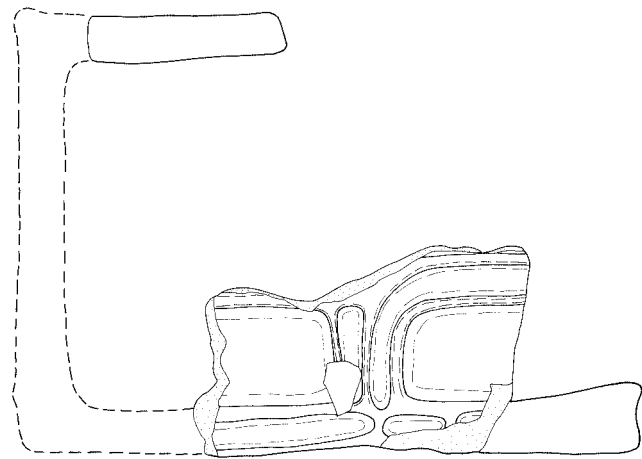


第13図 東側調査区出土土器 (6)

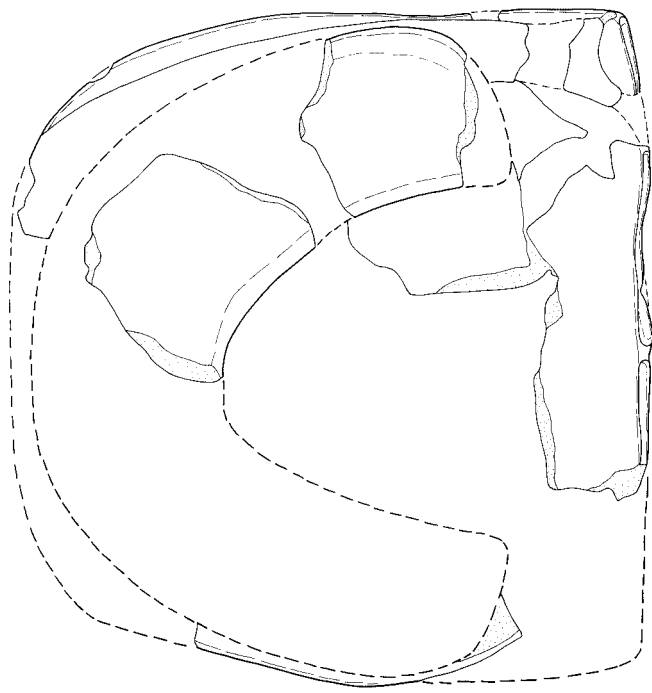




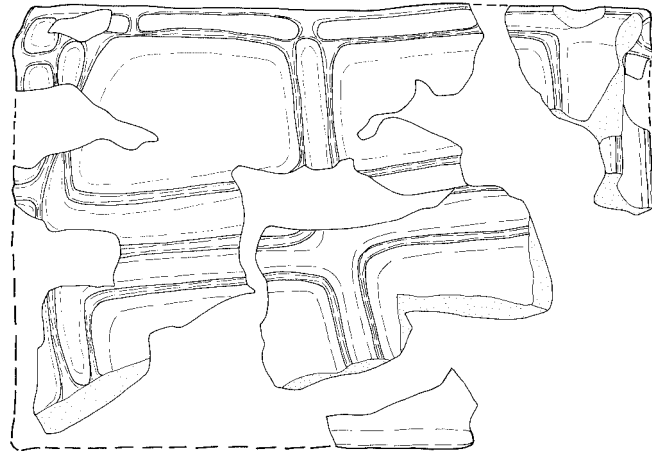
裏面



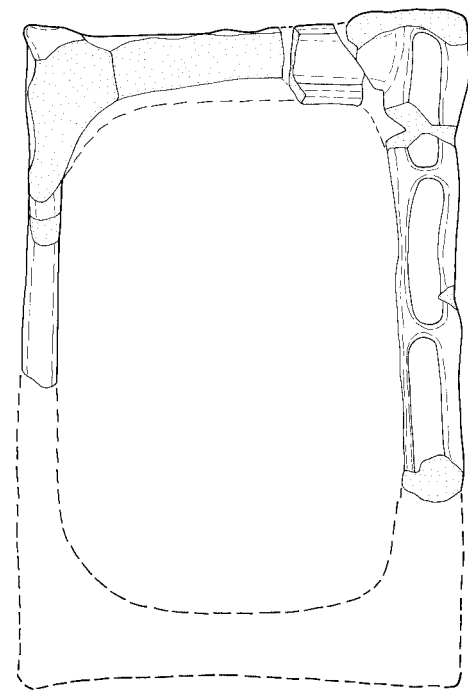
左側面



上面

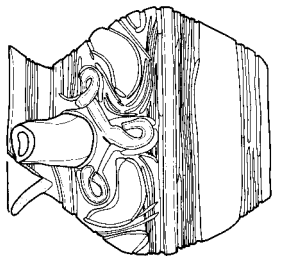
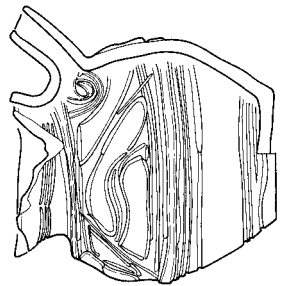
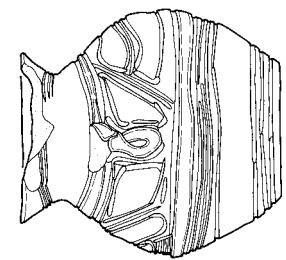
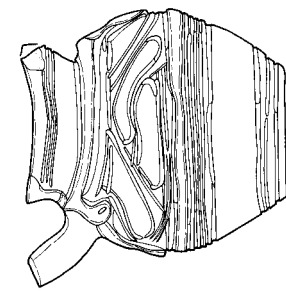


右側面

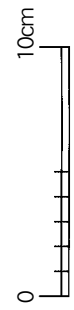


正面

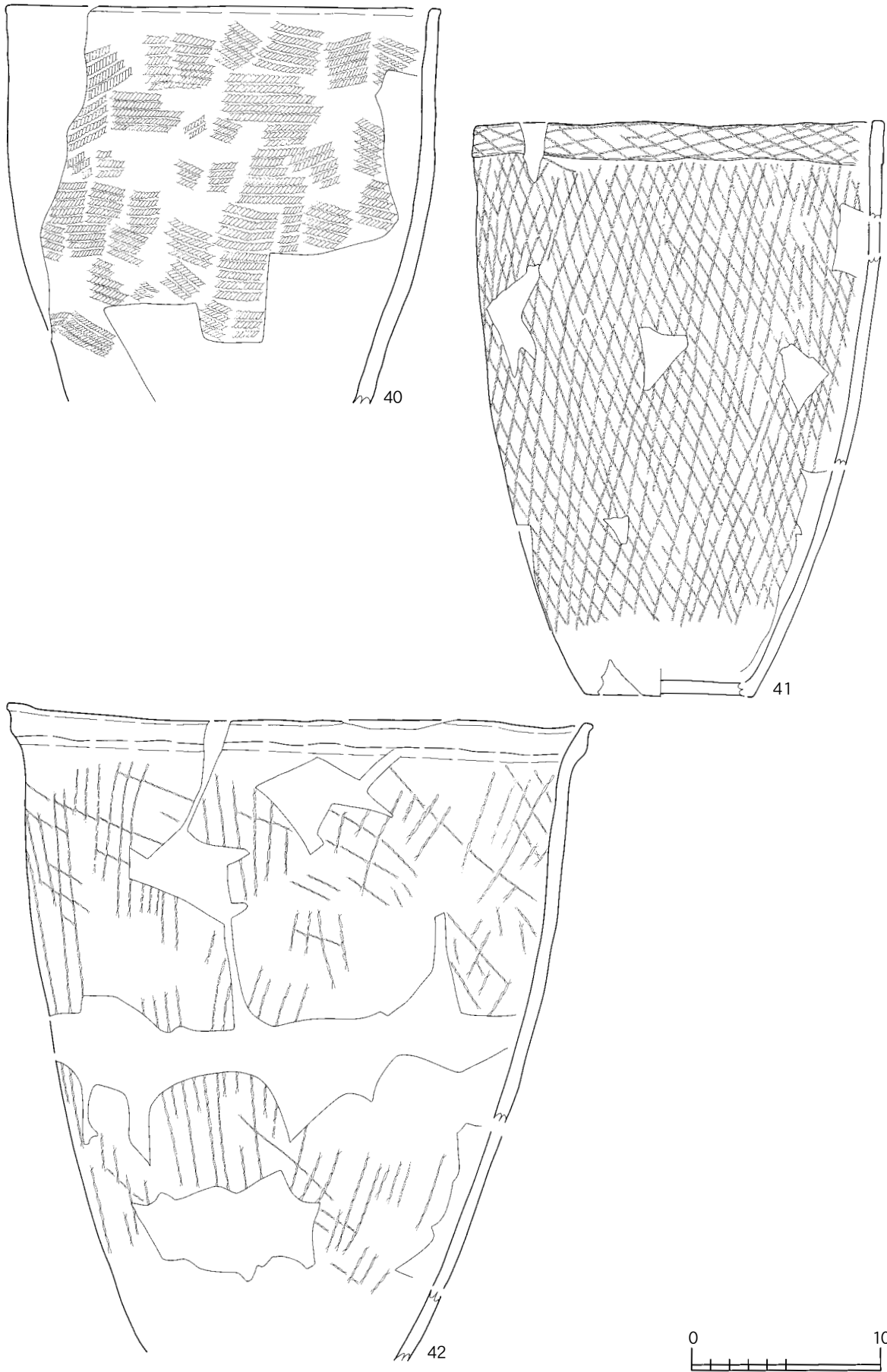
38



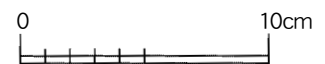
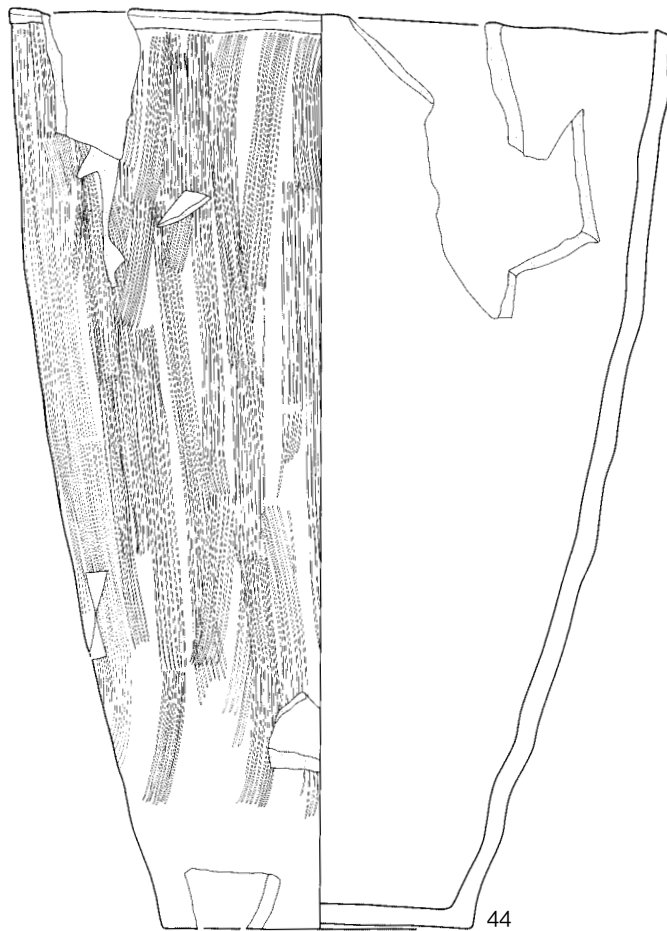
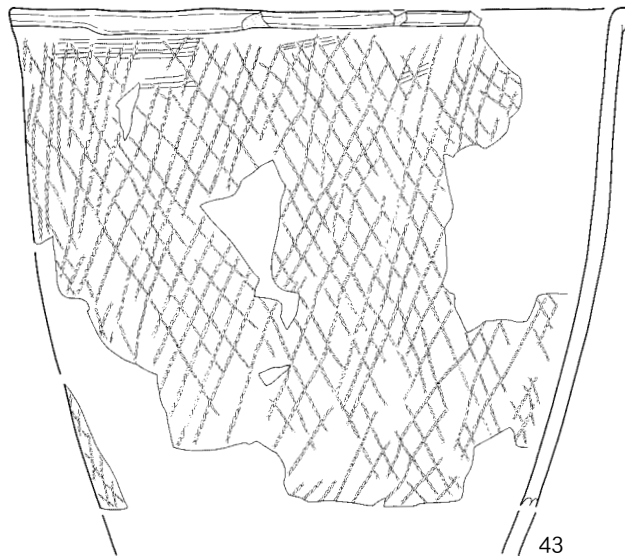
39



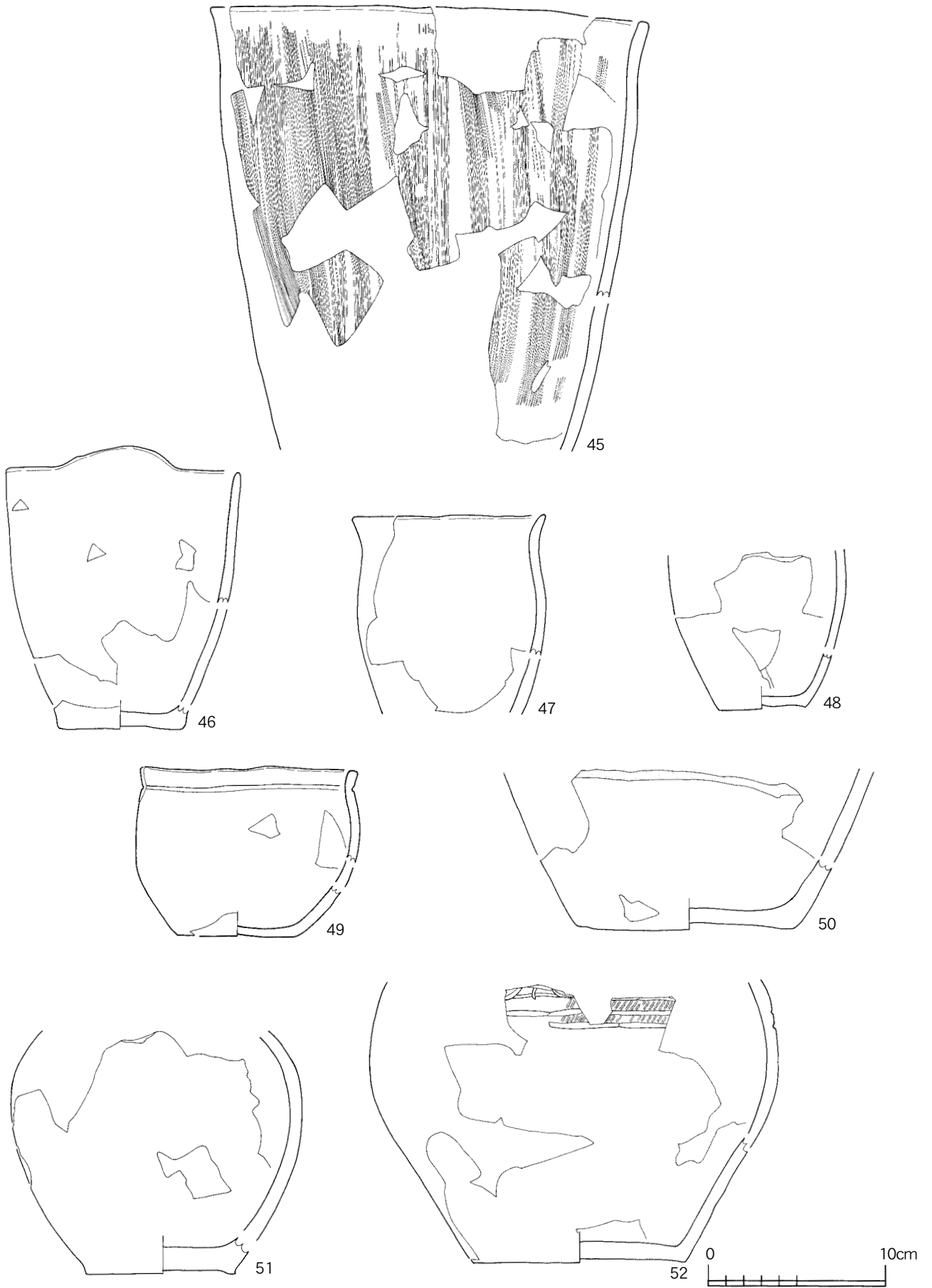




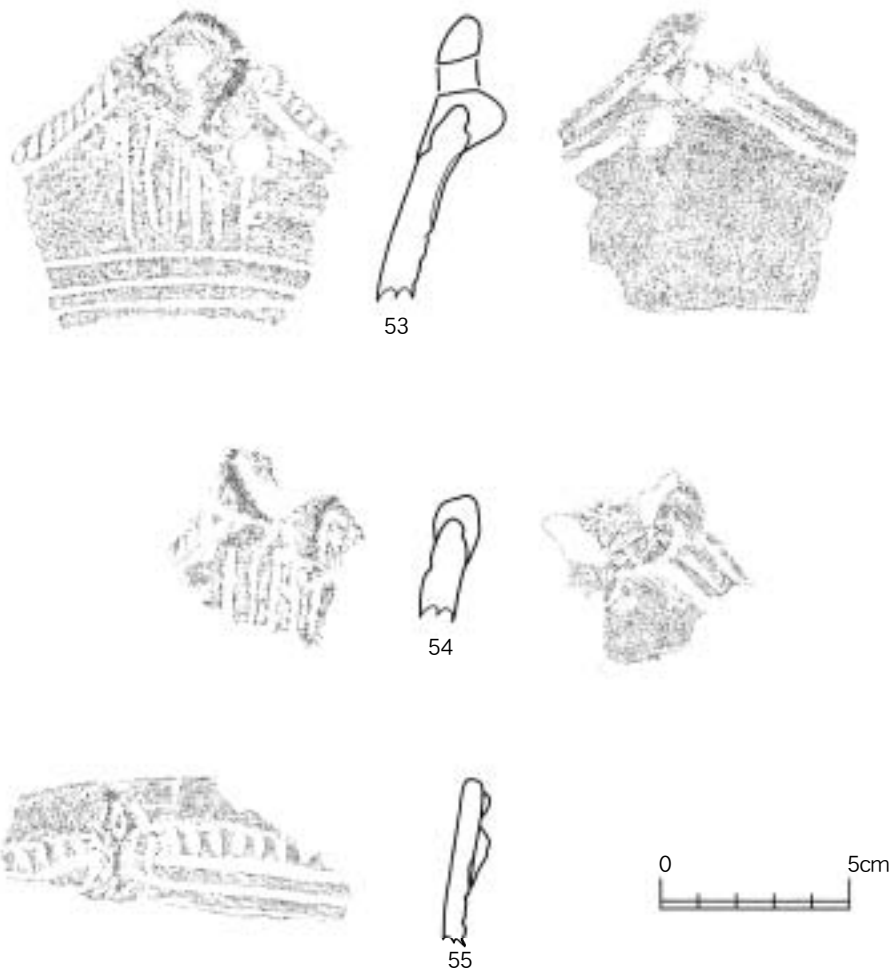
第15図 東側調査区出土土器(8)



第16図 東側調査区出土土器(9)



第17図 東側調査区出土土器(10)



第18図 東側調査区出土土器（11）

第3表 東側調査区出土土器観察表（1）

図版番号	出土位置	層位	器形	分類	特 徴	備 考
8-1	R-6		深鉢	- 3	沈線（楕円形文、隅丸三角形文、連結曲線文） L R	
8-2	S-5		深鉢	- 3	平坦口縁、口縁加飾、沈線（長楕円形文、連結 曲線文）	内面沈線
8-3	R-16		深鉢	- 3	波状口縁、沈線（長楕円形文、連携X字状文、 連携曲線文） R L	内面沈線
8-4	Q-17		深鉢	- 3	波状口縁、沈線（長楕円形文、連携O字状文）	
9-5	S-10		深鉢	- 4	波状口縁、沈線（楕円形文、連結C字状文、連 結渦巻文）	外面煤付着
9-6	R-3		深鉢	- 4	波状口縁、8字状隆帯、沈線（連結S字状文、 斜線文）	両面煤付着
9-7	R-6	~	深鉢	- 4	沈線（楕円形文、連結曲線文）	
9-8	S-11		深鉢	- 4	隆起帯（横位の8字状）、沈線（長楕円形文、渦 巻文）	両面煤付着
9-9	R・Q-10・11		深鉢	- 4	平坦口縁、沈線（横線とC字状沈線との組合せ）	
10-10	R-18	・	深鉢	- 4	波状口縁、隆沈線（連結L字状・J字状との組 合せ、円形文、楕円形文）、沈線（格子目文）	外面煤付着
10-11	Q-5		深鉢	- 4	波状口縁、沈線（横線文、円形文 > 格子目文）	

第 4 表 東側調査区出土土器観察表 ( 2 )

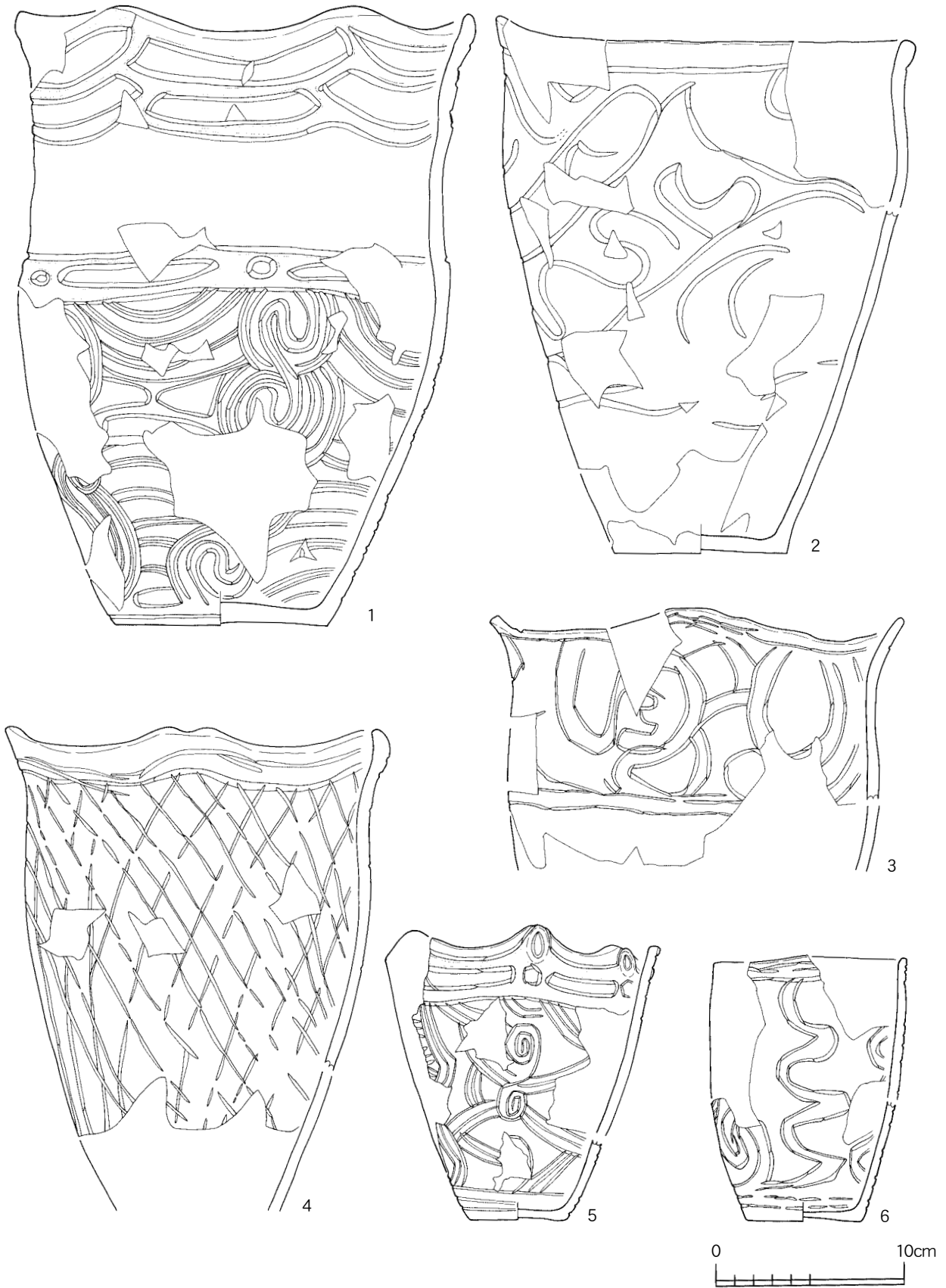
図版番号	出土位置	層位	器形	分類	特 徴	備 考
11-12	Q-17		鉢	- 4	波状口縁、沈線 ( 連結 S 字状文、円形文を中心した重 X 字状文 )	外面煤付着
11-13	Q-9		鉢	- 4	平坦口縁、沈線 ( O 字状文、弧状文 )	底部貫通孔、3 類に属する可能性あり
11-14	R-10		鉢	- 4	沈線 ( 横線文、弧状文 )	
11-15	P-9		鉢	- 4	山形口縁、口縁貫通孔、沈線 ( 連結山形文、楕円形文 )	
11-16	S-7		鉢	- 4	波状口縁、沈線 ( 縦位長楕円形文、重斜線文、重弧状文 )	入子状態で出土
11-17	S-7		鉢	- 4	平坦口縁、沈線 ( 長楕円形文、円形文、弧状文 )	
11-18	S-7		浅鉢	- 4 ~ 5	山形口縁、沈線 ( 長楕円形文 )、3 本組沈線 ( S 字状文 )	
11-19	R-18		浅鉢	- 4	沈線 ( 長楕円形文、連結曲線文 )、底部に沈線 ( 連結 C 字状文 )	外面赤色顔料付着
11-20	S-9		浅鉢	- 4	平坦口縁、沈線 ( 円形文、長楕円形文 )	
11-21	Q-6		壺	- 4	沈線 ( 円形文、長楕円形文、連結 S 字状文 )	外面黒色物付着
11-22	S-5		壺	- 4	隆沈線 ( 円形文、長楕円形文 )、沈線 ( 斜線文、S 字状文 )	切断土器
11-23	V-10		壺	- 4	平坦口縁、沈線 ( 渦巻文 )	
12-24	Q-6		壺	- 4	沈線 ( 長楕円形文、円形文、連結山形文 )	
12-25	Q-9		壺	- 4	沈線 ( 横線文、曲線文 )	
12-26	Q-3		壺	- 4	沈線 ( 曲線文 )、隆帯	
12-27	O-12		蓋	- 4	沈線 ( 円形文、長楕円形文 )	
12-28	S-7		深鉢	- 4 ~ 5	波状口縁、口縁加飾、沈線 ( 円形文 )、3 本組沈線 ( S 字状文、曲線文 )	
12-29	Q-18		浅鉢	- 4 ~ 5	山形口縁、3 本組沈線 ( 渦巻文 ? )	
12-30	P-12		浅鉢	- 4 ~ 5	平坦口縁、3 本組沈線 ( 連携 S 字状文、曲線文 )、上げ底	
13-31	Q-6		壺	- 4 ~ 5	3 本組沈線 ( 渦巻文 )、沈線 ( 円形文、長楕円形文 )	両面黒色物付着
13-32	R-16・R-18	・	壺	- 4 ~ 5	波状口縁、口縁頂部に刺突、橋状把手、沈線 ( 長楕円形文 )、刺突、3 本組沈線 ( 曲線文 )	胎中赤色粒含む
13-33	S-9		壺	- 4 ~ 5	3 本組沈線 ( 弧状文 )	
13-34	S-9		壺	- 4 ~ 5	3 本組沈線 ( S 字状文 )	
13-35	Q-4		壺	- 4 ~ 5	3 本組沈線 ( 弧状文 )	
13-36	U-12		浅鉢	- 5	波状口縁、沈線 ( 連携渦巻文 )、R、刺突	
13-37	Q-11		壺	- 5	波状口縁 ( 頂部小波状 )、橋状把手 ( 6 単位 )、隆帯 ( 連携渦巻文 )	胎中赤色粒含む
14-38	V-10		異形	- 4	上部から側面にかけて開口、上部 ( 天井 ) は無文、側面と底面に隆帯 ( 長楕円形文、楕円形文、方形区画文 )	
14-39	R-10		注口	- 5	平坦口縁、注口の根本に加飾、櫛歯状沈線 ( 連携 S 字状文、連携山形文、反転すると楕円形文や連結 C 字状文 )	
15-40	Q-7		深鉢		平坦口縁、L R	
15-41	R-7		深鉢		平坦口縁、R 圧痕 ( 格子目文 )	両面煤付着
15-42	S-7		深鉢		平坦口縁、R 圧痕 ( 格子目文 )	外面煤付着
16-43	Q-5		深鉢		平坦口縁、R 圧痕 ( 格子目文 )	外面煤付着
16-44	V-10		深鉢		平坦口縁、縦位方向の条痕	外面煤付着
17-45	R-15・U-10	・	深鉢		平坦口縁、縦位方向の条痕	外面煤付着
17-46	Q-10		深鉢		波状口縁、無文	
17-47	P-9		深鉢		平坦口縁、無文	
17-48	S-10		鉢		平坦口縁、沈線 ( 横線文 )	
17-49	Q-5		鉢		無文	

第5表 東側調査区出土土器観察表(3)

図版番号	出土位置	層位	器形	分類	特 徴	備 考
17-50	Q-7		深鉢		無文	
17-51	R-10・11		壺		無文	
17-52	R・S-11		壺		沈線、LR	
18-53	Q-17		深鉢		山形口縁、頂部加飾、孔2ヶ所、口唇刻目、沈線(縦線文、横線文)	内面沈線、54と同一個体
18-54	R-18		深鉢		山形口縁、頂部加飾、孔2ヶ所、口唇刻目、沈線(縦線文)	53と同一個体
18-55	Q-18		鉢～浅鉢		平坦口縁、微隆帯(8字状)、隆帯(刻目)、沈線(横線文)	

第6表 南側調査区出土土器観察表

図版番号	出土位置	層位	器形	分類	特 徴	備 考
19-1	G-0(-1) H(-1)		深鉢	-4	波状口縁、隆沈線(円形文、長楕円形文)、沈線(連結渦巻文、弧状文)	
19-2	G(-1)		深鉢	-4	平坦口縁、沈線(S字状文、曲線文)	
19-3	G(-1)		深鉢	-4	波状口縁、沈線(曲線文)	
19-4	G-0(-1) H(-1)		深鉢	-4	波状口縁、沈線(格子目文)	
19-5	G-0		深鉢	-4～5	波状口縁、隆沈線(円形文、長楕円形文)、沈線(渦巻文)、3本組沈線(弧状文)	
19-6	G-0(-1) H-0		深鉢	-4	平坦口縁、沈線(連結蛇行文、連結渦巻文)	



第19図 南側調査区出土土器

## 2. 石器

本調査では、東側調査区から654点、南側調査区から99点の計753点が出土し、調査区および種別ごとの出土点数等は下表のとおりである。石器の掲載にあたっては、一部を実測化し、ほかは計測表におさめている。

第7表 遺構外出土石器の概要

種別	調査区		東側調査区		南側調査区		計(%)
	出土数	図版番号	出土数	図版番号	出土数	図版番号	
石鏃	17	第20図1～17	5	第29図1～5			22(2.9%)
石槍	0		1	第29図6			1(0.1%)
石錐	15	第21・22図18～31	1	第29図7			16(2.1%)
石匙	8	第21図32～39	1	第29図8			9(1.2%)
石筥	42	第21～23図40～77	2	第29図9・10			44(5.8%)
大石平型石筥	16	第24図78～93	0				16(2.1%)
不定形石器	411	第24・25図94～109	83	第29図11～17			494(65.6%)
石核	9		0				9(1.2%)
磨製石斧	22	第25・26図110～126	1	第29図18			23(3.1%)
石皿	15	第27図127～131	0				15(2.0%)
石錘	8	第27図132～135	0				8(1.1%)
半円状扁平打製石器	1	第27図136	0				1(0.1%)
敲磨器	90	第27・28図137～147	5	第29図19・20			95(12.6%)
計	654		99				753(100%)

### 石鏃(第20図1～17、第29図1～5)

三角形を基調とした剥片石器で、鏃としての機能が想定できるもの。基部の形状で以下の6群に分類した。

- a 凸基有茎 8点
- b 平基有茎 5点
- c 凹基有茎 6点
- d 尖基無茎 1点
- e 円基無茎 1点
- f 平基無茎 1点

本調査では、東側調査区から17点、南側調査区から5点の計22点が出土している。

完形品が12点、欠損品が10点である。先端部が欠損しているものが5点、茎部の一部が欠損しているものが4点で、第20図14は先端部と茎部が欠損している。また、器体にアスファルト状の黒色付着物が観察できるものが7点出土している。

第29図1～4、第29図1～4はa群とした。第20図1・第29図1は小型で茎が長い形状を呈する。全面にいい調整が施され、薄手の器体となる。第20図2には背・腹両面に焼けはじけがみられ、第29図3には茎部との境目にアスファルト状の付着がみられる。第29図5～8、第29図5はb群とした。第20図6・8、第29図5の茎部にアスファルト状の付着がみられる。第29図9～14はc群とした。第20



図12は背面の綾に焼けはじけがみられる。d群とした第20図15は尖基鏃で基部と茎部の境目が明瞭ではない。背面右側縁は大きな剥離により調整される。全体形が菱形を呈し、茎部両面に付着物がみられる。e群とした第20図16は円基鏃で基部は背・腹両面からの剥離調整で器厚が減じられ、やや丸みを帯びた形状を呈する。f群とした第20図17は無茎平基鏃で、全体に粗い調整が施される。基部は両面からの調整で器厚が減じられ、直線的となる。

#### 石槍（第29図6）

石製の槍である。南側調査区からのみ1点出土している。基部は両面から調整され、円基となる。

#### 石錐（第20図18～29、第21図30・31、第29図7）

錐と想定される部位を持ち、その断面形が三角形・台形・菱形を呈するもの。全体の形状で以下の3群に分類した。

- |   |                 |    |
|---|-----------------|----|
| a | つまみをもつもの        | 4点 |
| b | 棒状のもの           | 5点 |
| c | 剥片の一部を錐部としているもの | 7点 |

本調査では、東側調査区から15点、南側調査区から1点の計16点が出土している。14点図示した。

a群は4点出土した内の3点を図示した。第20図18～20は、つまみを背・腹両面から剥離調整により台形もしくは三角形に整形し、錐部とつまみが明瞭に分かれる。18・19のつまみには、背・腹両面から全面に剥離調整が施され、厚みがある。20は剥片の側縁から粗い剥離調整を施して、つまみを台形に整形している。錐部の尖端には使用によると思われる潰れ痕が観察できる。

b群とした第20図21～24、第29図7は、形状が棒状を呈し長軸方向の先端に錐部をもつもので、器体の断面が菱形または三角形を呈する。21・22の錐部は丸みを帯びた形状を呈し、21の錐部には側縁に潰れ痕がみられる。23は棒の上・下端の幅が狭くなる。上方の先端は欠損しているが、その断面形が菱形を呈することから上端も錐部とした可能性がある。

c群とした第20図25～29、第21図30・31は、剥片の一部に錐部を作出している。25・26は縦長剥片の端部に粗い剥離調整による錐部をもつ。27は両面からの調整で錐部が作出され、先端が丸みを帯びる。28は錐部が欠損する資料だが、下方両側縁からていねいな調整が施される。29～31は錐部のほかに刃部をもつもので、29は両側縁を背・腹両面から連続する短い剥離調整で刃部を作出している。30は剥片の端部に両側縁から剥離調整により厚みのある錐部が作出され、背面右側縁には連続する剥離調整により刃部が作出されている。31は背面に側縁からの挟りがみられる。

#### 石匙（第21図32～39、第29図8）

つまみと考えられる部位をもち、両面または片面に刃部調整がみられるもの。以下の2群に分類した。

- |   |    |    |
|---|----|----|
| a | 縦型 | 8点 |
| b | 横型 | 1点 |

本調査では、東側調査区から8点、南側調査区から1点の計9点が出土している。

a群とした第21図32～38、第29図8は、つまみの位置が側縁に作出された刃部と平行な位置にある。刃部の調整は主に背面から施され、背面もしくは両面の側縁からの挟りによりつまみが整形される。第

21図34・35・36、第29図8は側縁から抉りが入るが、つまみ全体の調整は粗い。32の体部は正方形を呈し、三辺に刃部が作出され下辺の両端が尖る形状となる。基部上端部は両面からの剥離調整により厚みを減じている。33は長方形に近い形状を呈する。背面右側縁には急斜度の、左側縁には緩斜度の刃部が作出される。34は両側縁に短い剥離で急斜度な刃部が作出される。つまみ上部に原礫面が残る。35・36は側縁にほとんど剥離調整が施されず、微細な剥離痕が認められる。37・38は体部の形状が三角形を呈し、周縁に調整が施され、刃部の先端が尖る形状となる。37の下方側縁部には摩滅する部分がみられる。

b群とした第21図39は、つまみの位置が刃部に対して垂直方向に位置する。背面から連続する剥離調整により刃部が作出され、一部に光沢が観察される。

### 石籠（第21図40～46、第22図47～59、第23図60～77、第29図9・10）

バチ形または長方形を呈し、長軸を結んだ下方一辺に、両面または片面調整の刃部をもつもの。形状から以下の3群に分類した。

- |   |                   |     |
|---|-------------------|-----|
| a | 上方が狭く、下方が広がるもの    | 13点 |
| b | 上方と下方の幅がほぼ等しくなるもの | 26点 |
| c | 欠損などで不明なもの        | 5点  |

本調査では、東側調査区から42点、南側調査区から2点の計44点が出土している。38点図示した。

a群とした第22図40～46、第23図47～51、第29図9・10は上方が狭く下方の一辺が刃部となる。40～43は器体が二等辺三角形に近い形状を呈し、44～51はバチ形を呈する。器体の調整は、背・腹両面から全面調整されている。46・48は背面から調整が施され、腹面に主要剥離面が残る。刃部は両刃のものが多くみられ、両刃のものは円刃となる。42・44・48・49は背面からの調整で片刃となる。48・50は円刃で、40・44・49・51は直線的な刃部をもつ。51はこの群としたが、打製石斧の可能性も考えられる。42・47・49・51の基部稜の一部に光沢がみられる。

第22図52～59、第23図60～77はb群とした。52～77は上方と下方の幅がほぼ等しく、下方の一辺が刃部となる。器体の調整は背・腹両面から施される。53・54・57・58・69は器体に厚みがあり、基部先端の厚みを背・腹両面からの調整で減じている。刃部は背・腹両面から調整されるものが多く、52～61が円刃、62～69が直線的な刃部となる。59・61は全体形が楕円形を呈し、腹面に主要剥離面を残す。周縁・刃部の調整は背面からのみ施され円刃となる。60は、基部の調整が背面から施され、右側縁に原礫面が残る。器体中央部から大きく湾曲する。53・63の刃部・稜に光沢がみられ、62の腹面には焼けはじけがみられる。70～73は細身で厚みがあり、背・腹両面から全面調整され、器体の断面形が菱形を呈する。71～73の基部は背・腹両面からの調整が施され、丸みをおびる形状を呈する。73の刃部先端に光沢がみられる。71は腹面から、73は背面から大きな剥離で、器体中央部の厚みを減じている部分がみられる。第23図74～77は小型で、全面調整される。器体は厚みがあり、刃部は両面からの調整で急斜度となる。75は器体の厚みが乏しく、刃部がやや緩斜度となり両刃となる。77の上端には原礫面が残る。73・75の刃部に、77背面の稜に光沢がみられる。

c群としたものは、欠損資料のため全体形が不明で、a・b群のいずれにも分類できないものである。基部・刃部の残存資料とおもわれるものが5点出土している。

**大石平型石篋**（第24図78～93）

『大石平遺跡発掘調査報告書』（青森県教育委員会1987）の中で呼称された石器で、断面が亀甲状を呈し、大きさも親指ほどの小型のもので、縄文後期前葉の特徴的な形態を示すものである。

東側調査区から16点出土している。

全面調整が施され、つまみは挟りにより作出される。刃部の形状は急斜度で円刃となるものが多く、体部の形状は台形や半円形を呈する。

78は器体全体に厚みがなく、やや緩斜度な刃部で、つまみはやや幅が広く長さがある。焼けはじけが背・腹両面にみられる。79～81は棒状のつまみをもち、急斜度な刃部で槌状の剥離もみられる。体部が台形に近い形状を呈する。79には腹面左側に焼けはじけがみられる。82は器体に厚みがなく、体部の形状が正方形を呈する。83～85は小型で断面形が亀甲状を呈する。つまみの幅が刃部の幅と同じかやや広くなり、両側縁の中央から挟りが入り、つまみと刃部が分かれる。86はつまみが欠損する資料で、残存部から棒状のつまみをもつと思われる。88は側縁に連続する剥離がみられ、背面右側縁の上部が突出する形状を呈する。89は背面左側縁からのみ調整が施されるが、つまみと刃部の境が不明瞭である。90はつまみが欠損する資料で、欠損面に焼けはじけがみられる。83～90の体部の形状は半円形を呈する。91は刃部の先端が欠損する資料で、器体は細長く、全面調整が施される92は両側縁に短い剥離により刃部が作出される。下方は両面から調整が施される。91・92は小型の石匙とも考えられる。93は石鏃に似た形状だが、器体に厚みがあり、背面からの調整で急角度な刃部が作出される。

**不定形石器**（第24図94～100、第25図101～109、第29図11～17）

定形石器のいずれにも分類できない剥片石器で、平面形や大きさはそれぞれの石器によって異なっている。

本調査では、東側調査区から411点、南側調査区からは83点の計494点が出土している。

刃部の角度と調整の範囲によって分類した。

類 連続的な剥離が側縁の長さの1/2以上にわたって施されているもの

- |                                |      |
|--------------------------------|------|
| a : 急斜度な刃部が作出されているもの           | 134点 |
| b : 緩斜度な刃部が作出されているもの           | 106点 |
| c : 急斜度の刃部と緩斜度な刃部の両方が作出されているもの | 43点  |

類 連続的な剥離が側縁の長さの1/2以下のもの 211点

aとしたものは11点図示した（第24図94～100、第25図101、第29図11～13）。剥片の端部または側縁に片面から剥離調整が施され、搔器的な刃部をもつものが多い。94・95は縦長剥片の端部に背面からの調整で急斜度の刃部を作出している。96は背面からの調整が側縁から下方に施され、急斜度な刃部が作出される。背面右側縁は突出する形状となる。97は方形に近い形状を呈し、背面からの調整が周縁におよぶ。下方の両端部が尖る形状を呈し、急斜度な刃部が作出される。98は方形を呈し、腹面下方から短い剥離により挟りが入る。99・100は隣り合う二辺に背面からの調整が施され、先端が尖る形状となる。第29図11は屈曲する剥片の端部に背面からの調整で急斜度の刃部を作出している。両側縁には使用によるとおもわれる微細剥離が観察できる。第29図12は小型の剥片を素材とし、背面から連続する小さな剥離により三叉状に整形される。背面右側縁から下方にかけて急斜度の刃部が作出される。三叉の先端部に潰れ痕などの痕跡はみられないが石錐の可能性も考えられる。第29図13は背面左側縁から端部、

左側縁下方にかけて剥離調整が施され、端部は丸みを帯びる。

bとしたものは6点図示した(第25図102~105、第29図14・15)。剥片の側縁に片面、両面から調整が施され、削器的な刃部をもつものが多い。102は片面からの調整で背面左側縁に刃部を作出している。103は縦長剥片を素材とし、周縁に両面から連続する調整が施され、両側縁に緩斜度の刃部が作出される。両側縁の中央部に下方からの挟りが入り、突起のような形状を呈する。104は両面からの調整で背面右側縁に挟りが入り、その下方に片面からの連続する剥離調整で緩斜度の刃部が作出される。105は両極打法による剥片を素材とし、背面からの調整で両側縁から端部にかけて刃部を作出している。背面には大きく原礫面が残る。第29図14・15は縦長剥片を素材とし、14には背面左側縁に、15には背面右側縁に、短い連続する剥離による緩斜度の刃部がみられる。

cとしたものは4点図示した(第25図106・107、第29図16・17)。剥片の両側縁に片面からの調整が施されるものが多い。106は片面からの調整で背面左側縁に急斜度の、右側縁には緩斜度の刃部が作出される。107は片面から調整が施され、背面左側縁には緩斜度の、下方から右側縁にかけては急斜度の刃部が作出される。第29図16は片面からの調整が周縁に施され、背面左側縁に急斜度の、右側縁には緩斜度の刃部が作出される。端部は先端が尖る形状となる。第29図17は大型の剥片を素材とし、片面からの剥離により、背面左側縁に急斜度の、腹面左側縁には緩斜度の刃部が作出される。

類としたものは、形状が様々で、素材とする剥片の側縁に部分的に調整が施され、急斜度や緩斜度な刃部を作出するものが多くみられる。第25図108・109は両極打法による剥片で、17点出土している。対をなす両極に階段状の剥離が認められ、石材に偏向がみられる。このほかに使用によると考えられる微細な剥離痕を持つものも23点認められた。

## 石核

剥片を採取した後の残核とみられるもの。東側調査区から9点出土している。石質はすべて珪質頁岩である。

## 磨製石斧(第25図110~113、第26図114~126、第29図18)

分銅型もしくはそれに近い形状を呈し、全面もしくはほぼ全面に研磨調整を施し、長軸を結んだ下方一辺の両面または片面に刃部をもつもの

東側調査区から22点、南側調査区から1点の計23点出土している。18点図示した。

完形品は第25図110・111・125・126の4点で、110は全面に研磨調整が施され、光沢感がある。頭部は平坦に調整され、刃部は両刃で円刃となり、最大幅となる。111の頭部は平坦に調整され、刃部は両刃で平刃となる。稜と表・裏面に敲打痕がみられるが、器体調整の段階で施されたものと考えられる。

刃部が残存する資料は7点で、全て両刃となる。第26図112、第25図114・116・117は刃部が円刃となり、刃部の幅が器体の最大幅となる。115は刃部先端に剥離と擦り痕がみられ、刃部の幅が器体とほぼ等しくなる。117は小型の磨製石斧の刃部残存資料で、使用による剥離がみられる。

基部が残存する資料は6点である。118は頭部が丸く調整される。頭頂部に敲打痕がみられるが、器体整形の段階で施されたものと考えられる。119の頭部には使用によるとおもわれる敲打痕と剥離がみられる。120・121・122の頭部は平坦に調整される。第29図18は基部と刃部が欠損する資料で、両側縁が研磨されている。

第26図123は頭頂部が平坦に調整され、表面は研磨され、裏面が剥離している。右側縁に、両面からの連続する剥離がみられ、二次的にスクレーパーとして使用されたと考えられる。第26図124は頭部と刃部が欠損する資料で、頭部の欠損面に擦り痕と敲打痕が、刃部欠損面には擦り痕がみられる。二次的に敲磨器として使用されたと考えられる。

また、他の磨製石斧に比べ著しく小型のものも2点出土しており、いずれも全体的にていねいな研磨調整が施され、刃部も鋭利に作出されている。第26図125はやや器体に厚みがあり、両刃で頭部は平坦に調整される。第26図126は平成6年度調査の第32号土坑上部付近から出土した。器体に厚みがなく頭部も丸く調整されている。

### 石皿（第27図127～131）

機能面と考えられる皿状の面をもち、その縁に土手状の隆起帯を作出し、器形全体を敲打や擦りにより調整しているもの。

東側調査区から15点出土しているが、接合が1点確認されたため、実数は14点となる。5点図示した。127は器長の2/3程残存し、隅丸長方形を呈するとおもわれる。片面を機能面とし、中央から右上部にかけてくぼんでいる。縁は幅5ミリ程の隆起帯が巡り、側縁には若干の擦り調整がみられる程度である。128は全面にていねいな調整が施され、縁の隆起帯の断面形は方形となる。Q-6グリッド層出土のaとQ-18グリッド層出土のbが接合する資料である。aには被熱痕が破損面と表・裏面にみられる。破損後に熱を受けたと考えられる。129は機能面と裏面にていねいな調整が施される。縁は幅5ミリ程の隆起帯が巡り、片面を機能面とし、側縁からの調整は粗い。130は機能面に敲打痕がみられる。131は全面にていねいな調整が施され、機能面の一部に溝状のくぼみが観察できる。

また、平滑に研磨された面をもち石皿の機能面の破片と考えられるもの4点と、大型で扁平な礫の平坦な一面、または一部を機能面とするものも4点出土している。

### 石錘（第27図132～135）

扁平で丸い自然礫の対をなす両辺に敲打または打ち欠きにより抉りを作成しているもの。

東側調査区から8点出土し4点図示した。大きさが6～10cm程の自然礫の両側縁に打ち欠きによる抉りがみられる。132・133は分銅形を呈し、134は平面形が長方形を呈し、両側縁に両面からの打ち欠きにより抉りが作出されている。135は背面右側縁からの打ち欠きがわずかししか施されず、浅い抉りとなる。

### 半円状扁平打製石器（第27図136）

東側調査区から1点出土している。自然礫の周縁が剥離により弧状に調整され、対をなす辺が研磨され直線状となる。欠損品だが全体形は半円形を呈すると思われる。縄文前期に属する可能性がある。

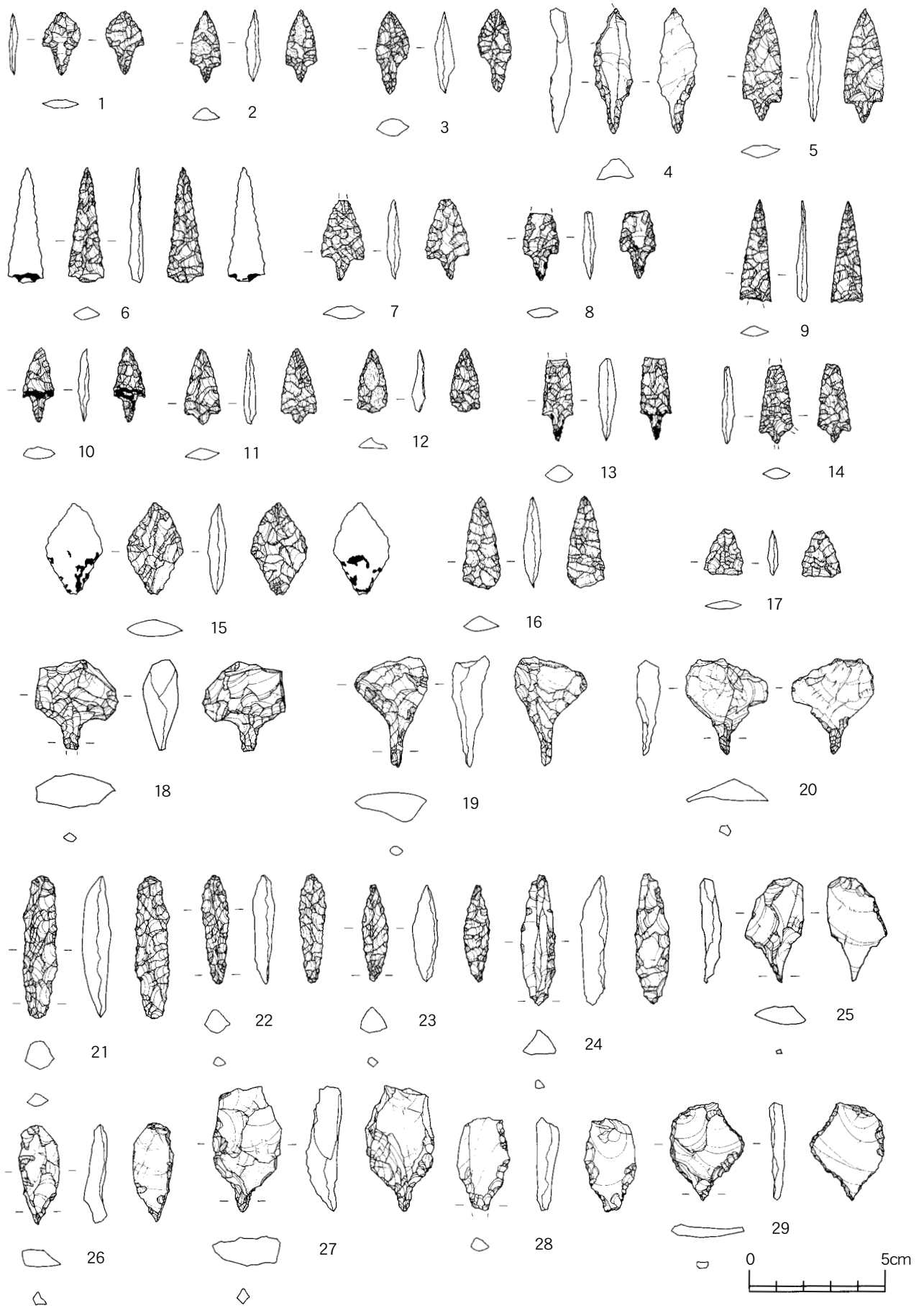
### 敲磨器（第27図137～144、第28図145～147、第29図19・20）

礫の稜または面に敲打痕・磨痕・クボミなどの加工痕がみられるもの。

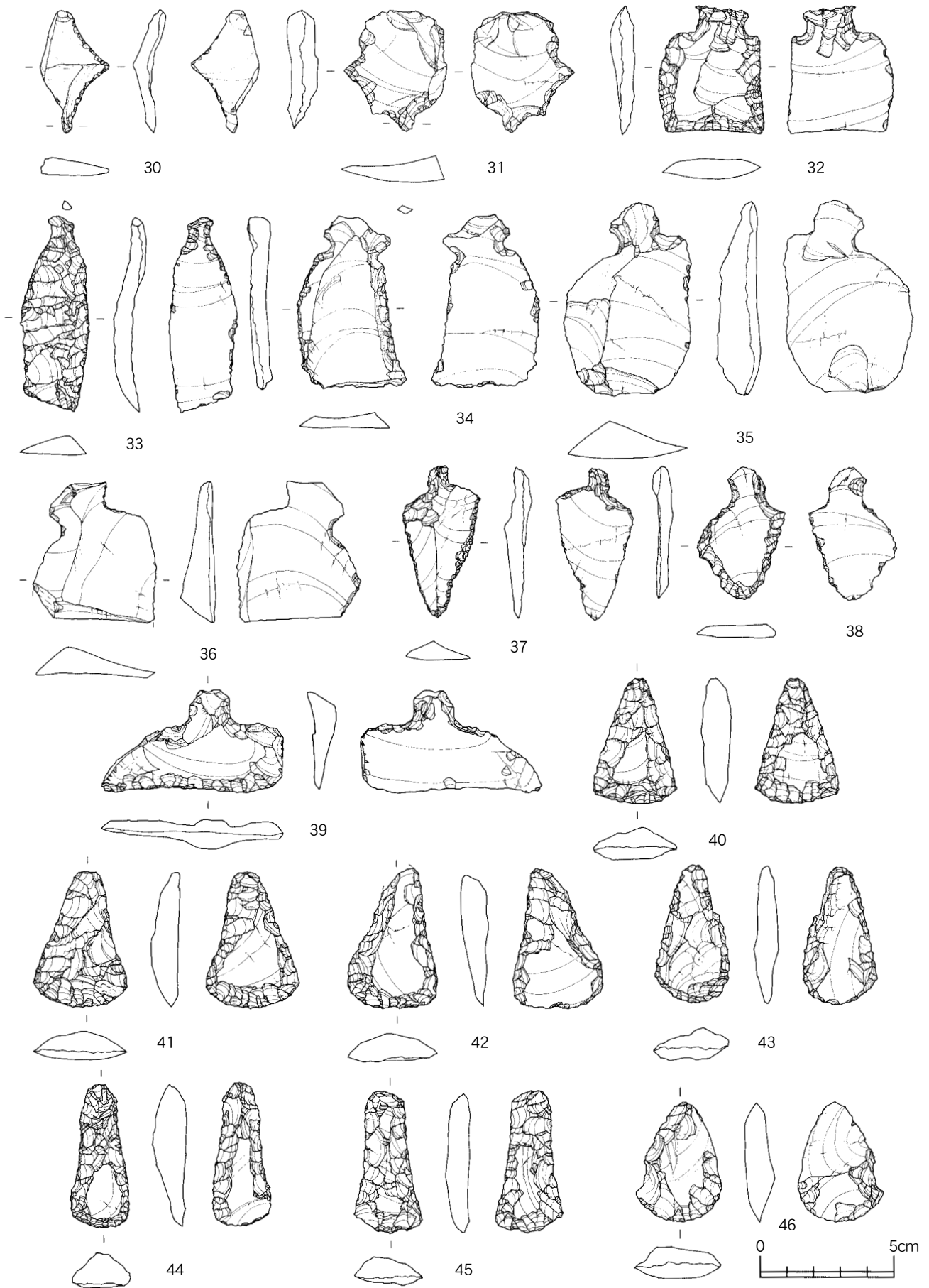
本調査では、東側調査区から90点、南側調査区から5点の計95点が出土し、13点図示した。大きさが10～20cm程の自然礫の側縁や端部に使用痕がみられる。使用痕は単独でみられるものと複合してみられ

るものがある。内訳は、単独で見られるものが、「クボミ」が15点、「敲打痕」が39点、「磨痕」が10点、複合して見られるものが「クボミ・敲打痕」が13点、「クボミ・磨痕」が6点、「敲打痕・磨痕」が11点、「クボミ・敲打痕・磨痕」が1点である。

第27図138・第29図19は棒状を呈し端部に敲打痕がみられる。19には側縁に磨痕がみられる。第27図139は半円形を呈し周縁に剥離がみられ、その稜の一部に敲打痕がみられる。第29図20は周縁の一部に敲打痕、平坦面の片面にクボミがみられる。第28図141は碟の端部に敲打痕が、平坦面の両面にクボミが見られる。第28図142は碟の平坦な両面に複数のクボミがみられる。第28図143は碟の側縁が研磨されている。第28図146は周縁が研磨され、形状が長方形を呈する。第28図147は周縁が研磨され長方形に近い形状を呈し、平坦面には敲打痕とクボミがみられる。

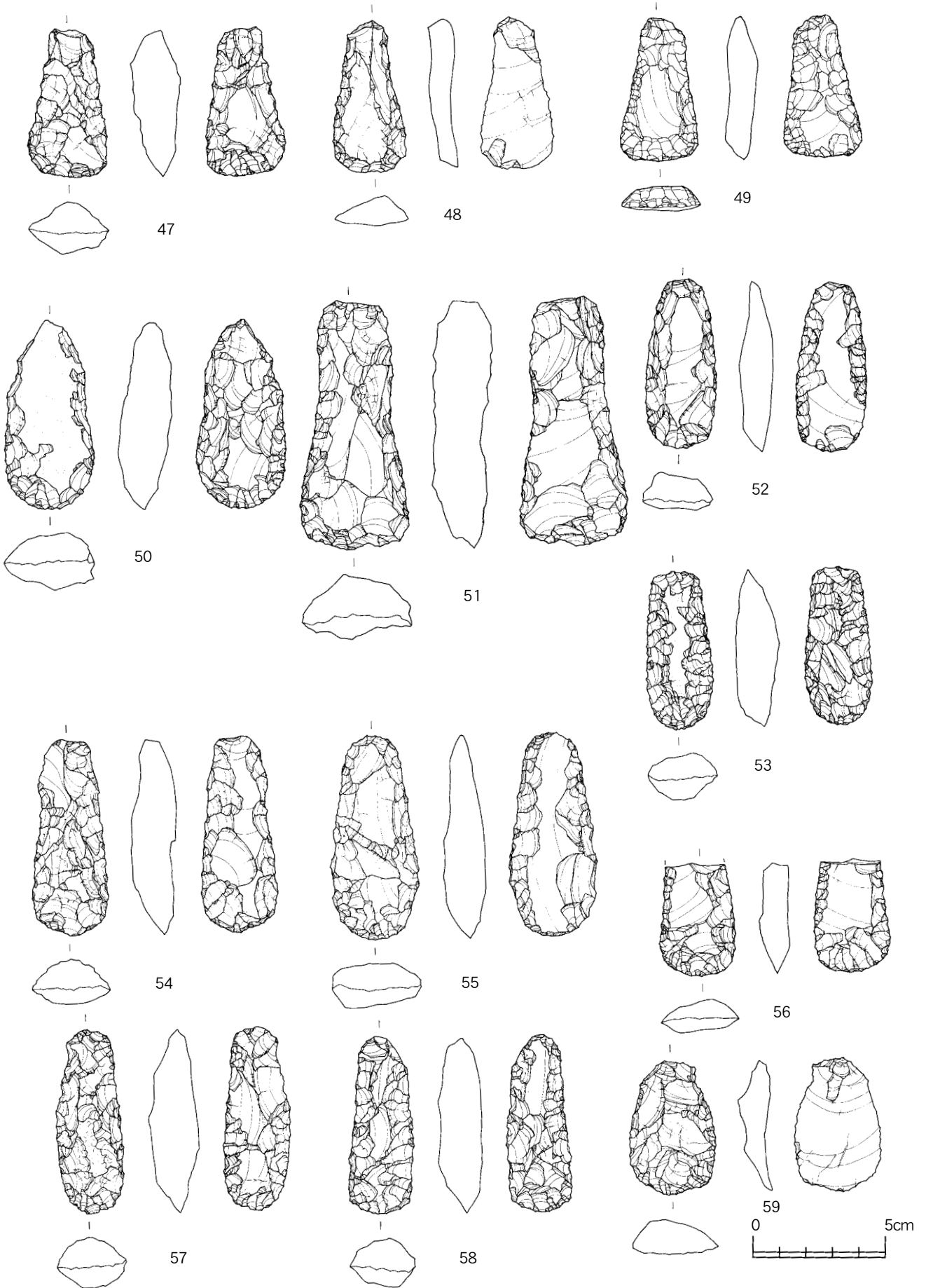


第20図 東側調査区出土石器(1)

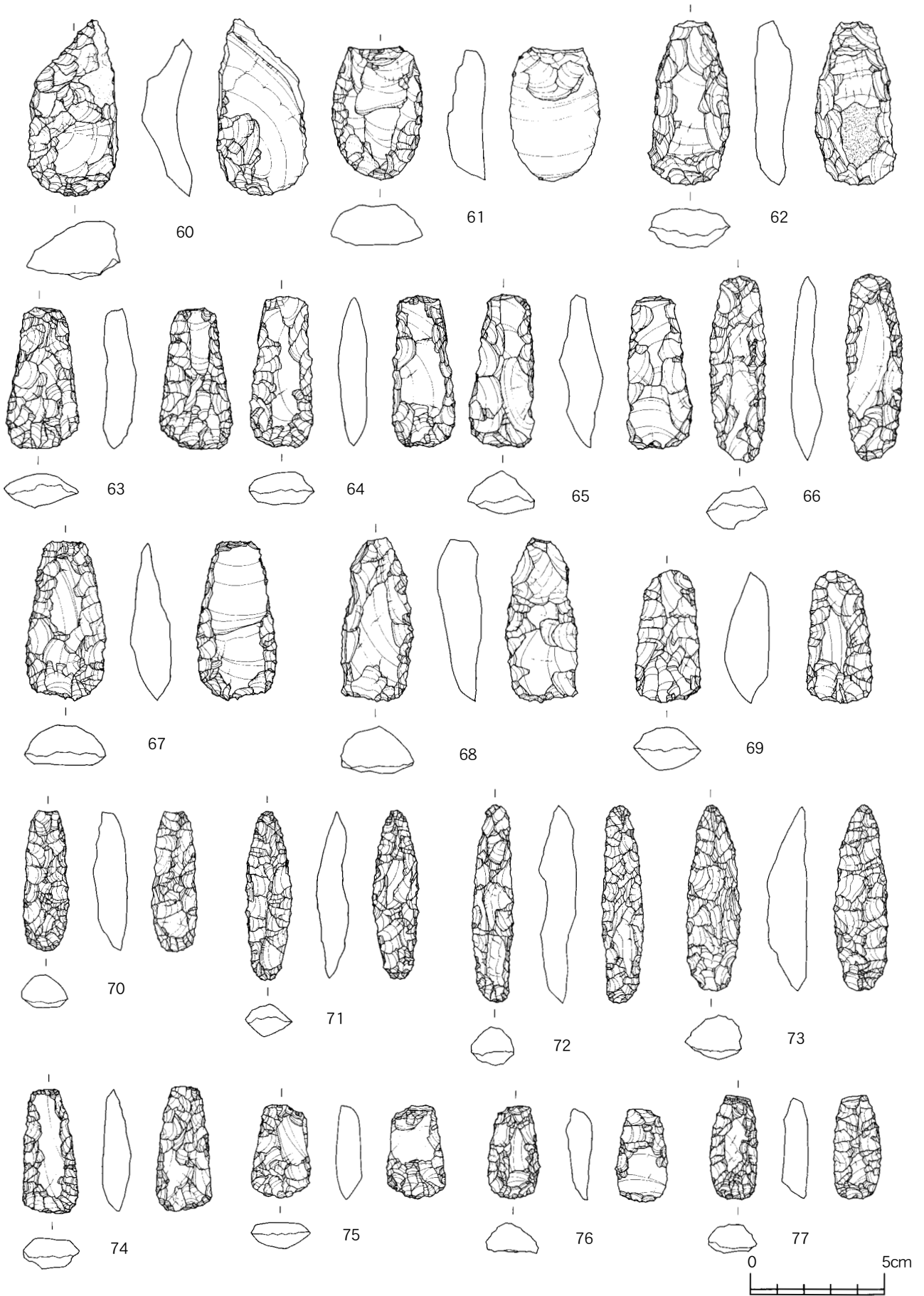


第21図 東側調査区出土石器(2)





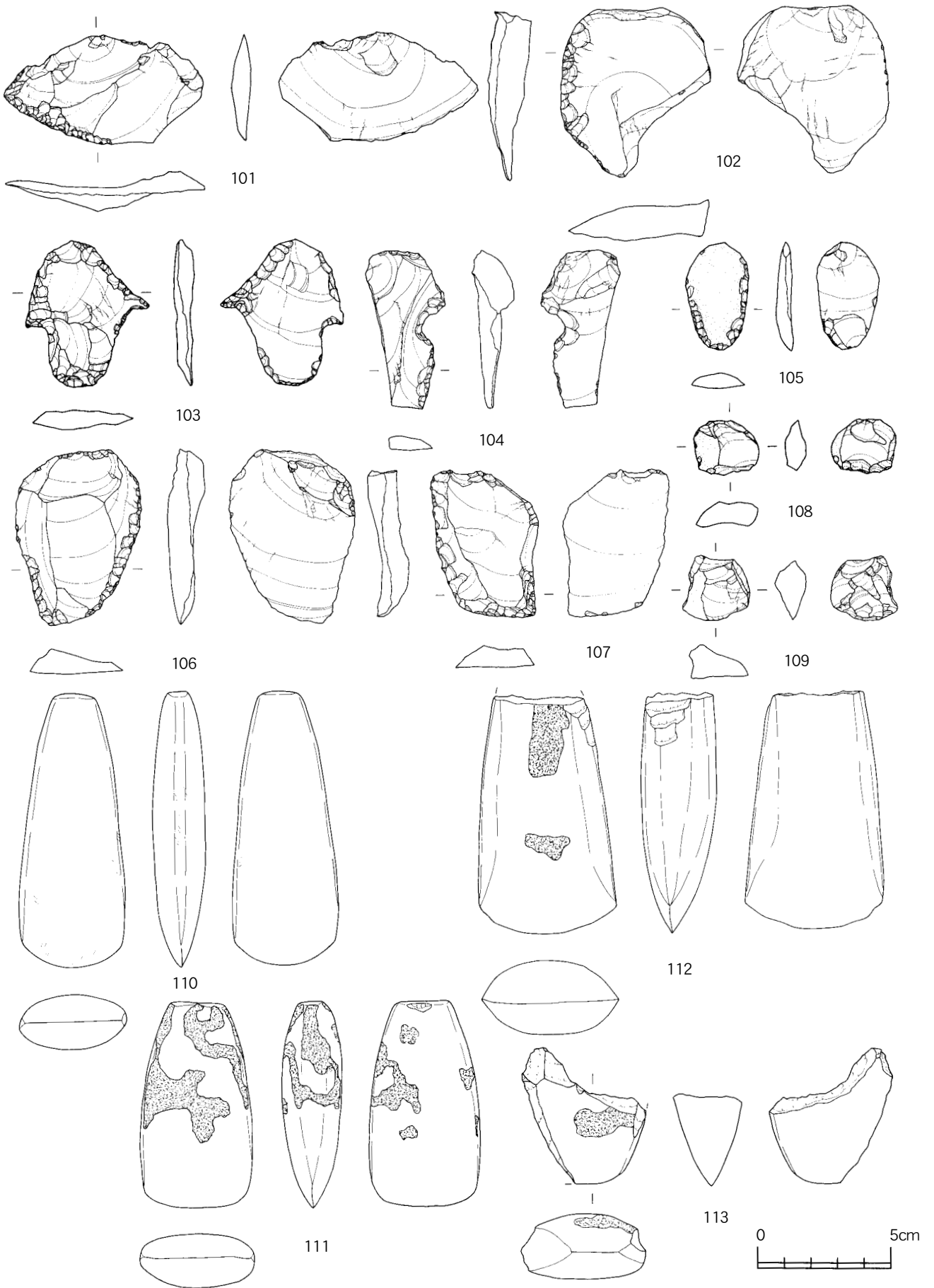
第22図 東側調査区出土石器(3)



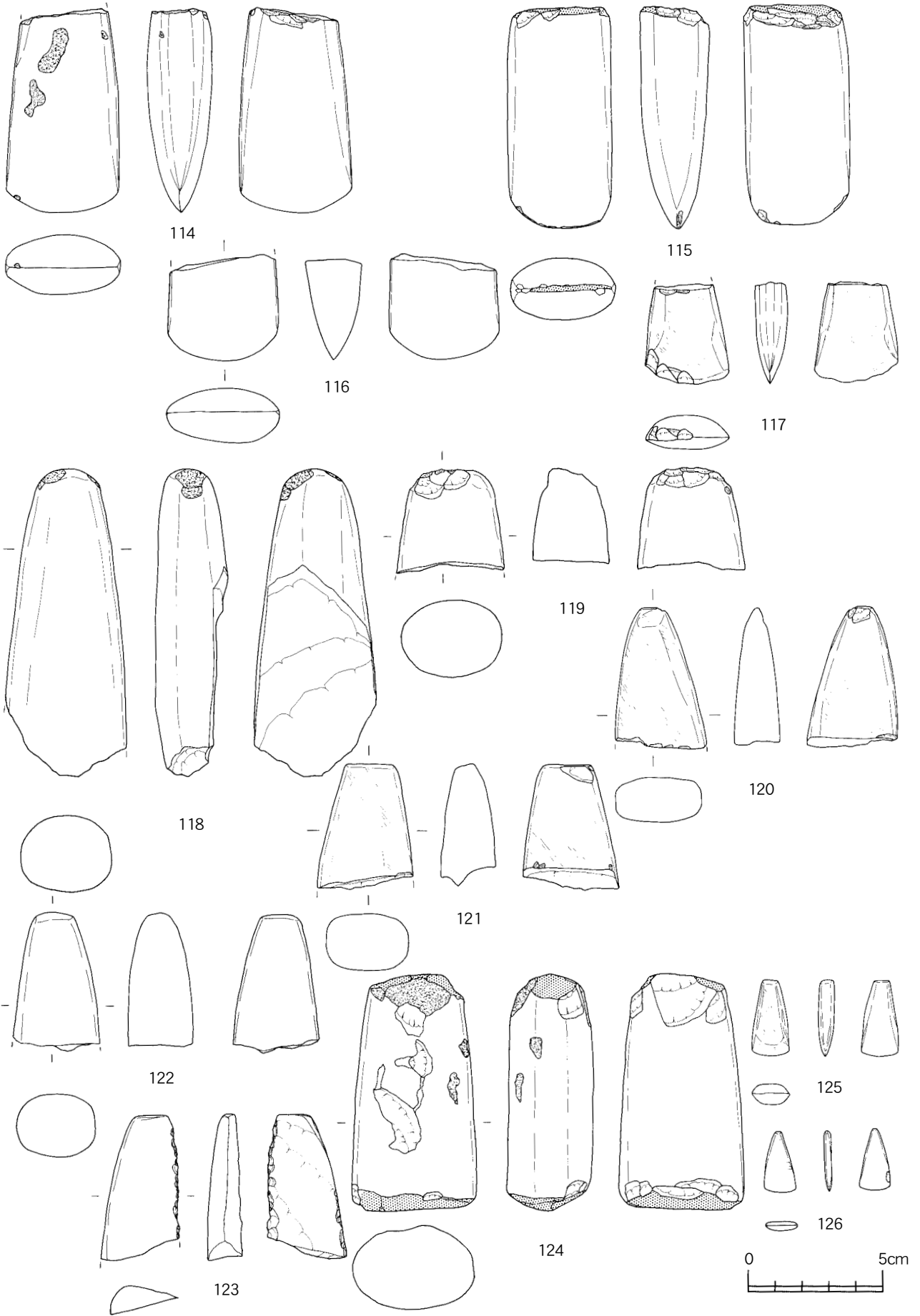
第23図 東側調査区出土石器(4)



第24図 東側調査区出土石器(5)



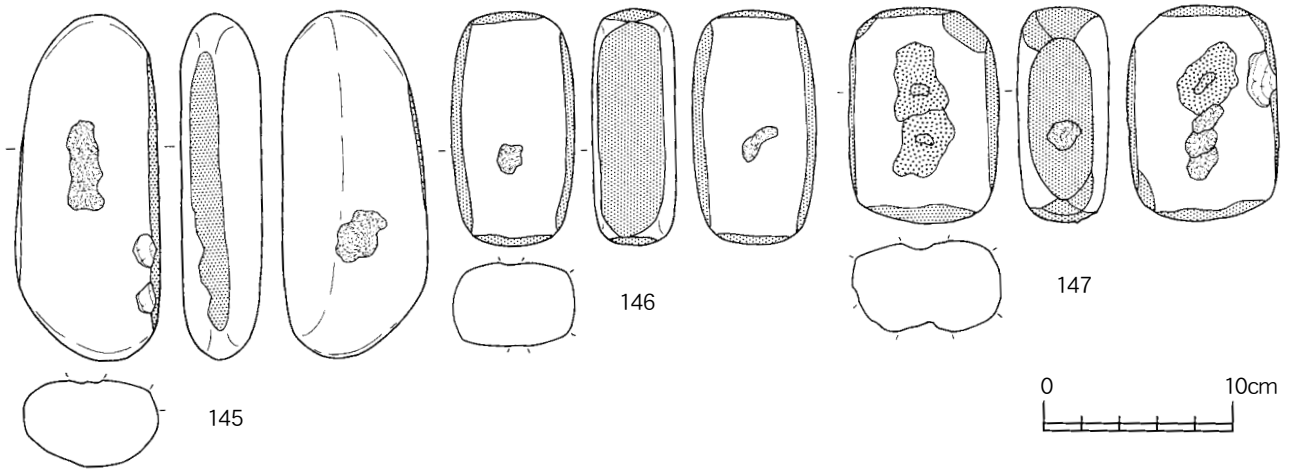
第25図 東側調査区出土石器(6)



第26図 東側調査区出土石器(7)



第27図 東側調査区出土石器(8)



第28図 東側調査区出土石器(9)

第 8 表 東側調査区出土石器計測表(1)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
20-1	2	石鏃	O-12		23	14	7	0.7	珪質頁岩	a	
20-2	1	石鏃	S-7		30	16	9	1.1	珪質頁岩	a	背面・腹面に焼けはじけ
20-3	5	石鏃	T-11		30	13	9	2.0	珪質頁岩	a	
20-4	4	石鏃	Q-18		46	13	8	3.8	珪質頁岩	a	先端部欠損
20-5	3	石鏃	R-4		46	17	9	2.5	珪質頁岩	b	
20-6	5	石鏃	O-12		43	13	5	2.1	珪質頁岩	b	茎部欠損、アスファルト付着
20-7	7	石鏃	Q-18		41	12	8	1.4	珪質頁岩	b	茎部欠損
20-8	4	石鏃	P-9		28	13	5	1.3	珪質頁岩	b	先端部欠損、アスファルト付着
20-9	7	石鏃	P-11		30	16	7	1.9	珪質頁岩	c	先端部欠損
20-10	261	石鏃	T~V		27	12	4	1.0	珪質頁岩	c	先端部欠損、アスファルト付着
20-11	1	石鏃	R-15		27	13	4	1.2	珪質頁岩	c	
20-12	6	石鏃	P-14		24	12	4	0.8	珪質頁岩	c	茎部欠損、焼けはじけ
20-13	2	石鏃	Q-16		30	12	7	2.0	珪質頁岩	c	先端部欠損、アスファルト付着
20-14	6	石鏃	Q-8		28	12	5	1.4	珪質頁岩	c	先端・茎部欠損
20-15	915	石鏃	S-7		34	20	7	4.1	珪質頁岩	d	アスファルト付着
20-16	8	石鏃	Q-14		34	14	6	2.6	珪質頁岩	e	
20-17	9	石鏃	Q-15		17	14	4	0.7	珪質頁岩	f	
20-18	11	石錐	V-12		33	13	30	11.8	珪質頁岩	a	錐部欠損
20-19	263	石錐	T~V		42	27	12	8.1	珪質頁岩	a	錐部欠損
20-20	8	石錐	S-7		36	30	9	5.7	珪質頁岩	a	錐部先端に潰れ痕
20-21	12	石錐	Q-15		52	14	11	8.4	珪質頁岩	b	錐部側縁に潰れ痕
20-22	262	石錐	T~V		41	10	9	3.5	珪質頁岩	b	
20-23	13	石錐	Q-7		36	11	9	3.2	珪質頁岩	b	
20-24	11	石錐	Q-11		48	14	10	5.1	珪質頁岩	b	
20-25	160	石錐	Q-14		38	21	7	4.8	珪質頁岩	c	錐部先端に潰れ痕
20-26	12	石錐	Q-11		36	15	6	3.3	珪質頁岩	c	
20-27	10	石錐	R-4		46	25	11	13.3	珪質頁岩	c	錐部先端に潰れ痕、光沢
20-28	9	石錐	S-10		34	20	8	5.3	珪質頁岩	c	錐部欠損
20-29	13	石錐	Q-8		36	27	5	5.0	珪質頁岩	c	錐部先端に潰れ痕
21-30	126	石錐	U-10		46	25	9	5.4	珪質頁岩	c	
21-31	10	石錐	Q-7	~	45	39	9	15.1	珪質頁岩	c	
	668	石錐	R-9		26	32	11	6.2	珪質頁岩	a	錐部欠損

第9表 東側調査区出土石器計測表(2)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
21-32	18	石匙	S-12		48	38	9	17.3	珪質頁岩	a	
21-33	17	石匙	R-6		73	26	8	14.2	珪質頁岩	a	
21-34	17	石匙	U-9		65	37	8	16.8	珪質頁岩	a	
21-35	16	石匙	Q-12		73	47	17	45.2	珪質頁岩	a	
21-36	15	石匙	V-9		54	45	12	17.8	頁岩	a	
21-37	14	石匙	Q-11		57	30	10	8.4	珪質頁岩	a	
21-38	851	石匙	Q-6		49	31	7	9.3	珪質頁岩	a	
21-39	14	石匙	P-17		40	68	10	16.9	珪質頁岩	b	刃部に光沢
21-40	32	石籠	V-10		48	32	12	16.0	珪質頁岩	a	
21-41	20	石籠	Q-12		51	34	11	16.8	珪質頁岩	a	
21-42	21	石籠	S-11		53	33	10	16.6	珪質頁岩	a	背面基部付近に光沢あり
21-43	264	石籠	T~V		52	31	11	13.8	珪質頁岩	a	
21-44	25	石籠	S-11		54	21	12	13.4	珪質頁岩	a	
21-45	23	石籠	R-4		53	25	9	12.8	珪質頁岩	a	
21-46	38	石籠	P-17		45	32	13	15.4	珪質頁岩	a	
22-47	29	石籠	R-6		56	30	20	28.7	珪質頁岩	a	稜に光沢
22-48	21	石籠	Q-18		57	27	10	15.4	頁岩	a	
22-49	22	石籠	R-3		54	29	11	19.7	珪質頁岩	a	背面の一部に光沢
22-50	27	石籠	Q-4		72	34	20	48.8	頁岩	a	
22-51	39	石籠	S-10		95	41	23	47.9	珪質頁岩	a	刃部に光沢
22-52	31	石籠	S-10		65	27	14	27.1	頁岩	b	
22-53	28	石籠	Q-5		60	26	16	26.5	珪質頁岩	b	背・腹面に光沢
22-54	32	石籠	S-10		74	30	18	39.3	頁岩	b	
22-55	20	石籠	Q-16		78	34	17	45.7	珪質頁岩	b	
22-56	27	石籠	T-6		43	29	12	18.9	珪質頁岩	b	
22-57	33	石籠	Q-4		69	26	18	33.2	珪質頁岩	b	
22-58	35	石籠	Q-4		67	24	18	32.1	珪質頁岩	b	
22-59	44	石籠	V-10		51	33	12	17.8	珪質頁岩	b	
23-60	39	石籠	T-7		67	34	16	34.5	珪質頁岩	b	
23-61	22	石籠	P-17		50	34	14	27.8	珪質頁岩	b	
23-62	33	石籠	V-9		62	29	14	31.9	頁岩	b	腹面に焼けはじけ
23-63	30	石籠	P-17		54	28	12	19.0	珪質頁岩	b	背・腹面に光沢
23-64	34	石籠	V-10		57	24	10	17.8	珪質頁岩	b	
23-65	24	石籠	Q-15		58	24	15	20.0	珪質頁岩	b	
23-66	34	石籠	Q-5		70	21	13	21.6	珪質頁岩	b	
23-67	30	石籠	P-9		60	29	15	26.1	珪質頁岩	b	
23-68	43	石籠	T-6		61	28	17	28.8	頁岩	b	
23-69	46	石籠	P-15		49	25	16	20.0	珪質頁岩	b	
23-70	29	石籠	P-17		53	17	11	11.7	珪質頁岩	b	
23-71	47	石籠	Q-18		63	17	12	11.3	珪質頁岩	b	
23-72	852	石籠	Q-7		74	16	14	15.2	珪質頁岩	b	
23-73	26	石籠	S-10		70	19	17	20.2	珪質頁岩	b	刃部先端に光沢
23-74	36	石籠	P-11		46	21	10	11.7	珪質頁岩	b	
23-75	41	石籠	Q-14		35	22	9	8.1	珪質頁岩	a	刃部に光沢
23-76	38	石籠	O-12		35	19	10	7.3	珪質頁岩	b	
23-77	37	石籠	R-4		40	18	12	9.6	珪質頁岩	b	光沢
	42	石籠	U-10		28	32	13	18.4	珪質頁岩	c	刃部残
	23	石籠	V-11		44	23	11	10.4	珪質頁岩	c	基部残



第10表 東側調査区出土石器計測表(3)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	26	石筥	Q-16		51	33	16	18.2	珪質頁岩	c	基部残
	45	石筥	Q-7	~	31	28	18	18.1	頁岩	c	基部残
24-78	40	大石平型石筥	S-7		43	30	8	8.3	珪質頁岩		焼けはじけ
24-79	53	大石平型石筥	P-16		38	22	10	7.7	頁岩		焼けはじけ
24-80	52	大石平型石筥	U-11		42	19	12	8.8	珪質頁岩		
24-81	51	大石平型石筥	V-8		31	16	10	4	珪質頁岩		
24-82	850	大石平型石筥	R-7		36	23	6	5.3	珪質頁岩		
24-83	80	大石平型石筥	Q-7		24	16	7	2.7	珪質頁岩		
24-84	853	大石平型石筥	R-6		26	19	10	4.8	珪質頁岩		
24-85	265	大石平型石筥	T~V		21	12	7	2.6	珪質頁岩		
24-86	50	大石平型石筥	T-7		25	12	9	3	珪質頁岩		
24-87	854	大石平型石筥	Q-5		31	12	10	5.5	珪質頁岩		
24-88	41	大石平型石筥	S-7		31	23	7	4.8	珪質頁岩		
24-89	925	大石平型石筥	Q-7		27	24	7	4.2	珪質頁岩		
24-90	916	大石平型石筥	L-12		23	24	7	3.2	珪質頁岩		
24-91	19	大石平型石筥	S-7		42	18	7	5.5	珪質頁岩		欠損
24-92	16	大石平型石筥	U-8		39	22	10	6.8	珪質頁岩		欠損
24-93	3	大石平型石筥	T-10		45	12	7	4.7	珪質頁岩		
24-94	47	不定形石器	S-11		57	34	17	29.7	珪質頁岩	a	
24-95	654	不定形石器	S-4		59	29	15	27.5	頁岩	a	
24-96	910	不定形石器	P-9		42	38	15	19.6	珪質頁岩	a	
24-97	52	不定形石器	Q-4		46	59	15	35.9	珪質頁岩	a	
24-98	655	不定形石器	R-10		40	46	10	18.2	珪質頁岩	a	
24-99	102	不定形石器	Q-7		30	39	7	7.5	珪質頁岩	a	
24-100	109	不定形石器	Q-9		61	37	20	22.4	珪質頁岩	a	
25-101	888	不定形石器	Q-6		41	74	8	22.2	珪質頁岩	a	
	19	不定形石器	Q-16		71	35	15	35.4	珪質頁岩	a	
	25	不定形石器	P-16		59	34	11	26.6	珪質頁岩	a	
	35	不定形石器	P-15		69	38	17	37.0	珪質頁岩	a	
	36	不定形石器	Q-6	~	61	32	11	28.0	頁岩	a	
	37	不定形石器	V-9		55	30	15	28.0	珪質頁岩	a	
	31	不定形石器	P-16		42	35	15	28.0	珪質頁岩	a	
	40	不定形石器	Q-6	~	70	38	14	45.5	珪質頁岩	a	
	49	不定形石器	P-16		69	44	13	37.0	珪質頁岩	a	
	62	不定形石器	Q-18		43	43	16	33.1	珪質頁岩	a	
	63	不定形石器	U-11		49	30	12	15.7	珪質頁岩	a	
	71	不定形石器	T-7		44	44	12	19.0	珪質頁岩	a	
	75	不定形石器	Q-18		52	37	14	25.5	珪質頁岩	a	
	77	不定形石器	P-18		75	58	15	66.8	珪質頁岩	a	
	78	不定形石器	Q-18		49	31	10	12.0	珪質頁岩	a	
	81	不定形石器	Q-18		62	59	16	61.2	珪質頁岩	a	
	82	不定形石器	P-6		58	46	18	53.2	珪質頁岩	a	
	84	不定形石器	P-16		49	24	11	12.5	珪質頁岩	a	
	85	不定形石器	V-9		33	27	13	11.5	珪質頁岩	a	
	90	不定形石器	T-6		54	50	20	51.1	珪質頁岩	a	
	91	不定形石器	P-17		46	62	14	35.9	珪質頁岩	a	
	93	不定形石器	Q-16		53	41	15	25.0	珪質頁岩	a	
	97	不定形石器	U-12		43	51	14	27.8	珪質頁岩	a	

第11表 東側調査区出土石器計測表(4)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	100	不定形石器	V-10		104	59	20	70.6	珪質頁岩	a	
	101	不定形石器	T-10		56	40	17	29.2	珪質頁岩	a	
	103	不定形石器	P-17		19	42	11	9.5	珪質頁岩	a	
	104	不定形石器	Q-7	~	44	37	6	12.0	珪質頁岩	a	焼け痕あり
	108	不定形石器	Q-16		39	50	14	30.7	珪質頁岩	a	
	110	不定形石器	P-18		47	34	15	25.7	珪質頁岩	a	
	113	不定形石器	P-18		56	30	10	19.6	珪質頁岩	a	
	114	不定形石器	V-11		60	37	18	39.4	珪質頁岩	a	
	115	不定形石器	U-8		59	53	16	58.3	珪質頁岩	a	
	118	不定形石器	Q-18		82	50	17	67.5	珪質頁岩	a	
	119	不定形石器	T-6		31	51	7	12.5	珪質頁岩	a	
	121	不定形石器	U-8		43	28	12	18.2	珪質頁岩	a	
	122	不定形石器	P-16		86	56	20	89.8	珪質頁岩	a	
	124	不定形石器	V-10		57	43	15	33.7	珪質頁岩	a	
	125	不定形石器	T-6		41	39	7	10.6	珪質頁岩	a	
	127	不定形石器	Q-14		33	42	14	19.9	珪質頁岩	a	
	128	不定形石器	U-10		55	74	29	90.1	珪質頁岩	a	
	142	不定形石器	V-10		63	49	15	44.8	珪質頁岩	a	
	145	不定形石器	P-17		47	44	17	27.6	珪質頁岩	a	
	147	不定形石器	V-12		46	46	19	39.9	珪質頁岩	a	
	153	不定形石器	P-17		39	56	13	33.1	珪質頁岩	a	
	155	不定形石器	T-6		72	59	20	73.9	珪質頁岩	a	
	162	不定形石器	T-10		41	31	14	21.4	珪質頁岩	a	
	164	不定形石器	Q-18		32	27	13	11.3	珪質頁岩	a	
	169	不定形石器	P-14		77	45	18	55.6	頁岩	a	
	178	不定形石器	V-9		42	27	14	13.6	珪質頁岩	a	
	179	不定形石器	P-17		62	65	22	73.8	珪質頁岩	a	
	182	不定形石器	P-17		52	21	12	10.8	珪質頁岩	a	
	193	不定形石器	P-18		47	30	17	23.7	珪質頁岩	a	
	196	不定形石器	V-11		45	33	17	23.6	珪質頁岩	a	
	198	不定形石器	P-17		66	96	32	173.1	珪質頁岩	a	
	199	不定形石器	V-11		31	29	9	7.2	珪質頁岩	a	
	202	不定形石器	P-14		38	47	11	20.0	珪質頁岩	a	
	209	不定形石器	Q-18		43	27	6	9.6	珪質頁岩	a	
	210	不定形石器	U-8		54	33	9	16.5	珪質頁岩	a	
	48	不定形石器	S-11		33	27	14	15.4	珪質頁岩	a	
	50	不定形石器	Q-6		68	56	22	71.6	珪質頁岩	a	
	51	不定形石器	S-10		46	37	16	27.4	珪質頁岩	a	
	53	不定形石器	S-11		64	44	18	45.3	珪質頁岩	a	
	54	不定形石器	S-10		83	52	29	151.9	珪質頁岩	a	
	55	不定形石器	P-9		64	22	13	20.5	珪質頁岩	a	
	56	不定形石器	O-11		17	21	6	2.6	珪質頁岩	a	
	58	不定形石器	R-3		41	39	13	20.2	珪質頁岩	a	
	60	不定形石器	M-11		65	37	14	33.8	珪質頁岩	a	
	65	不定形石器	Q-8		33	28	9	7.7	珪質頁岩	a	1994年埋め戻しの土より出土
	66	不定形石器	O-12		45	53	25	34.7	珪質頁岩	a	
	67	不定形石器	S-10		63	65	19	83.3	珪質頁岩	a	
	68	不定形石器	K-12		56	47	19	51.7	珪質頁岩	a	

第12表 東側調査区出土石器計測表(5)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	69	不定形石器	S-5		47	30	12	16.1	珪質頁岩	a	
	72	不定形石器	R-9		24	23	11	4.8	珪質頁岩	a	
	77	不定形石器	S-8		33	33	9	7.9	珪質頁岩	a	1994年埋め戻しの土より出土
	107	不定形石器	Q-4		32	29	11	10.0	珪質頁岩	a	
	112	不定形石器	S-6		83	92	37	257.4	珪質頁岩	a	
	135	不定形石器	L-12		18	37	10	3.4	珪質頁岩	a	
	143	不定形石器	S-4		42	31	15	16.3	珪質頁岩	a	
	144	不定形石器	R-10		54	47	10	18.3	珪質頁岩	a	
	149	不定形石器	R-9		30	35	20	22.4	珪質頁岩	a	
	151	不定形石器	Q-11		93	53	33	181.2	珪質頁岩	a	
	155	不定形石器	S-5		75	24	22	41.0	珪質頁岩	a	
	156	不定形石器	Q-9		53	21	16	20.9	珪質頁岩	a	
	159	不定形石器	Q-4		45	85	20	69.0	珪質頁岩	a	
	167	不定形石器	Q-7		47	33	17	23.4	珪質頁岩	a	
	656	不定形石器	P-10		56	25	13	15.6	珪質頁岩	a	
	660	不定形石器	S-11		45	34	18	10.3	珪質頁岩	a	
	856	不定形石器	R-6		29	50	8	12.9	珪質頁岩	a	
	858	不定形石器	S-6		66	31	17	22.5	珪質頁岩	a	
	859	不定形石器	S-6		47	32	13	19.1	珪質頁岩	a	
	860	不定形石器	S-9		46	48	12	28.1	珪質頁岩	a	
	864	不定形石器	S-12		78	67	23	123.5	珪質頁岩	a	
	865	不定形石器	S-4		60	65	23	87.1	珪質頁岩	a	
	867	不定形石器	Q-5		57	25	17	22.4	珪質頁岩	a	
	868	不定形石器	Q-5		40	25	11	9.1	珪質頁岩	a	
	880	不定形石器	R-6		63	21	12	13.1	珪質頁岩	a	
	881	不定形石器	S-9		90	43	19	66.2	珪質頁岩	a	
	882	不定形石器	S-5		43	25	16	17.6	珪質頁岩	a	
	885	不定形石器	Q-5		48	46	16	39.8	珪質頁岩	a	
	886	不定形石器	Q-5		63	30	17	31.2	珪質頁岩	a	
	892	不定形石器	S-6		68	47	18	49.6	珪質頁岩	a	
	894	不定形石器	S-9		43	31	15	23.0	珪質頁岩	a	
	908	不定形石器	Q-10		62	39	11	31.2	珪質頁岩	a	
	909	不定形石器	Q-11		41	46	12	20.0	珪質頁岩	a	
	912	不定形石器	N-12		64	50	17	58.5	珪質頁岩	a	
	917	不定形石器	N-11		56	56	15	46.6	珪質頁岩	a	
	918	不定形石器	Q-5		45	33	14	23.2	珪質頁岩	a	
	922	不定形石器	S-7		43	41	12	23.1	珪質頁岩	a	
	924	不定形石器	S-6		50	36	9	17.3	珪質頁岩	a	
25-102	884	不定形石器	R-10		60	63	20	48.3	珪質頁岩	b	
25-103	290	不定形石器	K-12		56	46	6	14.4	珪質頁岩	b	
25-104	158	不定形石器	S-10		59	32	15	19.9	珪質頁岩	b	
25-105	883	不定形石器	S-9		41	24	6	6.8	珪質頁岩	b	
	28	不定形石器	V-8		70	38	13	39.5	珪質頁岩	b	
	69	不定形石器	T-7		24	17	4	1.9	珪質頁岩	b	
	70	不定形石器	V-11		32	22	7	5.2	珪質頁岩	b	
	74	不定形石器	Q-18		57	38	7	16.2	珪質頁岩	b	
	76	不定形石器	P-16		70	42	12	37.7	珪質頁岩	b	
	80	不定形石器	V-9		57	37	14	19.9	珪質頁岩	b	

第13表 東側調査区出土石器計測表(6)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	86	不定形石器	T-8		62	31	19	29.6	珪質頁岩	b	
	88	不定形石器	T-7		66	52	22	56.6	珪質頁岩	b	
	92	不定形石器	V-11		55	33	10	14.9	珪質頁岩	b	
	94	不定形石器	T-7		33	40	9	10.4	珪質頁岩	b	
	95	不定形石器	V-10		42	67	16	32.0	珪質頁岩	b	
	106	不定形石器	Q-18		61	34	20	38.6	珪質頁岩	b	
	109	不定形石器	V-12		40	70	13	30.3	珪質頁岩	b	
	111	不定形石器	Q-15		43	26	11	11.4	珪質頁岩	b	
	112	不定形石器	U-11		43	17	7	5.8	頁岩	b	
	117	不定形石器	Q-18		92	48	20	81.2	珪質頁岩	b	
	120	不定形石器	T-6		53	31	5	10.8	珪質頁岩	b	
	123	不定形石器	T-7		62	45	9	30.3	珪質頁岩	b	
	131	不定形石器	P-17		33	39	5	7.9	珪質頁岩	b	
	136	不定形石器	R-14		49	40	11	26.4	珪質頁岩	b	
	139	不定形石器	V-9		35	39	15	14.6	珪質頁岩	b	
	141	不定形石器	V-9		55	61	14	46.4	頁岩	b	
	149	不定形石器	P-17		68	34	13	26.4	珪質頁岩	b	
	151	不定形石器	V-9		50	48	15	35.1	珪質頁岩	b	
	165	不定形石器	U-10		58	53	17	45.4	珪質頁岩	b	
	171	不定形石器	T-8		48	55	12	26.0	頁岩	b	
	173	不定形石器	Q-18		26	38	11	9.9	珪質頁岩	b	
	181	不定形石器	V-12		27	60	8	10.5	珪質頁岩	b	
	184	不定形石器	U-9		57	56	16	51.0	珪質頁岩	b	
	201	不定形石器	P-18		75	45	24	66.9	珪質頁岩	b	
	205	不定形石器	U-9		59	34	11	27.9	珪質頁岩	b	
	207	不定形石器	U-8		27	43	13	12.1	珪質頁岩	b	
	212	不定形石器	T-9		42	35	7	11.9	珪質頁岩	b	
	213	不定形石器	V-8		41	45	11	20.1	珪質頁岩	b	
	57	不定形石器	Q-9		47	58	17	56.3	珪質頁岩	b	
	61	不定形石器	Q-7		64	32	10	19.4	珪質頁岩	b	
	62	不定形石器	Q-10		63	31	10	18.4	珪質頁岩	b	
	63	不定形石器	Q-9		49	26	9	12.7	珪質頁岩	b	
	64	不定形石器	P-12		84	51	17	80.2	珪質頁岩	b	
	79	不定形石器	R-5		53	67	17	56.5	頁岩	b	
	80	不定形石器	R-9		54	47	12	26.7	珪質頁岩	b	
	82	不定形石器	S-7		41	63	19	38.9	珪質頁岩	b	
	85	不定形石器	R-11		51	77	12	50.5	頁岩	b	
	86	不定形石器	S-10		68	48	16	47.2	珪質頁岩	b	
	88	不定形石器	Q-6		60	52	17	32.0	珪質頁岩	b	
	89	不定形石器	S-10		83	33	15	37.9	頁岩	b	
	90	不定形石器	Q-11		54	58	21	54.6	珪質頁岩	b	
	93	不定形石器	S-5		31	31	10	7.4	珪質頁岩	b	
	94	不定形石器	R-11		21	41	11	8.6	珪質頁岩	b	
	95	不定形石器	S-5		53	26	12	24.5	珪質頁岩	b	
	97	不定形石器	Q-9		23	62	8	8.5	珪質頁岩	b	
	99	不定形石器	R-10		49	20	6	4.0	珪質頁岩	b	
	100	不定形石器	Q-7		78	30	18	38.1	珪質頁岩	b	
	101	不定形石器	P-10		67	51	15	55.0	珪質頁岩	b	

第14表 東側調査区出土石器計測表(7)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	102	不定形石器	Q-9		35	17	6	3.5	珪質頁岩	b	
	103	不定形石器	P-9		28	25	6	3.6	珪質頁岩	b	
	104	不定形石器	Q-7		72	43	16	41.8	珪質頁岩	b	焼けはじけ
	105	不定形石器	S-4		61	74	20	61.8	頁岩	b	
	106	不定形石器	Q-12		67	71	15	55.9	珪質頁岩	b	
	108	不定形石器	R-11		50	25	12	15.4	珪質頁岩	b	
	110	不定形石器	Q-10		42	31	16	15.6	珪質頁岩	b	
	111	不定形石器	S-11		80	30	16	30.1	珪質頁岩	b	
	113	不定形石器	R-6		70	56	18	68.3	珪質頁岩	b	
	115	不定形石器	Q-8		32	36	8	8.7	珪質頁岩	b	1994年埋め戻しの土より出土
	122	不定形石器	S-10		42	28	12	15.6	珪質頁岩	b	
	126	不定形石器	P-12		56	37	16	26.8	珪質頁岩	b	
	130	不定形石器	S-7		30	56	21	27.1	珪質頁岩	b	
	131	不定形石器	S-10		39	22	6	4.0	珪質頁岩	b	
	134	不定形石器	M-11		16	30	6	3.1	珪質頁岩	b	
	136	不定形石器	S-11		27	35	5	5.0	珪質頁岩	b	
	137	不定形石器	P-11		58	57	16	46.8	珪質頁岩	b	
	150	不定形石器	S-7		78	39	24	70.7	頁岩	b	
	157	不定形石器	M-12		28	43	9	10.5	珪質頁岩	b	
	162	不定形石器	Q-7		33	34	9	8.3	珪質頁岩	b	
	170	不定形石器	K-11		42	45	15	17.7	珪質頁岩	b	
	358	不定形石器	R-9		42	42	11	19.1	珪質頁岩	b	
	657	不定形石器	R-9		34	19	9	4.5	珪質頁岩	b	
	661	不定形石器	R-5		24	28	8	5.0	珪質頁岩	b	
	662	不定形石器	R-10		48	25	8	10.5	頁岩	b	
	663	不定形石器	R-5		31	25	7	7.8	珪質頁岩	b	
	666	不定形石器	K-12		39	43	8	15.5	珪質頁岩	b	
	855	不定形石器	Q-5		53	96	13	48.2	珪質頁岩	b	
	857	不定形石器	S-6		52	73	14	48.7	珪質頁岩	b	
	862	不定形石器	S-6		38	49	15	22.1	珪質頁岩	b	
	863	不定形石器	R-6		56	43	15	26.9	珪質頁岩	b	
	866	不定形石器	R-10		42	56	19	36.7	珪質頁岩	b	
	875	不定形石器	S-5		52	50	17	39.8	珪質頁岩	b	
	878	不定形石器	R-10		39	32	10	9.7	珪質頁岩	b	
	879	不定形石器	Q-7		62	24	8	10.0	頁岩	b	
	897	不定形石器	Q-5		41	46	12	20.1	珪質頁岩	b	
	907	不定形石器	P-9		63	47	19	42.3	珪質頁岩	b	
	919	不定形石器	N-11		53	47	11	24.5	珪質頁岩	b	
25-106	18	不定形石器	V-10		100	54	17	83.1	珪質頁岩	c	
25-107	48	不定形石器	P-17		27	20	6	4.6	珪質頁岩	c	
	64	不定形石器	U-8		45	33	14	15.8	珪質頁岩	c	
	65	不定形石器	P-17		29	23	9	5.5	珪質頁岩	c	
	66	不定形石器	V-10		57	27	12	14.9	珪質頁岩	c	
	67	不定形石器	P-17		40	34	12	14.4	珪質頁岩	c	
	68	不定形石器	V-12		40	12	7	3.4	珪質頁岩	c	
	72	不定形石器	T-6		44	29	16	12.1	珪質頁岩	c	
	73	不定形石器	Q-18		42	25	9	7.8	珪質頁岩	c	
	83	不定形石器	V-9		64	47	13	32.6	珪質頁岩	c	

第15表 東側調査区出土石器計測表(8)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	87	不定形石器	U-12		81	55	11	44.0	珪質頁岩	c	
	99	不定形石器	V-12		72	44	13	42.0	珪質頁岩	c	
	105	不定形石器	Q-7		61	67	14	55.1	珪質頁岩	c	
	107	不定形石器	R-7	~	66	76	15	70.3	珪質頁岩	c	
	156	不定形石器	Q-18		65	42	10	24.9	珪質頁岩	c	
	188	不定形石器	V-12		66	47	16	40.5	珪質頁岩	c	
	190	不定形石器	V-10		58	44	14	26.3	珪質頁岩	c	
	15	不定形石器	Q-11		70	45	16	33.3	珪質頁岩	c	
	70	不定形石器	M-11		41	25	10	11.3	珪質頁岩	c	
	81	不定形石器	Q-7		55	35	13	21.7	珪質頁岩	c	
	141	不定形石器	Q-9		40	48	16	22.5	珪質頁岩	c	
	145	不定形石器	S-10		33	29	11	9.7	頁岩	c	
	146	不定形石器	P-9		63	35	11	17.0	珪質頁岩	c	
	161	不定形石器	K-12		60	52	16	22.8	珪質頁岩	c	
	163	不定形石器	S-5		48	53	12	28.5	珪質頁岩	c	
	164	不定形石器	Q-10		44	25	7	9.3	珪質頁岩	c	
	165	不定形石器	R-9		74	52	21	65.9	珪質頁岩	c	
	166	不定形石器	R-10		61	37	12	25.9	珪質頁岩	c	
	168	不定形石器	Q-10		50	29	11	16.2	珪質頁岩	c	
	169	不定形石器	P-9		86	60	26	101.5	珪質頁岩	c	
	289	不定形石器	R-11		31	22	6	4.9	珪質頁岩	c	
	667	不定形石器	Q-7		47	42	8	14.5	珪質頁岩	c	
	872	不定形石器	R-4		64	31	13	26.7	珪質頁岩	c	
	877	不定形石器	Q-5		43	45	12	25.2	頁岩	c	
	914	不定形石器	P-9		42	53	18	34.5	珪質頁岩	c	
	920	不定形石器	R-7		56	42	13	25.9	珪質頁岩	c	
	921	不定形石器	Q-7		36	29	7	6.1	珪質頁岩	c	
	923	不定形石器	S-7		27	23	4	2.9	珪質頁岩	c	
25-108	42	不定形石器	R-5		24	27	12	6.8	珪質頁岩		両極打法
25-109	54	不定形石器	V-10		30	26	17	13.3	珪質頁岩		両極打法
	55	不定形石器	P-14		31	27	10	6.9	珪質頁岩		両極打法
	56	不定形石器	Q-18		21	24	10	5.5	珪質頁岩		両極打法
	57	不定形石器	V-12		33	26	7	6.6	珪質頁岩		両極打法
	58	不定形石器	T-10		31	22	13	6.8	珪質頁岩		両極打法
	59	不定形石器	P-14		42	31	11	16.1	珪質頁岩		両極打法
	60	不定形石器	T-10		27	26	10	9.0	珪質頁岩		両極打法
	61	不定形石器	Q-15		33	35	16	21.4	珪質頁岩		両極打法
	168	不定形石器	U-12		33	30	13	13.2	珪質頁岩		両極打法
	43	不定形石器	P-12		30	24	25	10.1	珪質頁岩		両極打法
	44	不定形石器	P-12		34	25	13	11.6	珪質頁岩		両極打法
	45	不定形石器	S-7		34	23	7	5.5	珪質頁岩		両極打法
	46	不定形石器	S-7		22	16	10	5.2	珪質頁岩		両極打法
	679	不定形石器	Q-10		35	23	16	12.0	珪質頁岩		両極打法
	681	不定形石器	Q-10		22	31	25	6.5	珪質頁岩		両極打法
	685	不定形石器	Q-7		25	18	10	5.6	珪質頁岩		両極打法
	79	不定形石器	U-10		38	42	15	23.1	珪質頁岩		
	96	不定形石器	P-18		34	36	17	22.2	珪質頁岩		
	98	不定形石器	V-11		40	24	9	6.9	珪質頁岩		

第16表 東側調査区出土石器計測表(9)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	130	不定形石器	P-18		31	36	8	9.4	珪質頁岩		
	132	不定形石器	T-9		55	37	14	30.6	珪質頁岩		
	133	不定形石器	V-9		46	36	11	16.8	珪質頁岩		
	135	不定形石器	V-9		75	66	16	71.6	珪質頁岩		
	137	不定形石器	U-12		36	46	9	13.3	珪質頁岩		
	138	不定形石器	V-10		36	44	9	11.4	珪質頁岩		
	140	不定形石器	V-10		34	42	17	22.9	珪質頁岩		
	150	不定形石器	T-10		78	56	11	33.0	珪質頁岩		
	159	不定形石器	Q-18		32	38	10	13.9	珪質頁岩		
	161	不定形石器	P-18		54	34	17	29.4	珪質頁岩		
	163	不定形石器	U-11		36	40	10	13.5	頁岩		
	166	不定形石器	T-8		72	29	16	22.9	珪質頁岩		
	167	不定形石器	U-11		63	31	21	29.1	珪質頁岩		
	175	不定形石器	T-8		44	54	9	20.3	珪質頁岩		
	185	不定形石器	P-15		45	59	14	35.0	珪質頁岩		
	191	不定形石器	V-9		48	36	16	24.3	珪質頁岩		
	194	不定形石器	Q-18		36	50	13	27.8	珪質頁岩		
	200	不定形石器	Q-15		36	51	18	25.5	珪質頁岩		
	208	不定形石器	Q-14		42	34	8	10.9	珪質頁岩		
	211	不定形石器	U-12		35	34	12	12.7	珪質頁岩		
	49	不定形石器	S-5		50	50	15	29.4	珪質頁岩		
	59	不定形石器	Q-10		31	28	13	7.1	珪質頁岩		
	73	不定形石器	Q-9		41	36	15	18.3	珪質頁岩		
	74	不定形石器	R-9		25	33	11	6.9	珪質頁岩		
	75	不定形石器	Q-7		46	31	12	19.8	珪質頁岩		
	96	不定形石器	Q-9		33	56	14	33.9	珪質頁岩		
	114	不定形石器	S-10		61	44	14	31.0	珪質頁岩		
	172	不定形石器	Q-10		58	50	23	71.4	珪質頁岩		
	176	不定形石器	P-12		27	33	10	8.7	珪質頁岩		
	177	不定形石器	Q-12		40	44	16	33.0	珪質頁岩		
	181	不定形石器	Q-9		30	23	17	10.5	珪質頁岩		
	182	不定形石器	R-9		27	28	9	7.1	珪質頁岩		
	184	不定形石器	R-9		42	22	8	8.2	珪質頁岩		
	185	不定形石器	Q-7		96	45	19	65.2	珪質頁岩		
	187	不定形石器	O-12		53	19	12	14.0	珪質頁岩		
	191	不定形石器	Q-7		50	43	23	37.3	珪質頁岩		
	197	不定形石器	M-11		42	29	12	14.4	珪質頁岩		
	200	不定形石器	M-11		36	35	14	11.4	珪質頁岩		
	206	不定形石器	Q-7		62	66	31	136.6	珪質頁岩		
	207	不定形石器	Q-6		42	48	20	39.4	珪質頁岩		
	210	不定形石器	S-7		31	42	18	25.5	珪質頁岩		
	216	不定形石器	Q-7		71	52	16	34.2	珪質頁岩		
	218	不定形石器	Q-3		75	64	25	118.5	珪質頁岩		
	219	不定形石器	S-7		62	50	21	50.0	頁岩		
	541	不定形石器	O-11		59	16	16	10.8	珪質頁岩		
	576	不定形石器	Q-12		30	20	10	6.2	珪質頁岩		
	669	不定形石器	R-6		33	15	9	4.2	頁岩		焼けはじけ
	697	不定形石器	O-11		76	69	40	176.1	珪質頁岩		

第17表 東側調査区出土石器計測表(10)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	861	不定形石器	Q-7		32	35	13	15.5	珪質頁岩		
	869	不定形石器	Q-7		71	40	12	40.3	珪質頁岩		
	870	不定形石器	Q-7		31	37	12	7.6	珪質頁岩		
	891	不定形石器	Q-6		38	40	7	10.8	珪質頁岩		
	896	不定形石器	Q-10		46	56	19	39.3	珪質頁岩		
	1000	不定形石器	S-7		26	36	7	7.1	珪質頁岩		
	89	不定形石器	P-17		82	50	21	64.0	頁岩		
	116	不定形石器	T-8		54	56	12	40.7	珪質頁岩		
	129	不定形石器	T-10		42	34	13	17.3	珪質頁岩		
	134	不定形石器	U-10		39	38	10	17.9	珪質頁岩		
	144	不定形石器	Q-16		41	45	12	21.6	頁岩		
	146	不定形石器	Q-14		61	51	15	52.3	珪質頁岩		
	152	不定形石器	Q-16		70	40	13	33.1	頁岩		
	154	不定形石器	P-17		52	34	10	8.8	珪質頁岩		
	157	不定形石器	Q-18		59	40	9	20.2	珪質頁岩		
	158	不定形石器	V-12		74	51	17	42.5	珪質頁岩		
	172	不定形石器	Q-16		46	56	11	29.1	珪質頁岩		
	174	不定形石器	P-18		49	66	15	40.9	頁岩		
	180	不定形石器	Q-18		32	41	14	14.1	珪質頁岩		
	186	不定形石器	U-12		35	22	8	6.7	珪質頁岩		
	189	不定形石器	Q-7	~	55	57	17	53.7	珪質頁岩		
	192	不定形石器	P-16		36	26	9	9.9	珪質頁岩		
	204	不定形石器	Q-7	~	45	38	10	15.2	珪質頁岩		
	83	不定形石器	S-10		76	39	17	49.5	珪質頁岩		
	84	不定形石器	S-10		66	48	20	52.9	珪質頁岩		
	91	不定形石器	R-10		45	45	13	29.9	珪質頁岩		
	98	不定形石器	R-9		46	35	10	12.8	珪質頁岩		
	116	不定形石器	P-10		58	36	19	40.9	珪質頁岩		
	124	不定形石器	N-12		64	52	13	36.0	頁岩		
	128	不定形石器	R-9		44	35	14	17.7	珪質頁岩		
	133	不定形石器	Q-7		44	34	10	13.9	珪質頁岩		
	139	不定形石器	S-10		47	33	12	15.9	珪質頁岩		
	140	不定形石器	R-9		86	56	12	52.0	珪質頁岩		
	147	不定形石器	M-11		40	37	9	15.8	珪質頁岩		
	148	不定形石器	S-11		33	41	9	10.8	珪質頁岩		
	152	不定形石器	S-11		57	64	22	71.2	頁岩		
	180	不定形石器	Q-10		48	37	14	21.0	珪質頁岩		
	186	不定形石器	S-11		68	27	15	18.1	珪質頁岩		
	195	不定形石器	S-8		38	50	13	30.7	珪質頁岩		1994年埋め戻しの土より出土
	204	不定形石器	S-10		49	32	21	20.3	頁岩		
	223	不定形石器	S-7		75	53	25	75.6	珪質頁岩		
	224	不定形石器	Q-7		17	32	10	5.5	珪質頁岩		
	225	不定形石器	Q-9		53	38	15	24.1	珪質頁岩		
	227	不定形石器	S-9		60	60	16	48.1	珪質頁岩		
	229	不定形石器	S-7		50	78	20	78.0	珪質頁岩		
	234	不定形石器	R-10		39	40	10	11.2	珪質頁岩		
	238	不定形石器	S-4		81	53	22	71.8	珪質頁岩		
	242	不定形石器	Q-10		66	68	21	70.5	珪質頁岩		



第18表 東側調査区出土石器計測表(11)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	243	不定形石器	S-11		48	31	11	14.8	珪質頁岩		
	244	不定形石器	S-6		46	61	14	30.9	珪質頁岩		
	245	不定形石器	S-12		51	30	10	20.9	珪質頁岩		
	247	不定形石器	S-5		28	47	10	7.0	珪質頁岩		
	248	不定形石器	Q~S-9 ~12		43	27	9	12.0	珪質頁岩		
	249	不定形石器	K-11		50	49	13	31.8	珪質頁岩		
	251	不定形石器	L-11		89	36	18	48.9	珪質頁岩		
	252	不定形石器	R-11		45	51	15	20.7	珪質頁岩		
	259	不定形石器	Q-10		84	51	14	51.3	珪質頁岩		
	265	不定形石器	R-9		59	32	11	18.1	珪質頁岩		
	282	不定形石器	Q-6		66	26	10	17.2	珪質頁岩		
	283	不定形石器	S-12		27	40	8	9.0	珪質頁岩		
	284	不定形石器	Q-7		55	47	14	30.8	珪質頁岩		
	286	不定形石器	R-10		93	36	18	60.3	珪質頁岩		
	397	不定形石器	Q-7		48	28	9	6.3	珪質頁岩		
	407	不定形石器	P-10		31	28	6	6.5	珪質頁岩		
	415	不定形石器	S-7		55	57	15	31.6	珪質頁岩		
	418	不定形石器	S-7		46	37	15	22.9	珪質頁岩		
	420	不定形石器	S-7		73	47	15	36.9	頁岩		
	437	不定形石器	S-6		57	46	18	36.0	珪質頁岩		
	454	不定形石器	M-11		51	68	21	55.9	珪質頁岩		
	458	不定形石器	Q-12		44	22	8	5.2	珪質頁岩		
	477	不定形石器	O-11		41	33	9	8.7	珪質頁岩		
	481	不定形石器	Q-10		61	39	22	23.2	珪質頁岩		
	485	不定形石器	O-12		60	58	26	100.5	珪質頁岩		
	488	不定形石器	P-12		26	22	7	3.7	珪質頁岩		
	509	不定形石器	Q-5		33	56	13	21.0	珪質頁岩		
	514	不定形石器	P-12		58	45	12	23.7	頁岩		
	658	不定形石器	O-11		65	55	21	55.0	珪質頁岩		
	887	不定形石器	Q-5		49	53	15	34.3	珪質頁岩		
	889	不定形石器	S-10		57	54	20	38.2	珪質頁岩		
	1001	不定形石器	S-11		73	36	11	28.8	珪質頁岩		
	645	不定形石器	S-5		68	62	15	55.8	珪質頁岩		
	195	不定形石器	Q-16		71	35	16	40.1	珪質頁岩		微細剥離
	203	不定形石器	P-16		70	65	10	44.0	珪質頁岩		微細剥離
	92	不定形石器	S-6		49	63	15	27.9	頁岩		微細剥離
	125	不定形石器	R-11		40	47	14	19.2	珪質頁岩		微細剥離
	127	不定形石器	S-8		33	58	12	23.3	珪質頁岩		微細剥離
	270	不定形石器	Q-7		38	30	8	7.0	珪質頁岩		微細剥離
	271	不定形石器	P-9		50	51	13	32.9	珪質頁岩		微細剥離
	277	不定形石器	Q-5		62	47	19	36.5	頁岩		微細剥離
	280	不定形石器	L-11		39	31	6	7.2	珪質頁岩		微細剥離
	603	不定形石器	S-10		42	60	11	19.6	珪質頁岩		微細剥離
	617	不定形石器	O-11		50	22	13	10.8	珪質頁岩		微細剥離
	913	不定形石器	Q-9		40	50	11	16.8	珪質頁岩		微細剥離
	187	石核	V-11		79	76	36	176.4	珪質頁岩		
	197	石核	V-8		71	65	33	188.7	珪質頁岩		
	688	石核	S-9		93	90	78	712.0	珪質頁岩		

第19表 東側調査区出土石器計測表(12)

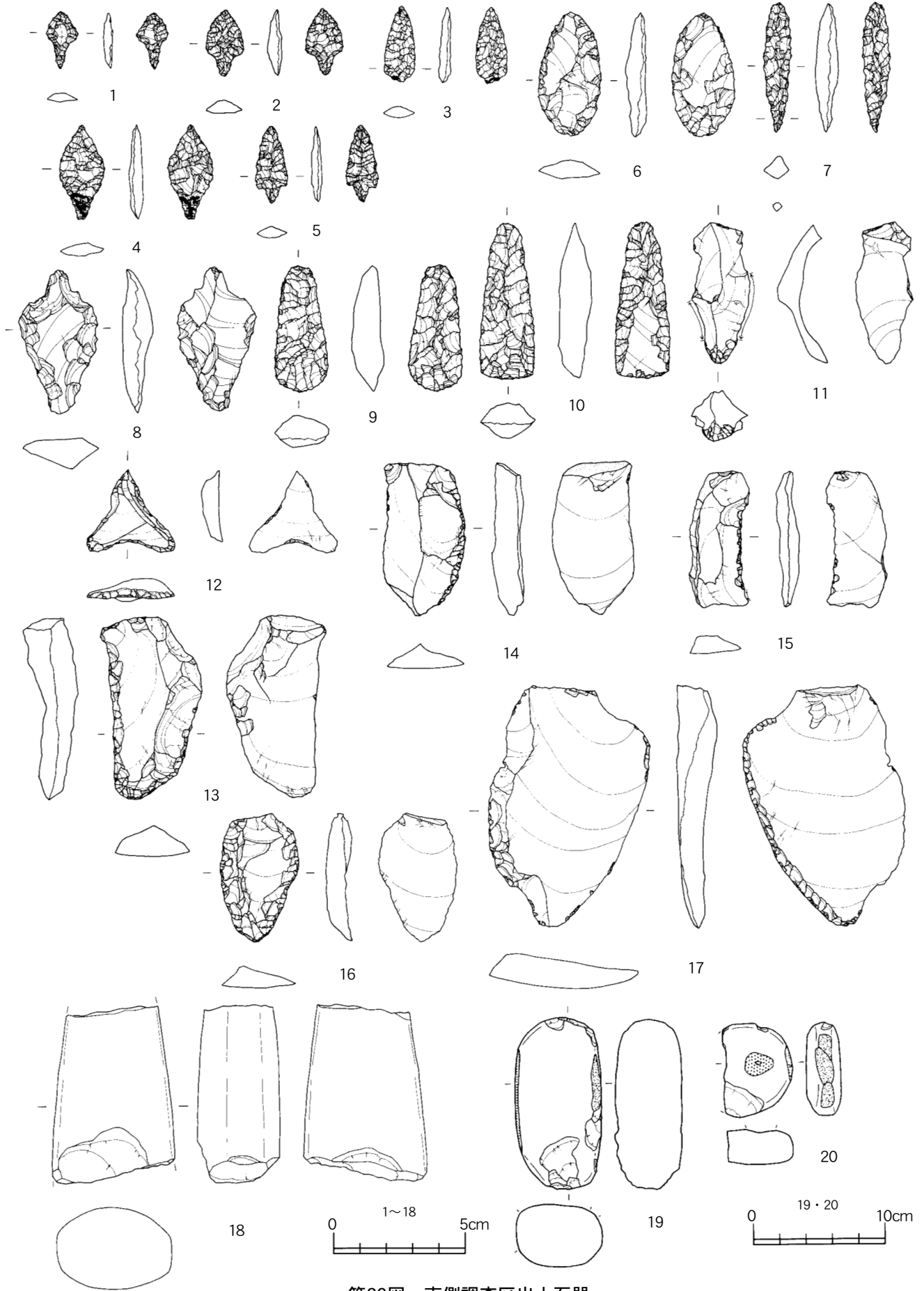
図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	689	石核	S-7		114	73	63	332.7	珧質頁岩		
	690	石核	Q-11		105	86	61	562.8	珧質頁岩		
	692	石核	Q-5		63	59	56	209.6	珧質頁岩		
	698	石核	S-11		92	70	51	276.8	珧質頁岩		
	699	石核	Q-5		100	81	43	247.7	珧質頁岩		
	700	石核	Q-10		98	77	39	280.8	珧質頁岩		
25-110	751	磨製石斧	S-7		104	39	21	130.0	輝緑凝灰岩	完形品	
25-111	219	磨製石斧	U-11		78	42	22	125.0	安山岩	完形品	
25-112	266	磨製石斧	T-7		90	51	26	220.0	安山岩	基部欠損	
25-113	218	磨製石斧	U-11		54	48	26	50.0	安山岩	刃部残存	
26-114	752	磨製石斧	M-11		80	42	23	120.0	安山岩	基部欠損	
26-115	754	磨製石斧	M-11		82	39	26	155.0	安山岩	基部欠損	
26-116	756	磨製石斧	Q-9		39	41	20	45.0	閃緑岩	刃部残存	
26-117	221	磨製石斧	U-12		36	31	12	20.0	輝緑凝灰岩	基部欠損	
26-118	216	磨製石斧	U-12		115	45	28	220.0	安山岩	刃部欠損	
26-119	755	磨製石斧	S-8		39	41	28	65.0	安山岩	基部残存、1994年埋め戻しの土より出土	
26-120	215	磨製石斧	T-10		53	34	17	40.0	輝緑凝灰岩	刃部欠損	
26-121	267	磨製石斧	T ~ V		47	36	21	55.0	輝緑凝灰岩	刃部欠損	
26-122	753	磨製石斧	S-10		52	33	24	65.0	閃緑岩	刃部欠損	
26-123	217	磨製石斧	V-9		55	30	11	25.0	輝緑凝灰岩	基部残存、剥離調整有り	
26-124	758	磨製石斧	R-5		87	46	32	240.0	閃緑岩	基部・刃部欠損部に敲き打痕有り	
26-125	268	磨製石斧	T-8		29	13	8	4.7	輝緑凝灰岩	完形品	
26-126	222	磨製石斧	T-8		22	12	3	1.5	輝緑凝灰岩	完形品	
	757	磨製石斧	S-7		55	45	22	80.0	安山岩	刃部残存	
	214	磨製石斧	V-9		26	27	7	10.0	輝緑凝灰岩	基部残存	
	220	磨製石斧	Q-18		33	49	25	65.0	安山岩	刃部・基部欠損	
	1012	磨製石斧	T-10		52	35	25	60.0	安山岩	基部残存	
	1013	磨製石斧	S-5		55	47	31	150.0	緑色凝灰岩	刃部・基部欠損	
27-127	269	石皿	T ~ V		222	149	34	910.0	凝灰岩		
27-128 a、b	764、 254	石皿	Q-6、 Q-18		126	127	39	555.0	凝灰岩	接合資料、焼痕	
27-129	765	石皿	Q-11		36	104	25	80.0	凝灰岩		
27-130	766	石皿	R-10		51	63	29	70.0	凝灰岩		
27-131	905	石皿	Q-3		68	45	28	70.0	凝灰岩		
	767 a	石皿	S-11		59	39	28	40.4	凝灰岩	a ~ d は同一個体とみられる	
	767 b	石皿	S-11		64	40	16	32.5	凝灰岩		
	767 c	石皿	S-11		38	38	14	17.6	凝灰岩		
	767 d	石皿	S-11		39	32	12	12.9	凝灰岩		
	256	石皿	T-12		61	32	37	55.0	凝灰岩		
	257	石皿	U-10		170	118	63	1638.0	安山岩		
	258	石皿	V-11		298	260	53	5100.0	安山岩		
	259	石皿	P-16		274	94	53	2054.0	安山岩		
	260	石皿	V-11		250	153	94	3325.0	安山岩		
27-132	762	石錘	P-11		73	43	20	95.0	安山岩	打ち欠き	
27-133	834	石錘	S-6		76	65	19	115.0	安山岩	打ち欠き	
27-134	759	石錘	Q-11		100	55	27	220.0	安山岩	打ち欠き	
27-135	761	石錘	P-9		77	64	26	165.0	安山岩	打ち欠き	

第20表 東側調査区出土石器計測表(13)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	833	石錘	R-10		64	46	16	70.0	安山岩		打ち欠き
	760	石錘	Q-11		97	62	26	225.0	安山岩		打ち欠き
	223	石錘	U-9		76	62	26	160.0	石英安山岩		打ち欠き
	836	石錘	P-9		86	98	33	355.0	安山岩		打ち欠き
27-136	835	半円状扁平打 製石器	R-10		86	106	37	390.0	凝灰岩		前期の可能性有
	773	敲き磨器	P-11		154	81	43	770.0	石英安山岩		凹み
	778	敲き磨器	P-9		107	83	43	532.0	安山岩		凹み
	796	敲き磨器	Q-10		76	55	32	166.0	安山岩		凹み
	800	敲き磨器	Q-6		99	80	60	448.0	凝灰岩		凹み
	805	敲き磨器	M-11		86	78	55	494.0	安山岩		凹み
	902	敲き磨器	S-9		91	88	68	654.0	石英安山岩		凹み
	903	敲き磨器	R-6		92	73	46	435.0	安山岩		凹み
	226	敲き磨器	V-11		107	50	44	228.0	安山岩		凹み
	231	敲き磨器	P-17		73	76	47	362.0	石英安山岩		凹み
	233	敲き磨器	R-15		144	71	43	650.0	安山岩		凹み
	234	敲き磨器	P-18		105	71	49	538.0	石英安山岩		凹み
	237	敲き磨器	Q-18		73	76	43	272.0	安山岩		凹み
	239	敲き磨器	Q-18		109	63	40	422.0	安山岩		凹み
	241	敲き磨器	Q-16		61	59	44	176.0	安山岩		凹み
	243	敲き磨器	V-10		95	89	51	544.0	石英安山岩		凹み
27-137	816	敲き磨器	Q-11		133	70	21	630.0	安山岩		敲き
27-138	813	敲き磨器	S-9		176	72	72	1195.0	石英安山岩		敲き
27-139	224	敲き磨器	P-18		141	40	34	490.0	安山岩		敲き
	774	敲き磨器	Q-8		150	99	67	702.0	安山岩		敲き、焼痕
	779	敲き磨器	S-8		150	52	50	570.0	石英安山岩		敲き
	781	敲き磨器	L-11		116	76	34	414.0	安山岩		敲き
	783	敲き磨器	Q-3		105	75	60	598.0	安山岩		敲き
	784	敲き磨器	S-9		95	57	43	341.0	石英安山岩		敲き
	785	敲き磨器	Q-6		126	64	46	564.0	安山岩		敲き
	787	敲き磨器	K-11		125	60	39	440.0	安山岩		敲き
	788	敲き磨器	S-12		97	73	44	444.0	安山岩		敲き
	793	敲き磨器	R-6		119	45	53	360.0	安山岩		敲き
	798	敲き磨器	Q-5		85	78	45	426.0	安山岩		敲き、焼痕
	801	敲き磨器	P-9		107	86	33	356.0	安山岩		敲き
	802	敲き磨器	M-12		107	53	43	310.0	安山岩		敲き
	804	敲き磨器	P-9		123	68	42	490.0	安山岩		敲き
	807	敲き磨器	K-11		106	63	54	472.0	安山岩		敲き
	809	敲き磨器	Q-8		79	70	37	298.0	石英安山岩		敲き
	812	敲き磨器	S-9		121	54	46	418.0	石英安山岩		敲き
	815	敲き磨器	Q-5		88	64	50	362.0	安山岩		敲き
	817	敲き磨器	N-12		120	72	37	496.0	安山岩		敲き
	818	敲き磨器	R-8		102	61	56	438.0	石英安山岩		敲き、焼痕、1994年埋め戻しの 土より出土
	819	敲き磨器	S-10		118	82	71	1038.0	安山岩		敲き、焼痕
	823	敲き磨器	S-10		138	61	47	550.0	安山岩		敲き
	837	敲き磨器	Q-11		93	55	24	218.0	安山岩		敲き
	838	敲き磨器	S-6		75	62	59	294.0	頁岩		敲き
	901	敲き磨器	R-6		116	60	54	606.0	安山岩		敲き

第21表 東側調査区出土石器計測表(14)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	225	敲击磨器	P-18		117	77	57	824.0	安山岩		敲击
	227	敲击磨器	U-10		103	67	50	524.0	安山岩		敲击
	232	敲击磨器	Q-18		132	101	31	688.0	安山岩		敲击
	247	敲击磨器	V-11		136	66	45	616.0	石英安山岩		敲击
	248	敲击磨器	P-18		72	52	31	195.0	安山岩		敲击
	249	敲击磨器	T-10		56	49	44	174.0	安山岩		敲击
	250	敲击磨器	V-11		133	86	51	982.0	石英安山岩		敲击
	251	敲击磨器	V-9		136	79	51	730.0	石英安山岩		敲击
	252	敲击磨器	Q-18		84	60	26	194.0	石英安山岩		敲击
	253	敲击磨器	P-17		91	81	20	232.0	頁岩		敲击
27-143	810	敲击磨器	Q-10		114	72	46	490.0	安山岩		磨り
27-144	782	敲击磨器	Q-6		90	105	36	515.0	安山岩		磨り
	774	敲击磨器	P-9		107	80	57	1512.0	安山岩		磨り
	789	敲击磨器	S-12		129	62	54	606.0	安山岩		磨り
	790	敲击磨器	R-6		168	64	48	864.0	安山岩		磨り
	794	敲击磨器	S-5		134	83	44	752.0	安山岩		磨り
	797	敲击磨器	R-8		118	68	36	434.0	安山岩		磨り、烧痕
	799	敲击磨器	S-6		114	103	37	705.0	安山岩		磨り
	811	敲击磨器	P-12		128	59	35	298.0	安山岩		磨り
	900	敲击磨器	S-6		78	47	43	136.0	凝灰岩		磨り
27-140	904	敲击磨器	Q-7		133	78	43	680.0	安山岩		凹み、敲击
27-141	240	敲击磨器	T-12		95	63	38	300.0	凝灰岩		凹み、敲击
	772	敲击磨器	S-3		110	79	37	491.0	石英安山岩		凹み、敲击
	775	敲击磨器	Q-5		94	86	40	372.0	石英安山岩		凹み、敲击
	777	敲击磨器	Q-6		115	66	31	362.0	安山岩		凹み、敲击
	786	敲击磨器	Q-6		89	12	39	260.0	安山岩		凹み、敲击
	803	敲击磨器	S-11		118	88	52	840.0	安山岩		凹み、敲击
	820	敲击磨器	Q-4		106	81	65	688.0	安山岩		凹み、敲击、烧痕
	228	敲击磨器	V-9		133	75	59	906.0	安山岩		凹み、敲击
	230	敲击磨器	P-18		105	71	43	492.0	安山岩		凹み、敲击
	236	敲击磨器	T-7		91	77	45	508.0	安山岩		凹み、敲击
	246	敲击磨器	Q-16		103	86	56	618.0	安山岩		凹み、敲击
27-142	245	敲击磨器	P-14		145	77	46	715.0	石英安山岩		凹み、磨り
	770	敲击磨器	S-7		102	65	32	290.0	石英安山岩		凹み、磨り
	791	敲击磨器	Q-4		101	73	41	499.0	安山岩		凹み、磨り
	806	敲击磨器	S-4		109	82	53	771.0	安山岩		凹み、磨り
	898	敲击磨器	Q-5		108	59	47	270.0	石英安山岩		凹み、磨り
	229	敲击磨器	T-12		124	73	46	628.0	安山岩		凹み、磨り
28-145	776	敲击磨器	P-9		183	77	46	1000.0	安山岩		敲击、磨り
28-146	899	敲击磨器	Q-9		125	65	44	670.0	安山岩		敲击、磨り
	771	敲击磨器	S-7		110	76	47	692.0	石英安山岩		磨り、敲击
	792	敲击磨器	S-10		148	58	23	304.0	安山岩		敲击、磨り
	822	敲击磨器	Q-9		122	73	48	656.0	石英安山岩		敲击、磨り
	814	敲击磨器	L-11		132	65	38	456.0	安山岩		敲击、磨り
	238	敲击磨器	V-11		96	93	42	390.0	安山岩		敲击、磨り
	242	敲击磨器	T-10		112	71	51	652.0	安山岩		敲击、磨り
	244	敲击磨器	V-11		129	65	42	504.0	安山岩		敲击、磨り
28-147	235	敲击磨器	T-11		114	80	49	780.0	安山岩		凹み、敲击、磨り



第29図 南側調査区出土石器

第22表 南側調査区出土石器計測表(1)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
29-1	294	石鏃	G-1		21	12	8	0.9	珪質頁岩	a	
29-2	295	石鏃	G-0		25	14	5	1.4	珪質頁岩	a	
29-3	297	石鏃	G-0		28	12	5	1.3	珪質頁岩	a	茎部欠損
29-4	299	石鏃	G(-1)		36	17	5	2.8	珪質頁岩	a	アスファルト付着
29-5	298	石鏃	H(-1)		29	12	11	1.0	頁岩	b	アスファルト付着
29-6	231	石槍	G-1		48	24	7	7.9	頁岩	円基	
29-7	230	石錐	H-0		48	11	10	4.3	珪質頁岩	b	
29-8	354	石匙	H(-1)		55	30	11	14.0	頁岩	a	
29-9	296	石筥	H-3		48	20	12	12.7	珪質頁岩	a	光沢あり
29-10	24	石筥	H-0		60	21	13	16.4	珪質頁岩	a	
29-11	245	不定形石器	G-0		55	22	11	8.4	頁岩	a	
29-12	278	不定形石器	H-1		67	35	19	37.2	珪質頁岩	a	
29-13	351	不定形石器	G・H(-1)		31	34	8	5.2	珪質頁岩	a	
	232	不定形石器	G(-1)		35	36	19	25.0	珪質頁岩	a	
	234	不定形石器	G-0		23	38	13	11.7	珪質頁岩	a	
	235	不定形石器	G-0		37	34	17	20.8	珪質頁岩	a	
	236	不定形石器	G-0		29	37	11	12.1	珪質頁岩	a	
	237	不定形石器	G-0		38	27	13	15.8	珪質頁岩	a	
	239	不定形石器	G-0		50	40	23	34.0	珪質頁岩	a	
	240	不定形石器	G-0		38	32	12	12.5	珪質頁岩	a	
	241	不定形石器	H-1		60	44	21	41.3	珪質頁岩	a	
	243	不定形石器	G-2		61	28	12	18.3	頁岩	a	
	244	不定形石器	G-0		57	17	8	8.6	珪質頁岩	a	
	246	不定形石器	G-0		28	26	12	6.3	頁岩	a	
	251	不定形石器	G(-1)		30	37	18	16.3	珪質頁岩	a	
	253	不定形石器	G-1		44	33	10	11.2	珪質頁岩	a	
	271	不定形石器	H(-1)		66	46	26	79.4	頁岩	a	
	352	不定形石器	G-1		72	24	24	42.2	珪質頁岩	a	
29-14	256	不定形石器	H(-1)		52	19	8	7.7	珪質頁岩	b	
29-15	257	不定形石器	H-1		59	30	11	18.9	珪質頁岩	b	
	262	不定形石器	G(-1)		65	52	16	49.9	珪質頁岩	b	
	263	不定形石器	H-0		55	30	9	10.7	珪質頁岩	b	
	265	不定形石器	G-2		45	24	6	5.5	頁岩	b	
	266	不定形石器	H-1		60	67	16	56.3	珪質頁岩	b	
	268	不定形石器	H-1		47	33	14	22.3	珪質頁岩	b	
	269	不定形石器	H-1		46	40	14	29.7	頁岩	b	
	270	不定形石器	G-0		98	66	25	98.7	珪質頁岩	b	
	273	不定形石器	G-1		70	42	22	44.6	珪質頁岩	b	
29-16	277	不定形石器	G-2		50	30	9	12.9	珪質頁岩	c	
29-17	267	不定形石器	H-0		92	57	12	73.4	珪質頁岩	c	
	238	不定形石器	H(-1)		30	58	14	24.2	珪質頁岩	c	
	275	不定形石器	H(-1)		54	38	16	28.2	珪質頁岩	c	
	279	不定形石器	G-0		27	30	8	5.4	珪質頁岩	c	
	233	不定形石器	G-1		43	35	12	18.6	珪質頁岩		
	242	不定形石器	G-1		58	26	11	15.5	珪質頁岩		
	247	不定形石器	G-1		47	41	13	30.0	珪質頁岩		
	248	不定形石器	H-1		25	37	12	7.6	珪質頁岩		
	249	不定形石器	G-1		37	50	15	34.7	頁岩		
	252	不定形石器	H-0		61	47	17	43.5	珪質頁岩		
	259	不定形石器	G-0		27	40	13	13.5	珪質頁岩		

第23表 南側調査区出土石器計測表(2)

図版 番号	整理 番号	種 類	出土地点	層位	最大計測値(mm・g)				石 質	分類	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ			
	274	不定形石器	G(-1)		42	86	23	81.1	頁岩		
	276	不定形石器	G-0		30	46	10	11.8	珪質頁岩		
	280	不定形石器	H-0		74	49	9	38.1	珪質頁岩		
	281	不定形石器	G-1		60	51	22	68.5	珪質頁岩		
	282	不定形石器	G-1		52	20	16	10.3	珪質頁岩		
	290	不定形石器	G(-1)		50	46	17	46.6	珪質頁岩		
	292	不定形石器	G-0		45	32	11	8.9	珪質頁岩		
	294	不定形石器	H(-1)		35	37	13	18.4	珪質頁岩		
	295	不定形石器	H-0		64	29	18	32.5	珪質頁岩		
	296	不定形石器	G-0		80	48	30	102.4	頁岩		
	298	不定形石器	G(-1)		63	46	38	71.5	珪質頁岩		
	322	不定形石器	G(-1)		71	44	18	63.2	珪質頁岩		
	323	不定形石器	G-2		35	24	15	9.2	珪質頁岩		
	326	不定形石器	G-2		63	39	17	48.7	珪質頁岩		
	332	不定形石器	G-1		67	70	34	167.6	珪質頁岩		
	333	不定形石器	G-0		41	68	28	67.4	珪質頁岩		
	258	不定形石器	G・H(-1)		56	52	14	38.2	珪質頁岩		
	264	不定形石器	H(-1)		48	53	12	23.4	珪質頁岩		
	272	不定形石器	G-1		38	57	16	26.9	珪質頁岩		
	306	不定形石器	G-1		46	20	17	16.5	珪質頁岩		
	309	不定形石器	G-2		46	76	20	43.3	頁岩		
	313	不定形石器	H-1		105	47	25	101.3	珪質頁岩		
	314	不定形石器	G(-1)		37	17	7	4.5	珪質頁岩		
	315	不定形石器	G-1		42	66	14	40.2	珪質頁岩		
	316	不定形石器	G-1		66	40	16	37.5	珪質頁岩		
	338	不定形石器	G-1		40	29	12	13.4	頁岩		
	339	不定形石器	G・H(-1)		61	33	11	15.9	珪質頁岩		
	340	不定形石器	H-0		27	33	8	7.6	珪質頁岩		
	341	不定形石器	H(-1)		72	100	23	136.5	珪質頁岩		
	353	不定形石器	G-1		37	19	7	4.7	珪質頁岩		
	369	不定形石器	G-1		48	58	6	11.0	頁岩		
	373	不定形石器	H(-1)		79	45	26	78.9	珪質頁岩		
	388	不定形石器	G-3		43	25	7	6.2	頁岩		
	299	不定形石器	H-0		45	31	10	12.1	珪質頁岩		微細剥離
	321	不定形石器	G(-1)		59	33	11	21.8	頁岩		微細剥離
	330	不定形石器	G-1		38	37	11	10.5	珪質頁岩		微細剥離
	334	不定形石器	H-2		77	49	14	74.3	珪質頁岩		微細剥離
	335	不定形石器	G-1		37	25	9	6.3	頁岩		微細剥離
	337	不定形石器	G-1		62	59	19	68.6	珪質頁岩		微細剥離
	344	不定形石器	G-0		40	33	10	12.2	珪質頁岩		微細剥離
	345	不定形石器	G-0		62	42	17	25.5	珪質頁岩		微細剥離
	346	不定形石器	G-2		74	46	19	34.2	珪質頁岩		微細剥離
	366	不定形石器	G-1		49	33	14	17.1	珪質頁岩		微細剥離
29-18	1010	磨製石斧	G-0		69	46	32	180.0	緑色凝灰岩		刃部・基部欠損
29-19	830	敲き磨器	H(-1)		132	65	47	180.0	石英安山岩		敲き、磨り
29-20	828	敲き磨器	G-2		70	72	27	170.0	安山岩		凹み、敲き
	831	敲き磨器	H-2		138	58	42	484.0	安山岩		敲き
	832	敲き磨器	H-1		91	37	20	90.0	凝灰岩		敲き
	829	敲き磨器	H-2		137	111	49	952.0	安山岩		敲き、磨り

### 3. 土製品

本調査では、東側調査区から221点、南側調査区から35点の計256点が出土し、調査区および種別ごとの出土点数等は下表のとおりである。土製品の掲載にあたっては、一部を実測化し、ほかは観察表におさめている。

また、個別の属性等については、第25～31表にゆずることとし、ここでは種別ごとの概略について記述する。

第24表 遺構外出土土製品の概要

種別	調査区	東側調査区		南側調査区		計(%)
		出土数	図版番号	出土数	図版番号	
土偶		19	第30図1～19	3	第36図1～3	22(8.6%)
鐸形土製品		14	第31図20～32	2	第36図5・6	16(6.3%)
ミニチュア土器		12	第31図33～43	1	第36図4	13(5.1%)
円形土版		1	第31図44	0		1(0.4%)
三角形土版		2	第31図45・46	0		2(0.8%)
手形付土版		1	第31図47	0		1(0.4%)
環状土製品		3	第32図48～50	0		3(1.2%)
有孔土製品		5	第32図51～55	1	第36図7	6(2.3%)
耳飾		1	第32図56	0		1(0.4%)
キノコ形土製品		3	第32図57～59	0		3(1.2%)
球状土製品		1	第33図64	0		1(0.4%)
棒状土製品		0		1	第36図8	1(0.4%)
焼成粘土塊		61	第33図65～96	1	第36図9	62(24.2%)
土器片利用土製品	三角形	14	第34図97～107	3	第36図10～12	17(6.6%)
	円形	80	第34・35図108～148	23	第36図13～22	103(40.2%)
その他の土製品		4	第32図60～63	0		4(1.6%)
計		221		35		256(100%)

#### 土偶

人間の形態を模倣、もしくは抽象化して製作された土製品である。本調査では、東側調査区から19点（第30図1～19）、南側調査区から3点（第36図1～3）の計22点が出土している。

以下に、残存部位別に記述する。

- ・頭部のみ残存する資料（第30図1～4）

いずれも、顔面が逆三角形に整形され、眉と鼻は突帯で、目と口、鼻穴が短沈線もしくは刺突で表現されている。また、1と2の首部には格子目状沈線が施されている。

- ・胴部が残存する資料（第30図5）

頭部と肩部の一部が欠損している。貫通孔を有する肩部がやや張り出し、脚部が省略されている。頭部欠損部には、アスファルトと思われるものが付着している。

- ・胴部上半部が残存する資料（第30図6～14、第36図1）

肩部を有する資料のうち第30図6、8～10、12～14は、左右の肩から脇の下にかけて斜位の貫通孔を



有する。胴部を有する資料のうち第30図7、14、第36図1は、鳩尾から腹部にかけて三角形に窪んでいる。また、第30図8～10、14、第36図1の乳房あるいは臍が、突起によって表現されている。

・胴下半部が残存する資料（第30図15～17、第36図2・3）

脚部が表現されているのが第30図17、第36図2で、前者は大きく股を開き、後者は二又状に軽く突出する。第36図2は、縦位の連鎖状の沈線および格子目状沈線が施されている。

・足部のみ残存する資料（第30図18・19）

いずれも円形～楕円形を呈する。安定感があり、直立するように製されたものと考えられる。19には、足指を思わせる刺突が施されている。

### 鐸形土製品

鐸や鐘状を呈している土製品である。本調査では東側調査区より14点（第31図20～32）、南側調査区より2点（第36図5・6）の計16点が出土している。鐸形土製品には、突起の長軸方向に貫通孔を有するもの（第31図20、25～27、29～32）、突起の短軸方向に貫通孔を有するもの（第31図21～23、28、第36図5・6）、突起の上面から側面にかけて貫通孔を有するもの（第31図24）がみられる。文様は、格子目状沈線と刺突が施されるもの（第31図20）、方形に区画された沈線と刺突が施されるもの（第31図21）、渦巻文と刺突が施されるもの（第31図22・23）、横位沈線が幾重に施されるもの（第31図24）がみられるが、どちらかといえば無文のものの方が多い。鐸身の内壁に煤状の炭化物が付着するものも少なくない（第31図20～23、25、28）。

### ミニチュア土器

手捏ねで作られた土器で、器高ならびに底径が5cm未満の小型の土器である。本調査では、東側調査区から12点（第31図33～43）、南側調査区から1点（第36図4）の計13点が出土している。ミニチュア土器には、手捏ねで整形されたもの（第31図34・35）と粘土紐を積み上げて成形されたもの（第31図33、36～43、第36図4）とがあり、器形は坏形（第31図33～35）、鉢形（第31図36～41、第36図4）、壺形（第31図42、43）がみられる。第31図33には樹木状あるいは矢羽状の文様が施され、第36図4の内面には漆状の物質が付着している。

### 円形土版

円形を呈する土版である。東側調査区から1点（第31図44）出土している。片面に渦巻文と刺突、その裏面に放射状に配される沈線と刺突が施されている。

### 三角形土版

三角形を呈する土版である。東側調査区から2点（第31図45・46）出土している。45は、表面が球状、裏面がやや窪む形状である。両面に斜位沈線と弧状の沈線が配されており、形状・文様とも三角形岩版と酷似する。46は、頂部のみが残存する資料で無文である。

### 手形付土版

東側調査区より1点（第31図47）出土している。片面には子どもの手形（右手）が押され、その裏面

には大人の手形が残されている。おそらく、親の掌の上に粘土版を置き、子どもの手を押し付けたものと思われる。

### 環状土製品

環状に作られた土製品である。本調査では東側調査区から3点（第32図48～50）出土している。48は小型で、断面形が三角形を呈し、外面には弧状の沈線文が施されている。49・50は大型で、断面形は前者が板状、後者が三角形を呈する。いずれも無文である。

### 有孔土製品

棒状の工具によって穿孔された、貫通孔を有する土製品である。本調査では東側調査区から5点（第32図51～55）、南側調査区から1点（第36図7）の計6点出土している。形状は、円形や楕円形などの板状を呈するものは、平坦面から穿孔するもの（第32図51、52、54）、側面から穿孔するもの（第36図7）がみられる。算盤玉状を呈するもの（第32図53）は、短軸方向の中心に孔がある。逆三角錐形を呈するもの（第32図55）は、側面から上部に2方向穿孔されている。

### 耳飾

耳飾として想定される土製品である。本調査では東側調査区より1点（第32図56）出土している。形状は、平面形が円形、断面形が椎骨状を呈している。中央には貫通孔を有する。赤色顔料が全面に塗彩されている。

### キノコ形土製品

茸形を呈する土製品である。本調査では、東側調査区から3点（第32図57～59）出土している。57は、かさの部分が窪み、椀状を呈した形態となっている。柄の部分は細く、付け根の部分をつまみ出して整形されている。逆さにすると安定感もあり、蓋形のミニチュア土器の可能性も否めない。58は、かさの部分がやや丸味を帯びており、内側の縁が若干垂れている。柄の部分は太く、円筒形を呈する。59は、かさの部分が若干窪み、内側から柄の部分がかけて逆円錐形を呈する。

### 球状土製品

球状を呈する土製品である。本調査では東側調査区から1点（第33図64）出土している。約半分が欠損する資料で表面は無文である。

### 棒状土製品

棒状を呈する土製品である。本調査では南側調査区から1点（第36図8）出土している。無文でやや弧状を呈する。

### 焼成粘土塊

焼成された不定形の粘土の塊である。本調査では東側調査区より61点（第33図65～96）、南側調査区より1点（第36図9）の計62点出土している。

粘土塊は、指の痕跡があり手で捏ねたと思われるもの（第33図65～69、第36図9）葉に包まれた痕跡のある大型の塊（第33図70）捏ねられた痕跡がみられないもの（第33図71～96）がみられる。また、捏ねられたと思われる資料の中では、第33図65・67が細い粘土紐をひとまとまりに潰したもので、第33図69が複数の粘土ブロックをひとまとまりにしたものと考えられる。

### 土器片利用土製品

土器の破片の周縁に剥離または研磨を施し、三角形や円形などに形作られた土製品である。本調査では、東側調査区から94点（第34・35図97～148）南側調査区から26点（第36図10～22）の計120点が出土している。

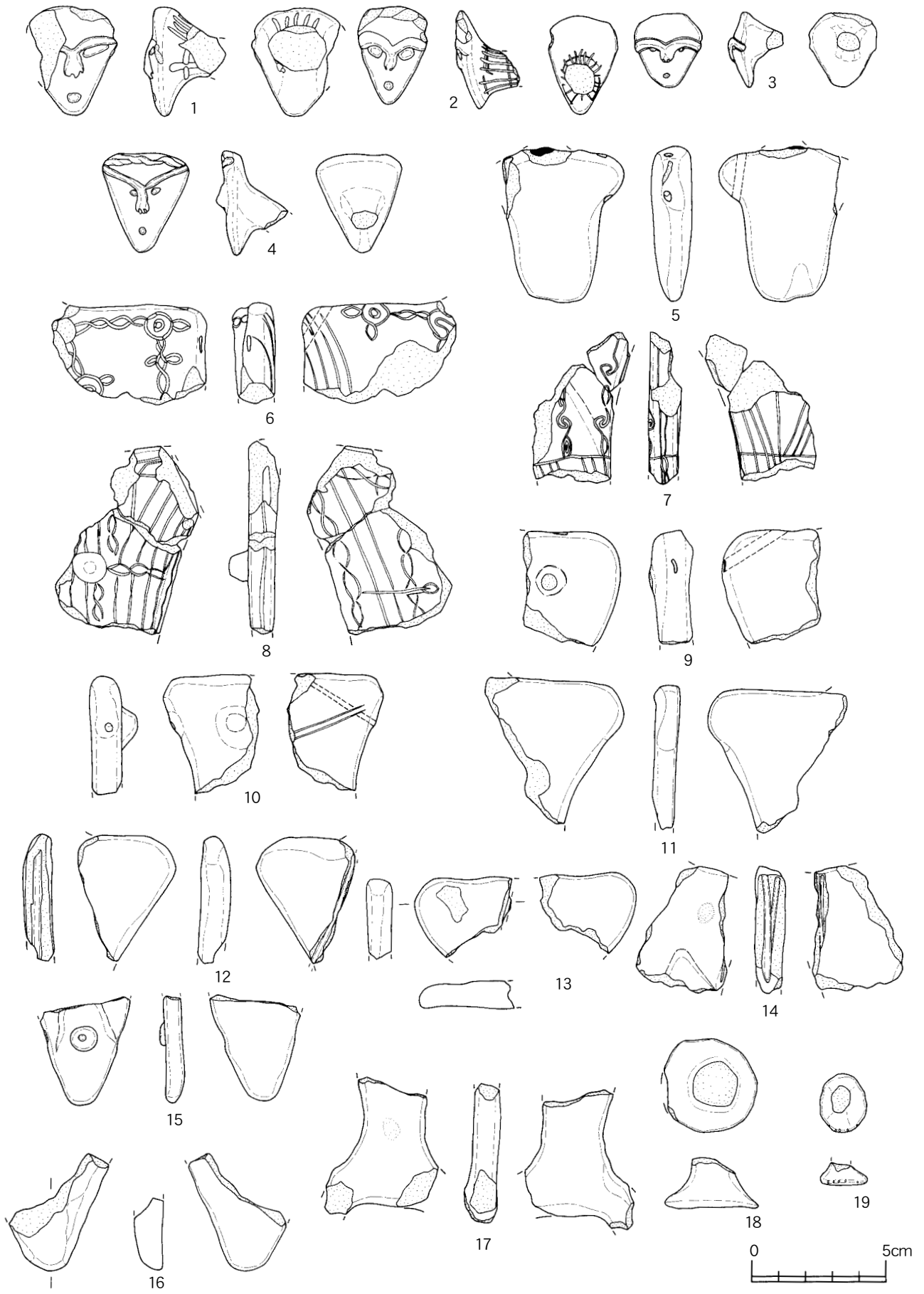
三角形を呈するものは、17点（第34図97～107、第36図10～12）出土しており、全体の14.2%を占めている。整形にあたっては、a．打ち欠きのみ：3点（17.6%） b．一部を研磨：14点（82.4%）するものが認められる。

円形を呈するものは、103点（第34・35図108～148）出土しており、全体の85.8%を占めている。整形にあたっては、a．打ち欠きのみ：7点（6.8%） b．一部を研磨：69点（67.0%） c．全周を研磨：27点（26.2%）するものが認められる。

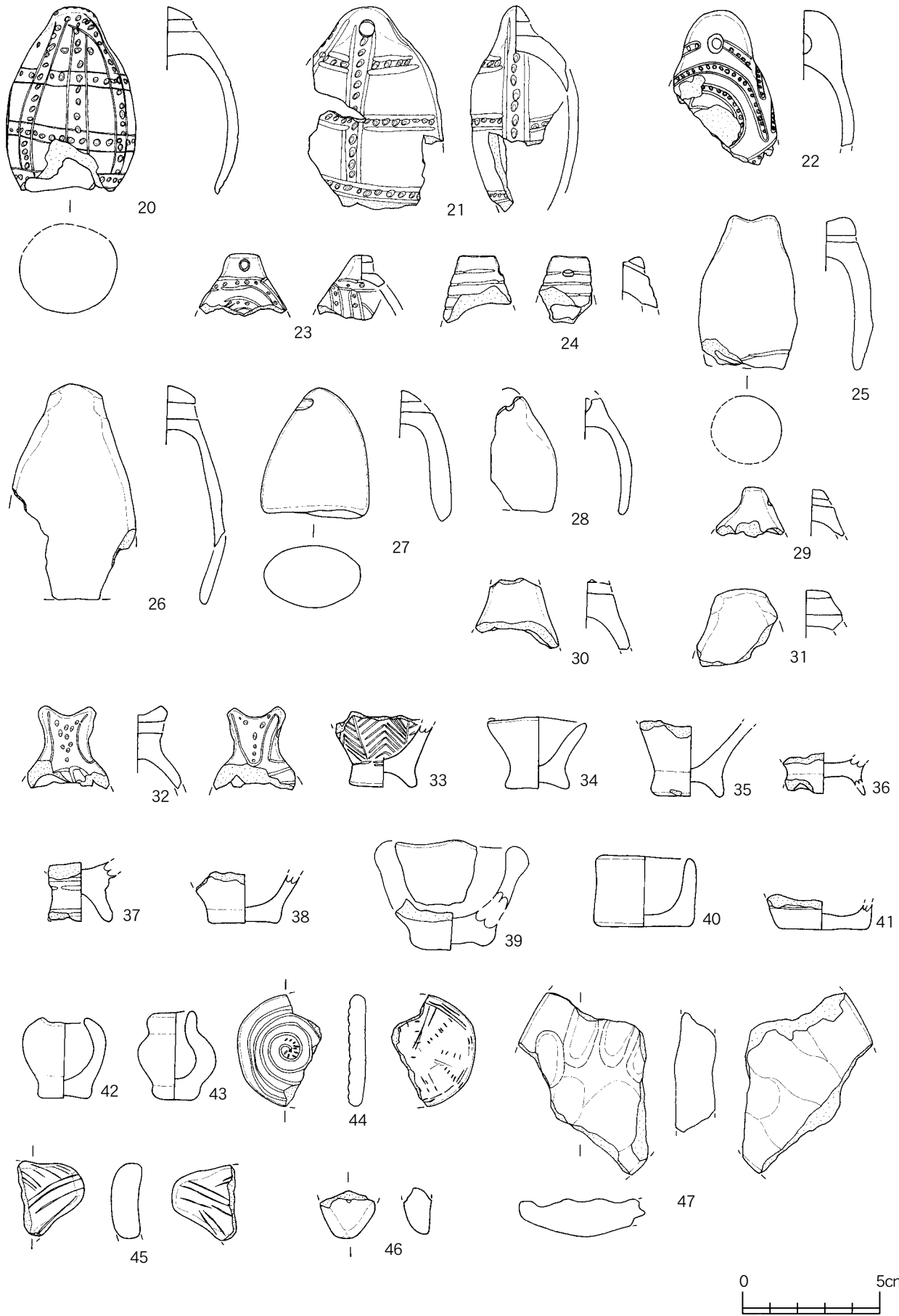
素材となる部位は、深鉢形土器の胴部破片が主に使用されている。

### その他の土製品

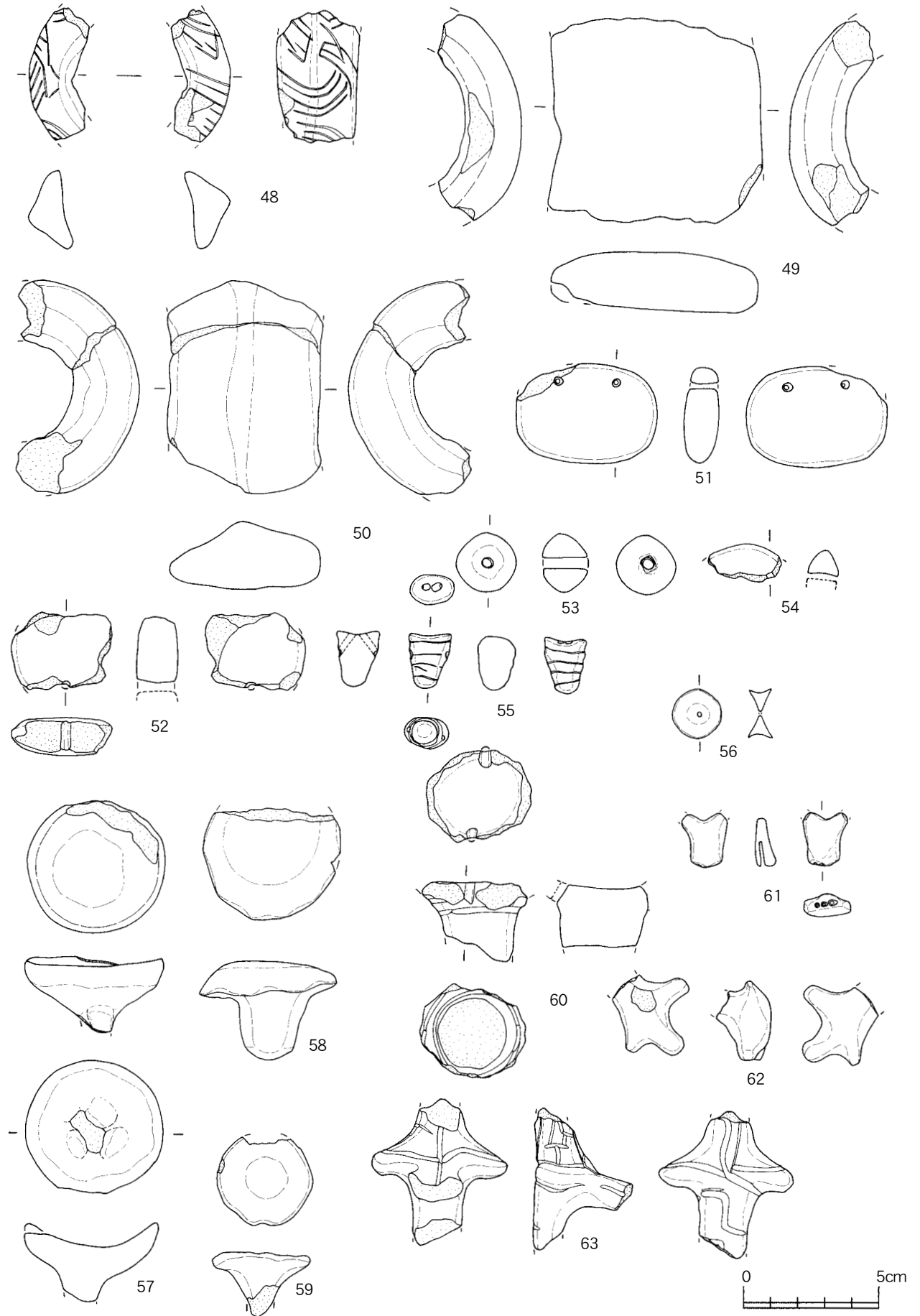
形状が不整形のものや、欠損しているため全体形が不明のものなどを一括した。本調査では東側調査区から4点（第32図60～63）出土している。60は、上部が容器状の内面、下部が逆円錐形と思われる形状を呈し、脚付土器の脚部に類似しているが、側面から内面（上面）に向けて2方向から穿孔されており、土器かどうかは不明である。61は、二又の板状を呈する土製品で、下端部には孔が3つあり、二又の先端部が欠失している。62は、複数の長い突起を有する土製品で、ミガキなどの調整は施されていない。63は、土器の把手の可能性のある製品で沈線文が施されている。



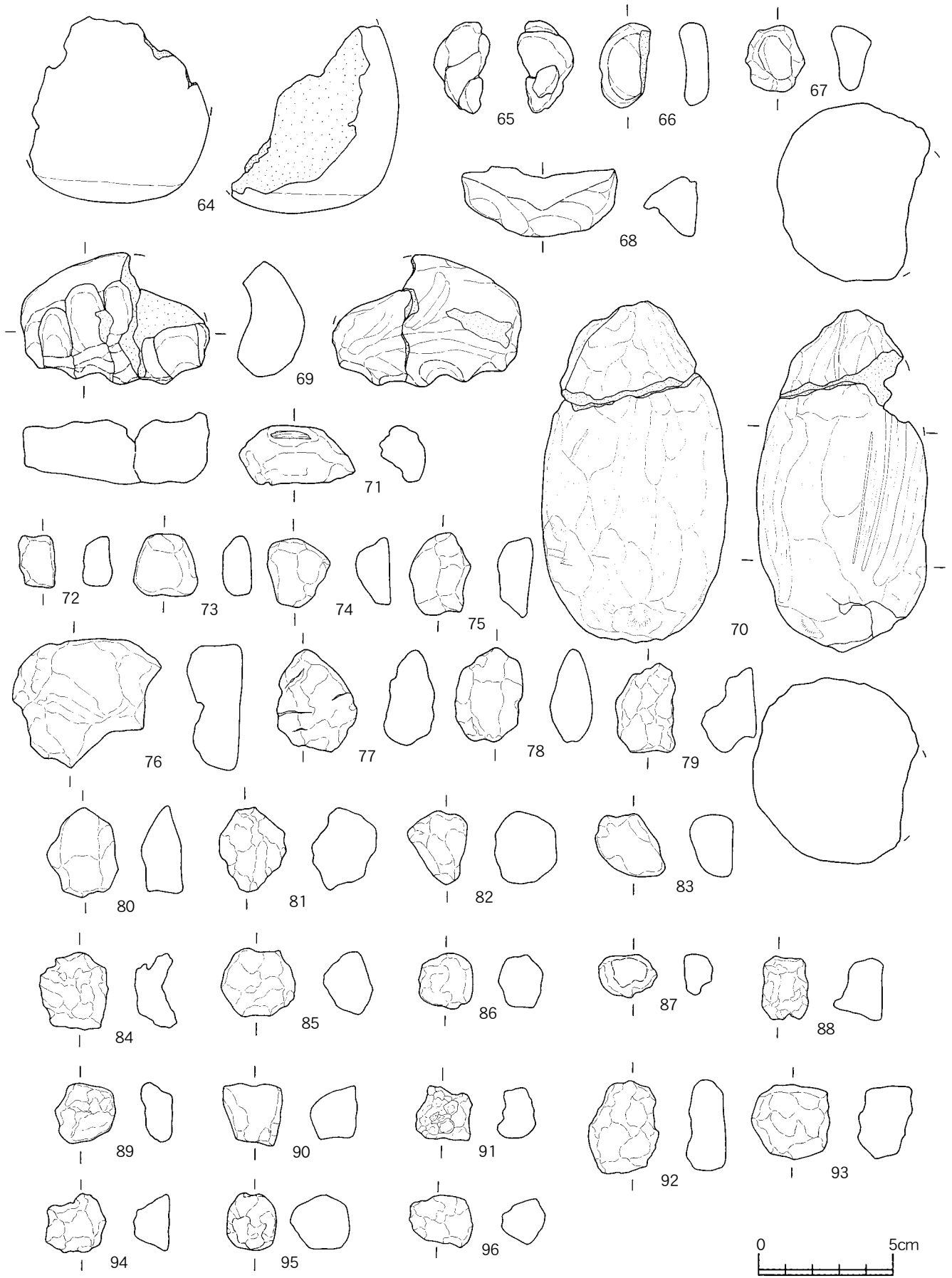
第30図 東側調査区出土土製品(1)



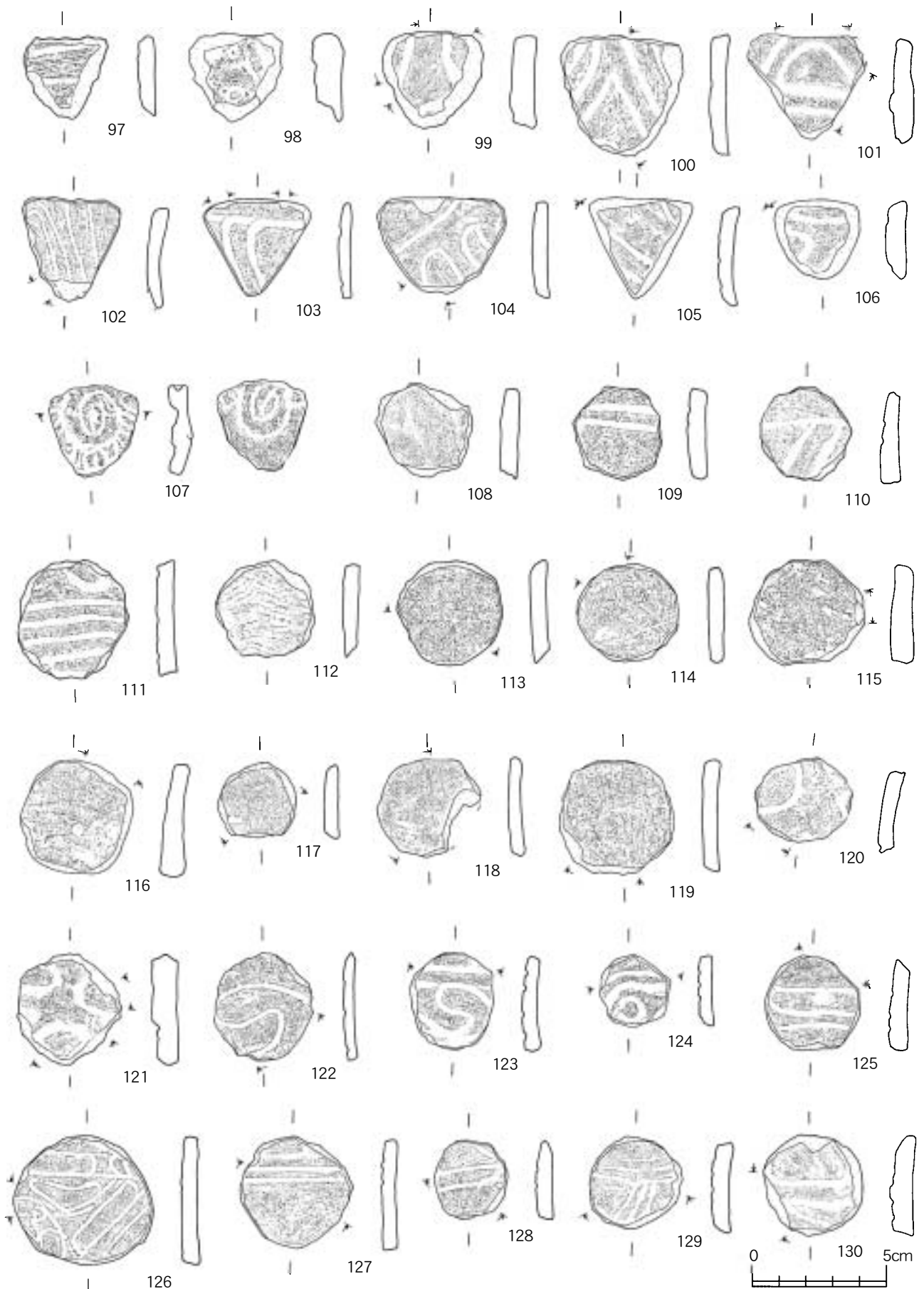
第31図 東側調査区出土土製品(2)



第32図 東側調査区出土土製品(3)

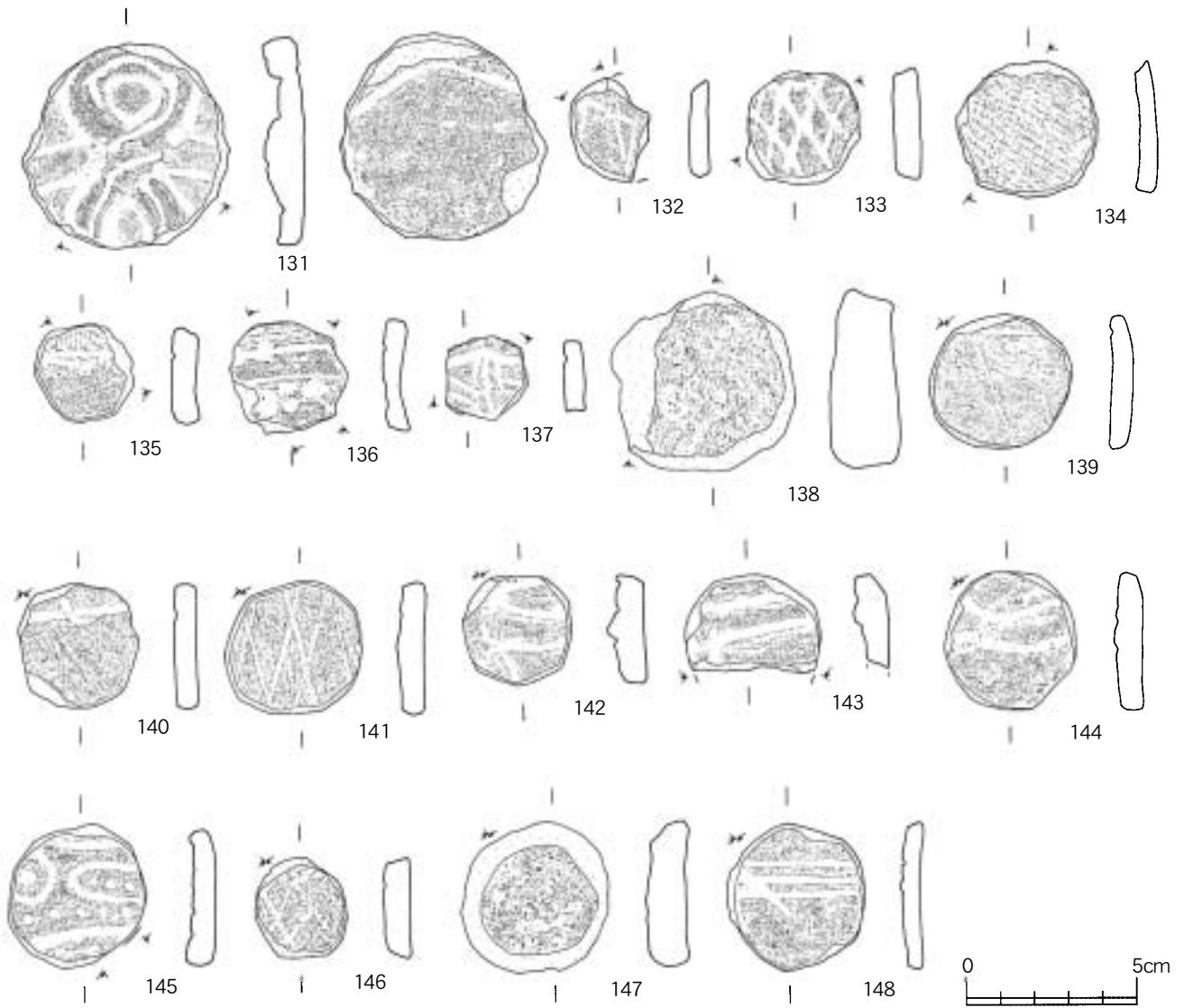


第33図 東側調査区出土土製品(4)



第34図 東側調査区出土土製品(5)





第35図 東側調査区出土土製品(6)

第25表 東側調査区出土土製品観察表(1)

図版番号	整理番号	種別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備考
30-1	8	土偶	S-7		頭部、首部格子目状沈線、頭高長41、頭幅33、重さ20.5	
30-2	2	土偶	T-7		頭部、首部格子目状沈線、頭高長37、頭幅27、重さ10.2	
30-3	1	土偶	V-11		頭部、頭高長28、頭幅26、重さ6.1	
30-4	3	土偶	Q-16		頭部、頭高長38、頭幅34、重さ11.2	
30-5	12	土偶	Q-9		胴部、肩部貫通孔、アスファルト? 付着、重さ35.1	
30-6	3	土偶	S-11		肩部、貫通孔、蓮鎖状沈線、重さ33.1	
30-7	5	土偶	T-8		胴部、連鎖状沈線、重さ19.1	
30-8	4	土偶	P-9・N-11		胴部、肩部貫通孔、連鎖状沈線、重さ35.4	接合資料
30-9	13	土偶	R-4		肩部、貫通孔、重さ22.5	
30-10	4	土偶	V-12		肩部、貫通孔、重さ21.7	
30-11	6	土偶	R-7		肩部、重さ20.7	
30-12	131	土偶	S-12		肩部、貫通孔、重さ15.5	
30-13	10	土偶	Q-12		肩部、貫通孔、重さ11.3	
30-14	11	土偶	P-9		胴部、貫通孔、肩幅46、重さ17.3	
30-15	6	土偶	Q-16		胴下半部、臍突起、重さ9.9	

第26表 東側調査区出土土製品観察表(2)

図版番号	整理番号	種別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備考
30-16	26	土偶	T-8		胴下半部、長さ45、幅41、厚さ11、重さ10.6	
30-17	141	土偶	P-9		胴下半部、臍突起剥落、重さ21.8	
30-18	9	土偶	S-5		足部、最大長35、重さ14.0	
30-19	204	土偶	P-11		足部、刺突、最大長22、重さ2.4	
31-20	7	鐸形土製品	T-7		突起長軸方向貫通孔、格子目状沈線、刺突、高さ68、最大径36、重さ55.2	内面煤付着
31-21	20	鐸形土製品	Q-7		突起短軸方向貫通孔、方形に区画された沈線、刺突、高さ74、重さ32.2	内面煤付着
31-22	8	鐸形土製品	U-8		突起短軸方向貫通孔、渦巻文、刺突、重さ19.9	内外面煤付着
31-23	14	鐸形土製品	R-7		突起短軸方向貫通孔、渦巻文、刺突、重さ5.2	内外面煤付着
31-24	18	鐸形土製品	R-7		突起上面から側面へ貫通孔、重さ7.1	
31-25	21	鐸形土製品	Q-10		突起長軸方向貫通孔、高さ56、最大口径26、重さ42.1	内外面煤付着
31-26	9	鐸形土製品	T-6		突起長軸方向貫通孔、高さ80、重さ48.7	
31-27	22	鐸形土製品	Q-6		突起長軸方向貫通孔、高さ48、口径24×36、重さ33.5	
31-28	10	鐸形土製品	T-12		突起短軸方向貫通孔、重さ13.5	内外面煤付着
31-29	16	鐸形土製品	Q-9		突起長軸方向貫通孔、重さ3.7	
31-30	17	鐸形土製品	S-6		突起長軸方向貫通孔、重さ7.5	
31-31	11	鐸形土製品	T-10		突起長軸方向貫通孔、重さ11.1	
31-32	19	鐸形土製品	Q-7		突起長軸方向貫通孔、重さ9.3	
	15	鐸形土製品	P-12		鐸部残存、重さ3.8	
31-33	23	ミニチュア土器	Q-7		坏形、樹木状あるいは矢羽状沈線、底径16、重さ15.2	
31-34	14	ミニチュア土器	V-9		坏形、器高25、口径37、底径24、重さ15.0	
31-35	26	ミニチュア土器	Q-10		坏形、底径27、重さ16.7	
31-36	25	ミニチュア土器	O-12		鉢形、重さ8.4	
31-37	24	ミニチュア土器	Q-12		鉢形、底径24、重さ7.7	
31-38	32	ミニチュア土器	Q-9		鉢形、底径28、重さ8.8	
31-39	15	ミニチュア土器	T-10		鉢形、底径30、重さ26.6	
31-40	30	ミニチュア土器	Q-6		鉢形、器高27、口径35、底径36、重さ15.2	
31-41	27	ミニチュア土器	R-11		鉢形、底径32、重さ11.9	
31-42	13	ミニチュア土器	T-10		壺形、器高30、口径15、底径19、重さ16.9	
31-43	12	ミニチュア土器	T-10		壺形、器高33、口径7、底径8、重さ15.1	
	16	ミニチュア土器	T-10		鉢形	
31-44	48	円形土版	R-11		長さ41、幅32、厚さ07、重さ8.7	
31-45	58	三角形土版	Q-5		両面に斜位沈線と弧状沈線、長さ27、幅24、厚さ11、重さ7.1	
31-46	2	三角形土版	S-7		長さ23、幅20、厚さ10、重さ2.6	
31-47	22	手形付土版	Q-18		片面に子供の手形(右手)裏面に大人の手形、長さ66、幅48、厚さ15、重さ34.2	
32-48	36	環状土製品	Q-9		断面三角形、弧状沈線、長さ49、幅32、厚さ17、重さ22.0	
32-49	21	環状土製品	U-8		断面板状、長さ75、幅79、厚さ22、重さ152.0	
32-50	37	環状土製品	S-10・V-11		断面三角形、長さ79、幅57、厚さ25、重さ132.2	接合資料
32-51	17	有孔土製品	O-14		楕円形の土版、縁辺部に孔二つ、長さ37、幅52、厚さ13、孔幅2、重さ28.5	
32-52	136	有孔土製品	R-11		算盤玉状、長さ27、幅37、厚さ15、重さ15.7、孔幅3	
32-53	20	有孔土製品	T~V		円形の土版、長さ22、幅22、厚さ16、孔幅4、重さ6.8	
32-54	140	有孔土製品	P-11		円形の土版、長さ15、幅27、厚さ11、重さ3.7、孔幅2	
32-55	19	有孔土製品	U-8		逆三角形、横位沈線、側面から上部へ二方向に穿孔、長さ21、幅16、厚さ14、孔幅2、重さ3.6	
32-56	33	耳飾	Q-6		椎骨状、孔有り、口径18×19、厚さ8、重さ1.7	赤色顔料塗彩
32-57	25	キノコ形土製品	T~V		かさの部分が椀状、壺形のミニチュア土器の可能性あり、高さ29、口径50×53、重さ34.5	

第27表 東側調査区出土土製品観察表(3)

図版 番号	整理 番号	種 別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備 考
32-58	34	キノコ形土製品	P-10		かさの部分がやや丸い、高さ37、最大口径50、重さ42.0	
32-59	35	キノコ形土製品	L-12		かさの部分が若干窪む、高さ25、口径34×37、重さ11.3	
32-60	139	その他の土製品	Q-7		二方向から穿孔、長さ29、幅39、厚さ34、重さ27.4	
32-61	18	その他の土製品	U-8		三つの孔有り、長さ20、幅17、厚さ07、孔径1~2重さ2.6	
32-62	1	その他の土製品	Q-9		長さ29、幅23、厚さ20、重さ8.4	
32-63	27	その他の土製品	T~V		沈線、長さ54、幅50、厚さ37、重さ34.1	
33-64	45	球状土製品	S-10		長さ68、幅66、厚さ58、重さ180.7	
33-65	24	焼成粘土塊	R-7		粘土紐が潰されたもの、指の痕有り、長さ34、幅21、厚さ19、重さ7.3	
33-66	149	焼成粘土塊	L-12		指の痕有り、長さ32、幅19、厚さ10、重さ5.4	
33-67	148	焼成粘土塊	P-11		粘土紐が潰されたもの、指の痕有り、長さ25、幅22、厚さ15、重さ6.2	
33-68	50	焼成粘土塊	Q-11		指の痕有り、長さ53、幅26、厚さ20、重さ21.2	
33-69	23	焼成粘土塊	U-8		粘土ブロックをひとまとまりにしたもの、指の痕有り、長さ49、幅71、厚さ25、重さ61.4	
33-70	46	焼成粘土塊	S-6		葉にくるまれた痕有り、長さ128、幅69、厚さ63、重さ374.2	
33-71	35	焼成粘土塊	V-11		長さ43、幅21、厚さ17、重さ9.9	
33-72	222	焼成粘土塊	T-8		長さ19、幅14、厚さ11、重さ3.0	
33-73	205	焼成粘土塊	Q-6		長さ23、幅24、厚さ10、重さ4.5	
33-74	31	焼成粘土塊	P-17		長さ25、幅23、厚さ13、重さ6.0	
33-75	213	焼成粘土塊	Q-10		長さ31、幅23、厚さ13、重さ5.8	
33-76	202	焼成粘土塊	Q-5		長さ47、幅55、厚さ20、重さ37.7	
33-77	42	焼成粘土塊	T-6		長さ38、幅30、厚さ19、重さ14.9	
33-78	34	焼成粘土塊	V-11		長さ35、幅25、厚さ16、重さ11.0	
33-79	41	焼成粘土塊	Q-7		長さ33、幅23、厚さ20、重さ9.6	
33-80	130	焼成粘土塊	Q-6		長さ33、幅26、厚さ15、重さ9.4	
33-81	36	焼成粘土塊	T-8	~	長さ32、幅25、厚さ24、重さ13.3	
33-82	33	焼成粘土塊	V-10		長さ27、幅23、厚さ23、重さ8.3	
33-83	210	焼成粘土塊	Q-5		長さ24、幅26、厚さ16、重さ6.7	
33-84	209	焼成粘土塊	R-9		長さ28、幅25、厚さ16、重さ6.3	
33-85	43	焼成粘土塊	Q-9		長さ28、幅26、厚さ18、重さ8.7	
33-86	38	焼成粘土塊	Q-7		長さ21、幅25、厚さ16、重さ5.3	
33-87	29	焼成粘土塊	T-8		長さ22、幅16、厚さ10、重さ3.2	
33-88	147	焼成粘土塊	R-9		長さ24、幅17、厚さ18、重さ4.3	
33-89	40	焼成粘土塊	T-17		長さ22、幅22、厚さ11、重さ4.2	
33-90	32	焼成粘土塊	P-14		長さ23、幅22、厚さ19、重さ5.7	
33-91	38	焼成粘土塊	Q-9		長さ20、幅20、厚さ14、重さ4.6	
33-92	208	焼成粘土塊	S-11		長さ35、幅27、厚さ15、重さ9.5	
33-93	30	焼成粘土塊	V-11		長さ29、幅28、厚さ19、重さ12.5	
33-94	39	焼成粘土塊	U-11		長さ22、幅23、厚さ14、重さ4.8	
33-95	37	焼成粘土塊	Q-7	~	長さ21、幅19、厚さ20、重さ8.1	
33-96	42	焼成粘土塊	S-11		長さ24、幅19、厚さ16、重さ4.9	
	39	焼成粘土塊	S-12		長さ26、幅26、厚さ11、重さ5.5	
	40	焼成粘土塊	S-7		長さ32、幅26、厚さ13、重さ9.2	
	41	焼成粘土塊	Q-9		長さ32、幅23、厚さ16、重さ8.0	
	44	焼成粘土塊	Q-10		長さ30、幅20、厚さ18、重さ7.9	
	145	焼成粘土塊	Q-10		長さ32、幅23、厚さ19、重さ7.5	
	146	焼成粘土塊	Q-10		長さ17、幅13、厚さ7、重さ1.2	

第28表 東側調査区出土土製品観察表(4)

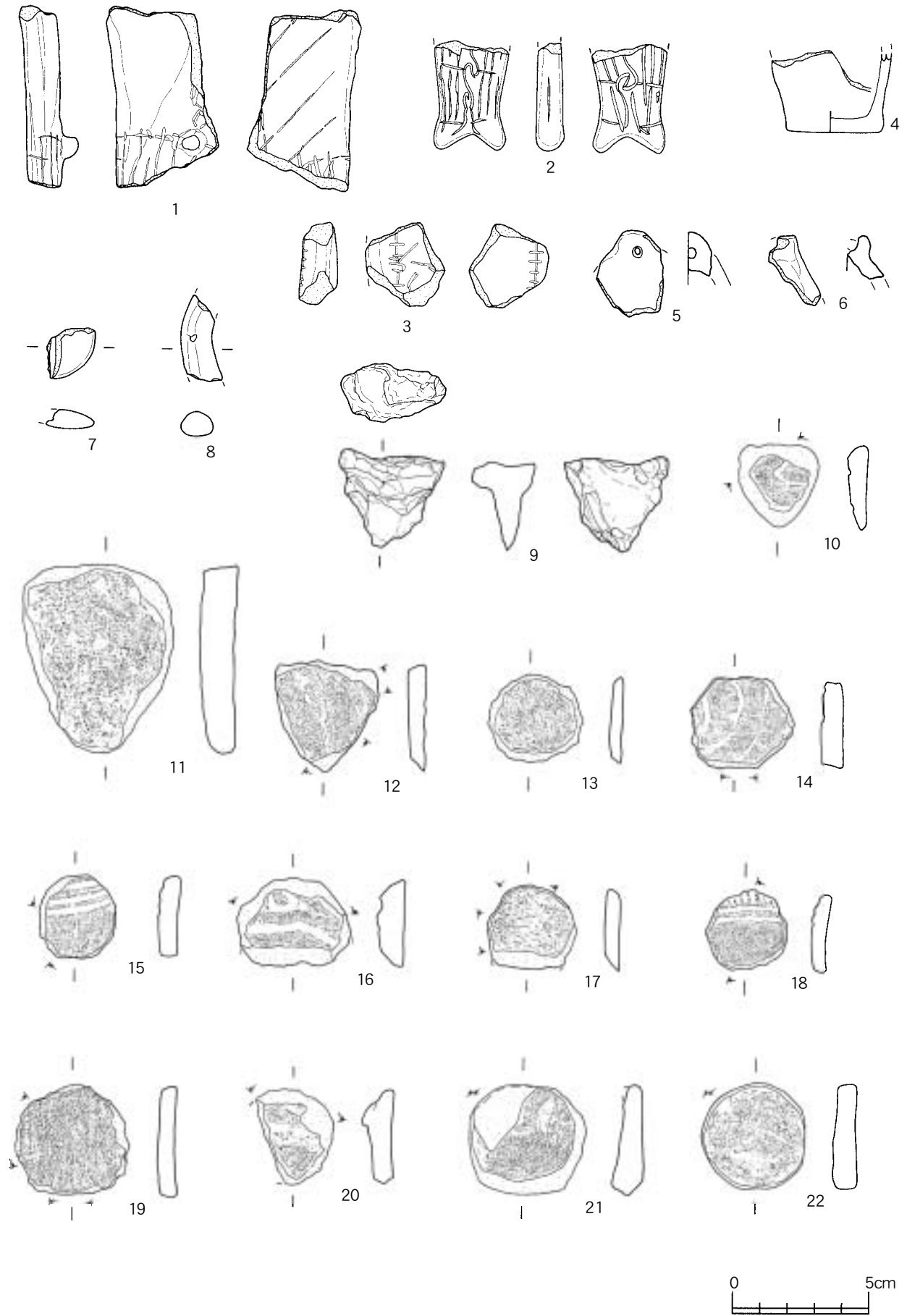
図版 番号	整理 番号	種 別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備 考
	201	焼成粘土塊	Q-6		長さ34、幅28、厚さ11、重さ9.5	
	206	焼成粘土塊	Q-11		長さ26、幅21、厚さ13、重さ5.3	
	207	焼成粘土塊	Q-9		長さ21、幅19、厚さ13、重さ3.4	
	211	焼成粘土塊	K-12		長さ28、幅21、厚さ12、重さ5.5	
	212	焼成粘土塊	R-10		長さ29、幅19、厚さ9、重さ4.1	
	203	焼成粘土塊	Q-10		長さ17、幅11、厚さ4、重さ0.7	
	214	焼成粘土塊	S-11		長さ39、幅25、厚さ20、重さ13.1	
	215	焼成粘土塊	R-11		長さ22、幅21、厚さ12、重さ5.2	
	216	焼成粘土塊	R-11		長さ28、幅16、厚さ14、重さ4.9	
	217	焼成粘土塊	R-11		長さ14、幅11、厚さ7、重さ0.6	
	218	焼成粘土塊	P-11		長さ43、幅30、厚さ13、重さ9.4	
	219	焼成粘土塊	P-11		長さ13、幅9、厚さ6、重さ0.6	
	220	焼成粘土塊	Q-10		長さ12、幅10、厚さ9、重さ0.8	
	221	焼成粘土塊	Q-10		長さ20、幅14、厚さ10、重さ1.3	
	224	焼成粘土塊	Q-11		長さ23、幅21、厚さ14、重さ4.9	
	226	焼成粘土塊	P-10		長さ18、幅15、厚さ8、重さ2.2	
	227	焼成粘土塊	S-10		長さ22、幅16、厚さ9、重さ2.6	
	228	焼成粘土塊	S-11		長さ25、幅19、厚さ12、重さ3.9	
	61	焼成粘土塊	S-11		長さ19、幅14、厚さ14、重さ2.3	
	62	焼成粘土塊	S-11		長さ15、幅16、厚さ15、重さ2.7	
	63	焼成粘土塊	S-11		長さ18、幅15、厚さ11、重さ2.3	
	64	焼成粘土塊	S-11		長さ10、幅9、厚さ10、重さ0.4	
	65	焼成粘土塊	S-11		長さ23、幅15、厚さ13、重さ3.9	
34-97	127	土器片利用土製品	O-12		a、三角形、櫛歯状沈線、長さ30、幅30、厚さ6、重さ7.0	
34-98	59	土器片利用土製品	T~V		a、三角形、隆沈線、刺突、長さ33、幅34、厚さ12、重さ13.2	
34-99	125	土器片利用土製品	R-6		b、三角形、沈線、長さ35、幅38、厚さ8、重さ13.5	
34-100	56	土器片利用土製品	T~V		b、三角形、沈線、長さ45、幅45、厚さ6、重さ15.4	
34-101	58	土器片利用土製品	T~V		b、三角形、隆沈線、長さ38、幅(42)厚さ8、重さ13.8	
34-102	126	土器片利用土製品	R-7		b、三角形、沈線、長さ38、幅36、厚さ6、重さ8.5	
34-103	123	土器片利用土製品	N-11		b、三角形、沈線、長さ35、幅39、厚さ4、重さ7.1	
34-104	129	土器片利用土製品	R-4		b、三角形、沈線、長さ35、幅47、厚さ6、重さ13.4	
34-105	57	土器片利用土製品	T~V		b、三角形、沈線、長さ37、幅38、厚さ6、重さ7.9	
34-106	121	土器片利用土製品	Q-5		b、三角形、沈線、長さ29、幅31、厚さ7、重さ8.2	
34-107	183	土器片利用土製品	R-4		b、三角形、両面渦巻状隆沈線、長さ33、幅33、厚さ8、重さ8.4	
34-108	77	土器片利用土製品	S-10		a、円形、長さ34、幅36、厚さ7、重さ9.9	
34-109	44	土器片利用土製品	Q-16		a、円形、沈線、長さ34、幅32、厚さ7、重さ10.3	
34-110	95	土器片利用土製品	R-11		a、円形、沈線、長さ34、幅34、厚さ7、重さ9.9	
34-111	63	土器片利用土製品	R-4		a、円形、沈線、長さ43、幅41、厚さ7、重さ16.1	
34-112	119	土器片利用土製品	Q-9		a、円形、R、長さ35、幅36、厚さ6、重さ9.4	
34-113	43	土器片利用土製品	T-6		b、円形、長さ39、幅39、厚さ5、重さ12.2	
34-114	50	土器片利用土製品	T~V		b、円形、長さ38、幅35、厚さ6、重さ11.1	
34-115	68	土器片利用土製品	Q-8		b、円形、長さ38、幅42、厚さ9、重さ17.7	
34-116	81	土器片利用土製品	S-6		b、円形、長さ42、幅42、厚さ10、重さ19.1	
34-117	75	土器片利用土製品	Q-6		b、円形、長さ27、幅29、厚さ5、重さ6.2	
34-118	54	土器片利用土製品	T~V		b、円形、長さ38、幅(36)厚さ5、重さ8.7	
34-119	52	土器片利用土製品	T~V		b、円形、長さ42、幅42、厚さ6、重さ15.4	
34-120	93	土器片利用土製品	P-9		b、円形、沈線、長さ32、幅35、厚さ6、重さ8.3	

第29表 東側調査区出土土製品観察表(5)

図版 番号	整理 番号	種 別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備 考
34-121	104	土器片利用土製品	R-10		b、円形、隆沈線、長さ41、幅38、厚さ10、重さ16.2	
34-122	51	土器片利用土製品	T~V		b、円形、沈線、長さ40、幅37、厚さ5、重さ8.1	
34-123	79	土器片利用土製品	Q-10		b、円形、沈線、長さ35、幅31、厚さ6、重さ8.5	
34-124	112	土器片利用土製品	Q-11		b、円形、沈線、長さ27、幅26、厚さ5、重さ4.5	赤色顔料塗彩
34-125	45	土器片利用土製品	T-6		b、円形、沈線、長さ35、幅36、厚さ7、重さ10.3	
34-126	106	土器片利用土製品	S-4		b、円形、沈線、長さ48、幅51、厚さ6、重さ20.5	
34-127	83	土器片利用土製品	R-9		b、円形、沈線、長さ41、幅41、厚さ5、重さ10.3	
34-128	78	土器片利用土製品	Q-7		b、円形、沈線、長さ29、幅28、厚さ6、重さ6.2	
34-129	84	土器片利用土製品	Q-10		b、円形、沈線、長さ34、幅34、厚さ6、重さ9.6	
34-130	105	土器片利用土製品	S-4		b、円形、隆沈線、長さ37、幅37、厚さ8、重さ14.6	
35-131	62	土器片利用土製品	Q-6		b、円形、隆沈線、長さ60、幅60、厚さ12、重さ40.6	
35-132	90	土器片利用土製品	R-9		b、円形、沈線、長さ30、幅(27)、厚さ6、重さ4.6	
35-133	67	土器片利用土製品	Q-4		b、円形、格子目状燃糸圧痕(R)長さ33、幅33、厚さ8、重さ10.9	
35-134	108	土器片利用土製品	Q-5		b、円形、RL、長さ39、幅41、厚さ6、重さ13.4	
35-135	116	土器片利用土製品	R-3		b、円形、沈線、RL、長さ27、幅28、厚さ7、重さ7.3	
35-136	98	土器片利用土製品	Q-10		b、円形、櫛歯状沈線、長さ34、幅34、厚さ7、重さ8.6	
35-137	72	土器片利用土製品	Q-6		b、円形、沈線、長さ24、幅23、厚さ6、重さ4.2	
35-138	55	土器片利用土製品	T~V		b、円形、底部、長さ53、幅50、厚さ20、重さ60.8	
35-139	69	土器片利用土製品	Q-6		c、円形、長さ39、幅41、厚さ6、重さ14.0	
35-140	48	土器片利用土製品	T~V		c、円形、長さ36、幅34、厚さ7、重さ11.1	
35-141	65	土器片利用土製品	K-11		c、円形、格子目状沈線、長さ40、幅38、厚さ8、重さ17.5	
35-142	86	土器片利用土製品	Q-7		c、円形、隆沈線、長さ33、幅32、厚さ11、重さ13.7	
35-143	73	土器片利用土製品	Q-5		c、円形、隆沈線、長さ(28)、幅41、厚さ10、重さ13.6	
35-144	49	土器片利用土製品	T~V		c、円形、隆沈線、長さ41、幅39、厚さ9、重さ16.7	
35-145	109	土器片利用土製品	S-11		c、円形、沈線、刺突、長さ40、幅40、厚さ7、重さ17.2	
35-146	71	土器片利用土製品	Q-4		c、円形、格子目状燃糸圧痕(L)長さ30、幅26、厚さ8、重さ9.1	
35-147	66	土器片利用土製品	S-12		c、円形、底部、長さ44、幅44、厚さ12重さ28.7	
35-148	101	土器片利用土製品	R-5		c、円形、沈線、長さ43、幅41、厚さ6、重さ11.3	
	122	土器片利用土製品	S-7		b、三角形、長さ36、幅36、厚さ6、重さ8.8	
	124	土器片利用土製品	N-11		b、三角形、長さ40、幅38、厚さ5、重さ11.3	
	128	土器片利用土製品	S-6		b、三角形、沈線、長さ33、幅33、厚さ10、重さ12.1	
	155	土器片利用土製品	S-9		a、円形、沈線、LR、長さ39、幅42、厚さ7、重さ14.0	
	82	土器片利用土製品	R-9		b、円形、沈線、長さ35、幅40、厚さ6、重さ11.8	
	85	土器片利用土製品	R-7		b、円形、長さ40、幅40、厚さ7、重さ14.5	
	87	土器片利用土製品	R-7		b、円形、沈線、長さ38、幅36、厚さ6、重さ11.7	
	88	土器片利用土製品	S-4		b、円形、沈線、長さ36、幅34、厚さ6、重さ9.4	
	89	土器片利用土製品	R-9		b、円形、沈線、長さ25、幅29、厚さ6、重さ6.4	
	91	土器片利用土製品	P-9		b、円形、沈線、長さ38、幅(19)、厚さ6、重さ6.1	
	92	土器片利用土製品	P-9		b、円形、格子目状燃糸圧痕(R)長さ41、幅42、厚さ7、重さ16.8	
	94	土器片利用土製品	R-10		b、円形、長さ33、幅34、厚さ6、重さ9.0	
	97	土器片利用土製品	Q-10		b、円形、長さ20、幅20、厚さ6、重さ2.7	
	99	土器片利用土製品	O-12		b、円形、格子目状沈線、長さ30、幅32、厚さ5、重さ7.2	
	100	土器片利用土製品	S-11		b、円形、長さ28、幅32、厚さ9、重さ9.6	
	102	土器片利用土製品	R-5		b、円形、格子目状沈線、長さ32、幅35、厚さ6、重さ9.2	
	103	土器片利用土製品	Q-7		b、円形、沈線、長さ38、幅34、厚さ6、重さ10.8	
	110	土器片利用土製品	S-11		b、円形、沈線、長さ33、幅35、厚さ8、重さ12.4	

第30表 東側調査区出土土製品観察表(6)

図版 番号	整理 番号	種 別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備 考
	111	土器片利用土製品	Q-4		b、円形、沈線、長さ38、幅38、厚さ6、重さ11.0	赤色顔料付着
	113	土器片利用土製品	Q-13		b、円形、沈線、長さ(17)、幅32、厚さ8、重さ7.4	
	114	土器片利用土製品	S-9		b、円形、長さ41、幅39、厚さ10、重さ16.4	
	115	土器片利用土製品	N-11		b、円形、長さ31、幅(22)、厚さ6、重さ4.6	
	117	土器片利用土製品	R-4		b、円形、長さ44、幅41、厚さ7、重さ18.3	
	118	土器片利用土製品	Q-9		b、円形、沈線、長さ44、幅44、厚さ6、重さ15.6	
	120	土器片利用土製品	Q-9		b、円形、沈線、長さ35、幅35、厚さ6、重さ11.2	
	174	土器片利用土製品	S-9		b、円形、長さ22、幅22、厚さ5、重さ4.7	
	175	土器片利用土製品	S-5		b、円形、格子目状燃糸圧痕(R)、長さ35、幅38、厚さ5、重さ13.6	
	176	土器片利用土製品	S-7		b、円形、沈線、長さ39、幅39、厚さ9、重さ18.7	
	178	土器片利用土製品	S-9		b、円形、格子目状燃糸圧痕(R)、長さ40、幅41、厚さ4、重さ12.5	
	181	土器片利用土製品	R-7		b、円形、沈線、長さ19、幅18、厚さ2、重さ1.8	
	46	土器片利用土製品	P-17		b、円形、長さ37、幅36、厚さ9、重さ14.6	
	47	土器片利用土製品	U-9		b、円形、長さ(31)、幅(36)、厚さ7、重さ12.5	
	53	土器片利用土製品	T~V		b、円形、長さ27、幅25、厚さ7、重さ6.0	
	64	土器片利用土製品	Q-5		c、円形、長さ43、幅43、厚さ6、重さ14.4	
	70	土器片利用土製品	Q-7		c、円形、沈線、長さ33、幅(21)、厚さ6、重さ5.7	
	74	土器片利用土製品	S-6		c、円形、沈線、長さ28、幅26、厚さ5、重さ5.1	
	76	土器片利用土製品	Q-4		c、円形、長さ36、幅(16)、厚さ6、重さ4.9	
	107	土器片利用土製品	O-11		b、円形、沈線、長さ(20)、幅40、厚さ6、重さ7.6	
	177	土器片利用土製品	S-7		b、円形、長さ40、幅38、厚さ7、重さ17.1	
	179	土器片利用土製品	Q-3		c、円形、L R、長さ37、幅37、厚さ6、重さ13.5	
	180	土器片利用土製品	Q-3		c、円形、格子目状燃糸圧痕(R)、長さ33、幅34、厚さ5、重さ10.4	
	182	土器片利用土製品	Q-4		c、円形、隆沈線、長さ30、幅30、厚さ8、重さ9.8	



第36図 南側調査区出土土製品

第31表 南側調査区出土土製品観察表

図版番号	整理番号	種別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備考
36-1	133	土偶	H(-1)		胴部下半、沈線、重さ34.0	
36-2	5	土偶	H-0		胴部、臍突起、格子目状沈線、幅26、重さ12.7	
36-3	132	土偶	G-0		胴部下半、連鎖状沈線、重さ10.4	
36-4	31	ミニチュア土器	H-0		鉢形、重さ23.8	内面漆状物質付着
36-5	134	鐔形土製品	H(-1)		短軸方向貫通孔、重さ6.2	
36-6	135	鐔形土製品	G(-1)		短軸方向貫通孔、重さ3.9	
36-7	142	有孔土製品	G(-1)		円形の土版、側面より穿孔、重さ1.9	
36-8	138	棒状土製品	G(-1)		やや弧状、長さ33、幅16、厚さ9、重さ3.7	
36-9	144	焼成粘土塊	G-0		長さ35、幅38、厚さ22、重さ15.5	
36-10	172	土器片利用土製品	G(-1)		b、三角形、沈線、長さ30、幅28、厚さ7、重さ6.7	
36-11	173	土器片利用土製品	H(-1)		a、三角形、底部?、長さ70、幅50、厚さ12、重さ55.1	
36-12	171	土器片利用土製品	H(-1)		b、三角形、長さ40、幅36、厚さ6、重さ11.2	
36-13	154	土器片利用土製品	H(-1)		a、円形、底部、長さ32、幅34、厚さ4、重さ9.2	
36-14	157	土器片利用土製品	G-1		b、円形、沈線、長さ33、幅37、厚さ8、重さ12.7	
36-15	164	土器片利用土製品	H(-1)		b、円形、沈線、長さ30、幅28、厚さ7、重さ8.4	
36-16	163	土器片利用土製品	H(-1)		b、円形、隆沈線、長さ(31)幅40、厚さ10、重さ14.8	
36-17	159	土器片利用土製品	H-0		b、円形、長さ30、幅31、厚さ5、重さ7.7	
36-18	165	土器片利用土製品	H(-1)		b、円形、沈線、刺突、長さ29、幅29、厚さ6、重さ5.8	
36-19	170	土器片利用土製品	G-2		b、円形、長さ41、幅40、厚さ6、重さ14.6	
36-20	151	土器片利用土製品	G-0		b、円形、長さ34、幅(26)厚さ11、重さ9.0	
36-21	152	土器片利用土製品	G-0		c、円形、隆沈線、長さ40、幅42、厚さ11、重さ21.3	
36-22	161	土器片利用土製品	G(-1)		c、円形、縄文、長さ38、幅38、厚さ12、重さ16.2	
	153	土器片利用土製品	G-1		b、円形、長さ34、幅34、厚さ5、重さ9.2	
	155	土器片利用土製品	H-2		b、円形、沈線、長さ35、幅38、厚さ5、重さ12.1	
	156	土器片利用土製品	G(-1)		b、円形、格子目状燃糸圧痕(R)長さ42、幅41、厚さ5、重さ15.6	
	160	土器片利用土製品	H-0		b、円形、長さ30、幅29、厚さ7、重さ8.2	
	168	土器片利用土製品	G-2		b、円形、長さ27、幅28、厚さ5、重さ5.2	
	169	土器片利用土製品	G-2		b、円形、長さ27、幅28、厚さ6、重さ14.6	
	297	土器片利用土製品	H-1		b、円形、長さ40、幅(20)厚さ8、重さ7.0	
	150	土器片利用土製品	H-0		c、円形、長さ(12)幅(34)厚さ(6)重さ2.9	
	158	土器片利用土製品	G-0		c、円形、沈線、長さ44、幅44、厚さ8、重さ19.7	
	162	土器片利用土製品	G(-1)		c、円形、長さ31、幅32、厚さ7、重さ10.7	
	166	土器片利用土製品	H-0		c、円形、格子目状燃糸圧痕(R)長さ44、幅42、厚さ6、重さ16.0	
	167	土器片利用土製品	G-2		c、円形、格子目状沈線、長さ(19)幅(35)厚さ(6)重さ6.0	
	183	土器片利用土製品	G-0		c、円形、長さ(29)幅(14)厚さ(7)重さ4.5	



## 4. 石製品

本調査では、東側調査区から306点、南側調査区から85点の計391点が出土しているが完成品のみに限定すると（未製品資料除く）347点となる。調査区および種別ごとの出土点数等は下表のとおりである。石製品の掲載にあたっては、一部を実測化し、ほかは観察表におさめている。

また、個別の属性等については、第33～43表にゆずることとし、ここでは種別ごとの概略について記述する。

第32表 遺構外出土石製品の概要

種 別	調査区		南側調査区		計 (%)
	東側調査区	出土数	図版番号	出土数	
三角形岩版	124	第37～41図1～85	36	第48・49図1～24	160(40.9%)
円形岩版	92	第41～43図86～129	30	第49図25～42	122(31.2%)
その他の岩版類	19	第43図130～145	7	第50図44～49	26(6.6%)
岩版類の未製品	35	第43・44図146～168	4	第50図43・50	39(10.0%)
有孔石製品	16	第45図169～184	3	第50図51～53	19(4.9%)
碗状石製品	3	第45図185～187	0		3(0.8%)
球状石製品	8	第46図188～194	4	第50図54～56	12(3.1%)
石冠	2	第46図195・196	0		2(0.5%)
軽石製石製品	1	第46図197	0		1(0.3%)
軽石未製品	3	第46・47図198～200	0		3(0.8%)
石棒未製品	2	第47図201・202	0		2(0.5%)
石刀	1	第47図203	0		1(0.3%)
その他の石製品	0		1	第50図57	1(0.3%)
計	306		85		391(100%)

### 三角形岩版

平面形が、三角形ならびに三角形に近い形状を呈する岩版である。本調査では東側調査区から124点（第37～41図1～85）、南側調査区から36点（第48・49図1～24）の計160点が出土している。

〔破損状況〕破損の状況は、完形ないしほぼ完形が36.5%（57点）、頂角を欠損するものでは21.3%（34点）、頂角から縁辺部を欠損するもの（2/3）では8.1%（13点）、約半分欠損するもの（1/2）では8.8%（14点）、頂角縁辺部の一部が残存するもの（1/3）では26.3%（42点）となっている。欠損しているものが多く、64.4%（103点）が破損資料である。中には、断面にアスファルトと思われる黒色の付着物が認められるもの（第41図82）もある。接合資料は、東側調査区内のU-9グリッドとV-10グリッド出土の2破片（第40図60）、南側調査区内のG-0グリッドの2破片（第48図1）、G-2グリッドとH-0グリッド出土の2破片（第49図20）、G(-1)内で出土した4破片が2点分（第48図9・10）接合した。

〔形状〕三角形岩版の形状は、表面が球状、裏面が平滑的に研磨調整されるものがほとんどであるが、中には表裏両面が平坦に研磨されるものや（第38図32）、縁辺部が剥離調整によるもの（第37図1、第41図85、第48図15）もみられる。平面形は、縦長の二等辺三角形を呈したものが主体的であるが、正三角形を呈するもの（第37図8・10）、楕円形に近いもの（第41図83）、半円形を呈するもの（第41図81、

第48図14)などがみられる。

〔文様〕三角形岩版は、2本1組の刻線による斜位直線や弧状線、重弧状線、ブーメラン状刻線や単線による渦巻状刻線などの単位文様が認められる。岩版の文様は、それらの組み合わせによって下記のように分類される。分類の基準と個体数は次のとおりである。なお、観察表には、文様の分類記号を掲載した。

- a類：無文のもの。(第37～38図1～38、第41図85、第48図1～15) 51.3%(82点)
  - b類：弧状線が左縁辺部に位置するもの。0%(0点)
  - c類：弧状線が右縁辺部に位置するもの(第38～39図39～42) 2.5%(4点)
  - d類：弧状線が上縁辺部に位置するもの(第39図43) 0.6%(1点)
  - e類：弧状線が左右対称に配置するもの(第39図44・45) 1.3%(2点)
  - f類：斜位直線が左右に交差するもの。0%(0点)
  - g類：斜位直線のみが施されるもの。0%(0点)
  - h類：斜位直線と右縁辺部に弧状線を配置するもの。0%(0点)
  - i類：斜位直線と左右縁辺部に弧状線を配置するもの(第39図46・47、第48図16) 1.9%(3点)
  - j 1類：弧状線を左右縁辺部に配置するもの(第39図51、第48・49図17～20) 3.1%(5点)
  - j 2類：重弧状線を右縁辺部、弧状線を左縁辺部に配置するもの(第39・40図52～60) 5.6%(9点)
  - j 3類：重弧状線を左縁辺部、弧状線を右縁辺部に配置するもの(第40図61・62) 1.3%(2点)
  - k類：刻線の端部が連結するブーメラン状刻線が施されるもの(第40図63・64) 1.3%(2点)
  - l類：刻線の端部が連結もしくは2本1組のV字状の刻線が施されるもの(第40図73・74) 1.3%(2点)
  - m類：刻線の端部が連結する渦巻状の刻線が施されるもの(第40図65～67) 1.9%(3点)
  - n類：単線による渦巻状刻線が施されるもの(第40図68～72、第49図22) 3.8%(6点)
  - x類：上記の分類に属さないものおよび不明のもの。24.4%(39点)
- 〔石質〕石質は、泥岩が70.6%(113点)、凝灰岩が28.8%(46点)、安山岩が0.6%(1点)である。

## 円形岩版

平面形が、円形を呈する岩版である。本調査では東側調査区から92点(第41～43図86～129)、南側調査区から30点(第49図25～42)の計122点が出土している。

〔破損状況〕破損の状況は、完形ないしほぼ完形が32.0%(39点)、一部を欠損するもの(2/3)では13.9%(17点)、約半分欠損するもの(1/2)では33.6%(41点)、一部が残存するもの(1/3)では20.5%(25点)となっている。欠損しているものが多く、円形岩版の68.0%(83点)が破損資料である。中には断面にアスファルトと思われる黒色の付着物が認められるもの(第49図27・29)もある。接合資料は、東側調査区内のS-7グリッド出土の3破片(第42図103)、南側調査区内のG-1とG-0の2破片(第49図30)、G-1の2破片(第49図36)、G-0の2破片(第49図38)、東調査区のQ-10グリッドと南調査区のH(-1)グリッドの2破片(第41図102)が接合した。

〔加工状況〕加工方法の違いによって下記のように分類される。分類の基準と個体数は次のとおりである。なお、観察表には、加工状況の分類記号を掲載した。

- a類：表裏両面および側面に平滑的な研磨が施され、断面形が長方形および台形に近い形状を呈するも

の(第41・42図86~103、第49図25~35、37・38)、65.6%(80点)

b類:表裏両面に平滑的な研磨が施され、側面が丸みを帯びているもの(第42図105~121、第49図36・42)、25.4%(31点)

c類:周縁の全周が打ち欠きにより整形されるもの(第43図126~129、第49図39)、4.1%(5点)

d類:周縁の一部が打ち欠きにより整形され、表裏両面に平滑的な研磨が施されるもの。0%(0点)

e類:周縁が打ち欠きと研磨により整形され、表裏両面に平滑的な研磨を施されるもの(第49図40・41)、1.6%(2点)

f類:表面が球状、裏面が平滑的に研磨されるもの(第42図122~125)、3.3%(4点)

〔文様〕同心円の渦巻状の刻線(第41図86・87)、部分的に渦巻状刻線(第41図88)、両面に弧状の刻線(第42図104)、片面に連弧状および側面に一巡する刻線(第49図37)が施されるものが認められる。

〔石質〕石質は、泥岩が67.2%(82点)、凝灰岩が30.3%(37点)、安山岩が2.5%(3点)である。

### その他の岩版

平面形が、三角形および円形以外を呈する岩版である。本調査では東側調査区から19点(第43図130~145)、南側調査区から7点(第50図44~49)の計26点が出土している。表面が球状、裏面が平滑的に整形されたものでは、台形ないし方形を呈するもの(第43図130~132、134、第50図49)やいびつな形状を呈するもの(第43図133)、半円形を呈するもの(第43図135)、楕円形を呈するもの(第43図141)が認められる。文様を有するものでは、弧状線などの刻線が施されるもの(第43図135・136・144)もみられる。表裏両面とも平滑的に整形されたものでは、楕円形を呈するもの(第43図137~140・142・145、第50図44・46・47)が多く認められ、刻線が施されるもの(第43図145)もみられる。

### 岩版類の未製品等

岩版類の製作過程上の未製品や破片・破損資料である。本調査では、東側調査区から35点(第43・44図146~168)、南側調査区から4点(第50図43・50)の計39点が出土している。資料には、原礫の一部が研磨されたもの(第44図151・167、第50図43)、原礫の一部が敲打されたもの(第43図146)、原礫の半割したもの(第44図156~159)、原礫が数分割したもの(第44図160)、原礫の分割後に剥離調整されたもの(第43図148)、原礫の分割後に研磨調整されたもの(第44図153・164)などが認められる。

### 有孔石製品

孔を有する石製品である。本調査では東側調査区から16点(第45図169~184)、南側調査区から3点(第50図51~53)の計19点が出土している。有孔石製品には、孔が途中で止まっているものが5点(第45図169~173)と貫通しているものが14点(第45図174~184、第50図51~53)認められる。孔が止まっているものでは、第45図169が円形の原礫の中心を、第45図173が棒状の原礫の一部が穿たれている。第45図170~172は、装飾品と考えられる。貫通しているものはいずれも装飾品として考えられ、第45図174~177、第50図51はほぼ中心に孔が穿たれ、第45図178~180、182、183、第50図52は端寄りに孔が穿たれている。第45図181、第50図53は、長い方の辺寄りに2孔穿たれている。第45図184はメノウ質の自然礫で、自然の孔の開口部に一部加工された痕跡がみられる。石質は、凝灰岩が多く、泥岩、メノウも使用されている。

### 碗状石製品

球状の凹部を有する石製品である。本調査では東側調査区から3点（第45図185～187）が出土している。185・186は全体形が球状、187が台を有する鉢形を呈する。石質は、いずれも泥岩である。

### 球状石製品

球状に整形している石製品である。本調査では東側調査区から8点（第46図188～194）、南側調査区から4点（第50図54～56）の計12点が出土している。石質は泥岩と凝灰岩である。

### 石冠

正面観が半円形ないし方形、断面形が三角形を呈する石製品である。本調査では、東側調査区から2点（第46図195・196）出土している。195は正面観が半円形、196は正面観が長方形を呈している。いずれも全面に研磨が施され、特に底面の研磨が顕著で、平滑的となっている。石質は、いずれも凝灰岩である。

### 軽石製石製品

軽石を使用した石製品である。東側調査区より1点（第46図197）出土している。形状は、平面形が丸みを帯びた縦長の台形を呈している。各面が面取りされている。

### 軽石未製品

軽石を使用した石製品等の未製品である。東側調査区より3点（第46・47図198～200）出土している。198は一部を平坦に研磨、199は表面が球状、裏面が平坦に研磨されている。

### 石棒未製品

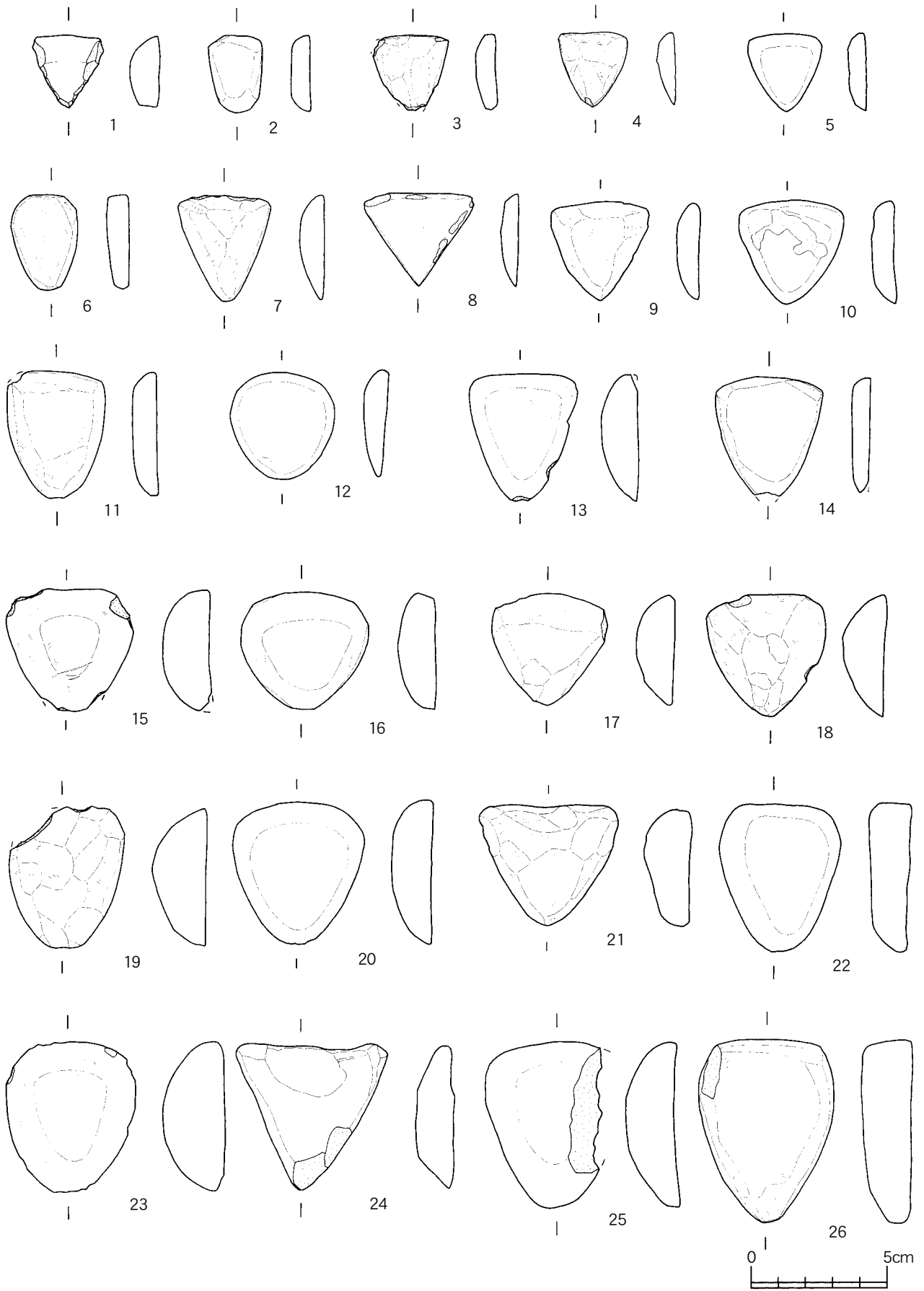
石棒の製作過程上の未製品である。東側調査区から2点（第47図201・202）出土している。いずれも角柱状を呈する泥岩を使用している。201は、剥離調整によるもので、202は剥離調整後に敲打調整されたものである。

### 石刀

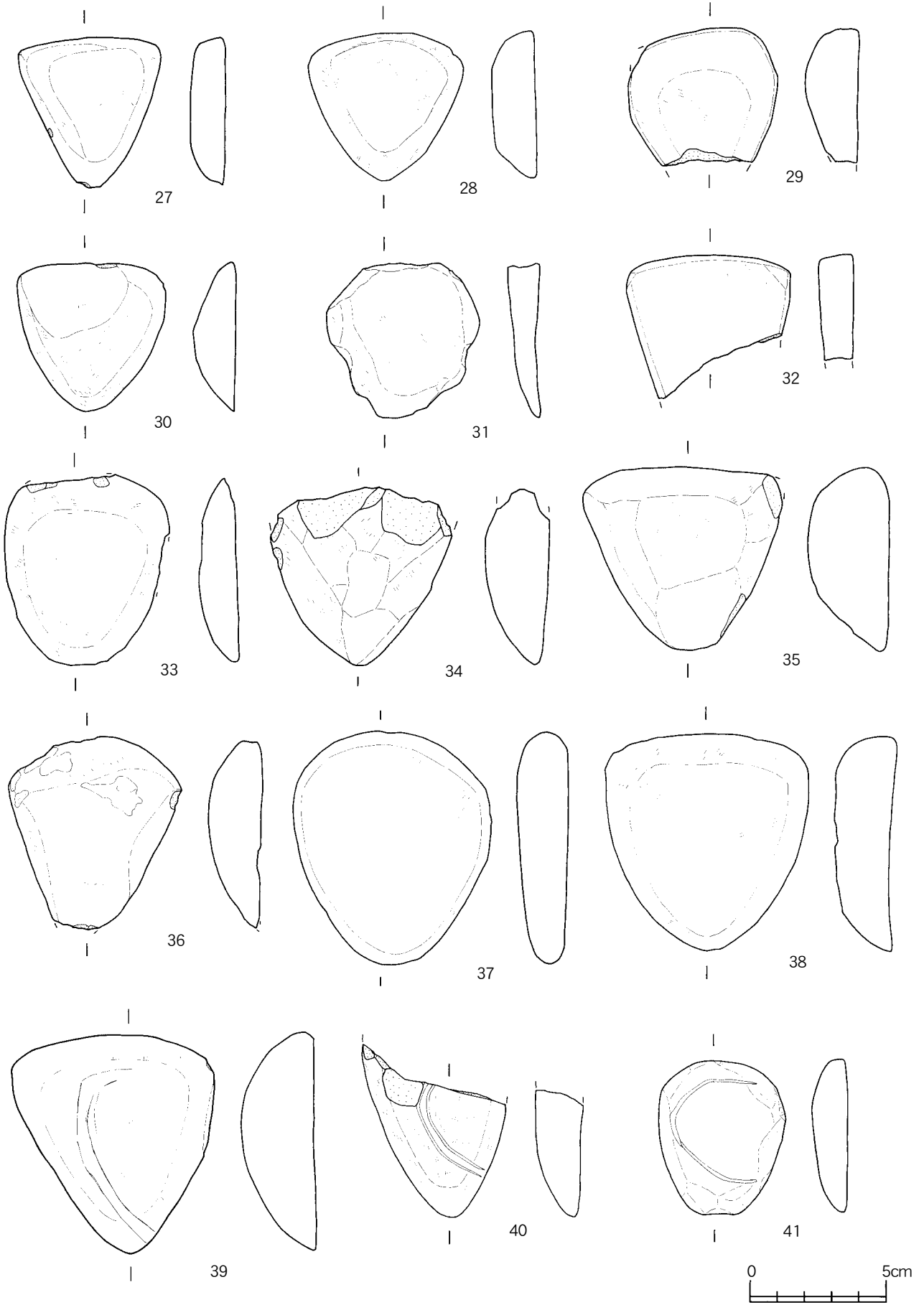
刀状の石製品である。東側調査区から1点（第47図203）出土している。柄の部分の残存資料で、粘板岩が使用されている。

### その他の石製品

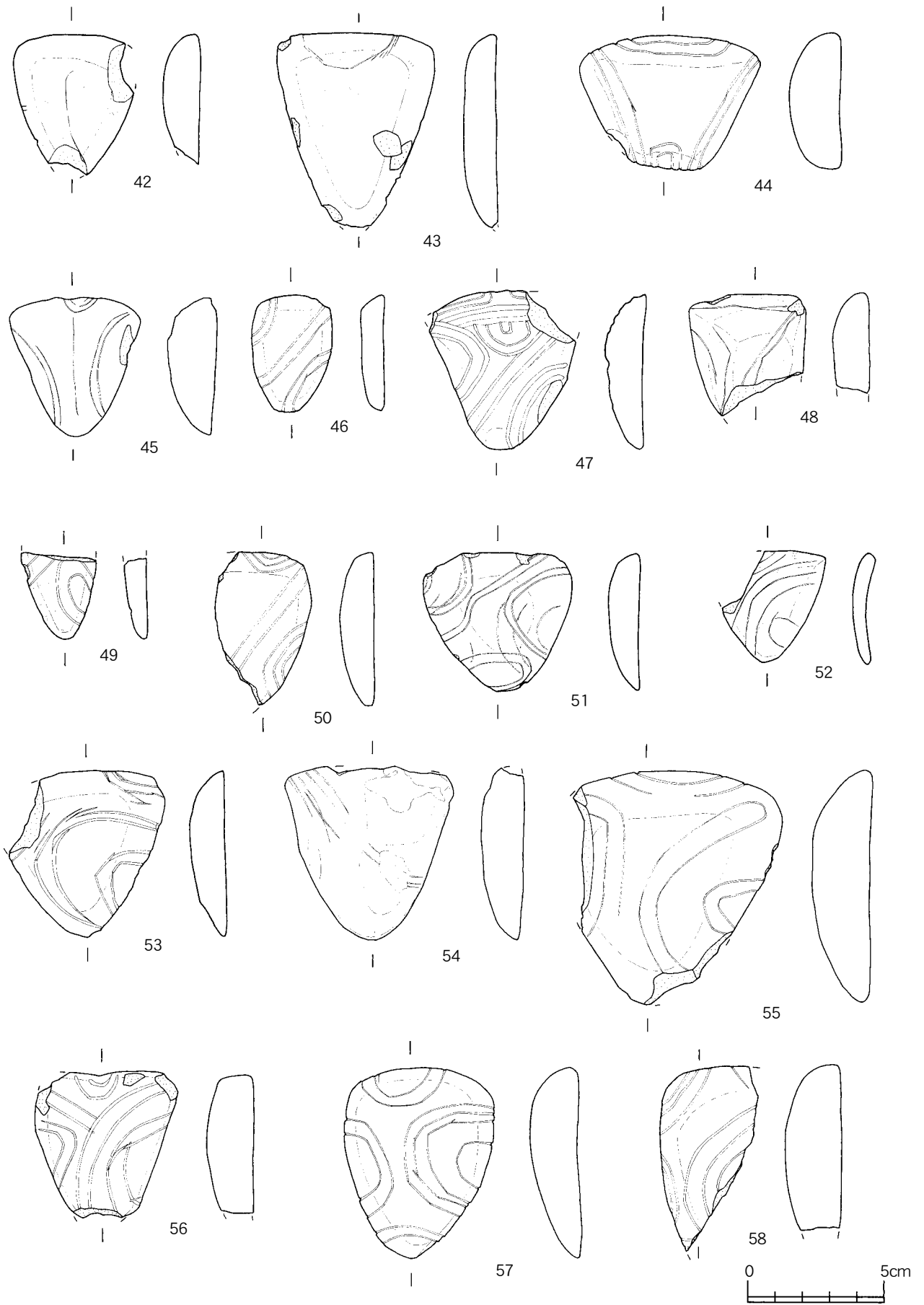
頁岩製の円礫の周縁を研磨および敲打調整したもので、南側調査区から1点（第50図57）出土している。何らかの未製品かもしれない。



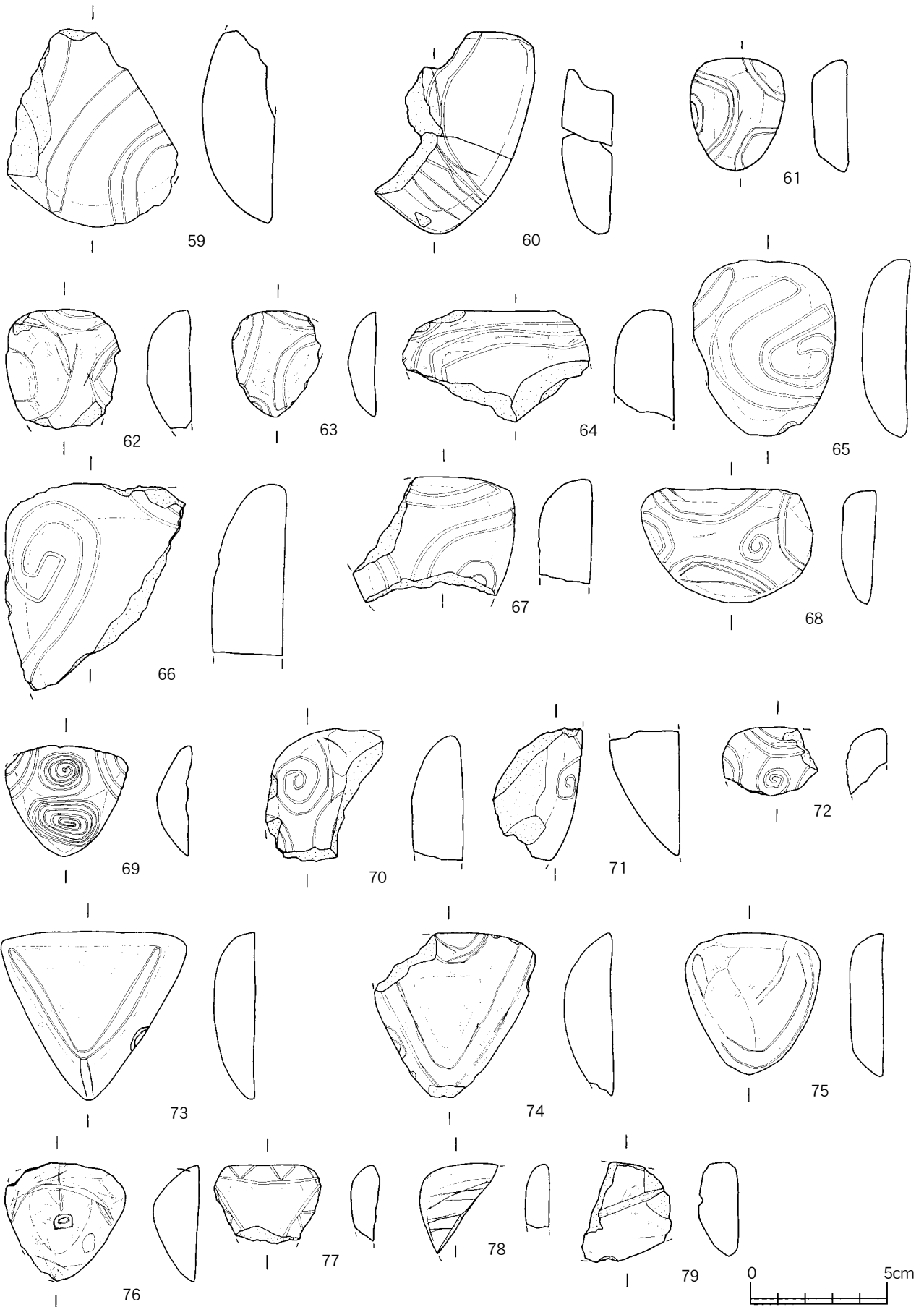
第37図 東側調査区出土石製品(1)



第38図 東側調査区出土石製品(2)

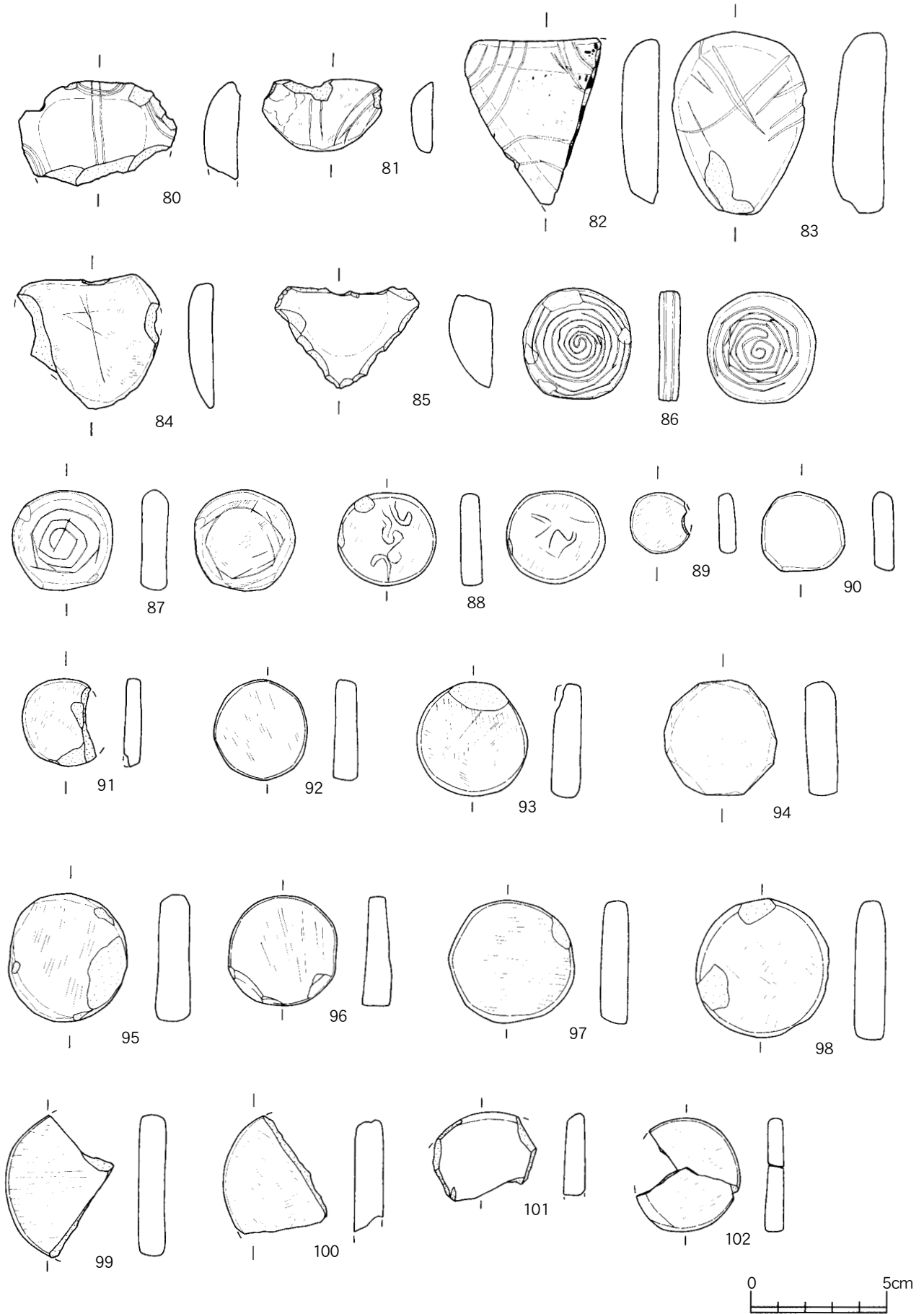


第39図 東側調査区出土石製品(3)

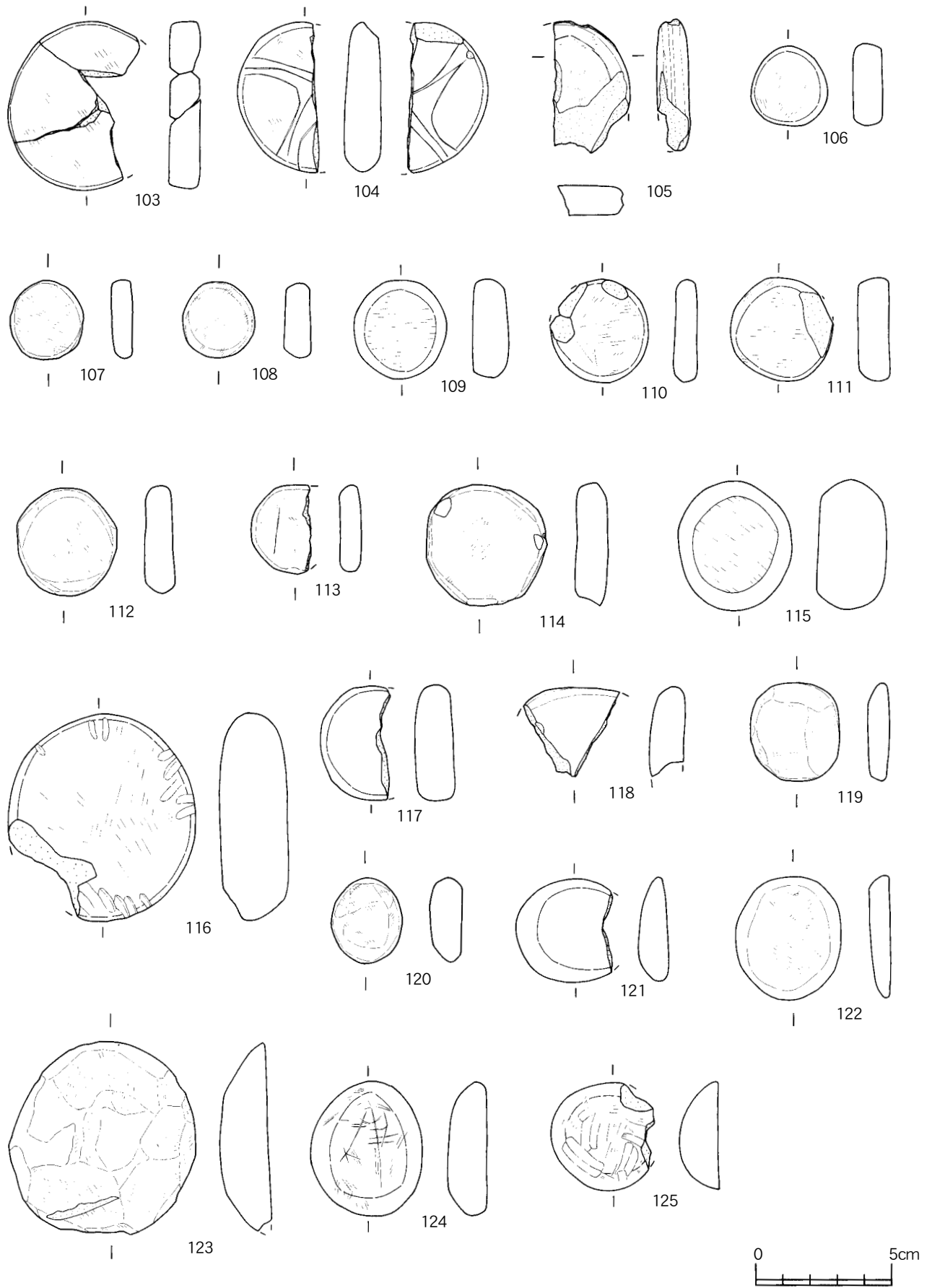


第40図 東側調査区出土石製品(4)

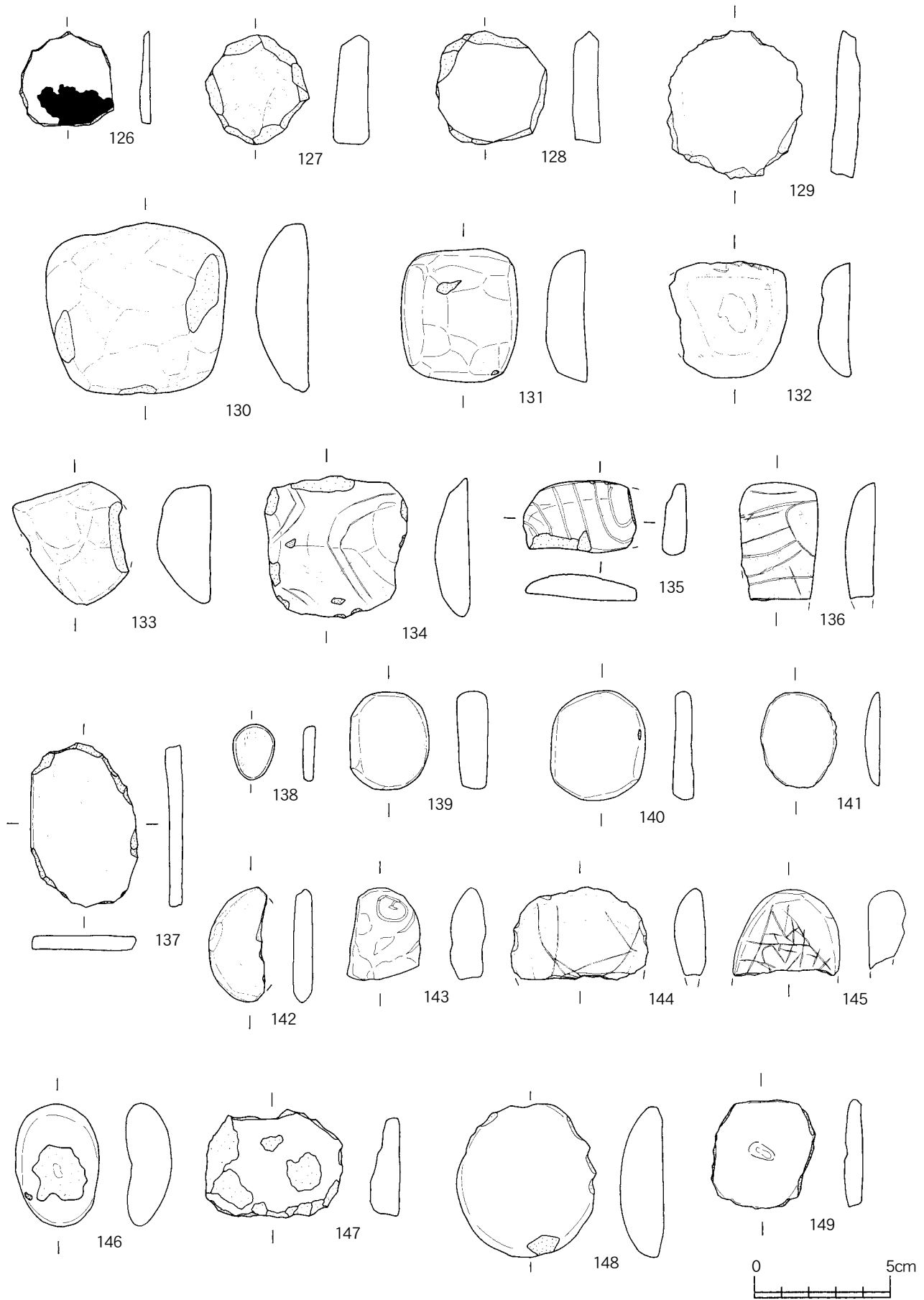




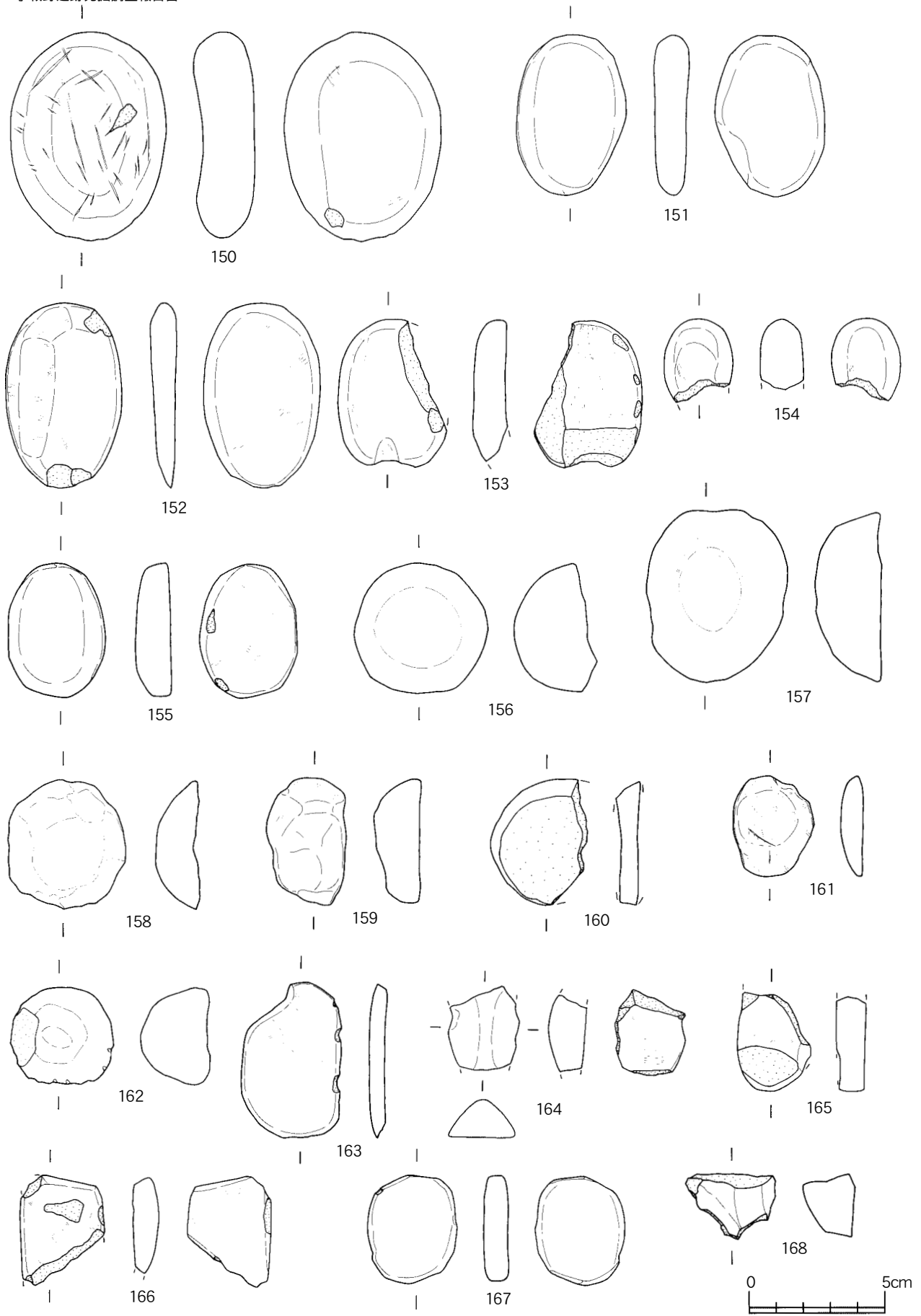
第41図 東側調査区出土石製品(5)



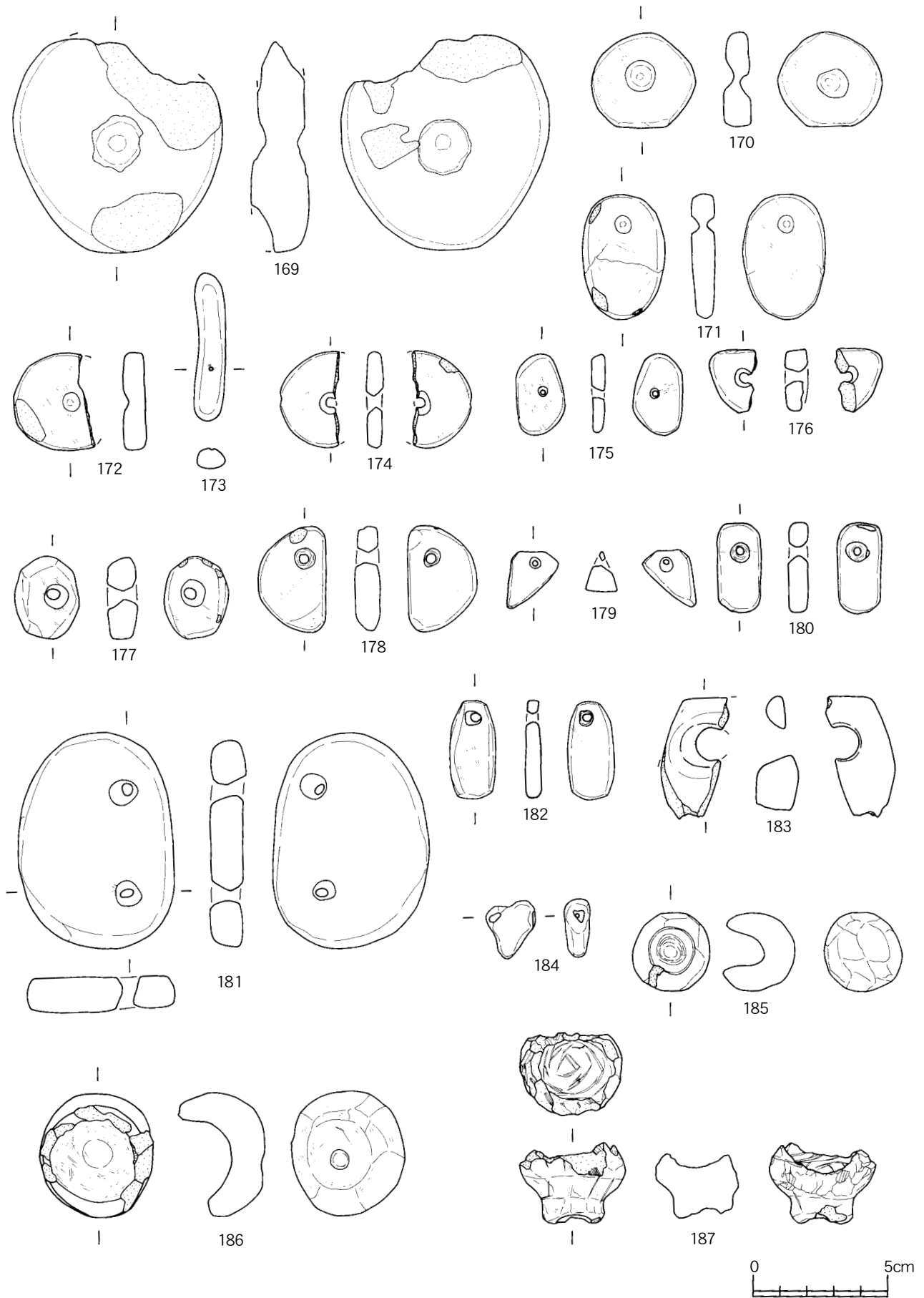
第42図 東側調査区出土石製品(6)



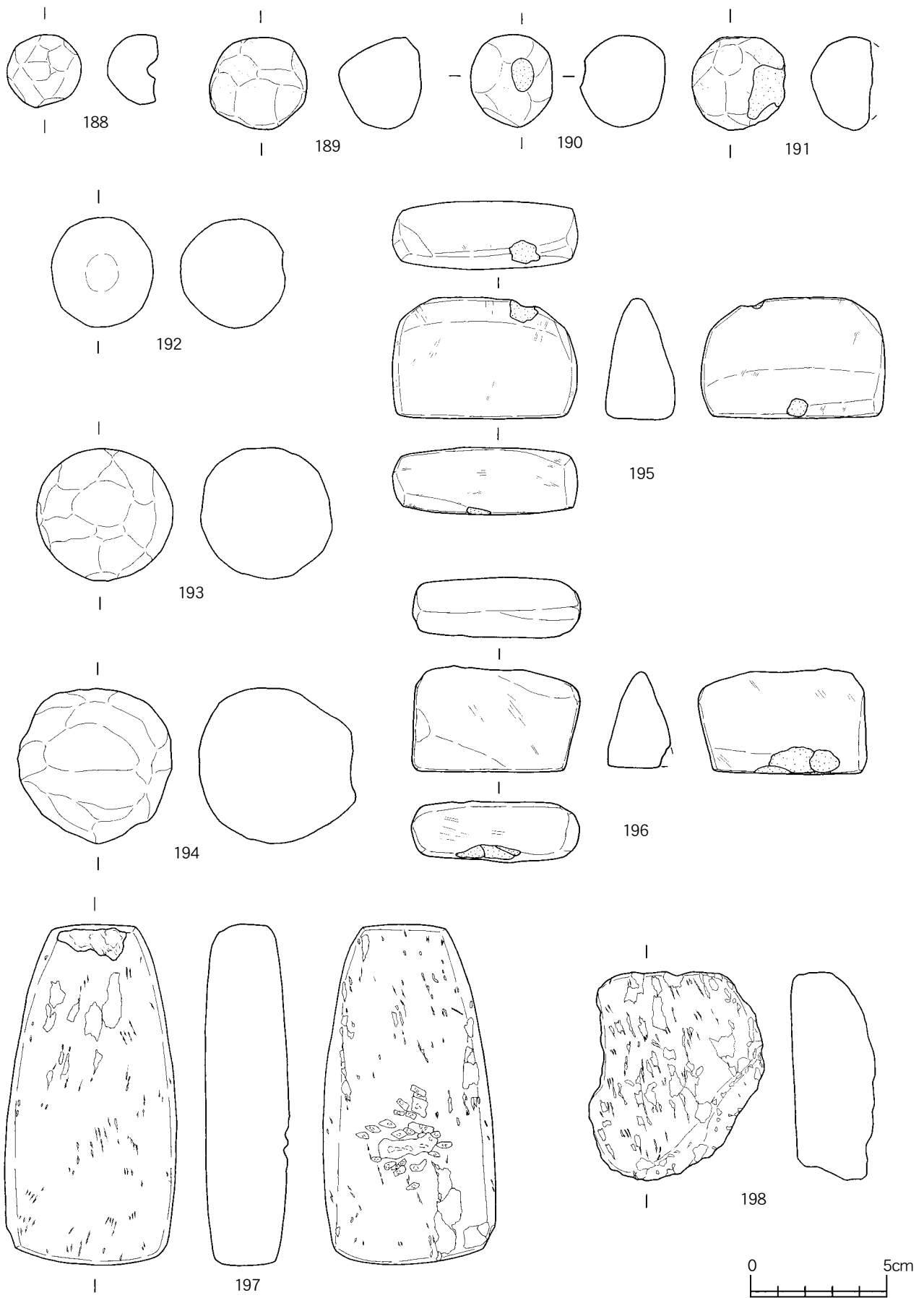
第43図 東側調査区出土石製品(7)



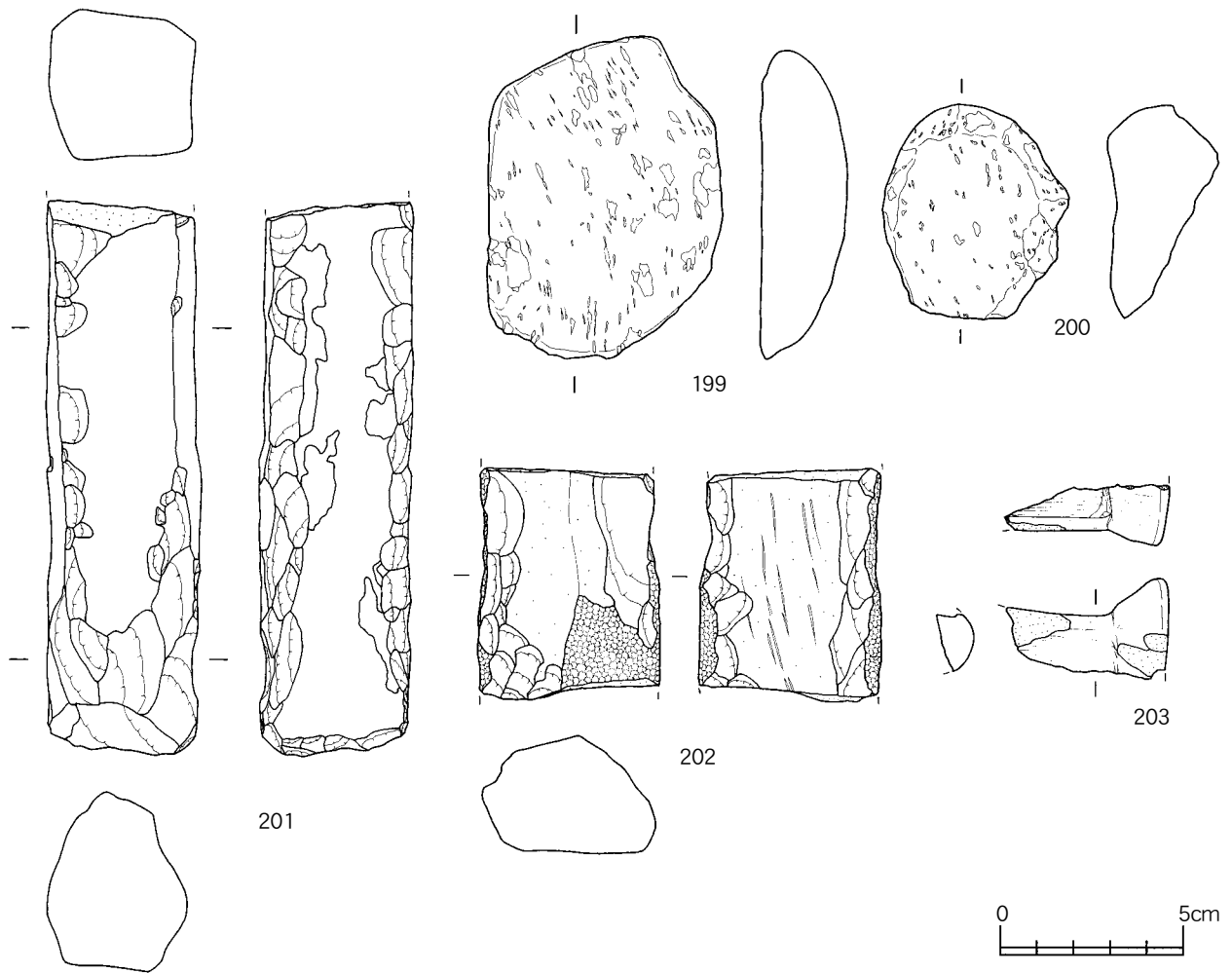
第44図 東側調査区出土石製品(8)



第45図 東側調査区出土石製品(9)



第46図 東側調査区出土石製品(10)



第47図 東側調査区出土石製品(11)

第33表 東側調査区出土石製品観察表(1)

図版番号	整理番号	種別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備考
37-1	67	三角形岩版	U-8		a、長さ27、幅25、厚さ11、重さ6.0、泥岩	
37-2	146	三角形岩版	T~V		a、長さ28、幅20、厚さ7、重さ5.8、泥岩	
37-3	137	三角形岩版	T~V		a、長さ(28)、幅(27)、厚さ7、重さ4.8、泥岩	
37-4	138	三角形岩版	T~V		a、長さ23、幅25、厚さ7、重さ3.5、泥岩	
37-5	50	三角形岩版	M-11		a、長さ29、幅27、厚さ6、重さ4.2、凝灰岩	
37-6	91	三角形岩版	R-6		a、長さ35、幅25、厚さ8、重さ8.5、泥岩	
37-7	135	三角形岩版	T~V		a、長さ39、幅33、厚さ9、重さ8.1、泥岩	
37-8	134	三角形岩版	T~V		a、長さ34、幅41、厚さ6、重さ10.0、凝灰岩	
37-9	54	三角形岩版	Q-5		a、長さ36、幅36、厚さ8、重さ7.6、泥岩	
37-10	58	三角形岩版	S-5		a、長さ37、幅37、厚さ9、重さ11.8、凝灰岩	
37-11	59	三角形岩版	T-6		a、長さ47、幅36、厚さ9、重さ18.5、泥岩	
37-12	46	三角形岩版	Q-3		a、長さ39、幅38、厚さ8、重さ15.2、泥岩	
37-13	45	三角形岩版	Q-3		a、長さ(46)、幅40、厚さ13、重さ19.8、泥岩	
37-14	71	三角形岩版	P-17		a、長さ(43)、幅40、厚さ7、重さ13.、泥岩9	
37-15	66	三角形岩版	S-5		a、長さ(45)、幅(46)、厚さ17、重さ38.7、凝灰岩	
37-16	80	三角形岩版	Q-4		a、長さ43、幅47、厚さ14、重さ30.3、泥岩	
37-17	79	三角形岩版	Q-4		a、長さ41、幅(42)、厚さ14、重さ20.2、凝灰岩	
37-18	72	三角形岩版	R-3		a、長さ45、幅43、厚さ16、重さ25.8、泥岩	
37-19	57	三角形岩版	V-11		a、長さ52、幅(42)、厚さ20、重さ20.2、泥岩	

第34表 東側調査区出土石製品観察表(2)

図版番号	整理番号	種別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備考
37-20	44	三角形岩版	R-3		a、長さ52、幅48、厚さ14、重さ39.7、凝灰岩	
37-21	57	三角形岩版	Q-12		a、長さ43、幅51、厚さ17、重さ35.5、泥岩	
37-22	74	三角形岩版	O-11		a、長さ54、幅45、厚さ15、重さ63.7、安山岩	
37-23	70	三角形岩版	V-9		a、長さ55、幅47、厚さ23、重さ57.1、泥岩	
37-24	55	三角形岩版	Q-18		a、長さ53、幅55、厚さ14、重さ30.8、泥岩	
37-25	86	三角形岩版	Q-4		a、長さ61、幅(41)厚さ17、重さ37.2、凝灰岩	
37-26	145	三角形岩版	T~V		a、長さ67、幅49、厚さ18、重さ73.4、泥岩	
38-27	76	三角形岩版	Q-4		a、長さ56、幅52、厚さ13、重さ35.1、凝灰岩	
38-28	61	三角形岩版	R-7	~	a、長さ54、幅57、厚さ16、重さ28.2、泥岩	
38-29	53	三角形岩版	U-10		a、長さ(49)幅(55)厚さ20、重さ53.1、凝灰岩	
38-30	87	三角形岩版	R-6		a、長さ55、幅53、厚さ16、重さ40.3、泥岩	
38-31	73	三角形岩版	T-9		a、長さ56、幅56、厚さ12、重さ25.7、凝灰岩	
38-32	101	三角形岩版	Q-5		a、長さ(40)幅60、厚さ13、重さ62.6、泥岩	
38-33	106	三角形岩版	R-3		a、長さ68、幅58、厚さ14、重さ66.2、泥岩	
38-34	53	三角形岩版	S-5		a、長さ(66)幅(66)厚さ23、重さ72.9、泥岩	
38-35	141	三角形岩版	T~V		a、長さ67、幅(72)厚さ30、重さ150.7、泥岩	
38-36	102	三角形岩版	O-12		a、長さ(71)幅63、厚さ20、重さ82.5、泥岩	
38-37	104	三角形岩版	N-11		a、長さ86、幅72、厚さ19、重さ151.2、泥岩	
38-38	142	三角形岩版	T~V		a、長さ80、幅75、厚さ22、重さ146.6、泥岩	
38-39	67	三角形岩版	Q-4		c、長さ80、幅75、厚さ27、重さ126.0、泥岩	
38-40	71	三角形岩版	Q-5		c、長さ(53)幅(48)厚さ(18)重さ42.8、泥岩	
38-41	144	三角形岩版	T~V		c、長さ57、幅36、厚さ14、重さ37.2、凝灰岩	
39-42	83	三角形岩版	Q-4		c、長さ(51)幅(41)厚さ13、重さ23.3、泥岩	
39-43	64	三角形岩版	Q-3		d、長さ(71)幅58、厚さ12、重さ51.9、泥岩	
39-44	52	三角形岩版	Q-6		e、長さ49、幅66、厚さ18、重さ58.6、凝灰岩	
39-45	60	三角形岩版	T-6		e、長さ50、幅48、厚さ18、重さ35.2、凝灰岩	
39-46	108	三角形岩版	S-3		i、長さ43、幅28、厚さ8、重さ12.3、泥岩	
39-47	132	三角形岩版	T~V		i、長さ(58)幅(54)厚さ(14)重さ38.5、泥岩	
39-48	47	三角形岩版	S-5		x、長さ36、幅42、厚さ12、重さ22.6、凝灰岩	
39-49	100	三角形岩版	S-10		x、長さ(31)幅(28)厚さ(8)重さ5.3、泥岩	
39-50	43	三角形岩版	R-5		x、長さ(51)幅(35)厚さ12、重さ21.4、泥岩	
39-51	131	三角形岩版	T~V		j 1、長さ51、幅54、厚さ11、重さ33.4、泥岩	
39-52	98	三角形岩版	R-10		j 2、長さ41、幅(25)厚さ6、重さ9.8、泥岩	
39-53	63	三角形岩版	Q-7		j 2、長さ61、幅(48)厚さ12、重さ44.5、泥岩	
39-54	139	三角形岩版	T~V		j 2、長さ63、幅61、厚さ15、重さ54.3、泥岩	
39-55	49	三角形岩版	S-10		j 2、長さ85、幅(75)厚さ21、重さ137.8、泥岩	
39-56	65	三角形岩版	S-7		j 2、長さ(52)幅(52)厚さ8、重さ51.2、凝灰岩	
39-57	61	三角形岩版	Q-5		j 2、長さ70、幅53、厚さ17、重さ68.9、泥岩	
39-58	93	三角形岩版	Q-4		j 2、長さ(68)幅(36)厚さ(20)重さ39.0、泥岩	
40-59	93	三角形岩版	Q-6		j 2、長さ(71)幅(62)厚さ(26)重さ99.3、泥岩	
40-60	62、92	三角形岩版	U-9、V-10		j 2、長さ79、幅(44)厚さ(19)重さ61.5、泥岩	接合資料
40-61	42	三角形岩版	R-4		j 3、長さ41、幅34、厚さ13、重さ21.2、泥岩	
40-62	143	三角形岩版	T~V		j 3、長さ(43)幅42、厚さ16、重さ15.5、泥岩	
40-63	136	三角形岩版	T~V		k、長さ39、幅(31)厚さ10、重さ10.7、泥岩	
40-64	99	三角形岩版	S-5		k、長さ(41)幅68、厚さ(22)重さ55.8、泥岩	
40-65	75	三角形岩版	Q-9		m、長さ64、幅51、厚さ14、重さ62.8、泥岩	
40-66	95	三角形岩版	U-9		m、長さ(73)幅(64)厚さ(26)重さ108.5、凝灰岩	
40-67	77	三角形岩版	V-9		m、長さ(39)幅(40)厚さ(19)重さ42.1、凝灰岩	
40-68	69	三角形岩版	Q-4		n、長さ42、幅60、厚さ12、重さ38.9、泥岩	



第35表 東側調査区出土石製品観察表(3)

図版 番号	整理 番号	種 別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備 考
40-69	73	三角形岩版	S-6		n、長さ41、幅(45)、厚さ11、重さ19.3、凝灰岩	
40-70	70	三角形岩版	Q-8		n、長さ(48)、幅(38)、厚さ(19)、重さ30.0、凝灰岩	
40-71	92	三角形岩版	Q-10		n、長さ(47)、幅(31)、厚さ(26)、重さ34.3、凝灰岩	
40-72	75	三角形岩版	V-10		n、長さ(25)、幅(35)、厚さ(15)、重さ10.8、凝灰岩	
40-73	68	三角形岩版	Q-10		l、長さ62、幅67、厚さ15、重さ48.7、泥岩	
40-74	133	三角形岩版	T~V		l、長さ(60)、幅(57)、厚さ17、重さ42.8、泥岩	
40-75	59	三角形岩版	Q-5		x、長さ52、幅50、厚さ12、重さ36.0、泥岩	
40-76	62	三角形岩版	R-10		x、長さ43、幅44、厚さ16、重さ20.7、泥岩	
40-77	81	三角形岩版	T-9		x、長さ(29)、幅38、厚さ10、重さ10.4、泥岩	
40-78	79	三角形岩版	Q-18		x、長さ(31)、幅(28)、厚さ(9)、重さ6.7、凝灰岩	
40-79	66	三角形岩版	Q-6	~	x、長さ(39)、幅(29)、厚さ15、重さ13.8、泥岩	
41-80	105	三角形岩版	S-5		x、長さ(38)、幅58、厚さ(12)、重さ27.1、泥岩	
41-81	151	三角形岩版	Q-9		x、長さ26、幅(42)、厚さ8、重さ9.7、凝灰岩	
41-82	48	三角形岩版	Q-7		x、長さ60、幅(50)、厚さ13、重さ43.7、泥岩	断面にアスファルト状物質付着
41-83	140	三角形岩版	T~V		x、長さ67、幅48、厚さ18、重さ69.0、凝灰岩	
41-84	65	三角形岩版	V-10		x、長さ47、幅51、厚さ9、重さ22.8、泥岩	
41-85	97	三角形岩版	S-8		a、長さ35、幅53、厚さ16、重さ24.8、泥岩	
	51	三角形岩版	S-9		a、長さ39、幅32、厚さ10、重さ11.4、泥岩	
	56	三角形岩版	Q-6		a、長さ33、幅26、厚さ8、重さ8.6、泥岩	
	60	三角形岩版	L-12		a、長さ37、幅28、厚さ9、重さ13.3、泥岩	
	77	三角形岩版	Q-9		x、長さ(30)、幅(18)、厚さ(14)、重さ6.2、泥岩	
	78	三角形岩版	Q-7		x、長さ(47)、幅(25)、厚さ(14)、重さ132.0、泥岩	
	81	三角形岩版	S-11		a、長さ50、幅(36)、厚さ14、重さ30.9、泥岩	
	84	三角形岩版	R-8		a、長さ(38)、幅(26)、厚さ(14)、重さ17.8、凝灰岩	
	85	三角形岩版	R-5		x、長さ(26)、幅(20)、厚さ(12)、重さ5.3、泥岩	
	88	三角形岩版	S-10		x、長さ(34)、幅(32)、厚さ(18)、重さ20.7、泥岩	
	89	三角形岩版	S-5		x、長さ(37)、幅(30)、厚さ(12)、重さ13.9、凝灰岩	
	90	三角形岩版	Q-7		a、長さ(41)、幅65、厚さ23、重さ69.8、凝灰岩	
	94	三角形岩版	Q-9		x、長さ(21)、幅(30)、厚さ(15)、重さ6.、泥岩1	
	95	三角形岩版	Q-6		x、長さ(48)、幅(36)、厚さ(19)、重さ29.6、泥岩	
	96	三角形岩版	R-10		a、長さ(35)、幅(30)、厚さ(10)、重さ9.7、泥岩	
	103	三角形岩版	R-10		x、長さ(20)、幅43、厚さ(9)、重さ7.1、泥岩	
	107	三角形岩版	S-7		a、長さ(35)、幅(31)、厚さ8、重さ2.6、泥岩	
	146	三角形岩版	S-7		x、長さ(51)、幅(54)、厚さ18、重さ58.1、泥岩	
	154	三角形岩版	R-6		a、長さ(48)、幅(33)、厚さ(15)、重さ21.7、凝灰岩	
	164	三角形岩版	Q-7		a、長さ(70)、幅(61)、厚さ20、重さ61.3、泥岩	
	165	三角形岩版	Q-9		x、長さ(20)、幅(18)、厚さ(8)、重さ7.0、凝灰岩	
	167	三角形岩版	Q-5		x、長さ(25)、幅(26)、厚さ(10)、重さ3.9、泥岩	
	54	三角形岩版	P-16		x、長さ(37)、幅(42)、厚さ(32)、重さ38.9、泥岩	
	56	三角形岩版	Q-18		a、長さ58、幅54、厚さ18、重さ36.9、泥岩	
	58	三角形岩版	R-7	~	a、長さ(28)、幅(39)、厚さ(11)、重さ11.8、泥岩	
	63	三角形岩版	U-8		x、長さ(47)、幅(30)、厚さ14、重さ19.3、泥岩	
	74	三角形岩版	V-12		x、長さ(28)、幅(27)、厚さ(8)、重さ5.3、凝灰岩	
	76	三角形岩版	R-7	~	a、長さ37、幅37、厚さ8、重さ15.3、凝灰岩	
	78	三角形岩版	P-16		x、長さ(43)、幅(42)、厚さ(19)、重さ33.1、泥岩	
	80	三角形岩版	P-18		a、長さ(55)、幅(59)、厚さ19、重さ60.0、泥岩	
	82	三角形岩版	V-9		a、長さ52、幅50、厚さ20、重さ38.3、凝灰岩	
	83	三角形岩版	Q-18		a、長さ(32)、幅(19)、厚さ10、重さ7.2、凝灰岩	

第36表 東側調査区出土石製品観察表(4)

図版番号	整理番号	種別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備考
	84	三角形岩版	U-8		a、長さ36、幅(30)、厚さ9、重さ4.7、泥岩	
	85	三角形岩版	Q-6	~	a、長さ(29)、幅(34)、厚さ(15)、重さ20.8、凝灰岩	
	86	三角形岩版	Q-18		a、長さ29、幅(33)、厚さ19、重さ16.3、泥岩	
	87	三角形岩版	Q-7	~	x、長さ(31)、幅(39)、厚さ(13)、重さ18.5、泥岩	
	88	三角形岩版	P-17		a、長さ42、幅(34)、厚さ17、重さ27.1、泥岩	
	90	三角形岩版	T-11		a、長さ(25)、幅(33)、厚さ(15)、重さ12.4、泥岩	
	94	三角形岩版	Q-16		a、長さ(26)、幅(21)、厚さ(10)、重さ6.8、凝灰岩	
	107	三角形岩版	T-7		x、長さ(32)、幅(32)、厚さ(10)、重さ10.9、泥岩	
41-86	40	円形岩版	P-16		a、両面に同心円状の渦巻状刻線、長さ41、幅40、厚さ8、重さ18.0、泥岩	
41-87	122	円形岩版	T~V		a、片面に渦巻状の刻線、裏面に円形状の刻線、長さ37、幅37、厚さ9、重さ18.6、泥岩	
41-88	13	円形岩版	Q-11		a、両面に渦巻状の刻線、長さ34、幅36、厚さ8、重さ13.5、泥岩	
41-89	121	円形岩版	T~V		a、長さ22、幅(20)、厚さ6、重さ4.4、泥岩	
41-90	9	円形岩版	U-9		a、長さ29、幅30、厚さ7、重さ9.9、凝灰岩	
41-91	27	円形岩版	Q-14		a、長さ32、幅(23)、厚さ6、重さ8.1、泥岩	
41-92	30	円形岩版	S-6		a、長さ37、幅34、厚さ9、重さ15.6、凝灰岩	
41-93	3	円形岩版	Q-3		a、長さ42、幅41、厚さ11、重さ24.0、泥岩	
41-94	124	円形岩版	T~V		a、長さ43、幅41、厚さ11、重さ24.4、泥岩	
41-95	2	円形岩版	T-6		a、長さ28、幅43、厚さ13、重さ34.4、泥岩	
41-96	39	円形岩版	Q-5		a、長さ41、幅40、厚さ10、重さ22.1、泥岩	
41-97	7	円形岩版	R-8		a、長さ45、幅47、厚さ10、重さ15.4、泥岩	
41-98	17	円形岩版	S-11		a、長さ51、幅49、厚さ12、重さ30.1、泥岩	
41-99	24	円形岩版	R-6		a、長さ53、幅(40)、厚さ11、重さ23.3、凝灰岩	
41-100	38	円形岩版	V-9		a、長さ(42)、幅(36)、厚さ(11)、重さ22.6、凝灰岩	
41-101	173	円形岩版	R-9		a、長さ(31)、幅(38)、厚さ(8)、重さ12.0、泥岩	
41-102	25、 214	円形岩版	Q-10、 H(-1)		a、長さ41、幅(38)、厚さ7、重さ8.3、泥岩	接合資料(南側)
42-103	33、 44、 166	円形岩版	S-7		a、長さ62、幅(32)、厚さ11、重さ36.5、泥岩	接合資料
42-104	1	円形岩版	Q-4		b、両面に弧状の刻線、長さ55、幅(30)、厚さ14、重さ25.5、泥岩	
42-105	41	円形岩版	T-6		b、長さ(45)、幅(28)、厚さ(12)、重さ15.8、泥岩	
42-106	156	円形岩版	Q-5		b、長さ29、幅29、厚さ11、重さ11.3、泥岩	
42-107	13	円形岩版	Q-6	~	b、長さ29、幅22、厚さ7、重さ7.5、泥岩	
42-108	26	円形岩版	Q-16		b、長さ28、幅26、厚さ10、重さ8.6、凝灰岩	
42-109	10	円形岩版	Q-10		b、長さ36、幅34、厚さ13、重さ21.0、泥岩	
42-110	31	円形岩版	S-11		b、長さ38、幅(36)、厚さ8、重さ13.6、泥岩	
42-111	23	円形岩版	Q-5		b、長さ38、幅(38)、厚さ12、重さ21.0、泥岩	
42-112	25	円形岩版	V-12		b、長さ40、幅36、厚さ11、重さ21.9、凝灰岩	
42-113	5	円形岩版	Q-16		b、長さ33、幅23、厚さ8、重さ8.9、泥岩	
42-114	18	円形岩版	U-8		b、長さ45、幅44、厚さ12、重さ31.5、凝灰岩	
42-115	9	円形岩版	P-8		b、長さ48、幅42、厚さ25、重さ59.1、泥岩	
42-116	8	円形岩版	R-8		b、長さ77、幅69、厚さ25、重さ161.2、凝灰岩	
42-117	37	円形岩版	S-11		b、長さ43、幅(26)、厚さ14、重さ、凝灰岩	
42-118	43	円形岩版	V-10		b、長さ(32)、幅(32)、厚さ(12)、重さ11.9、泥岩	
42-119	19	円形岩版	V-11		b、長さ36、幅32、厚さ7、重さ10.8、泥岩	
42-120	22	円形岩版	Q-15		b、長さ31、幅26、厚さ11、重さ10.1、泥岩	
42-121	16	円形岩版	Q-9		b、長さ38、幅(36)、厚さ12、重さ15.7、凝灰岩	

第37表 東側調査区出土石製品観察表(5)

図版 番号	整理 番号	種 別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備 考
42-122	127	円形岩版	T ~ V		f、長さ45、幅39、厚さ7、重さ14.4、泥岩	
42-123	125	円形岩版	T-6		f、長さ70、幅68、厚さ18、重さ79.6、泥岩	全面に褐色顔料 付着
42-124	14	円形岩版	R-4		f、長さ50、幅41、厚さ14、重さ39.0、泥岩	
42-125	12	円形岩版	R-8		f、長さ40、幅(38)厚さ15、重さ18.8、凝灰岩	
43-126	171	円形岩版	P-12		c、長さ35、幅33、厚さ4、重さ8.8、安山岩	黒色付着物分析 予定
43-127	6	円形岩版	S-6		c、長さ40、幅39、厚さ13、重さ23.2、泥岩	
43-128	21	円形岩版	Q-7		c、長さ42、幅41、厚さ9、重さ24.1、凝灰岩	
43-129	31	円形岩版	Q-18		c、長さ54、幅50、厚さ9、重さ41.0、安山岩	
	2	円形岩版	P-9		a、長さ(24)幅(25)厚さ(5)重さ4.2、泥岩	
	4	円形岩版	P-8		a、長さ34、幅(20)厚さ8、重さ6.7、泥岩	
	5	円形岩版	R-7		a、長さ(37)幅(23)厚さ7、重さ8.0、凝灰岩	
	11	円形岩版	R-10		a、長さ(37)幅(18)厚さ(5)重さ2.7、泥岩	
	15	円形岩版	Q-12		a、長さ30、幅(15)厚さ5、重さ3.0、泥岩	
	18	円形岩版	Q-7		b、長さ(53)幅(32)厚さ12、重さ16.5、泥岩	
	19	円形岩版	Q-5		a、長さ(30)幅(24)厚さ(10)重さ7.3、凝灰岩	
	20	円形岩版	O-11		a、長さ(24)幅(36)厚さ(9)重さ6.3、凝灰岩	
	22	円形岩版	Q-9		a、長さ(30)幅(33)厚さ(9)重さ7.6、泥岩	
	26	円形岩版	Q-5		b、長さ44、幅(24)厚さ(9)重さ9.7、泥岩	
	27	円形岩版	Q-5		a、長さ52、幅(30)厚さ10、重さ7.2、泥岩	
	28	円形岩版	P-10		a、長さ32、幅32、厚さ10、重さ15.2、泥岩	
	29	円形岩版	Q-7		a、長さ48、幅(26)厚さ10、重さ10.7、凝灰岩	
	32	円形岩版	N-11		a、長さ(25)幅(22)厚さ(9)重さ5.7、泥岩	
	34	円形岩版	Q-5		a、長さ(36)幅(22)厚さ(10)重さ9.0、泥岩	
	36	円形岩版	N-12		a、長さ(44)幅(27)厚さ(8)重さ11.6、凝灰岩	
	40	円形岩版	L-12		b、長さ43、幅(23)厚さ7、重さ7.8、凝灰岩	
	158	円形岩版	R-9		a、長さ40、幅(21)厚さ9、重さ8.5、凝灰岩	
	174	円形岩版	S-10		a、長さ(39)幅(19)厚さ(12)重さ10.0、泥岩	
	175	円形岩版	S-10		b、長さ33、幅(13)厚さ5、重さ5.3、凝灰岩	
	176	円形岩版	S-7		a、長さ(15)幅(37)厚さ(7)重さ4.9、泥岩	
	3	円形岩版	P-17		b、長さ42、幅40、厚さ13、重さ9.6、泥岩	
	6	円形岩版	P-17		a、長さ48、幅29、厚さ11、重さ15.8、泥岩	
	7	円形岩版	V-10		b、長さ42、幅(22)厚さ9、重さ5.9、泥岩	
	10	円形岩版	Q-14		a、長さ(30)幅(36)厚さ9、重さ11.9、泥岩	
	12	円形岩版	V-12		a、長さ(20)幅(35)厚さ(9)重さ6.0、泥岩	
	17	円形岩版	P-18		a、長さ(26)幅(20)厚さ(11)重さ5.2、泥岩	
	20	円形岩版	Q-15		b、長さ35、幅(26)厚さ(7)重さ3.6、泥岩	
	21	円形岩版	Q-16		a、長さ(23)幅(23)厚さ(8)重さ7.5、凝灰岩	
	28	円形岩版	V-10		a、長さ53、幅(32)厚さ12、重さ30.1、凝灰岩	
	29	円形岩版	Q-6	~	a、長さ(30)幅(27)厚さ(8)重さ9.0、泥岩	
	30	円形岩版	P-18		a、長さ(29)幅(44)厚さ(8)重さ15.8、凝灰岩	
	36	円形岩版	P-17		a、長さ(28)幅(28)厚さ(12)重さ15.0、泥岩	
	37	円形岩版	Q-15		a、長さ44、幅47、厚さ11、重さ13.7、泥岩	
	42	円形岩版	T-10		b、長さ38、幅35、厚さ11、重さ7.0、泥岩	
	44	円形岩版	P-7		a、長さ(23)幅(21)厚さ(9)重さ6.3、泥岩	
	45	円形岩版	Q-14		a、長さ39、幅(29)厚さ7、重さ13.1、泥岩	
	46	円形岩版	P-18		a、長さ(37)幅(34)厚さ9、重さ8.3、泥岩	
	47	円形岩版	P-18		a、長さ(39)幅(27)厚さ10、重さ11.1、泥岩	

第38表 東側調査区出土石製品観察表(6)

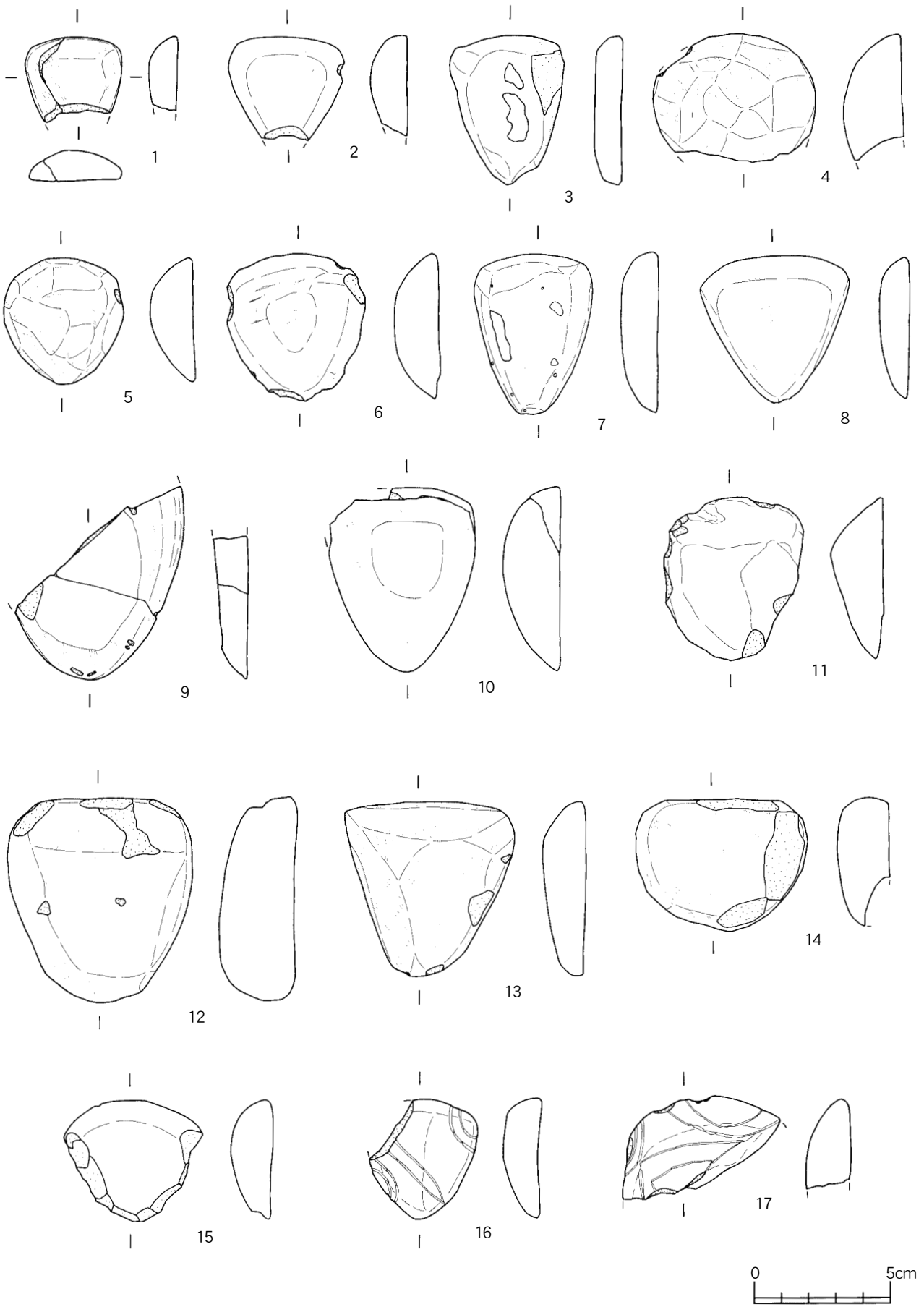
図版番号	整理番号	種別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備考
	48	円形岩版	U-11		b、長さ(23)幅(33)厚さ(9)重さ5.8、泥岩	
	49	円形岩版	P-18		a、長さ52、幅48、厚さ14、重さ45.9、凝灰岩	
	50	円形岩版	V-11		a、長さ(40)幅(18)厚さ(11)重さ4.9、泥岩	
	51	円形岩版	P-16		a、長さ36、幅(20)厚さ10、重さ9.1、泥岩	
	52	円形岩版	R-6	~	a、長さ(40)幅(23)厚さ(7)重さ6.4、泥岩	
	101	円形岩版	T-7		a、長さ42、幅36、厚さ12、重さ7.1、泥岩	
	123	円形岩版	T~V		a、長さ38、幅34、厚さ8、重さ15.0、泥岩	
	126	円形岩版	T~V		a、長さ36、幅36、厚さ9、重さ12.7、泥岩	
	128	円形岩版	T~V		a、長さ25、幅25、厚さ7、重さ6.1、泥岩	
43-130	55	その他の岩版	Q-3		台形、表面球状、長さ63、幅66、厚さ19、重さ84.0、泥岩	
43-131	100	その他の岩版	P-17		方形、表面球状、長さ50、幅43、厚さ15、重さ45.1、凝灰岩	
43-132	64	その他の岩版	V-8		台形、表面球状、長さ43、幅44、厚さ11、重さ23.9、泥岩	
43-133	68	その他の岩版	U-8		表面球状、長さ45、幅(40)厚さ20、重さ15.8、泥岩	
43-134	108	その他の岩版	Q-18		表面球状、長さ53、幅52、厚さ13、重さ36.8、泥岩	
43-135	89	その他の岩版	Q-18		半円形、表面球状、弧状線、長さ27、幅41、厚さ8、重さ11.6、泥岩	
43-136	147	その他の岩版	P-14		表面球状、弧状線、長さ(48)幅29、厚さ11、重さ15.6、泥岩	
43-137	149	その他の岩版	T~V		楕円形、両面平滑、長さ61、幅39、厚さ6、重さ17.5、泥岩	
43-138	38	その他の岩版	Q-9		楕円形、両面平滑、長さ20、幅15、厚さ5、重さ2.3、凝灰岩	
43-139	148	その他の岩版	T~V		楕円形、両面平滑、長さ36、幅29、厚さ11、重さ16.6、凝灰岩	
43-140	14	その他の岩版	Q-16		楕円形、両面平滑、長さ54幅34、厚さ8、重さ7.0、泥岩	
43-141	140	その他の岩版	P-9		楕円形、表面球状、長さ35、幅28、厚さ5、重さ5.5、凝灰岩	
43-142	34	その他の岩版	U-8		楕円形、両面平滑、長さ42、幅(20)厚さ7、重さ8.3、凝灰岩	
43-143	143	その他の岩版	M-11		円形の刻線、長さ34、幅21、厚さ12、重さ5.8、泥岩	
43-144	92	その他の岩版	T-7		刻線、長さ37、幅50、厚さ10、重さ17.8、泥岩	
43-145	145	その他の岩版	N-11		刻線、長さ(31)幅(39)厚さ(14)重さ11.9、凝灰岩	
	170	その他の岩版	Q-3		原礫の一部を研磨、長さ31、幅27、厚さ16、重さ13.0、泥岩	
	157	その他の岩版	R-3		長さ61、幅51、厚さ23、重さ103.8、凝灰岩	
	142	その他の岩版	Q-9		楕円形、両面平滑、長さ(47)幅(33)厚さ19、重さ29.9、凝灰岩	
	98	その他の岩版	Q-15		楕円形、長さ(36)幅(63)厚さ(25)重さ37.9、凝灰岩	
43-146	97	岩版未製品	V-10		原礫の一部を敲打、長さ45、幅31、厚さ16、重さ22.1、泥岩	
43-147	23	岩版未製品	Q-18		長さ40、幅51、厚さ10、重さ28.0、泥岩	
43-148	159	岩版未製品	R-9		原礫の分割後に剥離、長さ56、幅52、厚さ16、重さ44.2、泥岩	
43-149	32	岩版未製品	Q-18		長さ39、幅36、厚さ6、重さ14.1、凝灰岩	
44-150	163b	岩版未製品	Q-6		長さ76、幅57、厚さ22、重さ119.9、泥岩	
44-151	144	岩版未製品	Q-4		原礫の一部を研磨、長さ59、幅41、厚さ13、重さ32.6、凝灰岩	
44-152	148	岩版未製品	R-7		長さ(68)幅44、厚さ10、重さ30.7、泥岩	
44-153	137	岩版未製品	R-3		原礫の分割後に研磨、長さ52、幅(37)厚さ(13)重さ31.2、凝灰岩	

第39表 東側調査区出土石製品観察表(7)

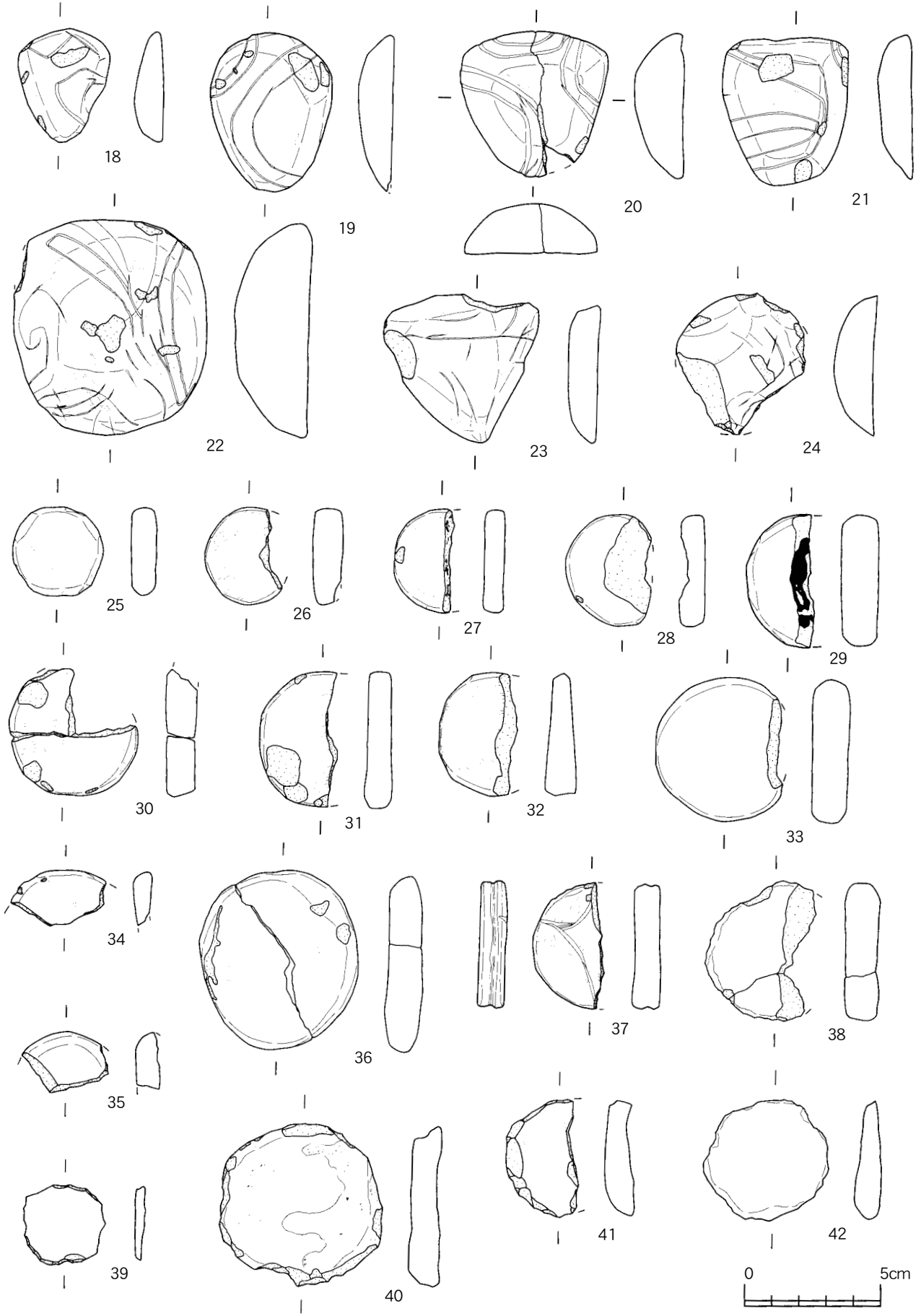
図版番号	整理番号	種別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備考
44-154	141	岩版未製品	Q-9		長さ(29)幅25、厚さ16、重さ13.1、泥岩	
44-155	147	岩版未製品	Q-6		原礫半割、長さ49、幅36、厚さ14、重さ27.5、泥岩	
44-156	8	岩版未製品	P-17		原礫半割、長さ48、幅49、厚さ(24)重さ32.1、泥岩	
44-157	15	岩版未製品	T-6		原礫半割、長さ63、幅52、厚さ24、重さ41.8、泥岩	
44-158	129	岩版未製品	T~V		原礫半割、長さ47、幅43、厚さ14、重さ27.6、泥岩	
44-159	111	岩版未製品	S-3		原礫半割、長さ48、幅29、厚さ17、重さ32.3、泥岩	
44-160	105	岩版未製品	Q-7	~	原礫数分割、長さ46、幅(35)厚さ(9)重さ13.4、泥岩	
44-161	102	岩版未製品	V-9		長さ37、幅30、厚さ8、重さ4.0、泥岩	
44-162	1	岩版未製品	P-17		長さ35、幅37、厚さ24、重さ17.6、泥岩	
44-163	150	岩版未製品	R-7		長さ57、幅36、厚さ6、重さ14.7、泥岩	
44-164	139	岩版未製品	S-11		原礫の分割後、表面を研磨、長さ30、幅25、厚さ14、重さ4.9、泥岩	
44-165	35	岩版未製品	S-5		長さ(36)幅(26)厚さ11、重さ6.4、泥岩	
44-166	136	岩版未製品	M-11		長さ(40)幅31、厚さ9、重さ9.3、凝灰岩	
44-167	163 a	岩版未製品	Q-6		原礫の一部を研磨、長さ40、幅33、厚さ10、重さ14.8、泥岩	
44-168	106	岩版未製品	Q-7	~	長さ24、幅33、厚さ19、重さ15.7、泥岩	
	138	岩版未製品	Q-7		原礫の分割、長さ(74)幅(51)厚さ16、重さ42.4、泥岩	
	111	岩版未製品	O-12		原礫の一部を研磨、長さ48、幅29、厚さ17、重さ11.1、凝灰岩	
	112	岩版未製品	P-17		分割後裏面を研磨、長さ37、幅32、厚さ12、重さ14.7、泥岩	
	911	岩版未製品	M-11		三角形、原礫の分割後周縁を剥離、長さ46、幅52、厚さ16、重さ31.7、泥岩	
	99	岩版未製品	V-8		長さ66、幅(60)厚さ18、重さ79.7、泥岩	
	103	岩版未製品	R-6		分割後裏面を研磨、長さ55、幅47、厚さ27、重さ33.4、泥岩	
	4	岩版未製品	P-17		原礫の分割、長さ46、幅44、厚さ7、重さ10.4、泥岩	
	109	岩版未製品	Q-7	~	原礫の一部を剥離、長さ64、幅61、厚さ21、重さ92.1、泥岩	
	110	岩版未製品	T-11		原礫の分割、長さ68、幅61、厚さ11、重さ45.8、泥岩	
	130	岩版未製品	T~V		原礫の分割、長さ42、幅40、厚さ11、重さ14.5、泥岩	
	833	岩版未製品	P-11		長さ90、幅87、厚さ30、重さ269.3、凝灰岩	
45-169	96	有孔石製品	V-10		原礫に孔途中、長さ(78)幅77、厚さ21、重さ126.6 孔径20、泥岩	
45-170	150	有孔石製品	T~V		孔途中、長さ35、幅39、厚さ10、重さ17.9、孔径11、凝灰岩	
45-171	151	有孔石製品	T~V		孔途中、長さ46、幅31、厚さ8、重さ14.0、孔径6、凝灰岩	
45-172	11	有孔石製品	V-11		孔途中、長さ36、幅(27)厚さ8、重さ11.4、孔径7、泥岩	
45-173	114	有孔石製品	K-12		孔途中、長さ55、幅11、厚さ7、重さ7.9、孔径2、頁岩	
45-174	131	有孔石製品	S-10		貫通孔、長さ35、幅21、厚さ6、重さ6.1、孔径9、凝灰岩	
45-175	133	有孔石製品	P-9		貫通孔、長さ30、幅18、厚さ5、重さ4.0、孔径4、凝灰岩	
45-176	134	有孔石製品	S-5		貫通孔、長さ24、幅(13)厚さ8、重さ3.3、孔径7、凝灰岩	
45-177	130	有孔石製品	Q-9		貫通孔、長さ31、幅21、厚さ11、重さ10.5、孔径9、凝灰岩	
45-178	153	有孔石製品	T~V		貫通孔、長さ39、幅26、厚さ10、重さ4.7、孔径7、泥岩	
45-179	132	有孔石製品	Q-7		貫通孔、長さ21、幅18、厚さ11、重さ3.4、孔径4、泥岩	
45-180	152	有孔石製品	T~V		貫通孔、長さ34、幅16、厚さ7、重さ7.4、孔径7、凝灰岩	
45-181	129	有孔石製品	S-7		貫通孔、2孔、長さ80、幅58、厚さ12、重さ85.3、孔径9・10、凝灰岩	

第40表 東側調査区出土石製品観察表(8)

図版 番号	整理 番号	種 別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備 考
45-182	128	有孔石製品	Q-10		貫通孔、長さ37、幅18、厚さ6、重さ4.6、孔径6、凝灰岩	
45-183	154	有孔石製品	T~V		貫通孔、長さ(49)、幅(22)、厚さ16、重さ14.3、泥岩	
45-184	127	有孔石製品	Q-7		貫通孔、長さ19、幅19、厚さ10、重さ5.1、孔径5、メノウ	
45-185	125	碗状石製品	R-4		長さ29、幅29、厚さ26、重さ17.4、孔径16、泥岩	
45-186	123	碗状石製品	S-10		長さ46、幅42、厚さ30、重さ24.3、孔径30、泥岩	
45-187	117	碗状石製品	Q-18		台付、長さ30、幅40、厚さ31、重さ20.1、泥岩	
46-188	126	球状石製品	R-4		長さ25、幅26、厚さ(13)、重さ11.2、凝灰岩	
46-189	118	球状石製品	V-9		長さ34、幅35、厚さ30、重さ36.0、泥岩	
46-190	124	球状石製品	Q-4		長さ34、幅30、厚さ31、重さ14.1、泥岩	
46-191	24	球状石製品	P-17		長さ34、幅34、厚さ(22)、重さ12.5、泥岩	
46-192	120	球状石製品	M-12		長さ40、幅36、厚さ37、重さ62.0、泥岩	
46-193	115	球状石製品	T-10		長さ49、幅50、厚さ48、重さ110.0、泥岩	
46-194	120	球状石製品	V-9		長さ57、幅56、厚さ56、重さ122.9、凝灰岩	
	299	球状石製品	R-9		長さ55、幅55、厚さ49、重さ125.3、泥岩	
46-195	117	石冠	Q-12		半円形、長さ45、幅68、厚さ25、重さ91.0、凝灰岩	
46-196	110	石冠	R-11		長方形、長さ40、幅60、厚さ25、重さ57.5、凝灰岩	
46-197	119	軽石製石製品	Q-10		辺の長い台形、各面が面取り、長さ124、幅57、厚さ22、重さ134.3、軽石	
46-199	113	軽石未製品	T-11		一部が平坦に研磨、長さ85、幅64、厚さ24、重さ26.0、軽石	
46-198	114	軽石未製品	U-12		表面球状、裏面平坦に研磨、長さ76、幅59、厚さ31、重さ28.4、軽石	
47-200	161	軽石未製品	Q-5		長さ58、幅50、厚さ30、重さ38.7、軽石	
47-201	840	石棒未製品	S-4		剥離調整、長さ(150)、幅41、厚さ41、重さ450.4、泥岩	
47-202	839	石棒未製品	R-6		剥離調整、長さ(64)、幅50、厚さ37、重さ161.8、泥岩	
47-203	69	石刀	T-7		柄の部分のみ残存、長さ(44)、幅(28)、厚さ(16)、重さ14.8、粘板岩	

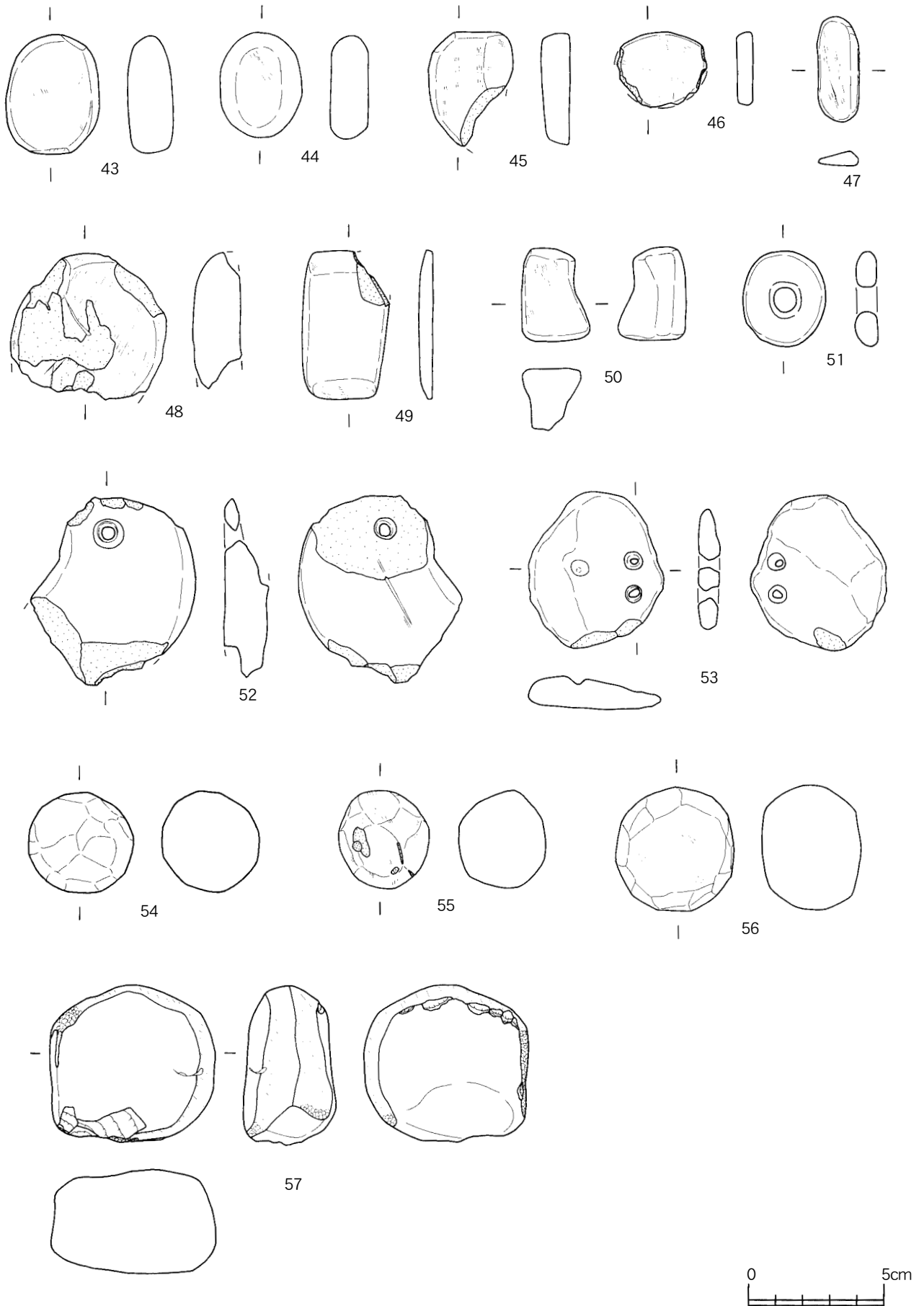


第48図 南側調査区出土石製品(1)



第49図 南側調査区出土石製品(2)





第50図 南側調査区出土石製品(3)

第41表 南側調査区出土石製品観察表(1)

図版番号	整理番号	種別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備考
48-1	263、290	三角形岩版	G-0		a、長さ(28)幅35、厚さ11、重さ10.5、泥岩	接合資料
48-2	237	三角形岩版	H-3		a、長さ(36)幅42、厚さ13、重さ21.0、凝灰岩	
48-3	239	三角形岩版	H(-1)		a、長さ54、幅42、厚さ10、重さ28.9、泥岩	
48-4	213	三角形岩版	H-0		a、長さ(47)幅60、厚さ21、重さ30.9、泥岩	
48-5	251	三角形岩版	G-0		a、長さ47、幅45、厚さ16、重さ32.2、泥岩	
48-6	250	三角形岩版	G(-1)		a、長さ54、幅(48)厚さ16、重さ46.2、泥岩	
48-7	247	三角形岩版	G(-1)		a、長さ59、幅43、厚さ13、重さ34.8、泥岩	
48-8	248	三角形岩版	G-1		a、長さ54、幅54、厚さ11、重さ31.7、泥岩	
48-9	233、234	三角形岩版	G(-1)		a、長さ(53)幅(41)厚さ(12)重さ43.3、泥岩	接合資料
48-10	246、259	三角形岩版	G(-1) G(-2)		a、長さ67、幅(53)厚さ21、重さ75.0、凝灰岩	接合資料
48-11	82	三角形岩版	H-0		a、長さ60、幅50、厚さ19、重さ37.6、泥岩	
48-12	255	三角形岩版	G(-1)		a、長さ75、幅67、厚さ28、重さ151.6、凝灰岩	
48-13	238	三角形岩版	H(-1)		a、長さ64、幅61、厚さ16、重さ35.8、泥岩	
48-14	276	その他の岩版	H-0		a、長さ49、幅62、厚さ19、重さ35.3、泥岩	
48-15	202	三角形岩版	H-0		a、長さ45、幅52、厚さ15、重さ18.3、泥岩	
48-16	257	三角形岩版	G-0		i、長さ44、幅(36)厚さ12、重さ15.1、凝灰岩	
48-17	245	三角形岩版	G-2		j1、長さ(33)幅(53)厚さ(16)重さ32.0、泥岩	
49-18	241	三角形岩版	H(-1)		j1、長さ42、幅33、厚さ11、重さ12.9、凝灰岩	
49-19	236	三角形岩版	H-0		j1、長さ58、幅46、厚さ17、重さ32.9、泥岩	
49-20	231、232	三角形岩版	G-2、H-0		j1、長さ53、幅54、厚さ17、重さ43.6、凝灰岩	接合資料
49-21	254	三角形岩版	G-2		x、長さ53、幅45、厚さ13、重さ34.3、凝灰岩	
49-22	282	三角形岩版	G-0		n、長さ79、幅72、厚さ27、重さ182.6、泥岩	
49-23	249	三角形岩版	G(-1)		x、長さ(52)幅56、厚さ11、重さ17.9、泥岩	
49-24	209	三角形岩版	G(-1)		x、長さ52、幅(46)厚さ14、重さ31.3、泥岩	
	235	三角形岩版	H-0		a、長さ(43)幅(47)厚さ(20)重さ25.4、泥岩	
	242	三角形岩版	H(-1)		a、長さ40、幅38、厚さ11、重さ8.9、泥岩	
	243	三角形岩版	G-0		a、長さ(27)幅(35)厚さ(9)重さ8.0、凝灰岩	
	244	三角形岩版	G-0		x、長さ(45)幅(33)厚さ(11)重さ23.5、泥岩	
	252	三角形岩版	G-0		x、長さ(26)幅(23)厚さ(9)重さ4.6、泥岩	
	253	三角形岩版	G-0		a、長さ(15)幅25、厚さ4、重さ1.9、凝灰岩	
	256	三角形岩版	G-2		x、長さ(31)幅(41)厚さ(12)重さ14.7、凝灰岩	
	258	三角形岩版	G(-1)		x、長さ(49)幅(39)厚さ(26)重さ29.9、泥岩	
	260	三角形岩版	G(-1)		x、長さ(42)幅(27)厚さ(21)重さ19.9、泥岩	
	264	三角形岩版	H-0		x、長さ(24)幅(20)厚さ(11)重さ4.8、凝灰岩	
	265	三角形岩版	H-0		a、長さ(42)幅(17)厚さ(11)重さ6.2、凝灰岩	
	266	三角形岩版	H-0		x、長さ(38)幅(26)厚さ(11)重さ8.1、泥岩	
49-25	294	円形岩版	G-2		a、長さ33、幅33、厚さ9、重さ8.3、凝灰岩	
49-26	230	円形岩版	G-2		a、長さ36、幅(23)厚さ11、重さ11.9、泥岩	

第42表 南側調査区出土石製品観察表(2)

図版番号	整理番号	種別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備考
49-27	208	円形岩版	G(-1)		a、長さ39、幅(19)厚さ7、重さ5.9、泥岩	断面にアスファルト状物質付着
49-28	206	円形岩版	G-0		a、長さ46、幅(32)厚さ9、重さ15.0、凝灰岩	
49-29	200	円形岩版	H-0		a、長さ48、幅(24)厚さ13、重さ18.6、凝灰岩	断面にアスファルト状物質付着
49-30	221、222	円形岩版	G-1、G-0		a、長さ(46)幅(47)、厚さ11、重さ24.8、泥岩	接合資料
49-31	220	円形岩版	H-0		a、長さ50、幅(28)厚さ10、重さ19.2、泥岩	
49-32	290	円形岩版	G(-1)		a、長さ46、幅(29)厚さ11、重さ16.3、泥岩	
49-33	224	円形岩版	H(-1)		a、長さ53、幅(45)厚さ13、重さ57.4、凝灰岩	
49-34	298	円形岩版	H-0		a、長さ(20)幅(33)厚さ(6)重さ4.6、泥岩	
49-35	219	円形岩版	G-0		a、長さ(22)幅(30)厚さ(8)重さ7.3、泥岩	
49-36	225、296	円形岩版	G-1		b、長さ66、幅58、厚さ13、重さ58.9、凝灰岩	接合資料
49-37	218	円形岩版	H-0		a、片面に連鎖状の刻線、側面を巡る刻線、長さ46、幅(25)厚さ10、重さ15.6、泥岩	
49-38	228、295	円形岩版	G-0		a、長さ52、幅(33)厚さ13、重さ21.9、凝灰岩	接合資料
49-39	207	円形岩版	H(-1)		c、長さ29、幅29、厚さ3、重さ3.7、泥岩	
49-40	201	円形岩版	H-3		e、長さ59、幅59、厚さ11、重さ42.9、凝灰岩	
49-41	226	円形岩版	G(-1)		e、長さ42、幅(25)厚さ10、重さ10.4、泥岩	
49-42	205	円形岩版	G(-1)		b、長さ44、幅45、厚さ9、重さ8.9、凝灰岩	
	203	円形岩版	G-0		a、長さ49、幅(23)厚さ9、重さ13.6、泥岩	
	204	円形岩版	G-0		a、長さ(38)幅(18)厚さ(6)重さ4.6、泥岩	
	211	円形岩版	G(-1)		a、長さ(38)幅(28)厚さ(11)重さ13.2、泥岩	
	212	円形岩版	G-1		a、長さ(23)幅(27)厚さ(11)重さ8.9、凝灰岩	
	215	円形岩版	G-0		a、長さ(24)幅(31)厚さ(9)重さ8.2、凝灰岩	
	216	円形岩版	G-0		b、長さ(48)幅(25)厚さ(7)重さ9.5、凝灰岩	
	217	円形岩版	H(-1)		a、長さ47、幅(21)厚さ8、重さ10.0、泥岩	
	223	円形岩版	H-1		a、長さ47、幅(27)厚さ11、重さ17.6、凝灰岩	
	229	円形岩版	G(-1)		a、長さ48、幅(31)厚さ10、重さ21.6、凝灰岩	
	291	円形岩版	G-1		a、長さ30、幅(14)厚さ6、重さ3.3、泥岩	
	292	円形岩版	G-2		b、長さ45、幅(32)厚さ9、重さ19.6、泥岩	
	293	円形岩版	G-2		a、長さ(45)幅(37)厚さ(9)重さ15.0、泥岩	
50-43	168	岩版未製品	H-1		原礫の一部研磨、長さ44、幅34、厚さ16、重さ28.2、泥岩	
50-44	277	その他の岩版	G(-1)		楕円形、両面平滑、長さ38、幅30、厚さ14、重さ22.0、凝灰岩	
50-45	267	その他の岩版	G(-1)		楕円形、両面平滑、長さ(42)幅31、厚さ11、重さ6.0、泥岩	
50-46	210	その他の岩版	H(-1)		楕円形、両面平滑、長さ28、幅(32)厚さ6、重さ9.1、凝灰岩	
50-47	278	その他の岩版	G(-1)		長楕円形、両面平滑、長さ39、幅16、厚さ5、重さ2.6、泥岩	
50-48	240	その他の岩版	H-0		表面球状、長さ(53)幅56、厚さ17、重さ46.8、泥岩	
50-49	275	その他の岩版	H-0		長方形、長さ55、幅32、厚さ5、重さ12.7、泥岩	

第43表 南側調査区出土石製品観察表(3)

図版 番号	整理 番号	種 別	出土地点	層位	特徴・計測値(mm・g)	備 考
	274	その他の岩版	H-2		長方形、長さ49、幅35、厚さ10、重さ17.6、凝灰岩	
50-50	279	岩版未製品	H-2		長さ34、幅25、厚さ22、重さ13.2、凝灰岩	
	280	岩版未製品	G-1		原礫の一部を研磨、長さ46、幅43、厚さ30、重さ32.9、泥岩	
	227	岩版未製品	G-0		原礫の一部を研磨、長さ39、幅(22)厚さ11、重さ12.5、泥岩	
50-51	1001	有孔石製品	G-1		貫通孔、長さ35、幅31、厚さ8、重さ5.9、孔径8、凝灰岩	
50-52	272	有孔石製品	H(-1)		貫通孔、長さ69、幅59、厚さ17、重さ55.5、孔径11、凝灰岩	
50-53	273	有孔石製品	G(-1)		貫通孔、2孔、長さ57、幅49、厚さ11、重さ32.9、孔径7、凝灰岩	
50-54	270	球状石製品	G-0		長さ37、幅39、厚さ36、重さ54.5、泥岩	
50-55	159	球状石製品	H-0		長さ36、幅33、厚さ31、重さ32.5、泥岩	
50-56	268	球状石製品	H(-1)		長さ46、幅43、厚さ36、重さ72.8、泥岩	
	160	球状石製品	H-0		長さ58、幅51、厚さ45、重さ156.0、凝灰岩	
50-57	271	その他の石製品	G-1		周縁を研磨、敲打調整、長さ58、幅60、厚さ38、重さ190.9、頁岩	



8-1



8-2



8-3



8-4



9-5



9-6

写真4 東側調査区出土土器(1)

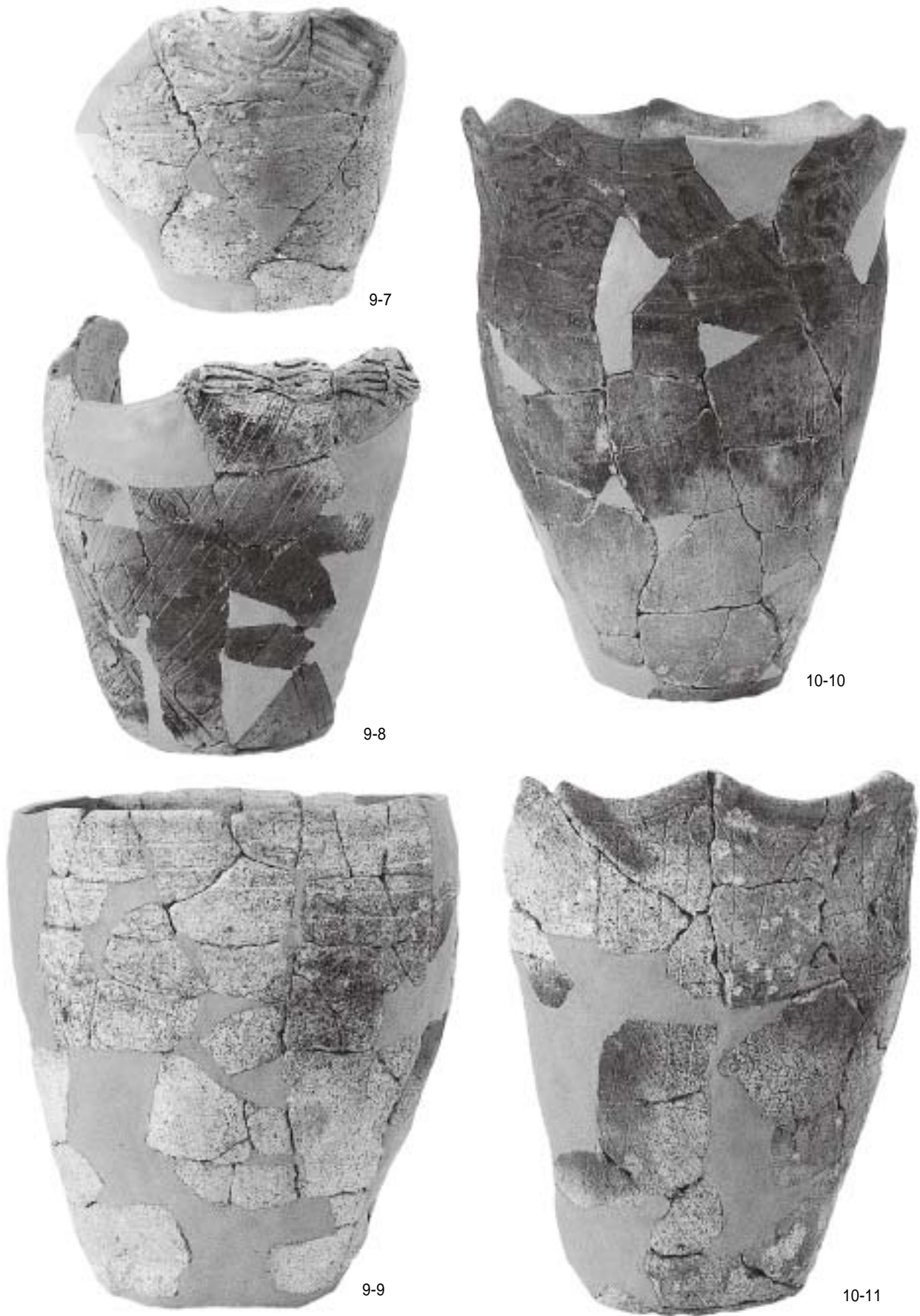


写真5 東側調査区出土土器(2)



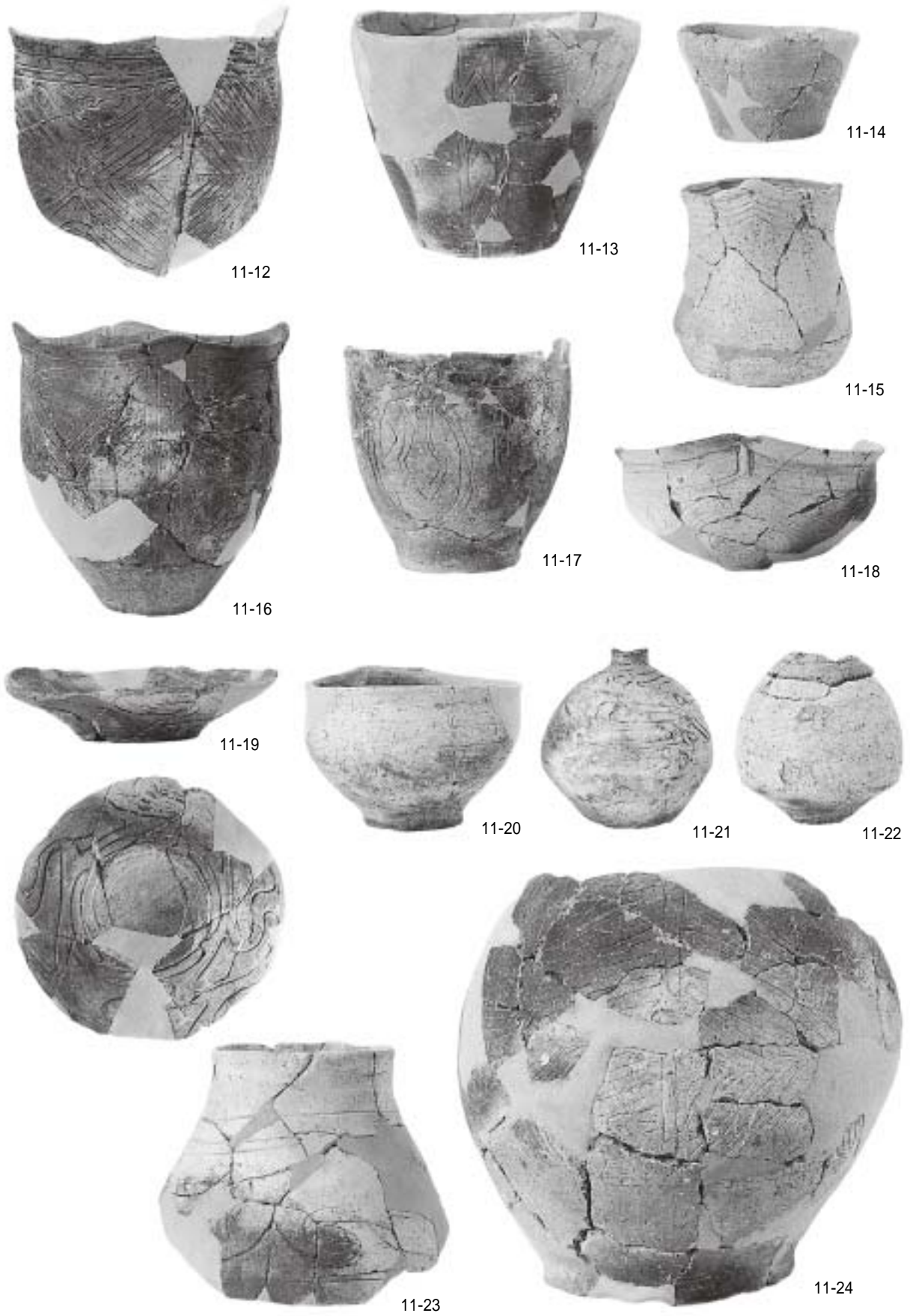


写真6 東側調査区出土土器(3)

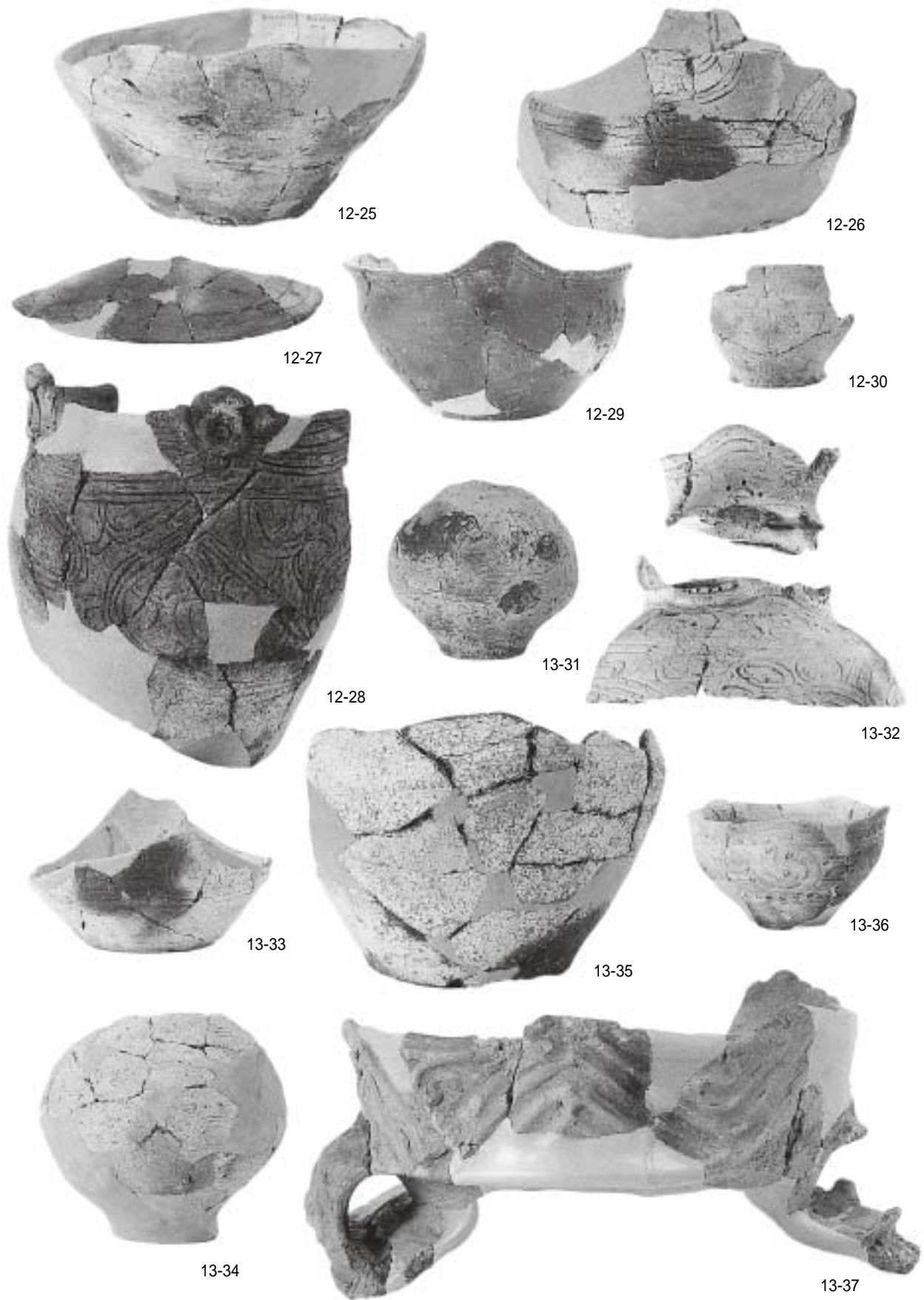
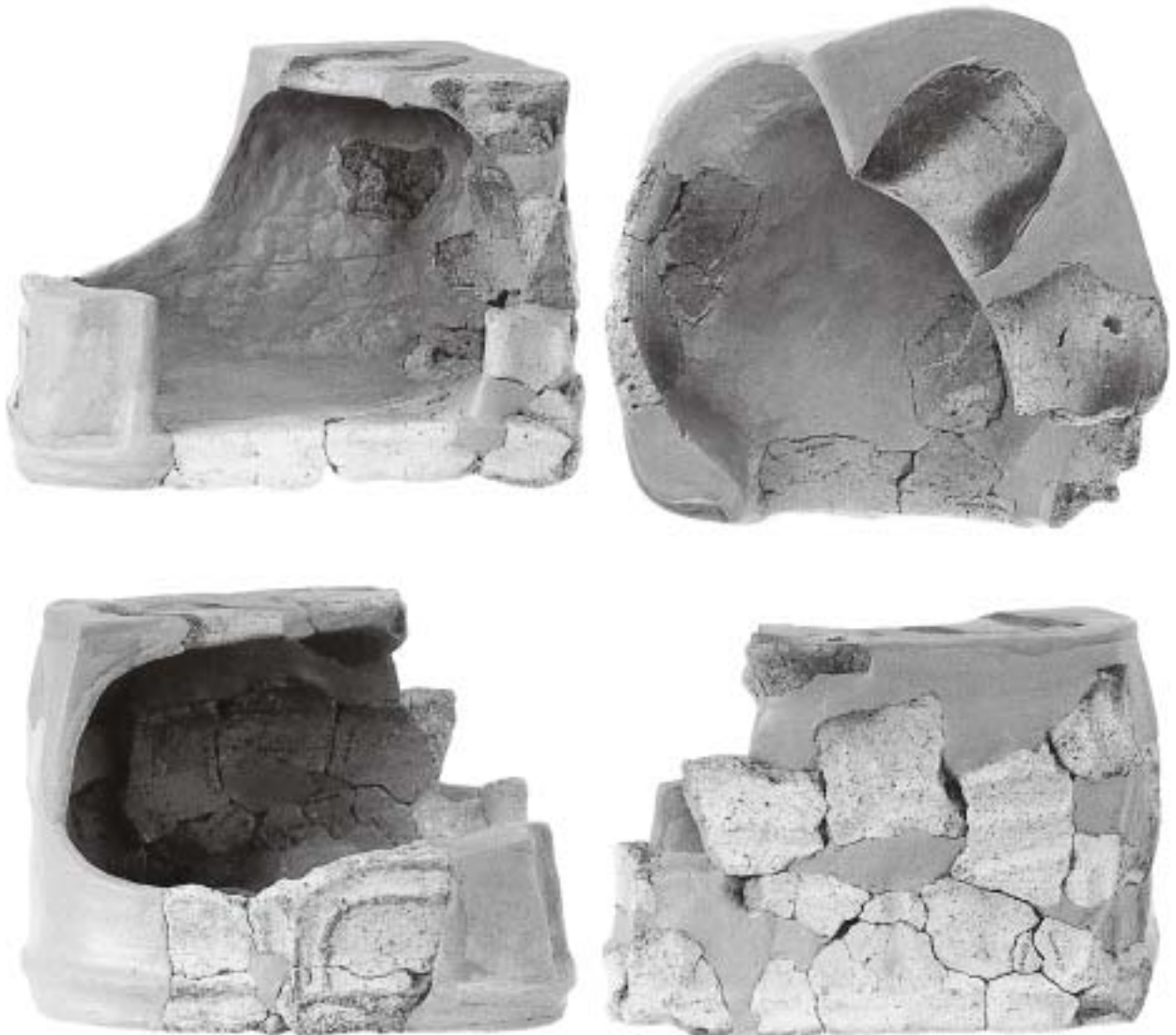


写真7 東側調査区出土土器(4)





14-38



14-39

15-40

写真 8 東側調査区出土土器（5）



15-41



15-42



16-43

写真9 東側調査区出土土器(6)

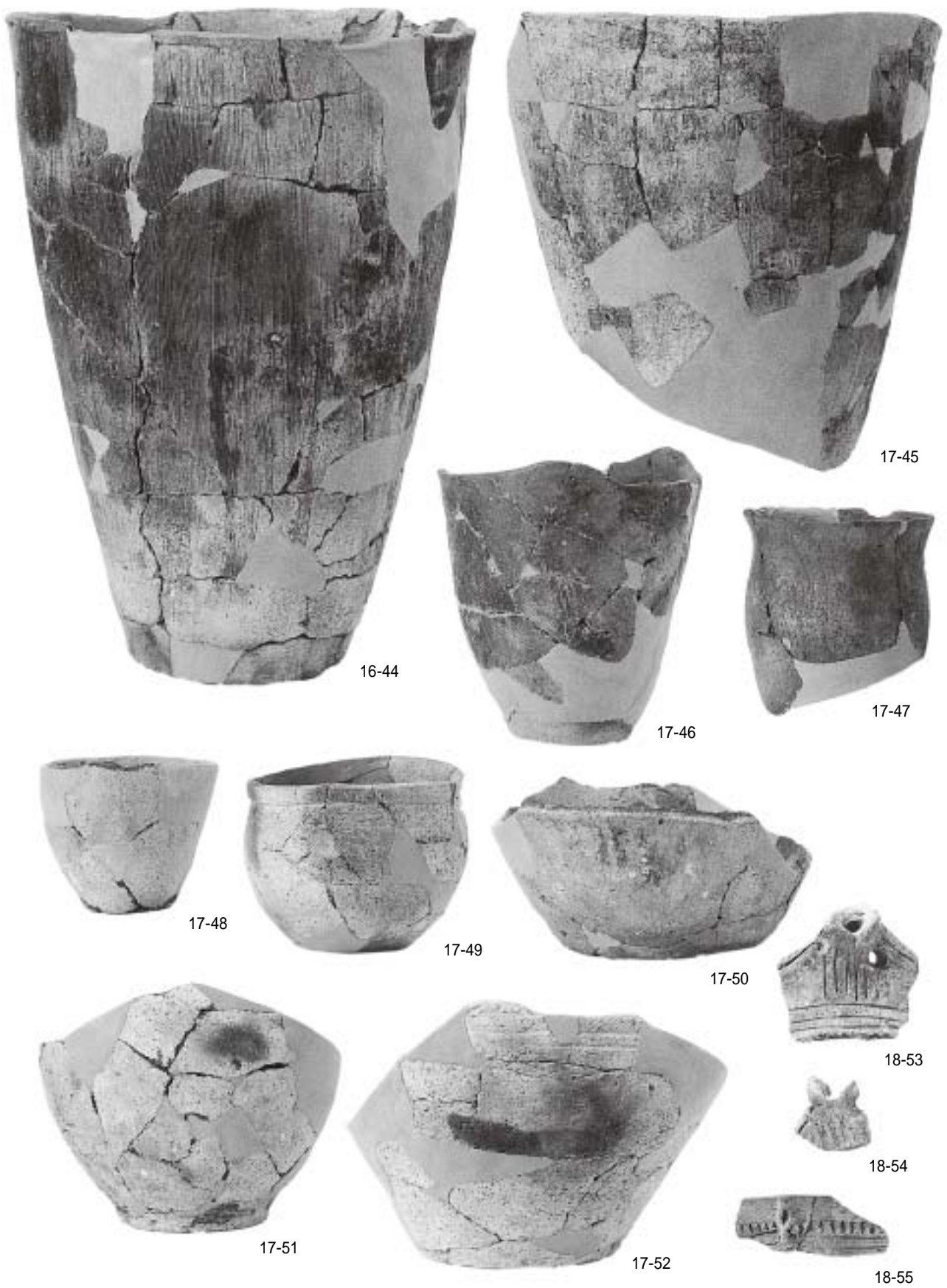


写真10 東側調査区出土土器(7)



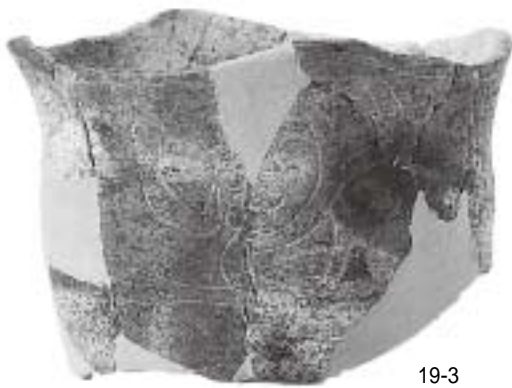


写真11 南側調査区出土土器

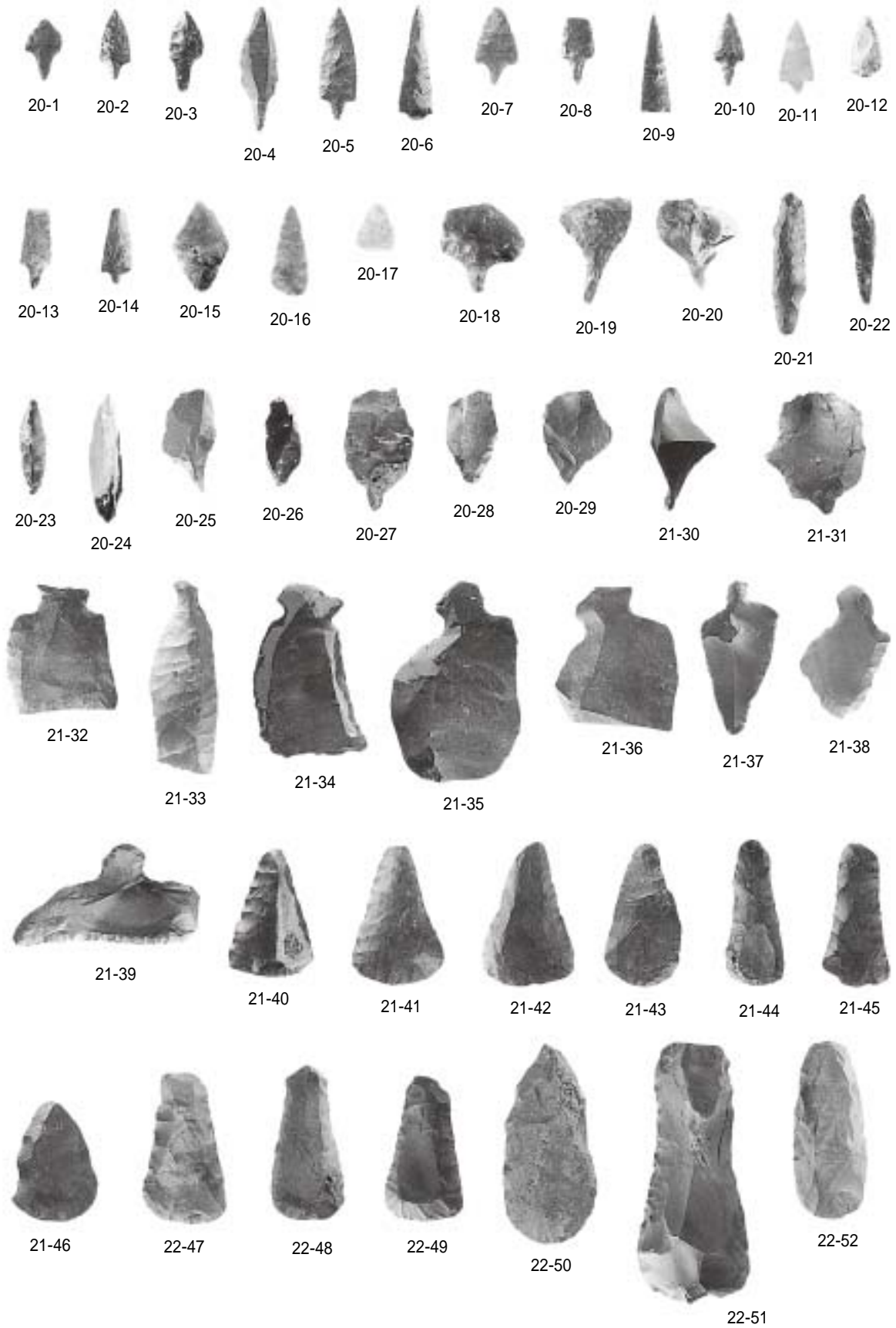


写真12 東側調査区出土石器(1)

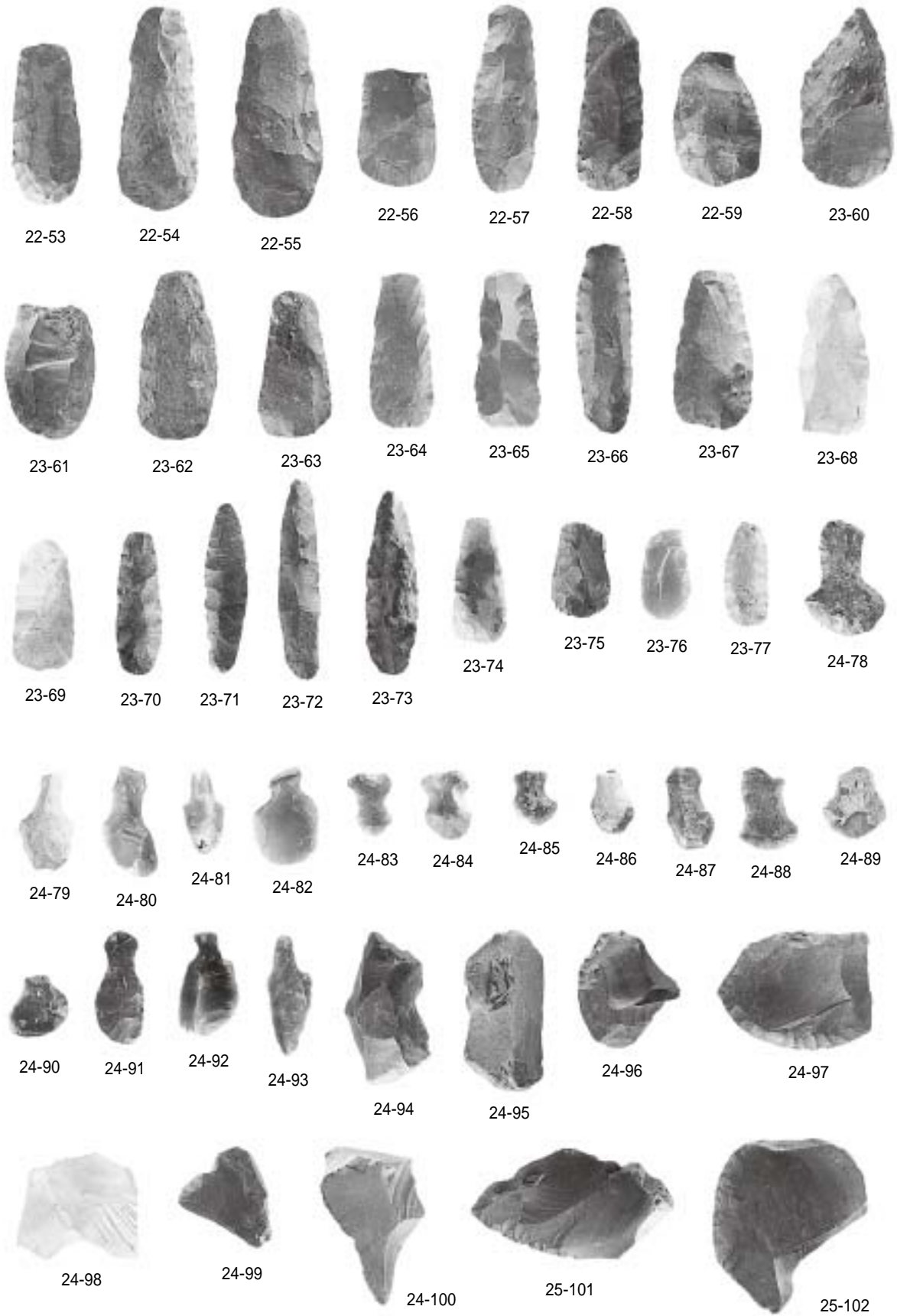


写真13 東側調査区出土石器(2)

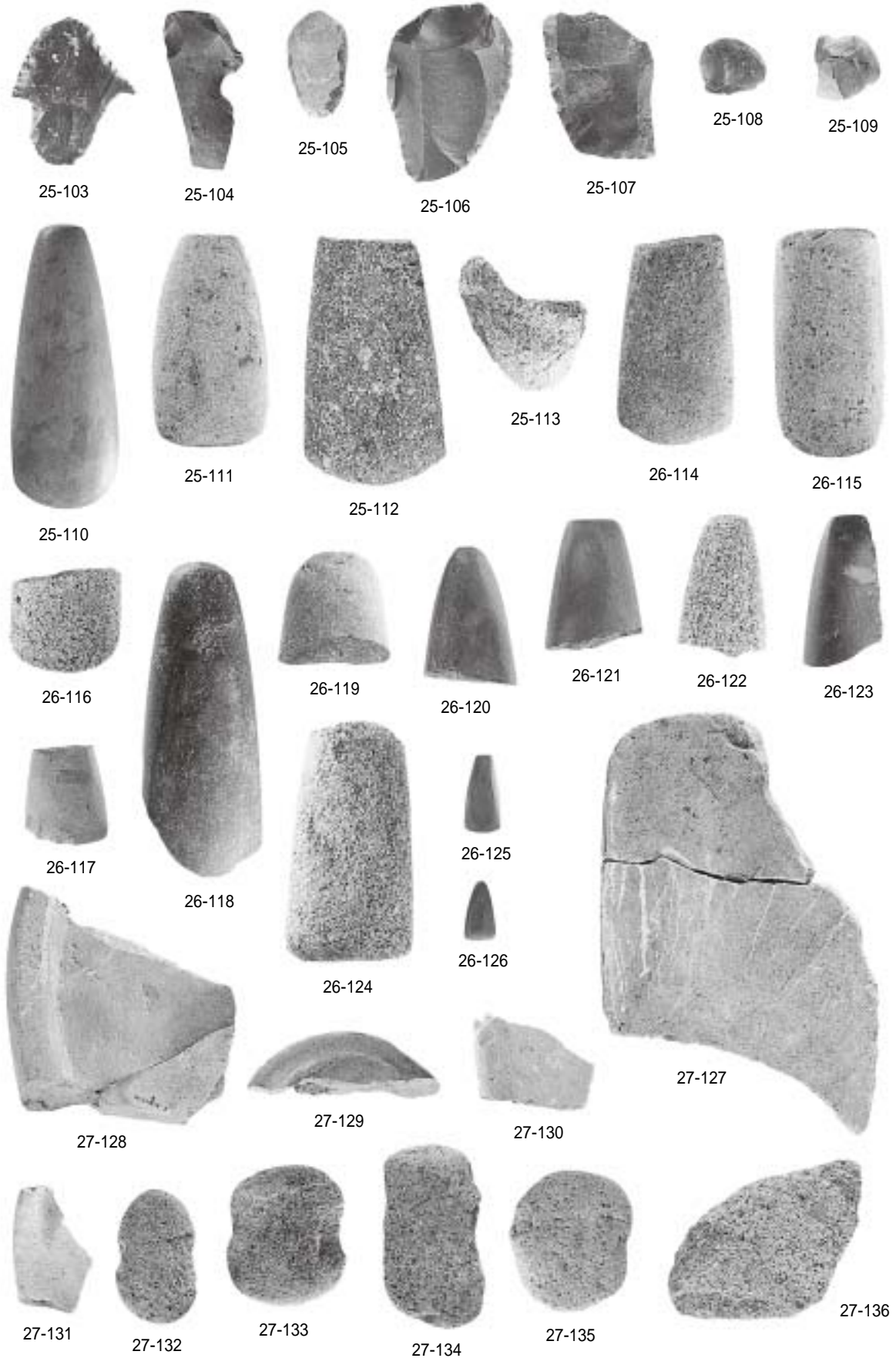


写真14 東側調査区出土石器(3)





写真15 東側調査区出土石器(4)

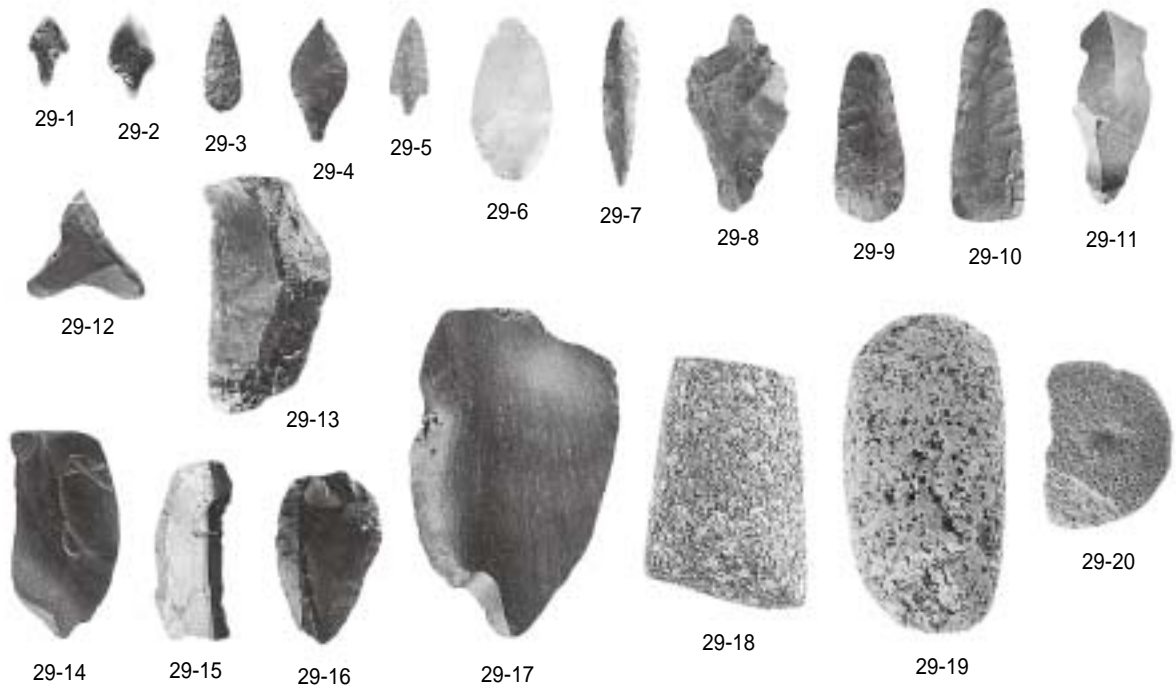


写真16 南側調査区出土石器



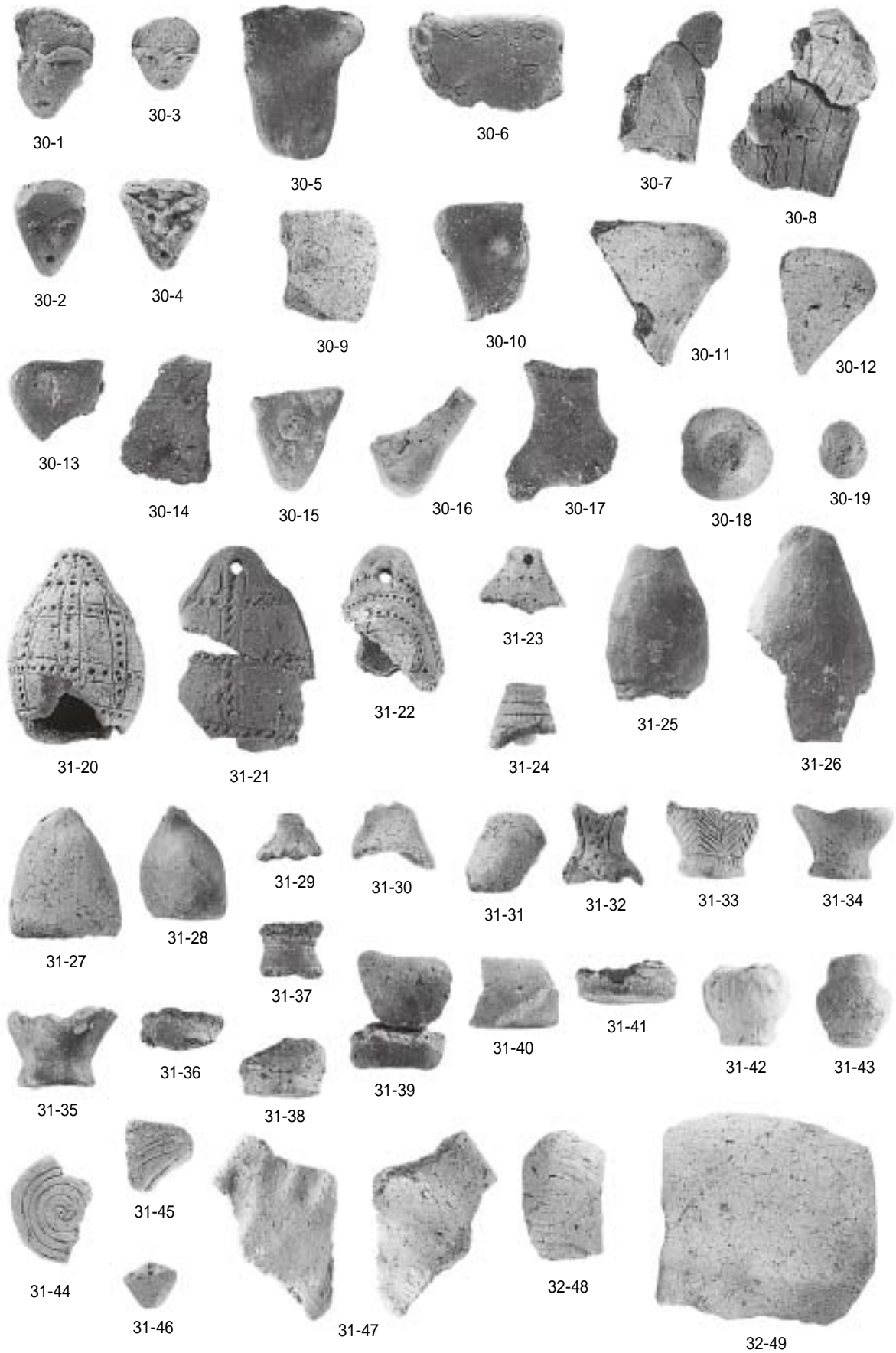


写真17 東側調査区出土土製品(1)

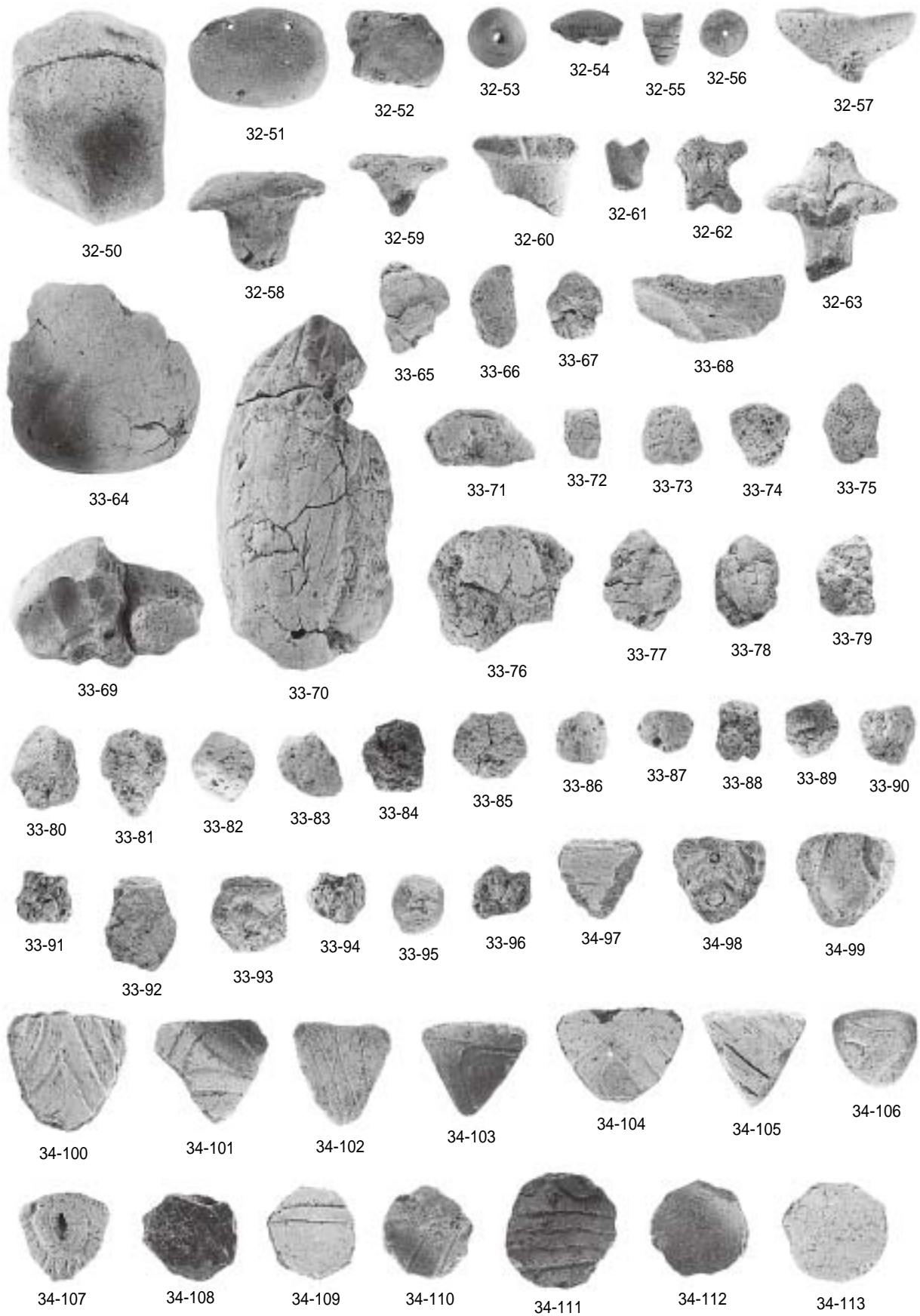


写真18 東側調査区出土土製品(2)

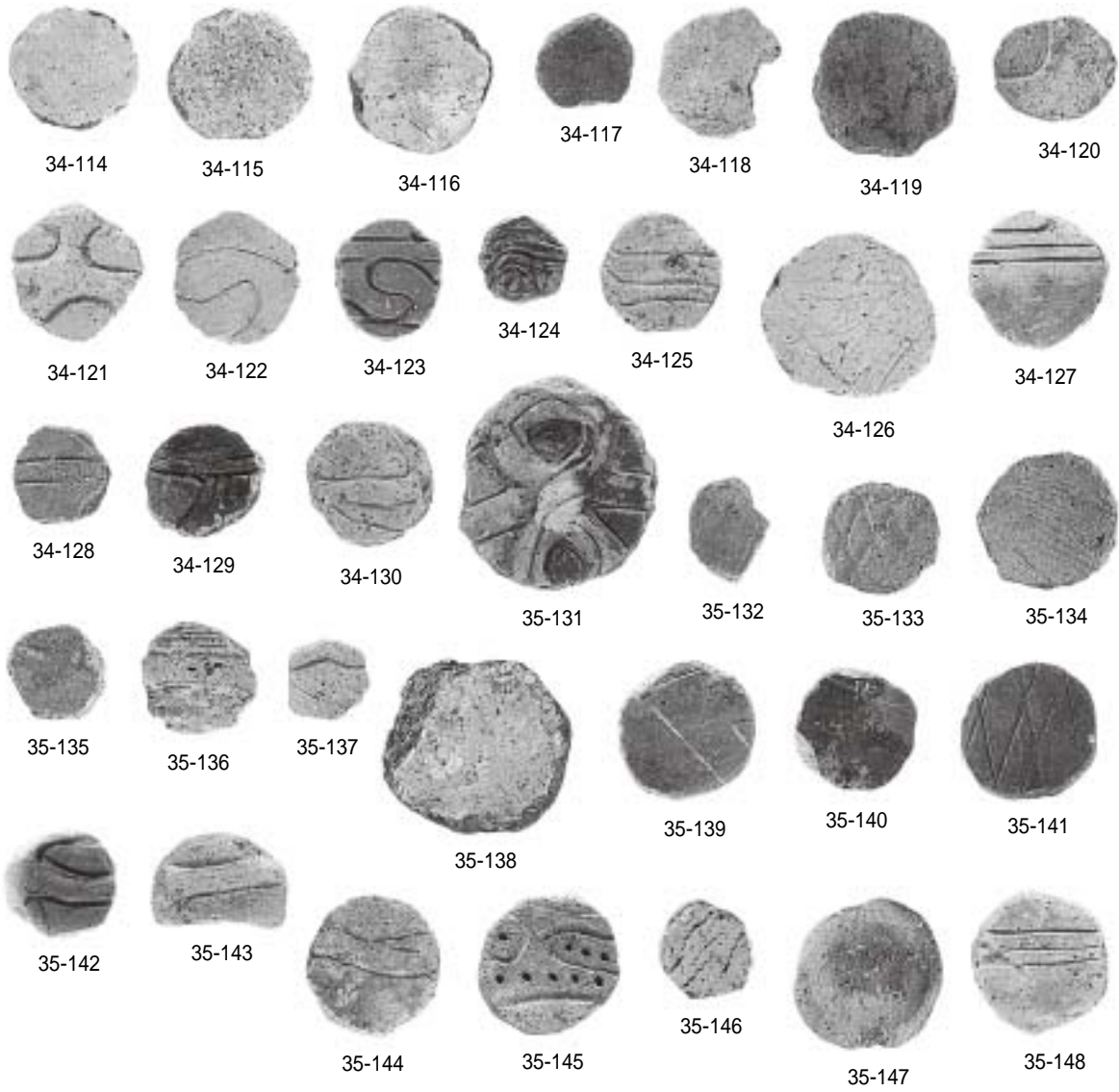


写真19 東側調査区出土土製品(3)

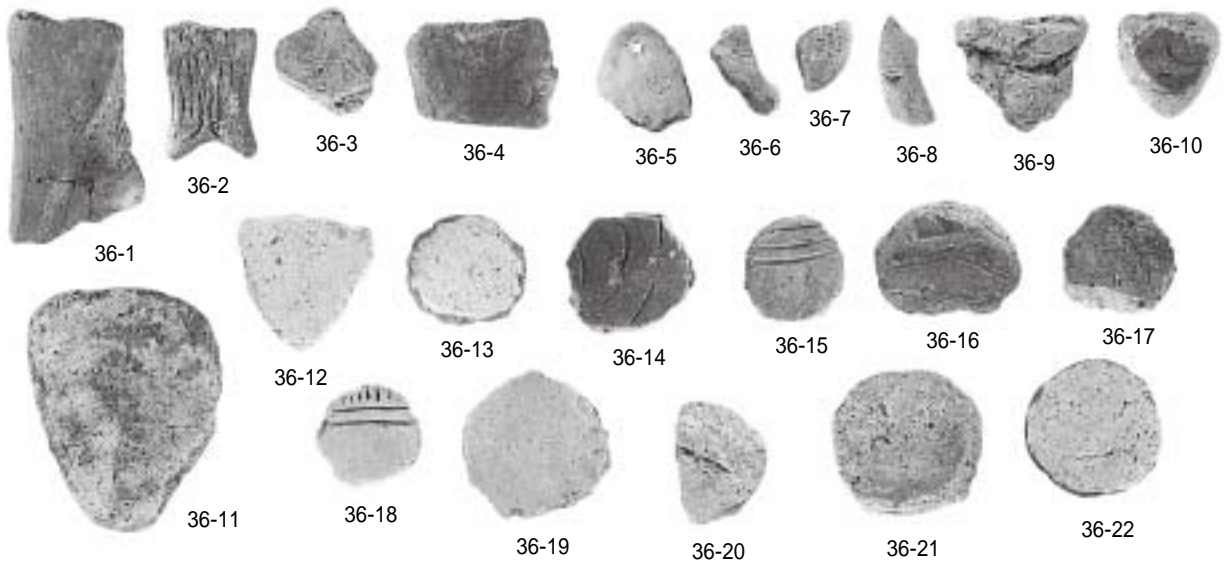


写真20 南側調査区出土土製品



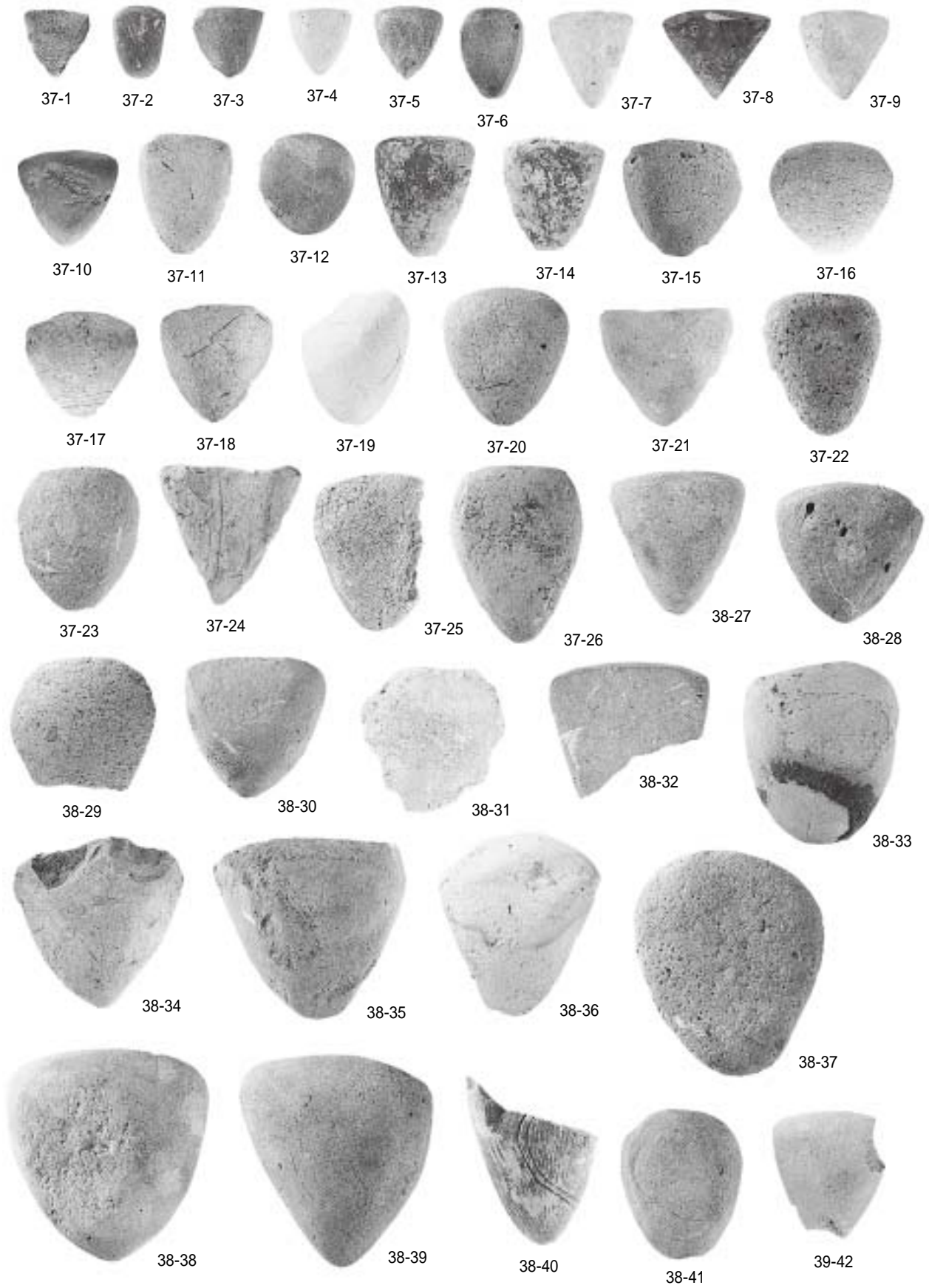


写真21 東側調査区出土石製品(1)

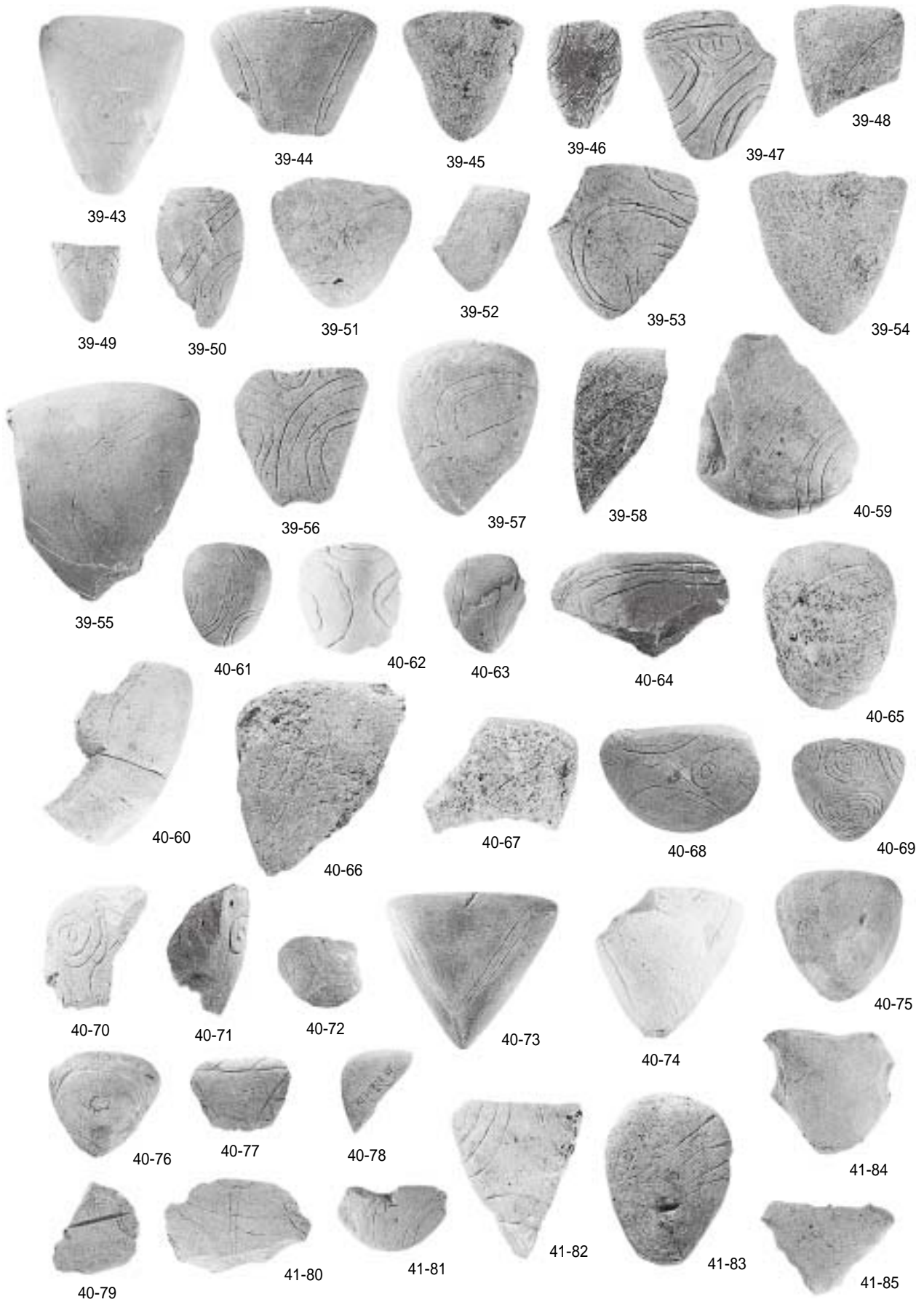


写真22 東側調査区出土石製品(2)

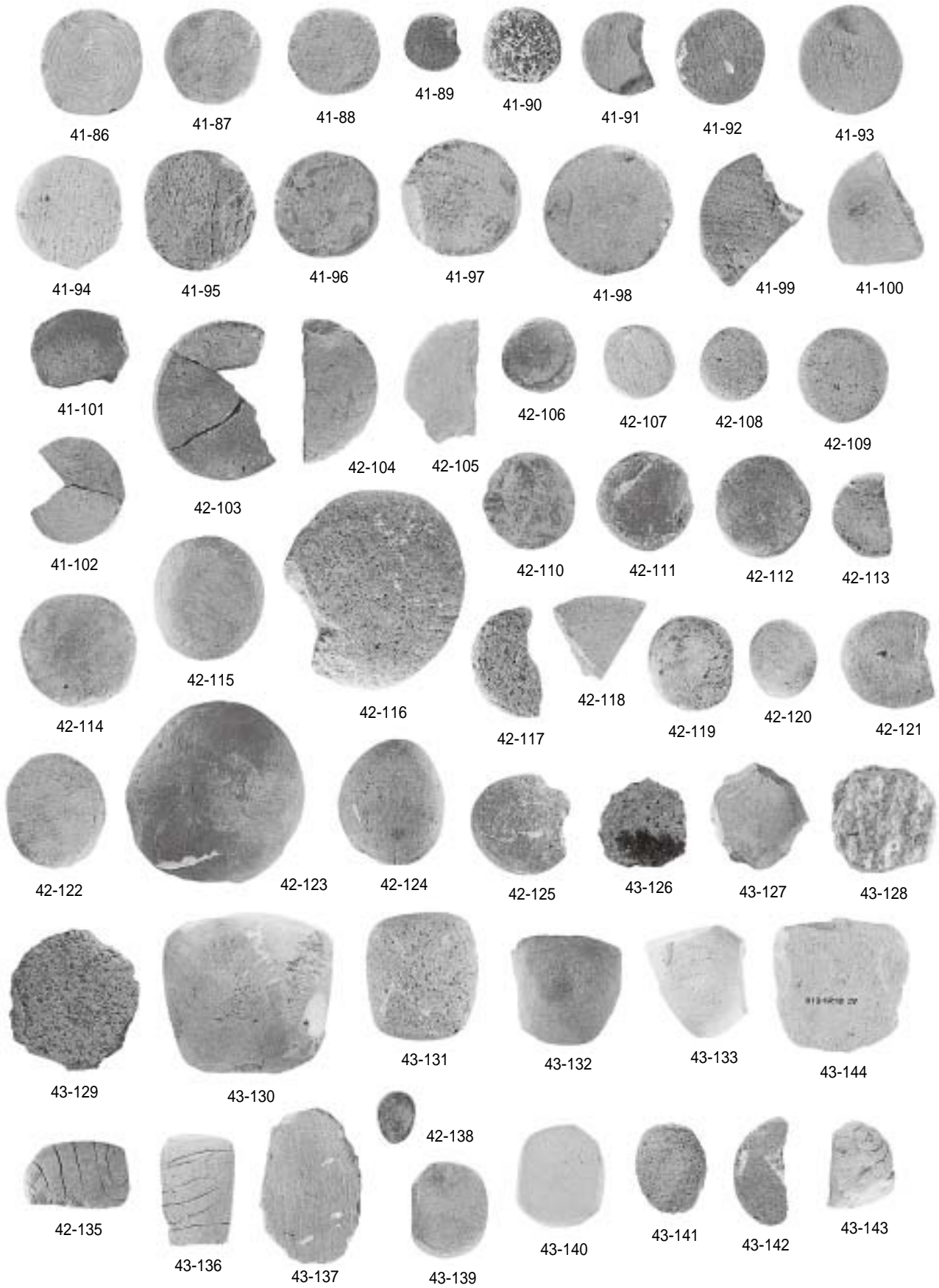


写真23 東側調査区出土石製品(3)



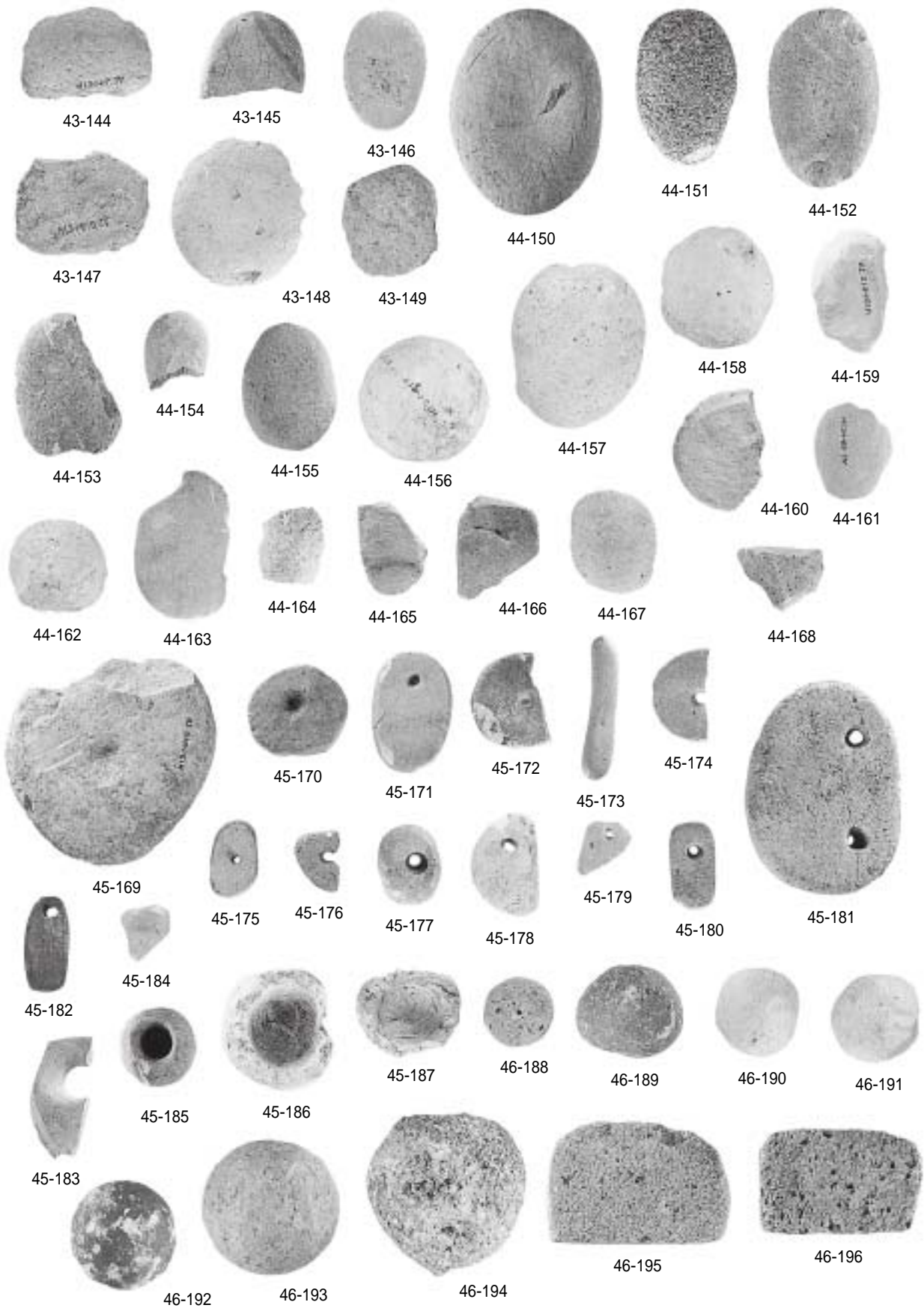


写真24 東側調査区出土石製品(4)

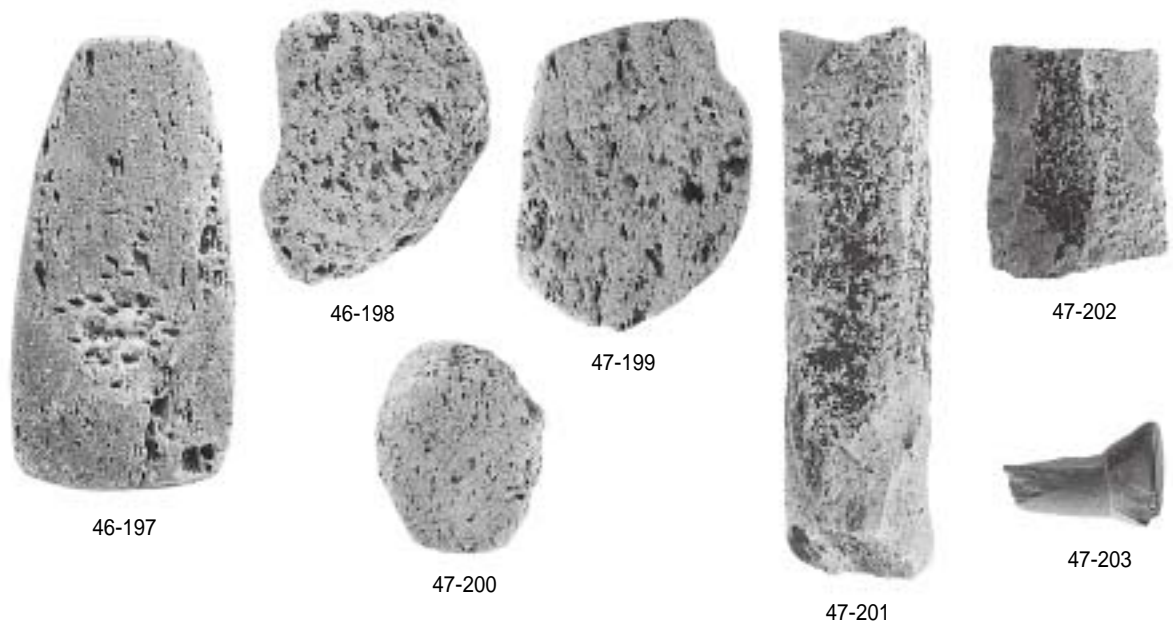


写真25 東側調査区出土石製品（5）

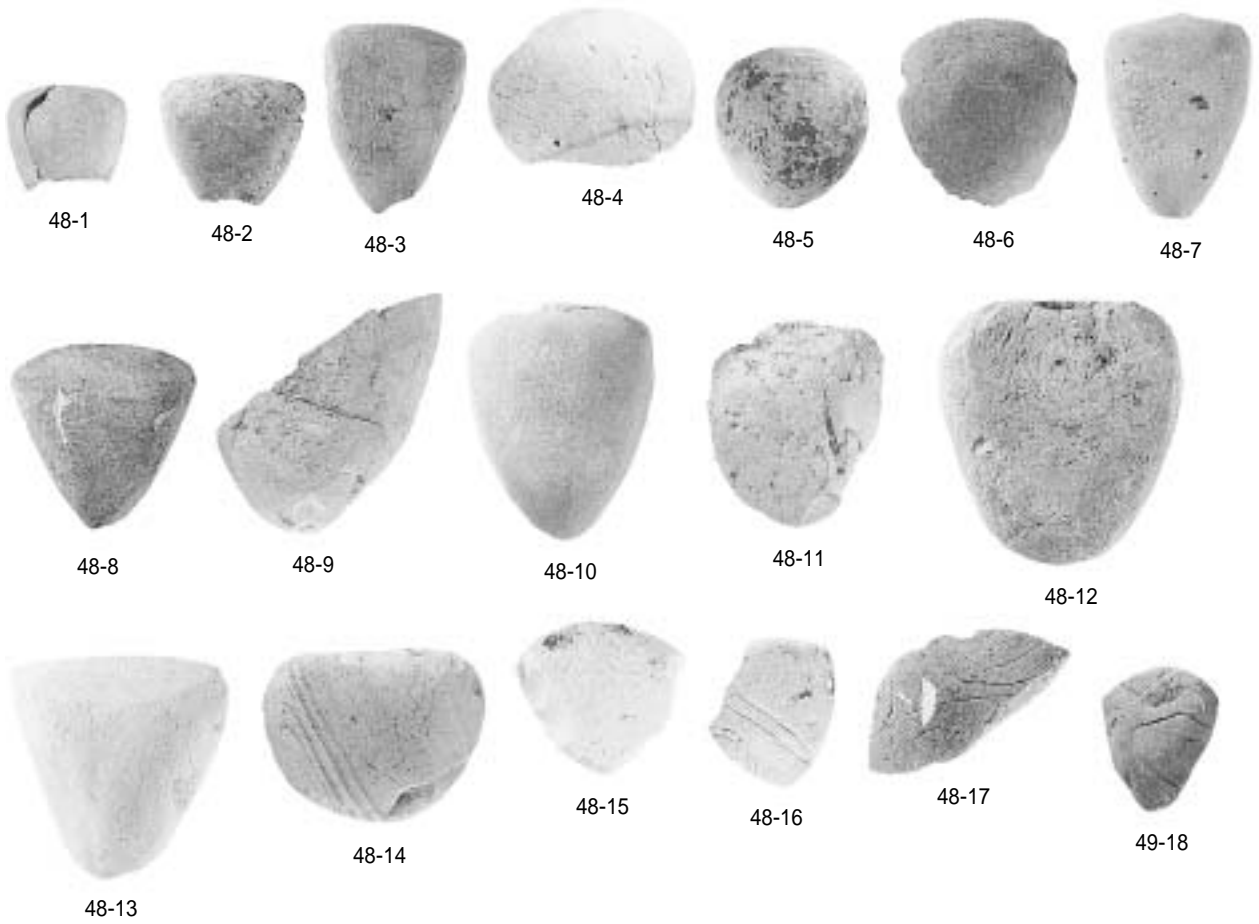


写真26 南側調査区出土石製品（1）



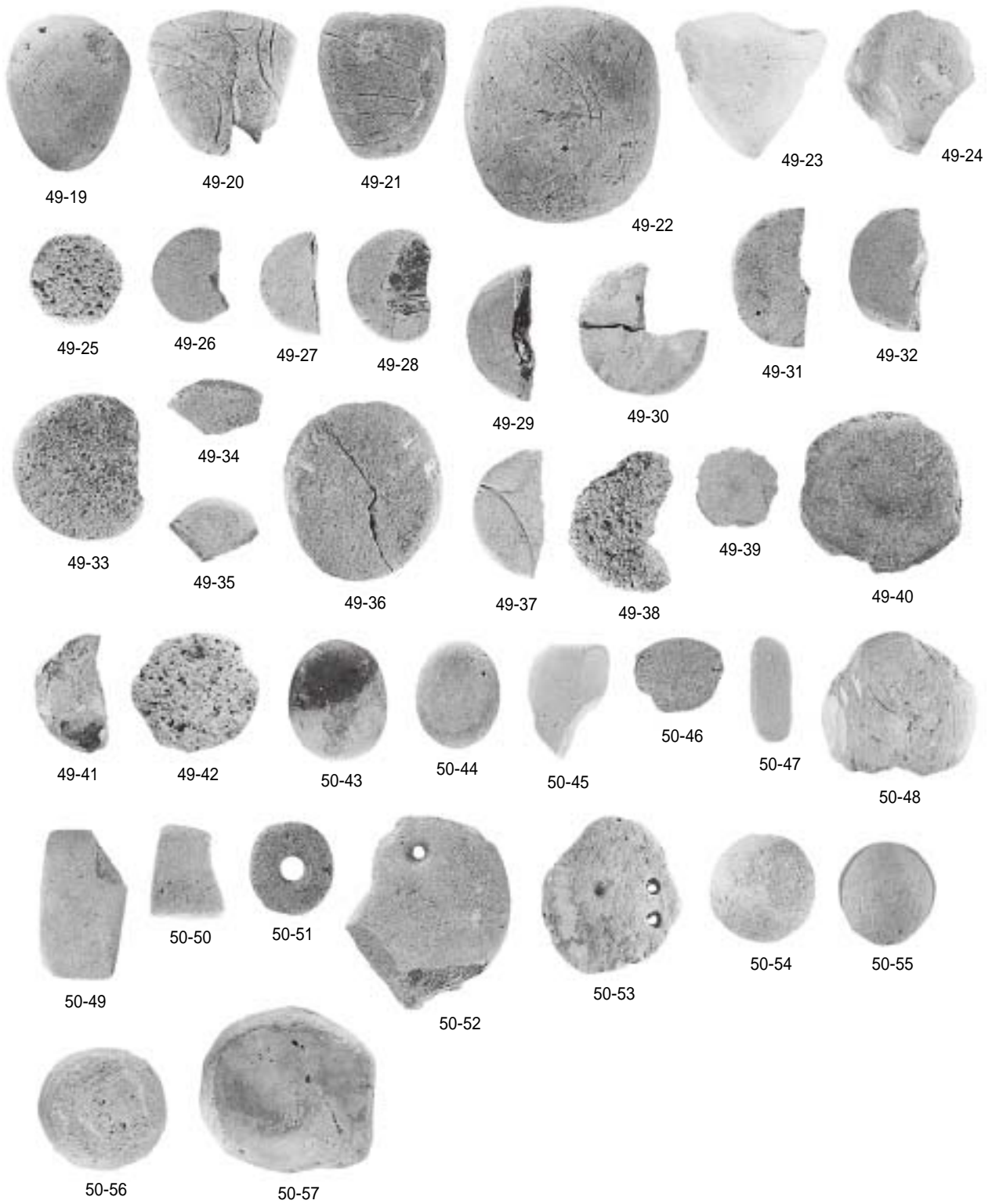


写真27 南側調査区出土石製品(2)

## 第 章 自然科学的分析

### 第 1 節 放射性炭素年代測定結果

小牧野遺跡のSK-28、SK-37、SK-61の各土抗（青森市教育委員会2001・2002）の底部より出土した試料の放射性炭素年代測定結果を以下に示す。

測定は地球科学研究所を通じてベータアナリティック社に依頼し、AMS法（加速器質量分析；試料の前処理は酸 - アルカリ - 酸洗浄）により測定されたものである。測定結果を表 1 に示す。

測定結果は表 1 に示したように、SK-28より出土した炭化材（ハンノキ節）から補正<sup>14</sup>C年代で3600 ± 40 yBP（暦年代交点 cal BC 1940）、SK-37の炭化材（クリ）で補正<sup>14</sup>C年代で3550 ± 40 yBP（暦年代交点 cal BC 1890）、SK-61より出土した炭化オニグルミ内果皮から補正<sup>14</sup>C年代で3620 ± 40 yBP（暦年代交点 cal BC 1960）と概ね同様な結果が得られた。すなわち、補正年代で約3550～3620年前で、暦年代交点では cal BC 1890～1960になる。

表 1 小牧野遺跡試料の加速器質量分析による放射性炭素年代測定結果

No.	試料	<sup>14</sup> C年代 *1 (yBP)	<sup>13</sup> C *2 (permil)	補正 <sup>14</sup> C年代 *3 (yBP)	暦年代 *4 ( )内の%は確率	測定番号
SK-28	SK-28 炭化材（ハンノキ節）	3620 ± 40	- 26.2	3600 ± 40	cal bc 1940 cal bc 2040 - 1880( 2 ,95% ) cal bc 2010 - 1900( 1 ,68% )	Beta-167980
SK-37	SK-37 炭化材（クリ）	3560 ± 40	- 25.8	3550 ± 40	cal bc 1890 cal bc 1970 - 1760( 2 ,95% ) cal bc 1940 - 1870( 1 ,68% )	Beta-167981
SK-61	SK-61 炭化オニグルミ内果皮	3620 ± 40	- 24.8	3620 ± 40	cal bc 1960 cal bc 2120 - 2090( 2 ,95% ) cal bc 2050 - 1890( 2 ,95% ) cal bc 2030 - 1920( 1 ,68% )	Beta-167982

\* 1 <sup>14</sup>C年代測定値：試料の<sup>14</sup>C / <sup>12</sup>C比から、単純に現在（西暦1950年）から何年前（yBP）かを計算した年代。半減期としてはLibbyの5568年を用いた。

\* 2 <sup>13</sup>C測定値：試料の測定<sup>14</sup>C / <sup>12</sup>C比を補正するための<sup>13</sup>C / <sup>12</sup>C比である。この安定同位体比は、下式のように標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表現する。

$$^{13}\text{C}(\text{‰}) = \frac{(^{13}\text{C} / ^{12}\text{C})[\text{試料}] - (^{13}\text{C} / ^{12}\text{C})[\text{標準}]}{(^{13}\text{C} / ^{12}\text{C})[\text{標準}]} \times 1000$$

（ここで<sup>13</sup>C / <sup>12</sup>C [標準] = 0.0112372）

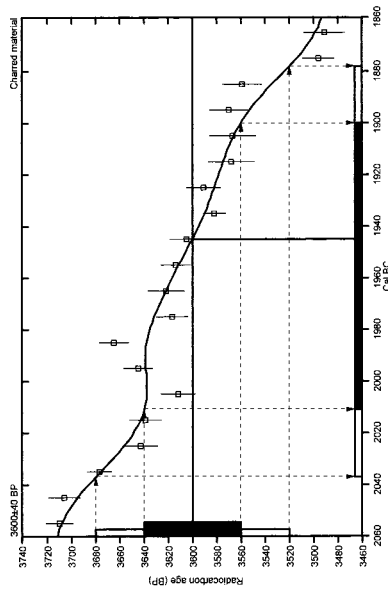
\* 3 補正<sup>14</sup>C年代値：試料の炭素安定同位体比（<sup>13</sup>C / <sup>12</sup>C）を測定して、試料の炭素の同位体分別を知り、<sup>14</sup>C / <sup>12</sup>Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の<sup>13</sup>C値 - 25（‰）に標準化することによって得られる年代値で、暦年代を得る際にはこの年代をもちいる。

\* 4 暦年代：過去の宇宙線強度の変動による大気中<sup>14</sup>C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。それは年代既知の樹木年輪の<sup>14</sup>Cの測定、サンゴのU-Th年代と<sup>14</sup>C年代の比較により補正曲線を作成し、暦年代を算出する。この補正は約19000年までの換算が可能である。

**CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS**

(Variables: C13/C12=-26.2;lab\_mult=1)

Laboratory number: **Beta-167980**  
 Conventional radiocarbon age: **3600±40 BP**  
 2 Sigma calibrated result: Cal BC 2040 to 1880 (Cal BP 3990 to 3830) (95% probability)  
 Intercept data  
 Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal BC 1940 (Cal BP 3900)  
 1 Sigma calibrated result: Cal BC 2010 to 1900 (Cal BP 3960 to 3850) (68% probability)



References:  
 Database used: INTC-13,9K  
 Calibration software: Edinburg Comment  
 Editor: Stuiver, M., van der Plighe, H., 1998, Radiocarbon 40(3), p101-103  
 INTC-13,9K: Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p104-1083  
 Mathematics approach to Calibrating C14 Dates: A Simple Example, M.S. Torgal, L.C. 1993, Radiocarbon 35(2), p17-322

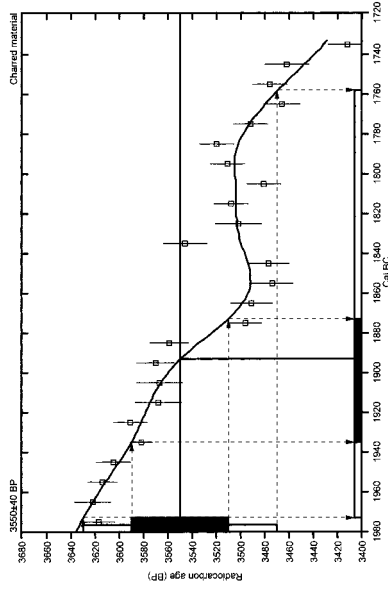
**Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory**

4983 S.W. 7th Ct., Miami, Florida 33153 • Tel: (305)667-3167 • Fax: (305)663-3064 • E-Mail: beta@betaanalytic.com

**CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS**

(Variables: C13/C12=-25.8;lab\_mult=1)

Laboratory number: **Beta-167981**  
 Conventional radiocarbon age: **3550±40 BP**  
 2 Sigma calibrated result: Cal BC 1970 to 1760 (Cal BP 3920 to 3710) (95% probability)  
 Intercept data  
 Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal BC 1890 (Cal BP 3840)  
 1 Sigma calibrated result: Cal BC 1940 to 1870 (Cal BP 3880 to 3820) (68% probability)



References:  
 Database used: INTC-13,9K  
 Calibration software: Edinburg Comment  
 Editor: Stuiver, M., van der Plighe, H., 1998, Radiocarbon 40(3), p101-103  
 INTC-13,9K: Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p104-1083  
 Mathematics approach to Calibrating C14 Dates: A Simple Example, M.S. Torgal, L.C. 1993, Radiocarbon 35(2), p17-322

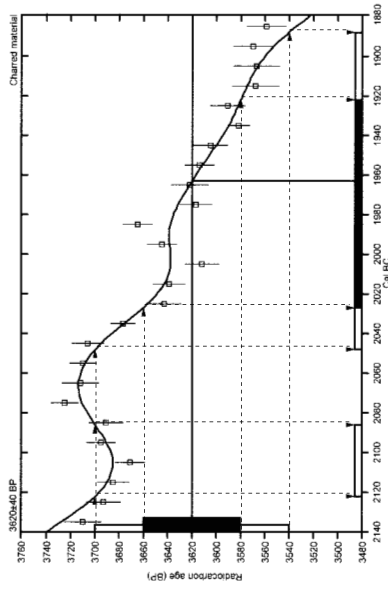
**Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory**

4983 S.W. 7th Ct., Miami, Florida 33153 • Tel: (305)667-3167 • Fax: (305)663-3064 • E-Mail: beta@betaanalytic.com

**CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS**

(Variables: C13/C12=-24.8;lab\_mult=1)

Laboratory number: **Beta-167982**  
 Conventional radiocarbon age: **3620±40 BP**  
 2 Sigma calibrated result: Cal BC 2120 to 2090 (Cal BP 4070 to 4040) and Cal BC 2050 to 1890 (Cal BP 4000 to 3840) (95% probability)  
 Intercept data  
 Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal BC 1960 (Cal BP 3910)  
 1 Sigma calibrated result: Cal BC 2030 to 1920 (Cal BP 3980 to 3870) (68% probability)



References:  
 Database used: INTC-13,9K  
 Calibration software: Edinburg Comment  
 Editor: Stuiver, M., van der Plighe, H., 1998, Radiocarbon 40(3), p101-103  
 INTC-13,9K: Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p104-1083  
 Mathematics approach to Calibrating C14 Dates: A Simple Example, M.S. Torgal, L.C. 1993, Radiocarbon 35(2), p17-322

**Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory**

4983 S.W. 7th Ct., Miami, Florida 33153 • Tel: (305)667-3167 • Fax: (305)663-3064 • E-Mail: beta@betaanalytic.com

## 第2節 土坑から出土した炭化材の樹種同定結果

古代の森研究舎

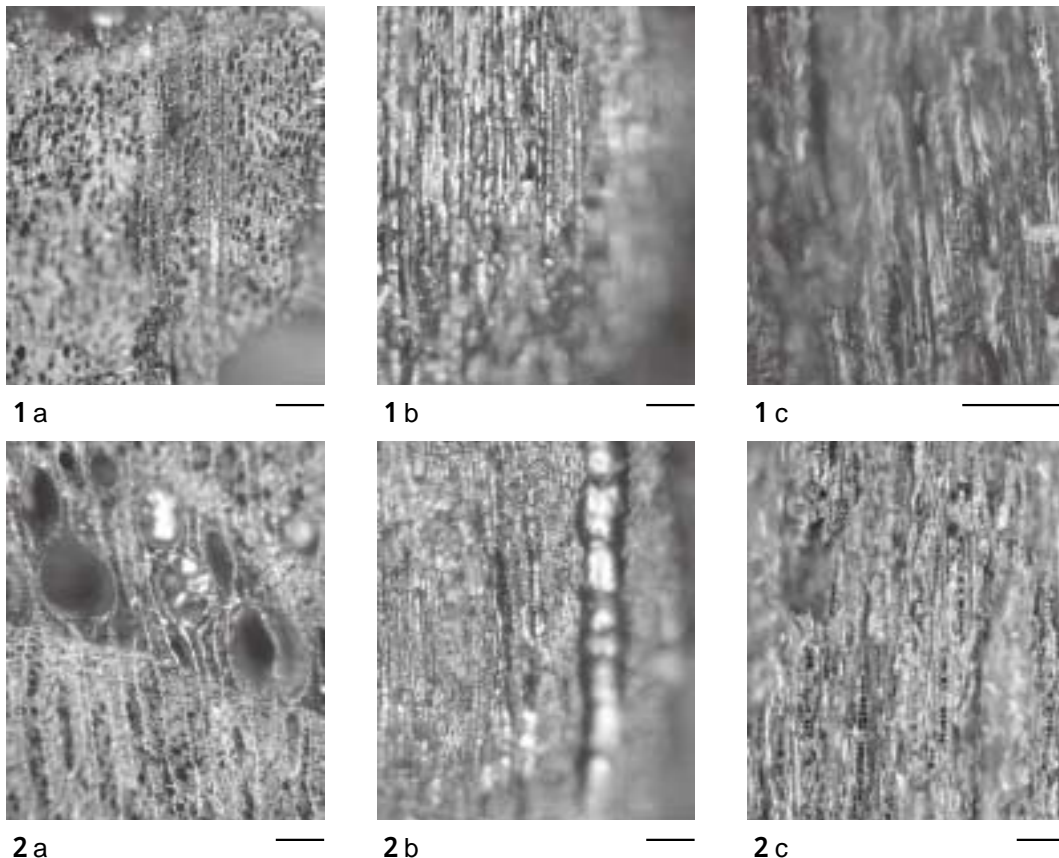
平成12・13年度に検出されたSK-28、SK-37、SK-61の各土坑（青森市教育委員会2001・2002）より出土した炭化材の樹種同定を行った。このうちSK-28およびSK-37の炭化材は前節の年代測定に使用したものである。それぞれの試料から剃刀で横断面、放射断面、接線断面を割り出し、プレパラートに粘土で固定し、反射顕微鏡にて観察を行った。その結果、SK-28はハンノキ属ハンノキ節、SK-37及びSK-61はクリと同定された。以下に木材解剖学的な特徴を記す。

1) ハンノキ属ハンノキ節 (*Alnus* sect. *Gymnothyrsus*) カバノキ科、図版1 a-1 c (試料SK-28)

小さな管孔がほぼ均一に分布する散孔材で、導管は放射方向に数個複合することが多い。横断面の中央付近に集合放射組織がみられるのが特徴である。導管内には階段せん孔がみられる。

2) クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科、図版2 a-2 c (試料SK-37, SK-61)

大型で放射方向にやや長い導管が年輪のはじめに数列集合し、晩材になるにつれ徐々に径が小さくなり、火炎状に配列する環孔材。導管は単せん孔で、それを取り囲んで周囲仮導管がみられる。炭化しても導管内にチロースがあることが確認できる。放射組織は単列で同性である。



図版1 小牧野遺跡より出土した炭化材

1. ハンノキ属ハンノキ節 (SK-28) 2. クリ (SK-61)

(a: 横断面, b: 放射断面, c: 接線断面, スケールは0.1mm)

## 第 3 節 小牧野遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

青森市南西部に広がる台地上に位置する小牧野遺跡の発掘調査では、縄文時代後期の土器が多数検出されている。当社では、これまでに本遺跡の土器の胎土重鉍物分析を行い、同時に分析した遺跡周辺の砂や遺跡内出土の粘土試料などとの比較および既存の地質資料から、これらの土器の多くは八甲田山北麓という範囲での在来性であるという推定を行っている。また、土器や礫に付着した赤色顔料の分析から、赤鉄鉍を主体とする顔料、いわゆるベンガラが使用されていたことなども確認している。今回の分析調査では、1) 土坑から出土した赤色顔料および深鉢形土器内面に付着していた褐色物質の材質を明らかにすること、2) 胎土中に雲母が認められている切断壺形土器は、これまでの考古学調査から搬入品であると考えられている。その胎土の重鉍物分析を行い、これまでの分析例と比較することにより、その製作地について検証すること、3) 縄文土器片に認められた貝殻と考えられる圧痕の形状を捉え、貝の種類を同定することにより、土器成型場所の周囲の環境に関する情報を得ること、以上 3 課題を設定し、これらに対する各分析調査を実施した。

### 1. 試料

試料は、試料番号 1 として土坑出土の赤色顔料、試料番号 2 として深鉢形土器内面付着褐色物質、試料番号 3 として切断壺形土器片、試料番号 4 として貝殻圧痕のある土器の以上 4 点である。なお、試料番号 2 の採取の際に、付着している土壤中に白色の細片が認められているが、この物質の確認も行う。

各試料の出土地点は、次の通りである。試料番号 1 の採取された土坑は平成 12 年第 15 号土坑 (SK-15)、試料番号 2 の土器は平成 13 年 PIT-1、試料番号 3 は平成 12 年 P-9 グリッド、試料番号 4 は平成 12 年 P-10 グリッドよりそれぞれ出土した。

### 2. 分析方法

試料番号 1 については X 線回折分析、試料番号 2 については X 線回折および薄片作製による顕微鏡観察、試料番号 3 については、これまでに行った胎土分析と同様の方法である胎土重鉍物分析、試料番号 4 については、レプリカの作製と実体顕微鏡による観察の各手法を用いた。以下に各手法の手順を述べる。

#### (1) X 線回折分析

試料を 105℃ で 2 時間乾燥させた後、メノウ乳鉢で微粉碎し、アセトンを用いてスライドガラスに塗布し、X 線回折測定試料とした。作成した X 線回折測定試料について以下の条件で測定を実施した (足立, 1980; 日本粘土学会, 1987)。

検出された物質の同定解析は、測定回折線の主要ピークと回折角度から原子面間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉍物を X 線粉末回折線総合解析プログラム (五十嵐, 未公表) により検索した。

装 置 : 島津制作所製 X D - 3 A Time Constant : 1.0sec

Target : Cu ( K )	Scanning Speed : 2 %/min
Filter : Ni	Chart Speed : 2 cm/min
Voltage : 30KVP	Divergency : 1 °
Current : 30mA	Receiving Slit : 0.3mm
Count Full Scale : 5,000C/S	Scanning Range : 3 ~ 45 °

## (2) 薄片作製観察

試料を包埋処理し、ダイヤモンドカッターにより切断して薄片用のチップとした。そのチップをスライドガラスに貼り付け、#180～#800の研磨剤を用いて研磨機上で厚さ0.1mm以下まで研磨した。さらに、メノウ板上で#2500の研磨剤を用いて正確に0.03mmの厚さに調整した。スライドガラス上で薄くなった試料薄片の上にカバーガラスを貼り付け、完成とした。

## (3) 胎土重鉍物分析

土器試料は適量をアルミナ製乳鉢で粉碎した後、砂・粘土試料はそのまま、水を加え超音波洗浄装置により分散、#250の分析篩により水洗、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた1/4mm - 1/8mmの粒子をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉍物のプレパラ - トを作製した後、偏光顕微鏡下にて同定した。鉍物の同定粒数は、250個を目標とした。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを「不透明鉍物」とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。

## (4) 貝圧痕レプリカ作製および同定

### ・レプリカ作成

圧痕を実体顕微鏡にて観察した後、圧痕のレプリカを作製し、その実体顕微鏡観察も行った。レプリカの作製は以下の方法によった。

土器表面をブローアなどで塵を吹き飛ばし、清掃する。ラバー系精密印象材（商品名GC EXAFINE ジーシー社製）を土器表面の圧痕に注入して保持した後、静かにはがして印象を作成する。作成にあたっては、薬剤のタイプ、ベースとキャタリストの混和比などを変えていくつか作成し、状態の良いものを使用した。今回は、レギュラータイプを用い、ベースとキャタリストの混和比が1：1の印象材を用いた。

### ・同定

土器圧痕およびレプリカについて実体顕微鏡・肉眼観察を行い、その形態的特徴から種類を同定する。貝圧痕の鑑定は、金子浩昌氏の協力を得た。

## 3. 結果

### (1) X線回折分析

X線回折図を図1、2に示す。以下に各試料について述べる。

#### < 試料番号1 >

検出された主な鉍物は、赤鉄鉍（hematite）および微量の石英（quartz）である。なお、約20°からバックグラウンドの著しい上昇が見られることから、試料中には多量の酸化鉄の存在が指摘される。

#### < 試料番号2 >

検出された主な鉍物は石英（quartz）のみであるが、その回折強度は弱い。

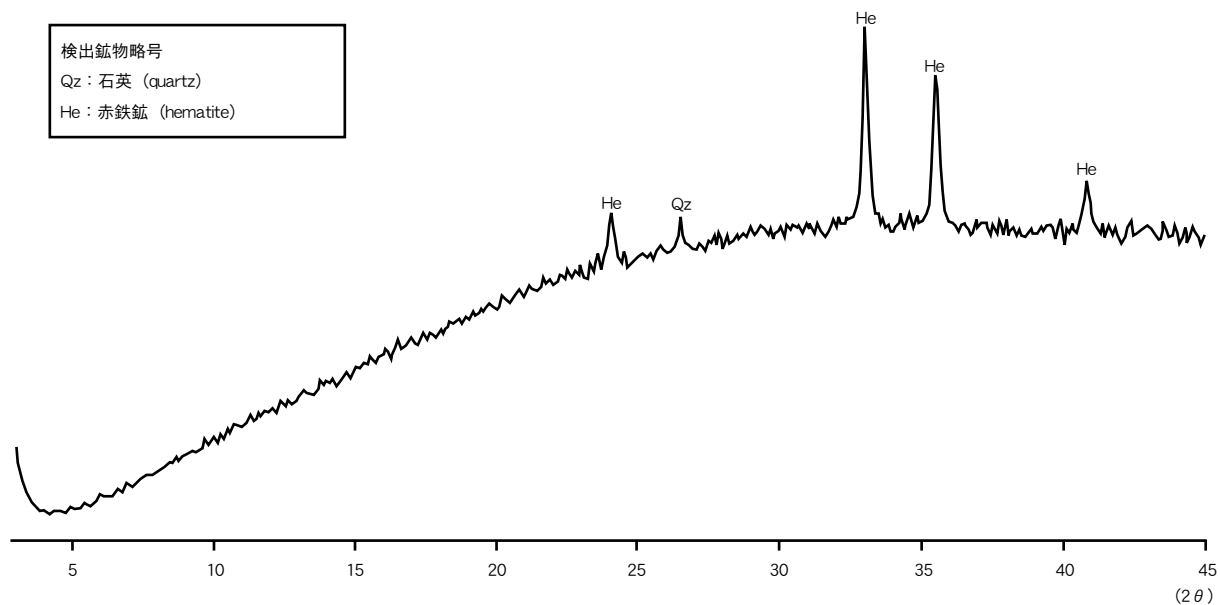


図1 試料番号1赤色顔料のX線回折図

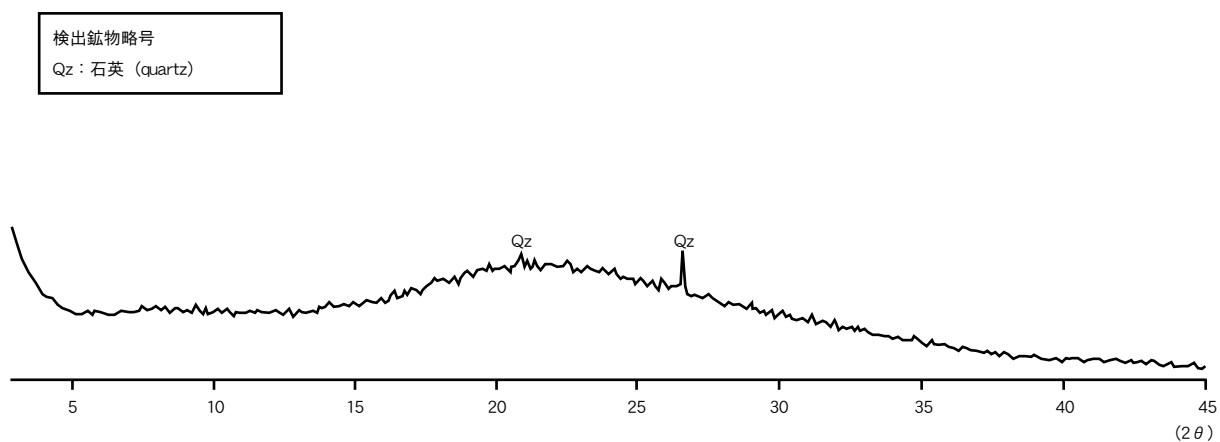


図2 試料番号2深鉢形土器内面褐色物質のX線回折図

## (2) 薄片作製観察

試料番号2は碎屑片として細粒砂～中粒砂サイズの斜長石、単斜輝石および角閃石を極めて微量に散  
 含している。基質は非晶質粘土からなるが、大部分は水酸化鉄によって汚染されている。径0.2mm大の  
 球状～不定形状を呈する孔隙が多数分布し、多孔質な組織を示す。水酸化鉄は著しく濃集しており、幅  
 0.5mm大の不規則な帯状の分布を示す。水酸化鉄の濃集部には、蟻の巣状の濃淡模様が形成されている。

### (3) 胎土重鋳物分析

斜方輝石が最も多く、中量の単斜輝石と角閃石を伴い、少量の不透明鋳物を含む。単斜輝石と角閃石はほぼ同量である。分析結果を表1、図3に示す。

表1 試料番号3切断壺形土器の胎土重鋳物分析結果

試料番号	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鋳物	その他	合計
3	129	48	51	14	8	250

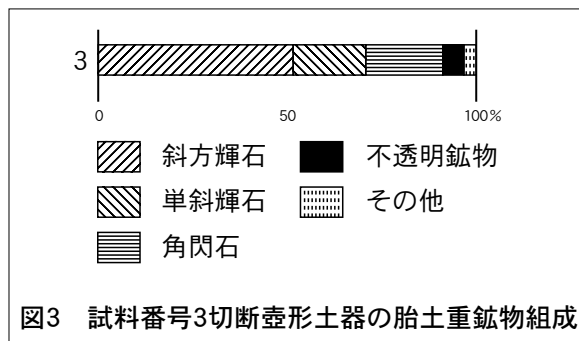


図3 試料番号3切断壺形土器の胎土重鋳物組成

### (4) 貝圧痕同定

試料番号4(土器,注記:H12 小P-10 IV一括)内面の圧痕の観察の結果、殻径約4.4mm、殻高約2.4mmを測る。殻頂部が押し当てられた状態と見られ、かなり尖った頂部、輪脈が顕著に認められることから、ミジンヤマタニシ(*Nakadaella micron*、ヤマタニシ科)と判断される。ミジンヤマタニシは、本州以南に生息し、山林に多く見られ、人々の生活空間にもよくみられる種類である。

## 4. 考察

### (1) 土坑内赤色顔料について

X線回折により試料番号1から検出された赤鉄鋳(hematite)は、古代の赤色顔料においてはベンガラに見られる代表鋳物である。したがって、土坑より出土した赤色顔料は、いわゆるベンガラであるといえる。ただし、非晶質の酸化鉄の混在も推定されることから、赤鉄鋳のみにより製造されたものではなく、赤土など赤鉄鋳以外の赤色を呈する物質も含まれている可能性がある。

これまでに当社がおこなった、小牧野遺跡出土赤色顔料についても赤鉄鋳が検出され、ベンガラであることを指摘したが、今回も同様に酸化鉄の高い含有濃度が得られている。これらのことから、当該時期には、ベンガラは赤色顔料として普通に使用されていた様相が窺える。なお、児玉(2002)によれば、青森県下におけるベンガラの利用は、縄文時代前期や中期では三内丸山遺跡の漆器や土器にみられる程度で比較的使用例は少ないとされており、後期になって使用例が拡大すると述べている。当社がこれまでに確認した小牧野遺跡や稲山遺跡におけるベンガラの使用例も、この拡大時期の使用例に相当するものであろう。

### (2) 深鋳型土器内面褐色物質について

X線回折により、石英(quartz)のみが微弱に検出されたが、石英自体が褐色物質の要因とは考えにくい。22°付近を中心にブロードな回折線が見られていることから、非晶質鋳物あるいは有機化合物である可能性が指摘される。

一方、薄片観察では水酸化鉄の濃集が認められている。水酸化鉄は、通常 $Fe_2O_3 \cdot H_2O$ の化学式で表される水和した鉄物質である。高温加熱によって形成される結晶化した赤鉄鋳( $-Fe_2O_3$ )やマグヘマイト( $-Fe_2O_3$ )とは異なり、非晶質である。そのため、X線回折では、回折線を示さず、ブロードなバックグラウンドの上昇のみが検出されたのである。今回分析試料とした褐色物質はこの水酸化鉄であ



り、褐色物質自体は水酸化鉄によって赤褐色に汚染された土壌である。おそらく、通常の土壌中の環境下において、鉄成分が濃集することにより形成されたと考えられる。

なお、白色細片物については、実体顕微鏡観察により、径約1.2mm程度の発泡した軽石型火山ガラスであることが確かめられた。おそらく十和田カルデラの噴出物に由来するものであろう。

### (3) 切断壺形土器の胎土について

今回得られた重鉍物組成は、これまでに当社が行った小牧野遺跡および青森市稲山遺跡出土土器の胎土重鉍物組成と良く類似する。また、このような組成は、青森市周辺域の地質学的背景とも調和的であった。すなわち、八甲田凝灰岩や北八甲田火山の溶岩および十和田カルデラの火山噴

出物などの重鉍物組成が反映されている。したがって、重鉍物組成のみからみれば、今回の試料番号3とされた切断壺形土器は在地産の可能性が高いといえる。なお、この試料について搬入品の可能性があることの根拠とされたのは雲母の含有であったが、確かに小牧野遺跡の位置する八甲田山北麓地域の地質を考慮すると雲母の存在は異質である。しかし、視点を変えれば雲母のみが異質であるということが言えないであろうか。一例として、縄文時代中期に関東地方を中心に広く分布した阿玉台式土器がある。この型式も胎土に雲母を含むことが指摘されているが、当社における分析では、その重鉍物組成は決して一様ではない。現時点での推測ではあるが、阿玉台式土器については、おそらく何らかの理由により雲母を入れるということが広がったのであり、土器の素地土自体は各地で調達された可能性がある。もちろん今回の結果のみで切断壺形土器の場合も同様であるとは言えないが、今回の結果に対する一つの解釈としてあげることができる。

なお、今回の試料の重鉍物組成も、これまでと同様の三角ダイアグラム上に落としてみた(図4)が、前回の小牧野遺跡出土土器の分布する範囲よりもやや角閃石の多い方向にずれている。

### (4) 貝圧痕について

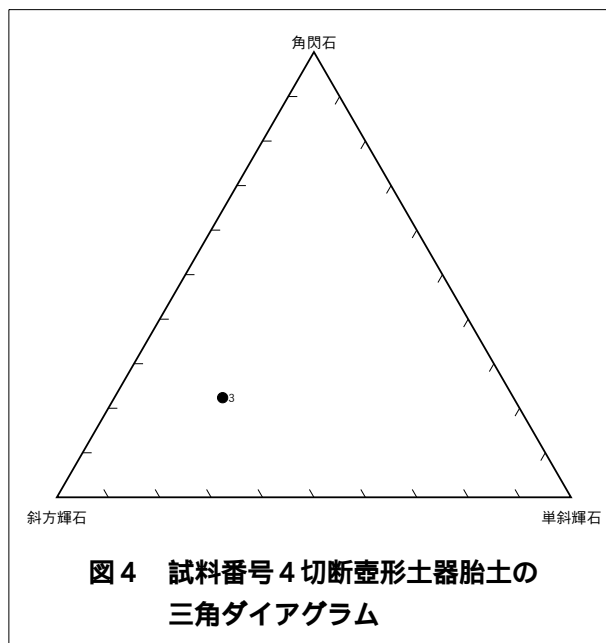
貝圧痕は、その残存状況から判断すると、土器胎土中に意図的に混入したものではなく、素地土の調整時あるいは成形時に形成されたものと考えられる。ミジンヤマタニシは山林に多く見られる種類であることから、土器製作地の周辺には木本を中心とする植生が存在していたことが想像される。

### 引用文献

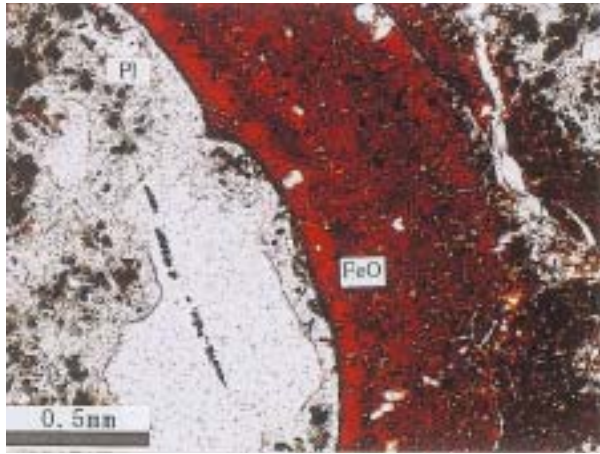
足立吟也(1980)「6章 粉末X線回折法 機器分析のてびき3」. p.64-76, 化学同人.

児玉大成(2002)縄文時代におけるベンガラ生産の一様相 - 宇鉄遺跡出土赤鉄鉍の考古学的分析 - . 青森県考古学会30周年記念論集, p.83-109.

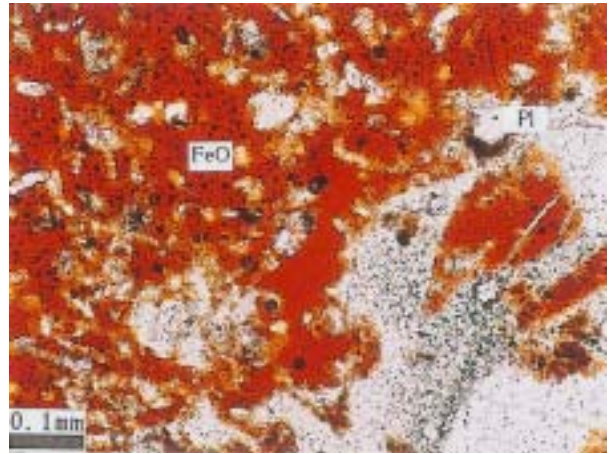
日本粘土学会編(1987)「粘土ハンドブック 第二版」. 1289p, 技報堂出版.



図版 1 薄片・白色細片・胎土中の重鉱物・貝圧痕およびそのレプリカ



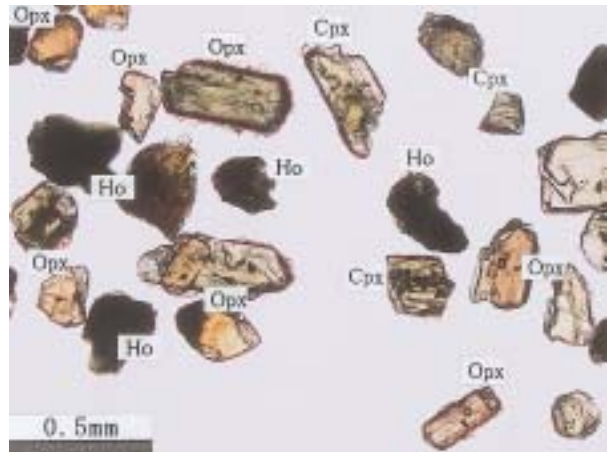
1. 薄片 (試料番号 2 深鉢型土器内面褐色物質)



2. 薄片 (試料番号 2 深鉢型土器内面褐色物質)



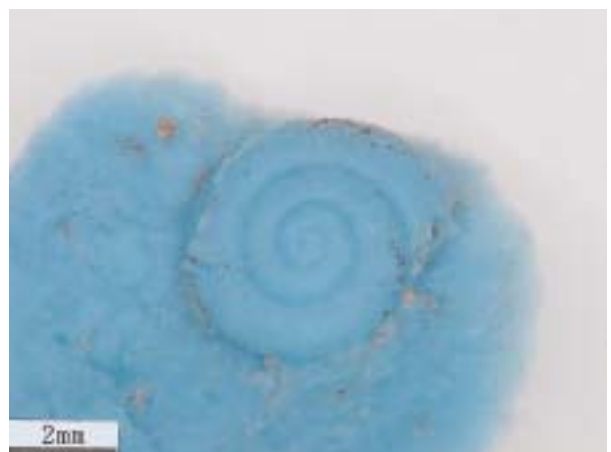
3. 白色細片 (試料番号 2 深鉢型土器内面)



4. 胎土中の重鉱物 (試料番号 3 切断壺形土器)



5. 貝圧痕 (試料番号 4)



6. 貝圧痕レプリカ (試料番号 4)

P 1 : 斜長石 . FeO : 水酸化鉄 . Opx : 斜方輝石 . Cpx : 単斜輝石 . Ho : 角閃石 .

写真 1 , 2 , 4 はすべて下方ポーラーのみ。

## 第 章 分析と考察

### 小牧野遺跡における縄文後期前半の土器編年について

#### 1．分析の視点

本遺跡における縄文後期の土器は、「第 群土器」として区分し、さらに6類型に分類してきた。分類の基準は、主要文様や区画文様を構成する単位文様の沈線端部の結合関係によるもので、文様のかたちを細分化したものではない。沈線端部の結合関係による分類は、平成10年度に刊行した報告書（青森市教育委員会1998）が初出で、本報告書の土器の記載にあたっても使用している（第7図）。

本遺跡における編年案については、過去にも提出されている（児玉1999）が、これまでの調査による共伴事例の増加により、より具体的に検討することが可能となった。

ここでは、小牧野遺跡の形成から終焉、環状列石の構築時期や使用期間を考える際の前提となる土器編年について、これまでに本遺跡で検出された各種遺構の共伴関係をもとに考えるものとする。

#### 2．単位文様の分類について（図1）

型式指標の一つとなる主要文様は、複雑・多岐にわたりモデル化されることが多いが、主要文様や区画文様を構成する単位文様は、比較的単純に理解することができ、かつ時間的に変化しやすい要素の一つとして土器の変遷指標にもなりうる。

単位文様の分類は、沈線の結合関係によるもので、基本的には三群に分類、うち一群が3類型に細分される。分類の内容は第 章の第7図でも説明しているが、ここでは模式図（図1）をたどって説明する。

1群 単線によるものである。

「C字状文」「S字状文」「山形文」「弧状文」「渦巻文」「蛇行文」などが認められる。

2群 沈線の両端が連結するもの、あるいは他の単位文様に接し、結果的に沈線の端部が連結するものである。

「円形文」「楕円形文」「長楕円形文」「方形文」「長方形文」「三角形文」などが認められ、1群と重複する名称には、その語頭に「連結」を付した。「連結C字状文」「連結S字状文」「連結渦巻文」などが認められる。

3群 単位文様の屈曲部や端部が、そのほかの単位文様と結合し同体化しているものである。本群の単位文様を認定するにあたり、沈線のみを目で追って文様を観察しようとする、どの部分が単位文様なのか見失う、あるいは見当がつかなくなる場合も多い。単位文様同士が密着していたり、縄文や櫛歯状沈線などの施文効果により、単位文様の反転化が考えられるからである。本群は、前記の縄文や櫛歯状沈線が施される部分を基準として単位文様を認めることとし、2群の「連結文」と区別するため、語頭に「連携」を付し、混乱を回避した。「連携渦巻文」「連携S字状文」「連携曲線文」「連携コ字状文」などが認められる。さらに、単位文様と隣接する空間の幅や、単位文様の展開方向によって、次のa～c類に細分される。

a類 単位文様の幅が、次のb類と比較して広く、また隣接する空間が単位文様と同じ位の幅で構成されるもの。

単位文様 1群



C字状文



S字状文



山形文



弧状文



渦巻文

単位文様 2群



円形文



楕円形文



長楕円形文



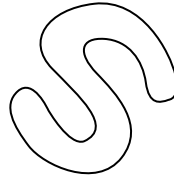
方形文



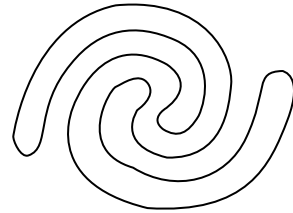
長方形文



連結C字状文

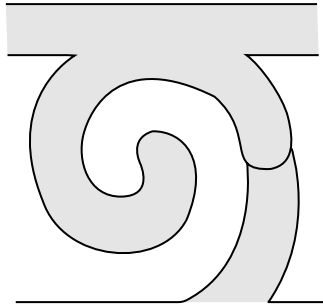


連結S字状文

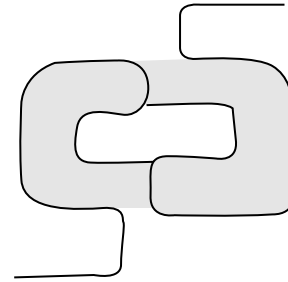


連結渦巻文

単位文様 3群a類

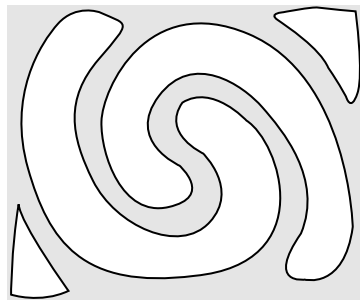


連携渦巻文

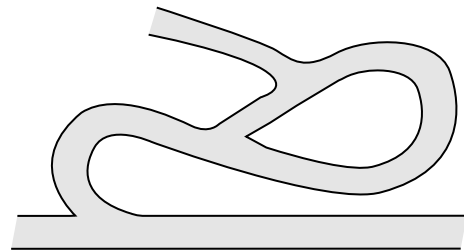


連携コ字状文

単位文様 3群b類

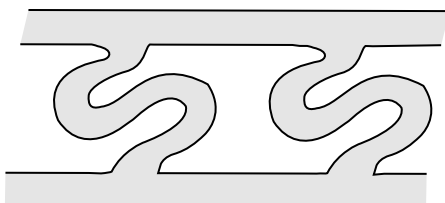


連携S字状文

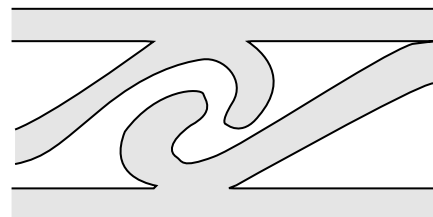


連携曲線文

単位文様 3群c類



連携S字状文



連携S字文

図1 単位文様の分類

b類 単位文様の幅が、前記のa類と比較して狭く、また隣接する空間の幅と比べてみても幅狭のもの。

c類 結合する単位文様が横位に展開するもの。

### 3. 事例分析 (図2～10)

以上のように分類した単位文様は、土器が型式として変化していくうえで密接に関連する要素の一つとして理解される。これらの単位文様は有意な変遷指標であり、層位学的方法および共伴関係の確認を行うことによって、より具体的な内容を明らかにできるはずである。分析にあたっては、各遺構の共伴事例を対象とし、前記で分類された単位文様を中心に記述する。

#### 事例1：第1号遺物集中ブロック (図2)

捨て場から出土した一括資料である。単位文様第3群a類の連携渦巻文や連携コ字状文など(1～3、7・8)が施される土器が主体的で、単位文様第3群b類の渦巻文など施される土器もわずかに見られる(4)。また、撚糸圧痕による格子目文をモチーフとする土器も出土している(5)。

#### 事例2：竪穴住居跡・第2号遺物集中ブロック (図3)

本事例は、住居跡とした遺構の堆積土より出土した資料である。各堆積土は、一次堆積 二次堆積 三次堆積 四次堆積 第2号遺物集中ブロックの順での推移が認められる。

土器の共伴関係は、住居跡を覆う一次～二次堆積(4～6層)では、単位文様3群a類の連携長方形文(2・3)や連携C字状文あるいは曲線文(6)、連携斜線文あるいは三角形文(1)など施される土器が出土している。

三次堆積土(2～3層)では、単位文様3群b類の連携S字状文(7、9)や三角形文や弧状文などで構成されるもの(12)、弓矢や樹木を抽象した文様が連携するもの(10)など施される土器が出土している。

四次堆積土(1層)では、単位文様2群の楕円形文や円形文(14・15)、3群b類の連携弧状文あるいはうろこ状文(13)、3本組沈線手法によるS字状文あるいは渦巻文(16・17)など施される土器が出土している。

第2号遺物集中ブロックでは、単位文様2群の楕円形文や円形文、連結S字状文(20、23)、連結渦巻文(22、26)、3本組沈線手法による渦巻文(25)、3群c類の連携S字状文?(27)など施される土器が出土している。

#### 事例3：第5号遺物集中ブロック (図4)

捨て場から出土した資料である。平面分布ではa～dの概ね4つのブロックに分けることができる。垂直分布では、a、bブロックについては有意な層位的重複は認められず、ほぼ同一時期に形成されたものと推定され、dブロックについては、土器の分布が概ね2層を呈する有意な層位的重複が認められた。その下層がd1ブロック、上層がd2ブロックである。各ブロックは、d1ブロック a～cブロック d2ブロックの順での推移が認められる。

土器の共伴関係は、d1ブロックでは、単位文様3群b類の連携C字状文や三角形文、長方形文などが施される土器(1・2)が出土している。

aブロックでは、単位文様2群の連結C字状文や連結S字状文などの渦巻文系の主要文様が施される土器(3、10)が多く出土している。また、同一時期として推定されるcブロックにおいても、単位文

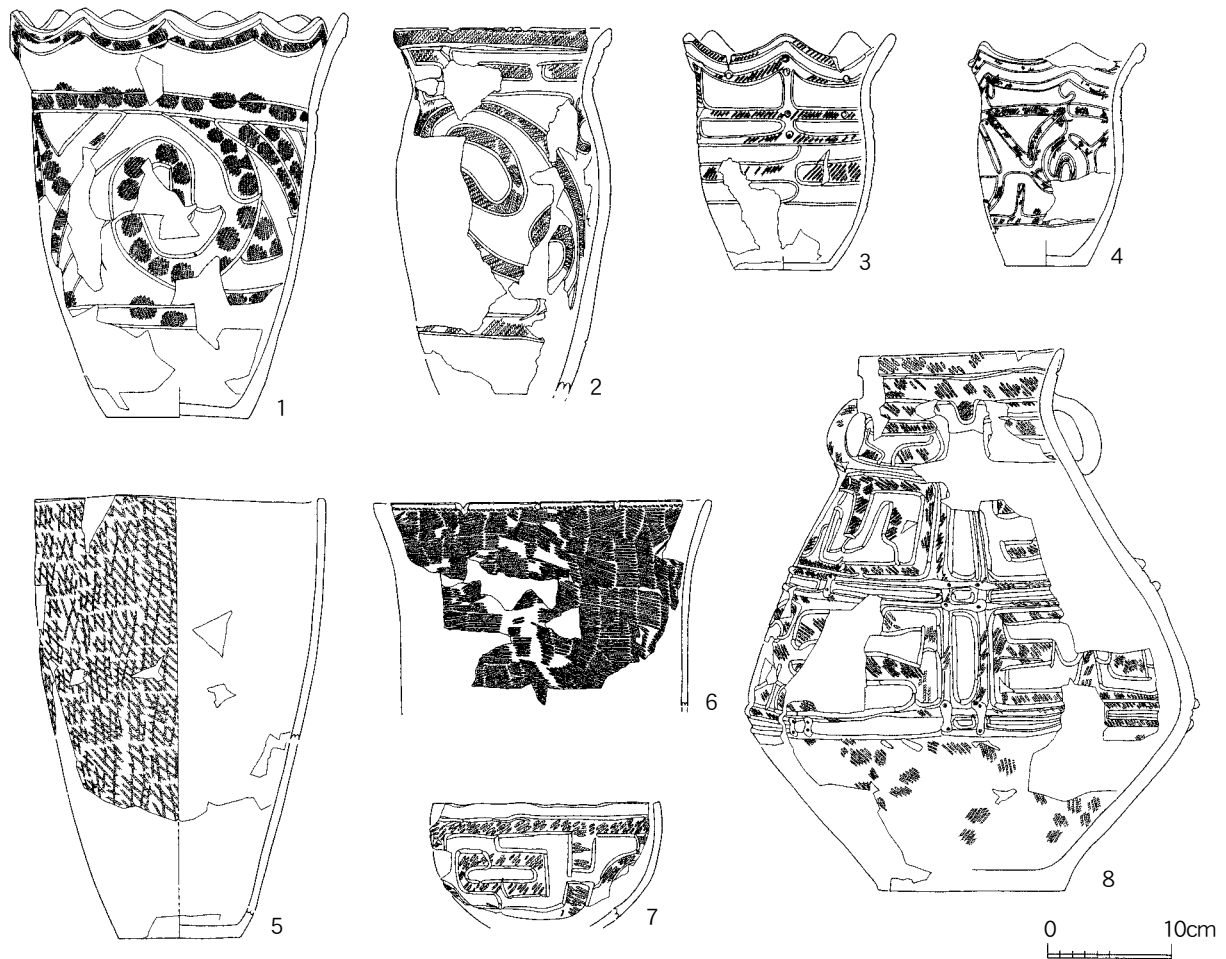


図2 事例1：第1号遺物集中ブロック（青森市教育委員会1996）

様2群の連結S字状文やC字状文などの渦巻文系の主要文様が施される土器（12・13）が出土している。

d2ブロックでは、3本組沈線によるS字状文が施される土器（17、19）や単位文様3群c類の連携渦巻文（15）や連携S字状文（20）、櫛歯状沈線手法による連携S字状文、連携渦巻文（14、16）などが施される土器（14、16）が出土しており、単位文様3群c類の方が主体的である。また、櫛歯状沈線手法による格子目文をモチーフとした土器も出土している（21）。

**事例4：第1号竪穴住居跡（図5）**

第1号竪穴住居跡の覆土より出土した資料である。

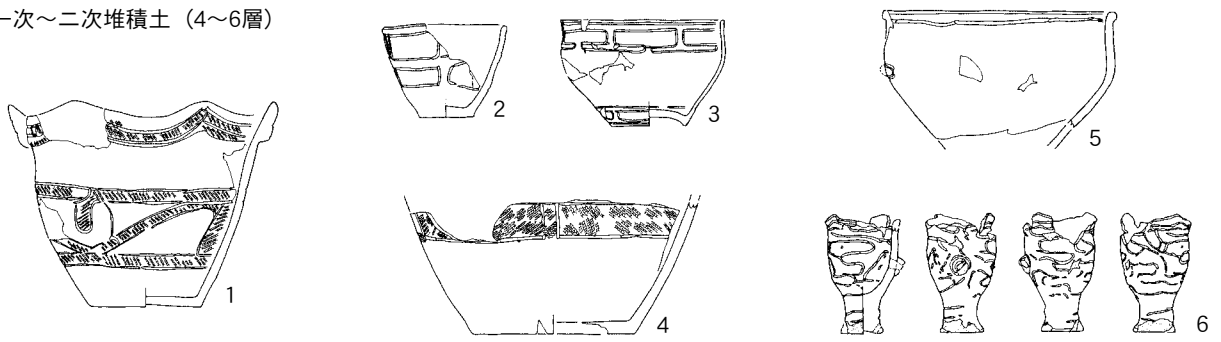
土器の共伴関係は、3本組沈線手法によるS字状文や弧状文など（2～4）が主体的であるが、単位文様第2群の隆沈線手法による土器（5）も出土している。

**事例5：環状列石内の盛土（図6）**

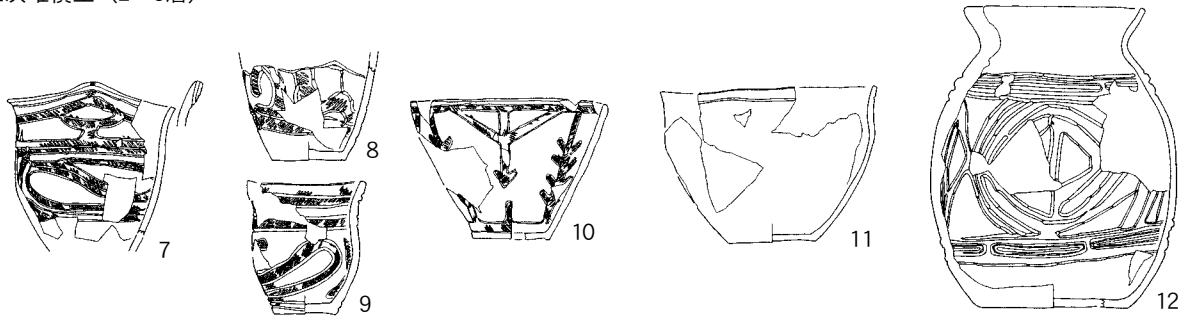
環状列石の石を配置する前に構築された盛土上面より出土した資料である。

共伴関係は、単位文様2群の円形文や長楕円形文の区画文様、連結S字状文や渦巻文系の主要文様が施される土器（1、2、4、10、11）が主体的である。また、撚糸圧痕による格子目文をモチーフとする土器も出土している（7・8）。

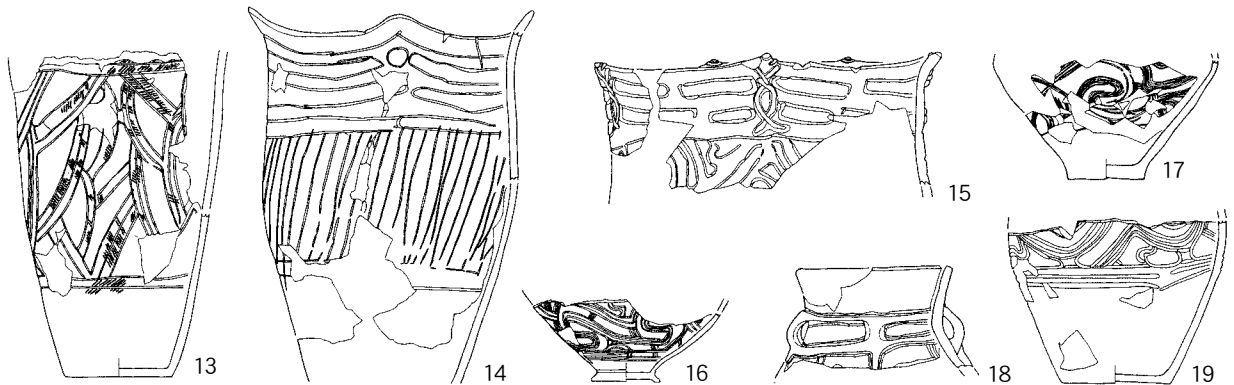
一次～二次堆積土 (4～6層)



三次堆積土 (2～3層)



四次堆積土 (1層)



第2号遺物集中ブロック

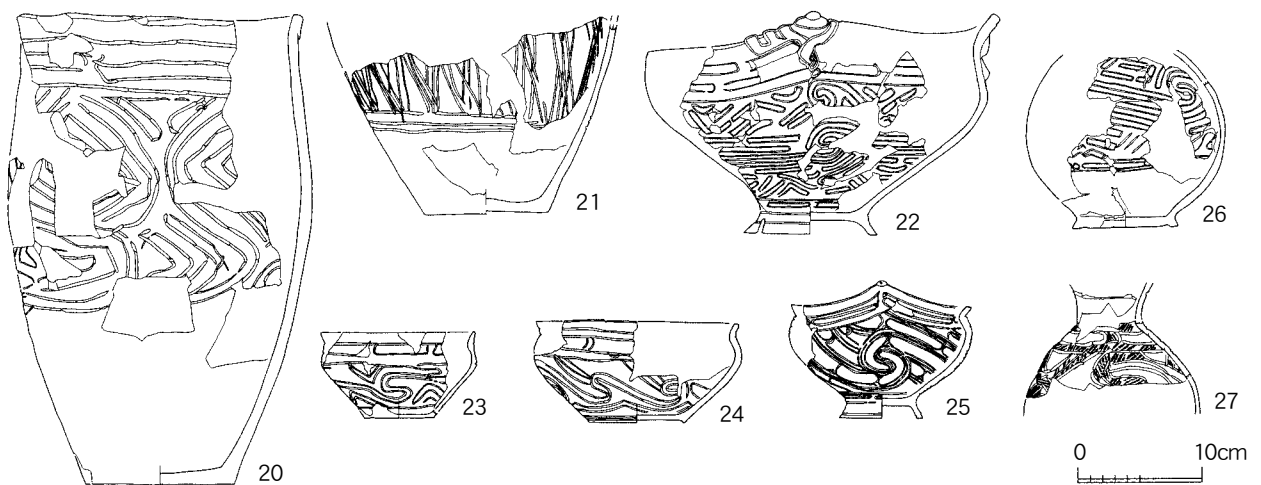
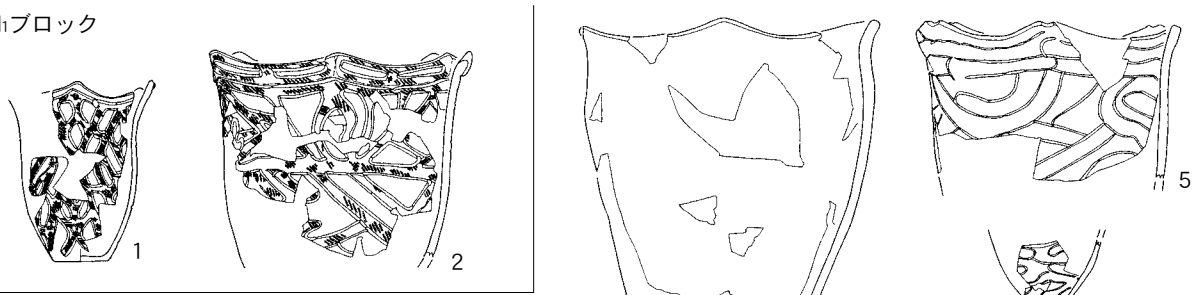
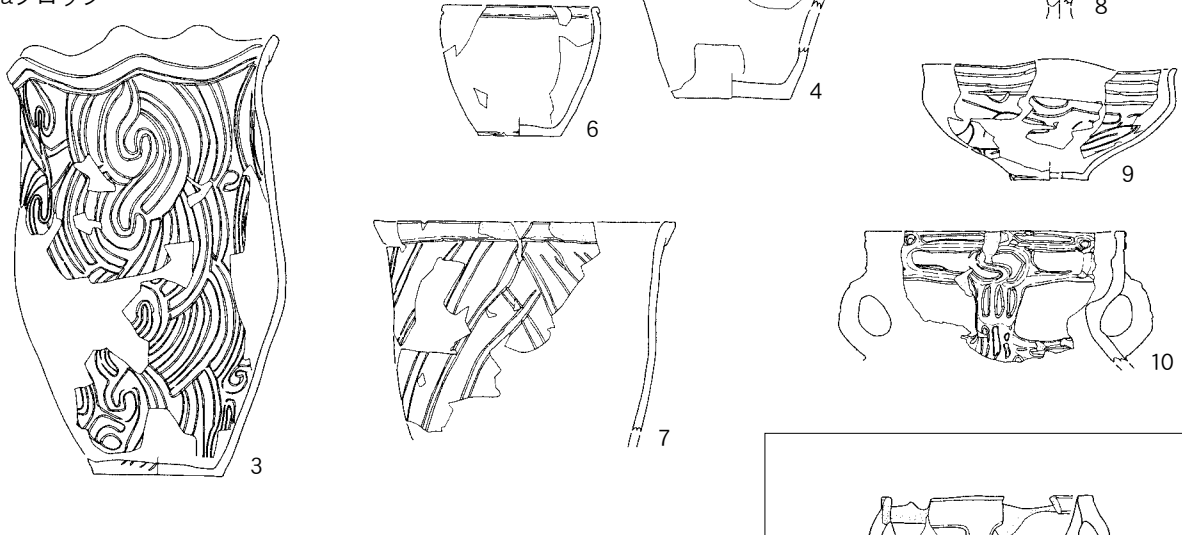


図3 事例2：竪穴住居跡・第2号遺物集中ブロック (青森市教育委員会1996)

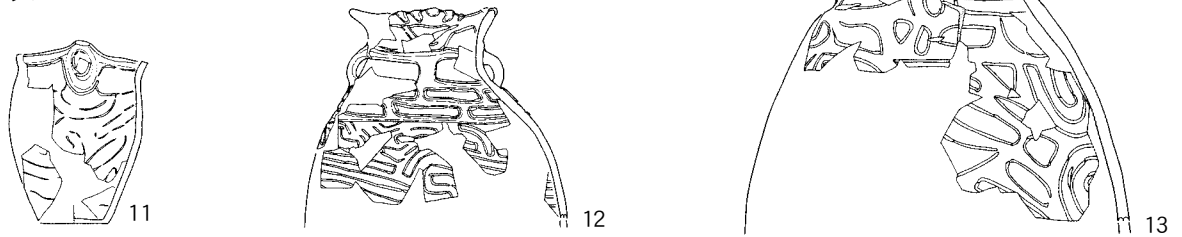
d1ブロック



aブロック



cブロック



d2ブロック

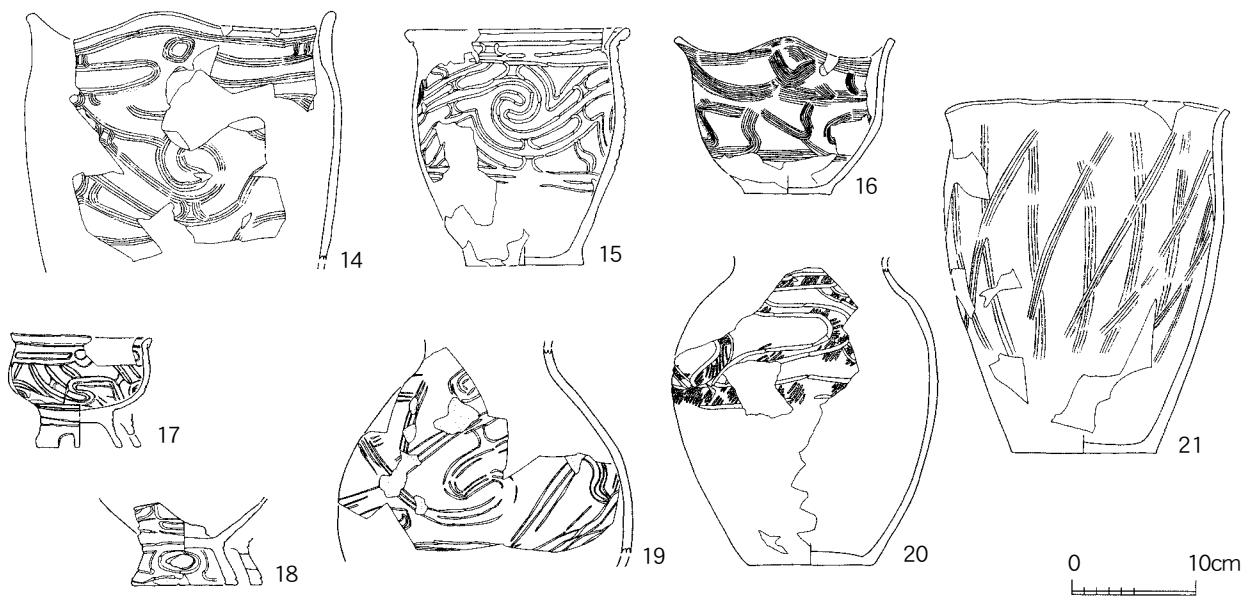


図4 事例3：第5号遺物集中ブロック



**事例 6：環状列石内の土器棺墓（図 7）**

環状列石の内帯と外帯の間から出土したもので、時系列的には、前記の盛土 環状列石（内帯・外帯）の構築 土器棺墓の順となる。

土器棺 No. 1 は、セット関係にある土器で、単位文様 2 群の円形文や長楕円形文の区画文様（3）と渦巻文系の主要文様が施されるもの（1）、3 本組沈線手法による S 字状文が施されるもの（2）である。

土器棺 No. 2 は、単位文様 2 群の渦巻文系の主要文様（4）と沈線手法による格子目文をモチーフとした土器（5・6）である。

土器棺 No. 3 は、単位文様 2 群の渦巻文系の主要文様が施される土器（7）である。

**事例 7：土坑（図 8・9）**

土坑の覆土中より出土した資料である。

SK-46 は、単位文様 3 群 b 類を主体とする土器が出土している（1～9）。

SK-37、41、52 は、単位文様 2 群の連結 C 字状文や連結渦巻文、連結 S 字状文など（10、11、13、14、16、29）施される土器が主体的である。また、撚糸圧痕（28）および沈線手法（15）による格子目文をモチーフとする土器も出土している。

SK-48A、43、50、61 は、単位文様 2 群の長楕円形文や連結渦巻文、連結 C 字状文、連結弧状文など（17、22、24、32、35）と、3 本組沈線手法による S 字状文、渦巻文など（20～23、25、26、36）が施される土器が出土している。

SK-44A は、単位文様 3 群 c 類の連携波状文？など（38）が施される土器が出土している。

**事例 8：三つ重ね土器（図 10）**

遺構外より、三つ重ねの状態出土した土器である。2 セット出土している。

No. 1 は、単位文様 2 群の長楕円形文が施された土器が 2 点（1・2）、3 本組沈線手法による渦巻文系の主要文様が施される土器が 1 点（3）の構成となっている。

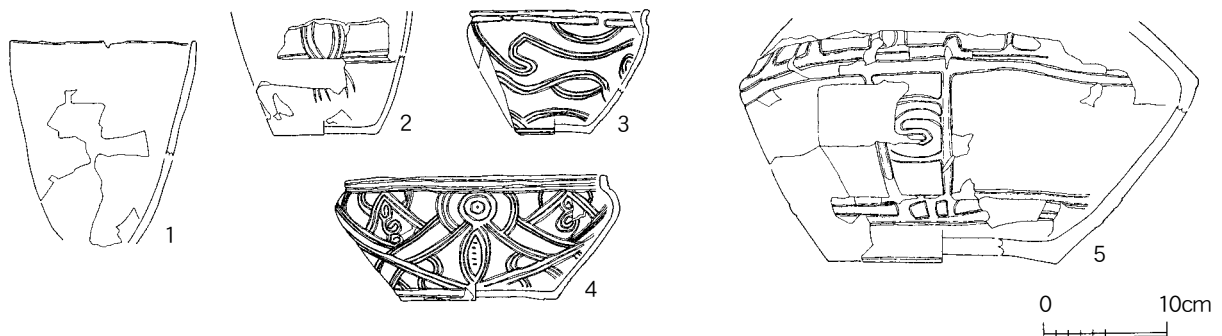


図5 事例4：第1号竖穴住居跡（青森市教育委員会2001）

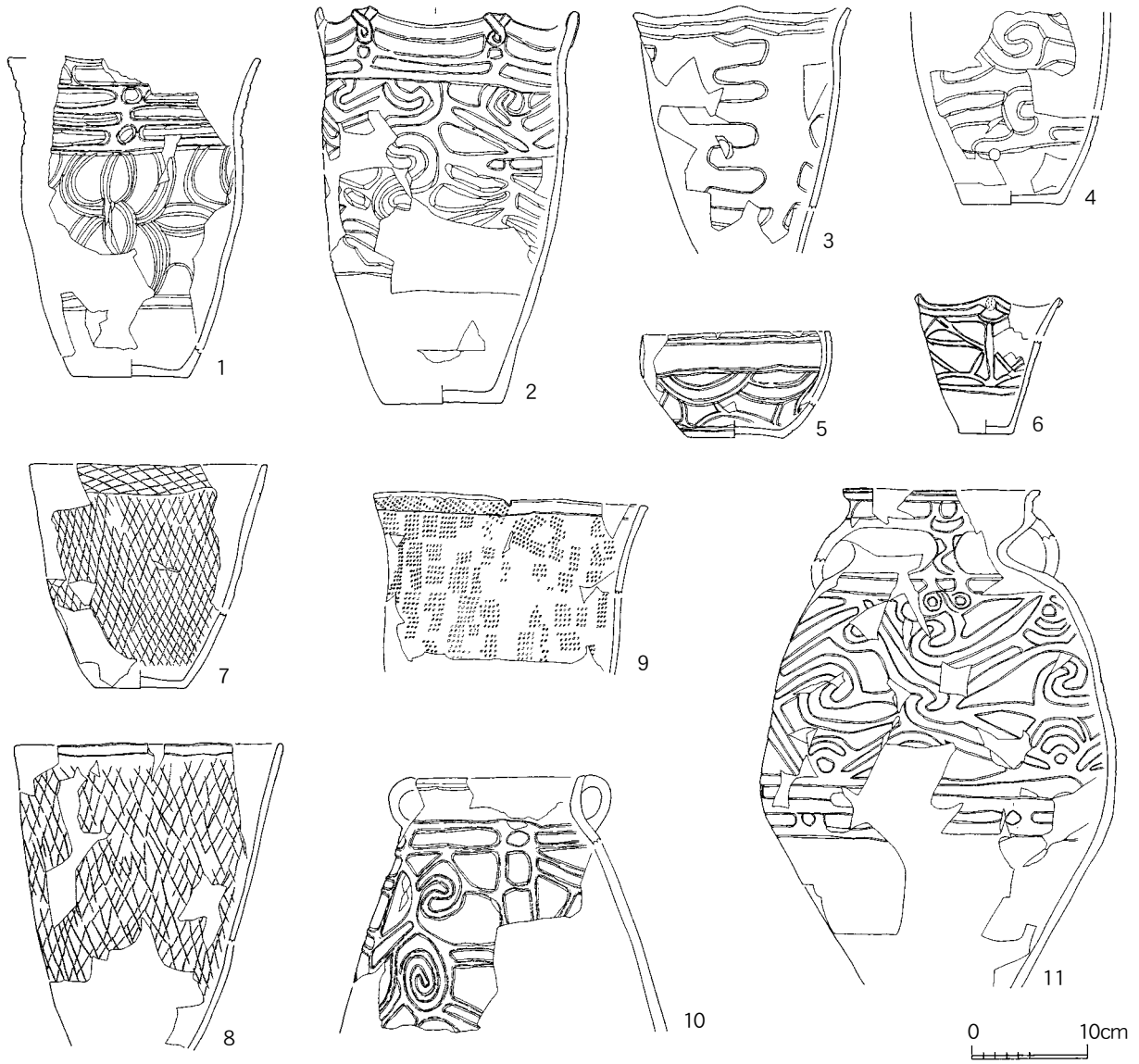


図6 事例5：環状列石内盛土（青森市教育委員会2001）

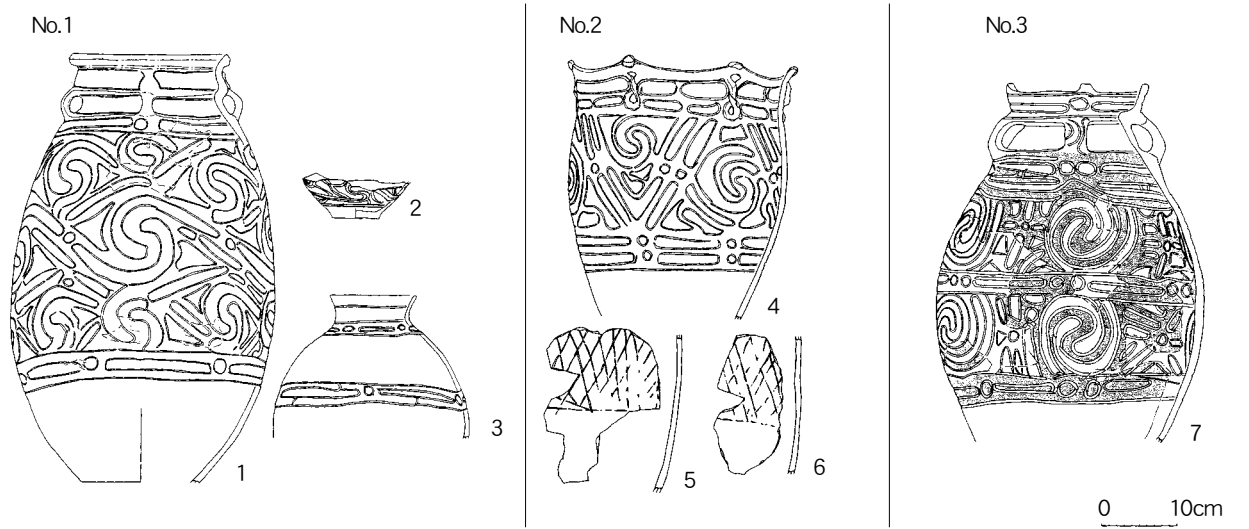
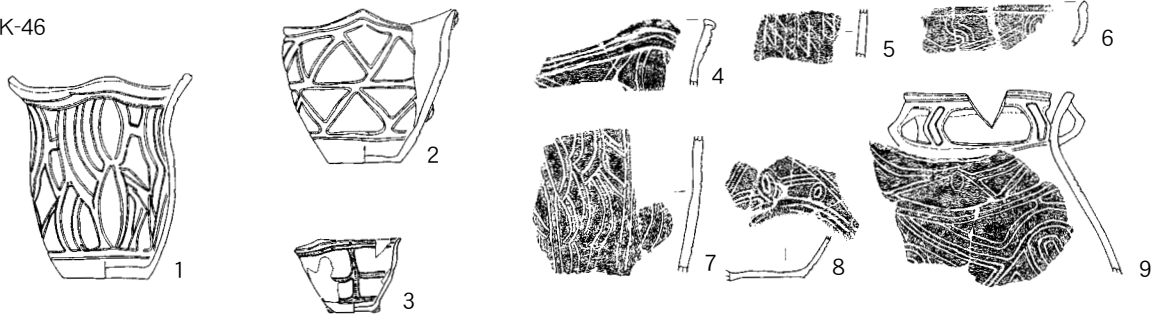
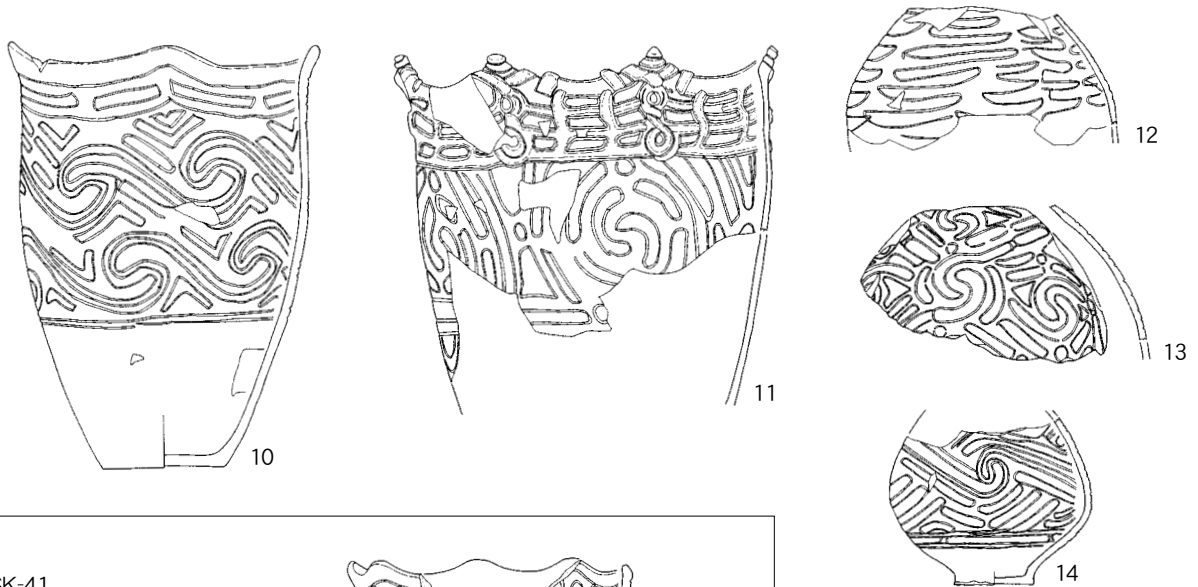


図7 事例6：環状列石内土器棺墓（葛西・高橋1990）

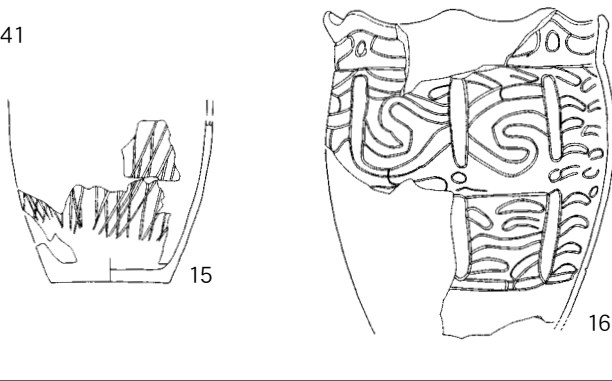
SK-46



SK-37



SK-41



SK-48A

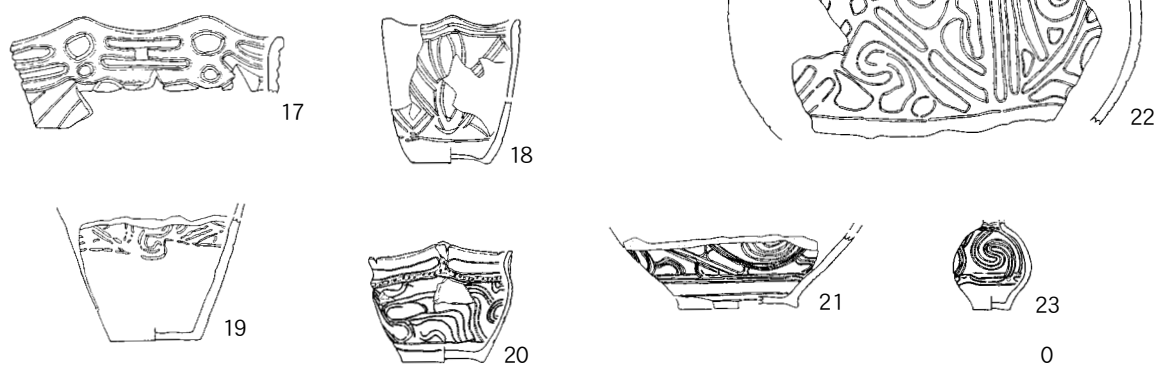


図8 事例7-1：土坑（青森市教育委員会2002）

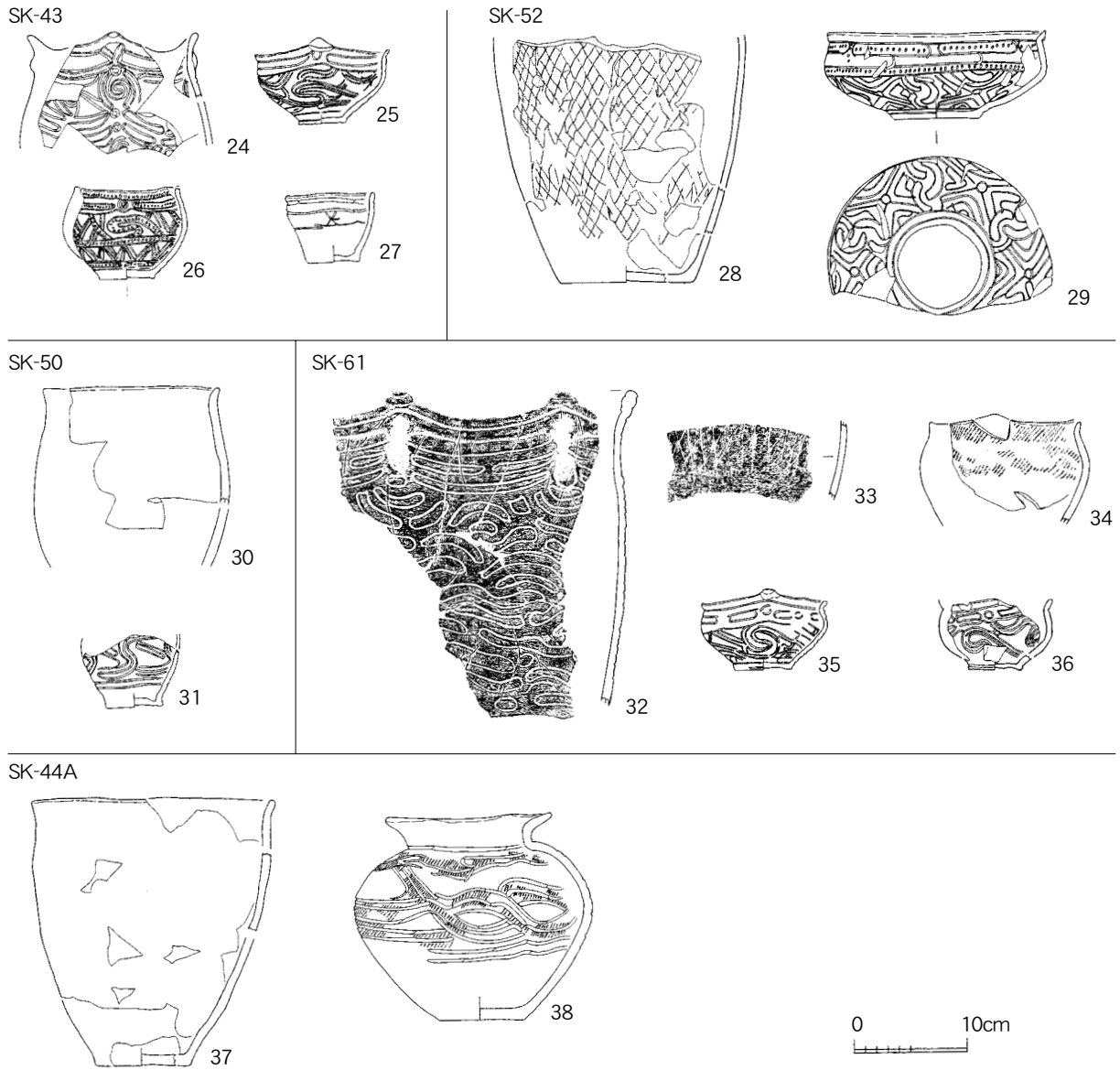


図9 事例7-2：土坑（青森市教育委員会2002）

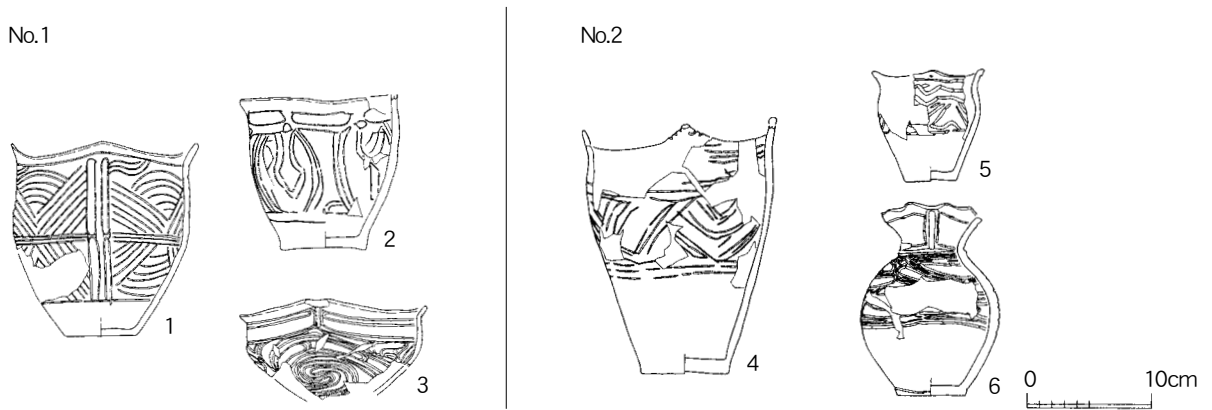


図10 事例8：三つ重ね土器（No.1：本報告書、No.2：青森市教育委員会1996）

No. 2は、3本組沈線手法による山形文（横位展開）が1点（4）、単位文様3群c類の横位に展開する主要文様が2点（5・6）の構成となっている。

#### 4．単位文様の変遷と時期区分（図11～13）

前項の各事例の推移の過程を整理（図11）すると、その上限では、第1号遺物集中ブロック・竪穴住居跡より単位文様3群a類に求めることができ、次に3群b類が位置付けられる。下限では、第5号遺物集中ブロックより単位文様3群c類に求めることができ、単位文様3群b類とc類の間に単位文様2群が位置付けられる。また、3本組沈線手法による土器は、第2号および第5号遺物集中ブロックより、単位文様2群と3群c類の間に位置付けられる。以上のような様相は、各事例の共伴関係が示すように、部分的に併行しつつも、単位文様3群a類 3群b類 2群 3本組沈線手法 3群c類の順で時系列的に並ぶことが理解できる。

渦巻文系の主要文様を例にとると下記のような変遷の過程がうかがえる（図12）。

単位文様3群a類から3群b類にかけては、単位文様の幅狭化（反転して見た場合には幅広化）が考えられる。

単位文様3群のb類から2群にかけては、単位文様の反転化（縄文などによる強調部の減退）が考えられる。

事 例	単位文様 (時期区分)	3群a類	3群b類	2群	3本組沈線	3群c類
		(2期)	(3期)	(4期)	(4～5期)	(5期)
1. 第1号遺物集中ブロック		■				
2. 竪穴住居跡・第2号遺物集中ブロック	覆土4～5層		■			
	覆土2～3層		■			
	覆土1層		■		■	
	集中ブロック			■	■	■
3. 第5号遺物集中ブロック	d1ブロック		■			
	aブロック			■		
	cブロック			■		
	d2ブロック				■	■
4. 第1号竪穴住居跡				■	■	
5. 環状列石内盛土				■		
6. 環状列石内土器棺墓	No. 1			■		
	No. 2			■		
	No. 3			■		
7. 土坑	SK-46		■			
	SK-37		■			
	SK-41		■			
	SK-48A				■	
	SK-43				■	
	SK-52				■	
	SK-50				■	
	SK-61				■	
	SK-44A					■
8. 三つ重ね土器	No. 1			■	■	
	No. 2				■	■

図11 各事例における共伴関係

単位文様 2 群から 3 本組沈線手法にかけては、再び単位文様の反転化（3 本組沈線による強調）が考えられる。

3 本組沈線手法から単位文様 3 群 c 類にかけては、施文手法の多様化（櫛歯状沈線手法などの沈線の多条化、縄文による強調）が考えられる。

また、3 本組沈線手法を採用せず、単位文様 2 群から 3 群 c 類にかけて変遷するものも認められ、単位文様の連携と横位展開への変化が考えられる。

以上のような単位文様は、図13に示すごとく明確な区分をもって変遷するのではなく、前後が併行しながら段階的に変遷するものと考えられる。また、単位文様 2 群と 3 群 c 類は連続して変遷するものと考えられるが、両者の間に間層的に 3 本組沈線手法による単位文様が含まれるものと考えられる。したがって、上記の単位文様を時期的に区分すると（1 期を除く）、単位文様 3 群 a 類が「2 期」、単位文様 3 群 b 類が「3 期」、単位文様 2 群が「4 期」、単位文様 3 群 c 類が「5 期」となり、3 本組沈線手法が 4 期と 5 期の過渡期の土器すなわち「4～5 期」として設定される。

また、本遺跡では、格子目文をモチーフとする深鉢形土器が割合多く出土しているが、この土器についても施文手法の変遷が認められる（図13）。撚糸圧痕によるものでは、2 期～4 期（単位文様 3 群 a、b、2 群）沈線（単線）によるものでは 4 期～5 期（単位文様 2 群、3 群 c 類）、多条の沈線によるものでは 5 期（3 群 c 類）に伴って出土しており、沈線手法による単位文様を主要文様とする土器よりも継続的な様相を示している。

## 5 . 各時期の土器様相（図14～17）

前項までに把握した単位文様と事例分析を踏まえて、これまで東北北部において設定された土器型式に比定させ、各時期ごとの器種、器形、主要文様等の様相について記述する。

### 1 期

本遺跡では破片で僅か 2～3 点にしか過ぎず、主要文様を読み取れる出土例は未だ無い。本間宏氏（1987）が上村式、成田滋彦氏（1989）が牛ヶ沢式（3）土器と呼称した時期に相当する。

### 2 期（1～10）

単位文様 3 群 a 類を主体とする土器群によって構成される。葛西勳氏（1979 a）が蛭沢 3 群、成田氏（1989）が沖附（2）式土器と呼称した時期に相当する。

器種は、深鉢形、鉢形、浅鉢形、壺形土器で構成される。器形は、深鉢形や鉢形土器などの口縁部が肥厚しているものや折り返されるものがみられ、5～10 単位の波状口縁のものが目立つ。浅鉢形土器は器形が底部から口縁部まで膨らみを持つ器形が特徴的で平坦口縁のものが多い。

文様は、口縁肥厚部に、長方形文や波状口縁に沿った連結沈線（単位文様 2 群）が施される（1、3・4）。この口縁文様帯は 3 期までほぼ変化なく継続し（11・12、14 など）、4 期になると 1 段下がり口縁の肥厚部直下に施される傾向にある（34～39、42 など）。胴部には、幅広の連携沈線（単位文様 3 群 a 類）による渦巻文系（1）や方形・コ字状系（5、10）の主要文様が施される。これらの主要文様は、大柄に描かれることが多く、単位が 4 列・1 段～2 段の割り付けとなる傾向がみられる（1、10）。また、共伴する土器に、撚糸圧痕による格子目文が器面全体に施されるものもみられる（176～185 相当）。

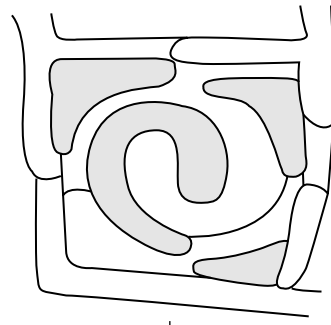
### 3 期（11～33）

単位文様 3 群 b 類を主体とする土器群によって構成される。葛西氏（1979 b）が十腰内 式第 2 段階

単位文様3群a類  
(2期)



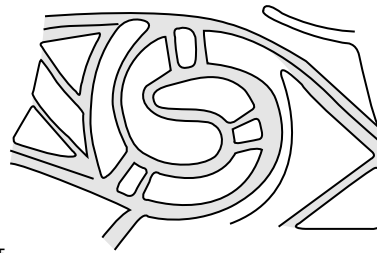
蛭沢遺跡



単位文様3群b類  
(3期)



小牧野遺跡

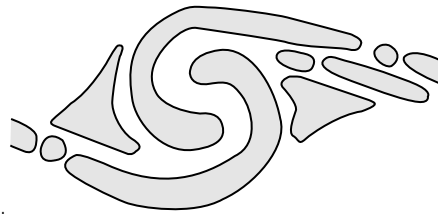


単位文様の幅狭化

単位文様2群  
(4期)



小牧野遺跡

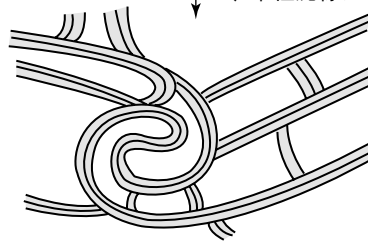


単位文様の反転化  
(縄文などによる強調部の減退)

3本組沈線  
(4~5期)



小牧野遺跡

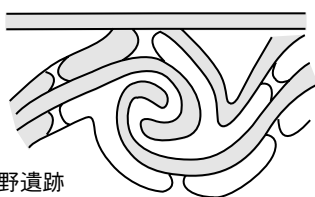


単位文様の反転化  
(3本組沈線による強調)

単位文様3群c類  
(5期)



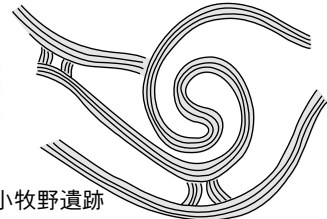
小牧野遺跡



単位文様が横位に展開



小牧野遺跡



施文手法の多様化  
(櫛歯状沈線、縄文など)

トーン部が単位文様

図12 渦巻文系の主要文様の変遷









沈線・隆沈線手法による単位文様を有する土器					格子目文をモチーフとする土器		
単位文様3群a類 (2期)	単位文様3群b類 (3期)	単位文様2群 (4期)	3本組沈線 (4~5期)	単位文様3群c類 (5期)	燃糸圧痕	沈線(単線)	沈線(多条)
							

図13 小牧野遺跡における土器の変遷

A種、鈴木氏（1998、2001）が馬立式後半および薬師前式と呼称した時期に相当する。

器種は、深鉢形、鉢形、浅鉢形、壺形土器で構成される。器形は、2期と同様に、深鉢形土器などの口縁部が肥厚しているものや折り返されるものがみられ、5～8単位の波状口縁のものが目立つ。浅鉢形土器は、2期では膨らみを持っていた胴部がやや直線的になり、鉢形に近い器形となる傾向がみられ、平坦口縁のものも割合多い。

文様は、2期と同様に口縁肥厚部に、長方形文や波状口縁に沿った連結沈線（単位文様2群）が施される（11、12、14など）。胴部には2期にみられた方形・コ字状系の主要文様が減退化、渦巻文系の主要文様が小型化（11、13～15）し、単位も4列～6列・1段～2段の割り付けとなる傾向にある。単位文様を観察するにあたり、縄文が施される部分とその外側の部分のどちらが単位文様なのか迷ってしまう土器が多いのもこの時期である。縄文により強調された部分を単位文様として認定しているが、反転して見た場合には4期の文様に類似した構図となる。

#### 4期（34～114）

単位文様2群を主体とする土器群によって構成される。葛西氏（1979b）が十腰内 式第2段階B種、成田氏（1989）が十腰内 A式と呼称した時期に相当する。十腰内 式土器の古相として理解される。器種は、深鉢形、鉢形、浅鉢形、壺形で構成される。器形は、深鉢形土器や鉢形土器などの口縁部が、前二期と比べて折り返されるものが少なくなり、4～8単位の波状口縁のものが目立つ。浅鉢形土器は、胴上半部が屈曲したり、口縁部が外反するものが多くなり、口縁部が2～4単位の波状口縁と平坦口縁のものがみられる。また、器面も丁寧に調整されるものも多くなり、色調も前の時期と比べると明るさを増してくる。

文様は、2期・3期では口縁肥厚部に長方形文などが施されていたが、この時期では1段下がり、口縁の肥厚部直下に円形文や長楕円形文が施される傾向にある（34～39、42など）。また、深鉢、浅鉢、壺形土器の波状口縁の垂下部には円形や8字状の粘土紐が貼付されるものが目立つ。主要文様は、連結C字状文を互いに組合せたり、連結S字状文を变形させたりした渦巻文系の文様や、円形文、長楕円形文、三角形文などの副文様が組合わされる傾向にある（34～42、72～82、85～100など）。単位も6～8列・



2段～4段前後となり、前二期と比べると多列・多段化する傾向がみられる。3期の段階では、この単位文様の外側に縄文が施されるものが多かったが、本期ではこの手法が減退し、単位文様が反転化する。また、共伴する土器に、撚糸圧痕（176～185相当）および単線による沈線手法（186～192相当）による格子目文が器面全体に施されるものがみられる。2期の段階では、撚糸圧痕が主体的であったが、本期では沈線手法によるものも多くみられる。

#### 4～5期（115～153）

3本組沈線手法を主体とする土器群によって構成される。4期と5期の間に位置付けられ、その前半期は4期、後半期は5期に含まれる可能性も考えられる。

器種は、深鉢形、鉢形、浅鉢形、壺形で構成される。器形は、深鉢形土器の波状口縁が6単位のものが多くみられるが、4単位のものも認められる（127）。

文様は、4期と同様に口縁肥厚部直下に円形文や長楕円形文が施される傾向にある。胴部には、3本組沈線手法による渦巻文系の主要文様がみられ（115、122、131、134～144など）、特に浅鉢形土器に多い。単位も4～6列・1～2段前後となり、主要文様が横位に展開するものも多くみられる（115、121～123、127など）が5期の文様ほど稚拙ではない。また、4期の段階では、連結する沈線（単位文様2群）が主体的であったが、当該期では、その外側に3本組沈線が施され、それらが連携した構図へと変化する。文様と口縁の形態に相関が認められ、口縁が4単位ものは5期の特徴である横位展開する主要文様（129、134）が施されている。

#### 5期（154～175）

単位文様3群c類を主体とする土器群によって構成される。葛西氏（1979b）が十腰内 式第3段階、成田氏（1989）が十腰内 B式と呼称した時期に相当する。十腰内 式土器の新相として理解される。

器種は、深鉢形、鉢形、浅鉢形、壺形、注口土器で構成される。器形は、深鉢形や浅鉢形土器の口縁部が、4期では6～8単位の波状口縁が多くみられたのに対し、本期では4単位のものが目立つようになる。また、浅鉢形土器では、高台が付くもの（167）もみられるようになる。

文様は、4期の口縁肥厚部直下にみられた円形文や長楕円形文の配置が少なくなる。胴部には沈線で縁どりされた単位文様内に櫛歯状沈線や縄文などが充填されるようになる。櫛歯状沈線は、4～5期の3本組沈線が多条化したものと考えられる。単位も4～6列・1段前後となり、稚拙な単位文様が連携しかつ横位に展開（単位文様3群c類）する傾向がみられる。また口縁部に刻目が施されるものや胴部に刺突文が施される土器もみられるようになる。共伴する土器に、多条沈線手法による格子目文が器面全体に施されるものがみられる（193・194相当）。

## 6．十腰内 式土器の直前型式 - 小牧野3期土器 -

### （1）十腰内 式直前の型式に関する略史

昭和33～36年にかけて調査された弘前市十腰内遺跡から出土した土器群は、磯崎正彦氏によって十腰内 群に細分され、東北北部の縄文後期の土器群を編年的に体系化し（今井・磯崎1968）、その群土器は十腰内 式土器として理解された。

その後、葛西氏（1979a・b）により青森市蛭沢遺跡から出土した土器群の編年案が発表され、十腰内 式土器の前段階に蛭沢3群土器が、さらに前段階に蛭沢1・2群土器が位置付けられると提示された。成田氏は、葛西氏の編年観に近い立場（成田1986）をとっていたが、その後、蛭沢1・2群に相当

する弥栄平(2)式を設定することにより蛭沢3群と1・2群土器を逆転させた編年案を発表した(成田1989)。また、本間(1987)・鈴木(1998)氏は、これらが同一型式であるという編年案を発表した。

このように十腰内 式の前段階の型式については編年上、安定した評価が得られていないのが現状である。

## (2) 問題の所在

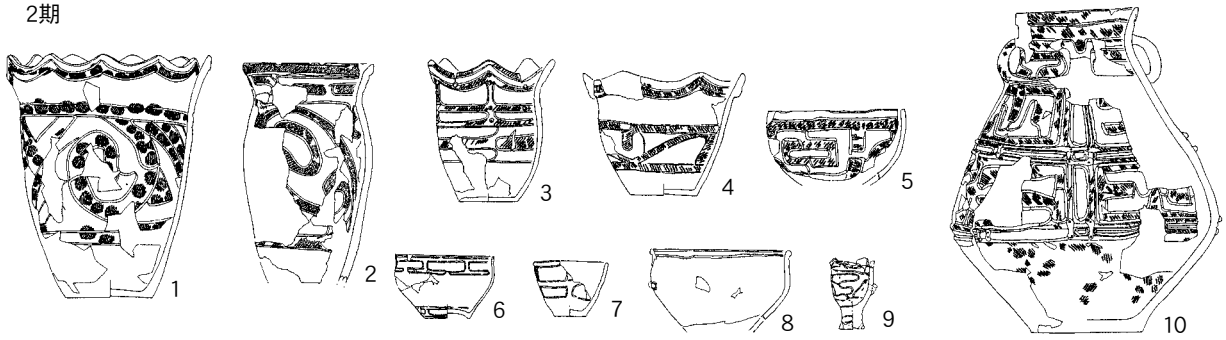
小牧野2期にあたる葛西氏の蛭沢3群、成田氏の沖附(2)式土器は、両者とも型式的にはほぼ同じ内容で理解しているものと思われるが、葛西氏は蛭沢3群(成田氏の沖附(2)式)の前段階に蛭沢1・2群(成田氏の弥栄平(2)式)を位置付け、成田氏はその逆の編年観を示している。一方、本間氏と鈴木氏は、それらが同時に存在するものとして、それぞれ蛭沢式(本間1987)と馬立式(鈴木1998)を提唱している。つまり、当該時期の編年観は、新旧逆の編年観をもった葛西氏と成田氏が時間的な差を持って変遷するという立場と、本間氏・鈴木氏の地域的に量的推移によって併存するという三つの立場が存在している。問題を複雑化しているのは、一定量の土器が包含された層位で新旧関係が確認された事例がないこと、当該型式の土器から十腰内 式土器にいたるまでに主要文様の変遷過程に連続性を欠いていたことにほかならない。

## (3) 蛭沢3群と十腰内 式を繋ぐ土器 - 小牧野3期土器 -

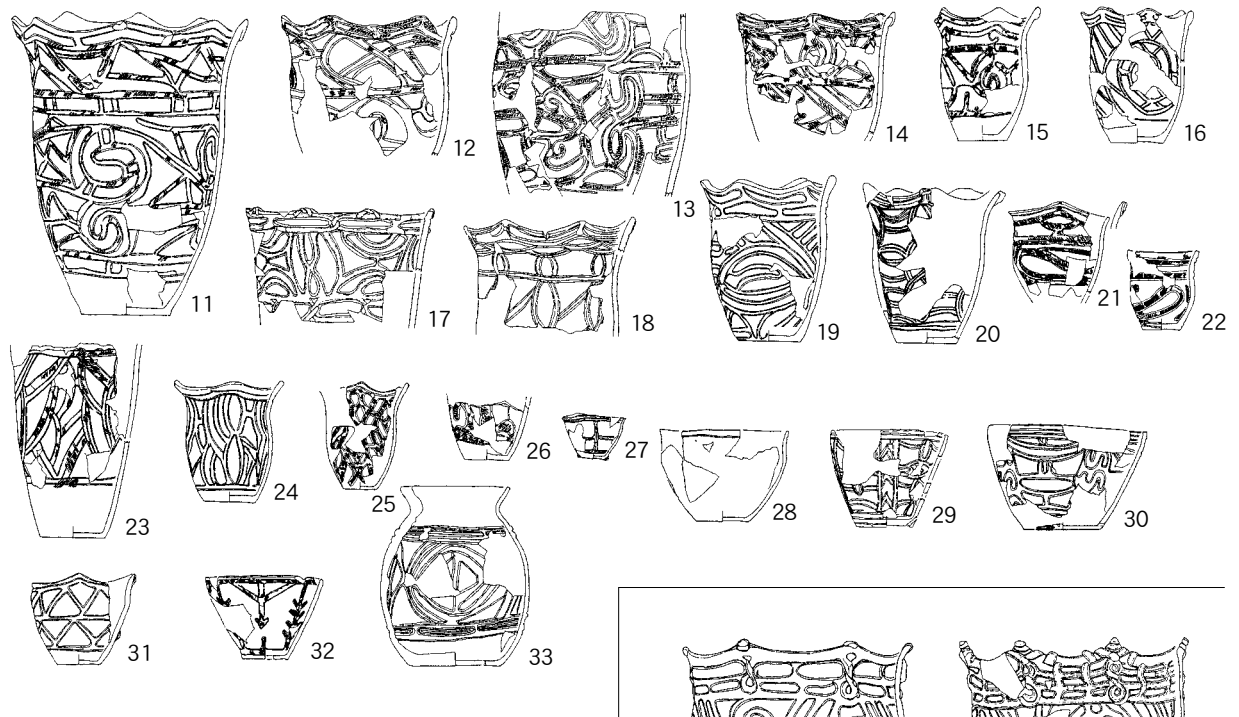
平成7年に調査した小牧野遺跡の土器群(事例2・図3)は、層位的に蛭沢3群と十腰内 式の間にもう一型式存在する可能性が見出され(青森市教育委員会1996) 児玉(1999)により「小牧野3期」の土器として設定され、蛭沢3群(小牧野2期) 小牧野3期 十腰内 式(小牧野4期)の順で系統的に型式変化するものとして提示された。また、蛭沢1・2群と3群が同じ型式(馬立式)として理解してきた鈴木氏は、小牧野3期に近い内容の土器群を「馬立式後半」と認定し(鈴木1998) その後、薬師前遺跡の土器棺の共伴関係や小牧野遺跡の事例を取り上げて「薬師前式土器」として型式設定した(鈴木2001)。葛西氏は、『再葬土器棺墓の研究』の中で、蛭沢1・2群を「蛭沢 期」、蛭沢3群を「蛭沢 期」と改称し、蛭沢 期と十腰内 式期の間「小牧野3期土器」を位置付けた(葛西2002)。また、成田氏は、葛西氏の編年と逆転の編年観を提示してきたが、平成14年に刊行された報告書『三内丸山(6)遺跡』の中で蛭沢3群を「前十腰内 式」と呼称し、さらに十腰内 A式土器を ~ 段階に3細分した(成田2002)。うち十腰内 A式第 期が小牧野3期に近い内容であると思われる。

以上のように、小牧野3期に相当する土器群は、十腰内 式土器の直前型式の土器、あるいは過渡期の土器として理解されつつあり、問題となっている前段階の型式(蛭沢3群など)を検討する上で、重要な型式であると考えられる。

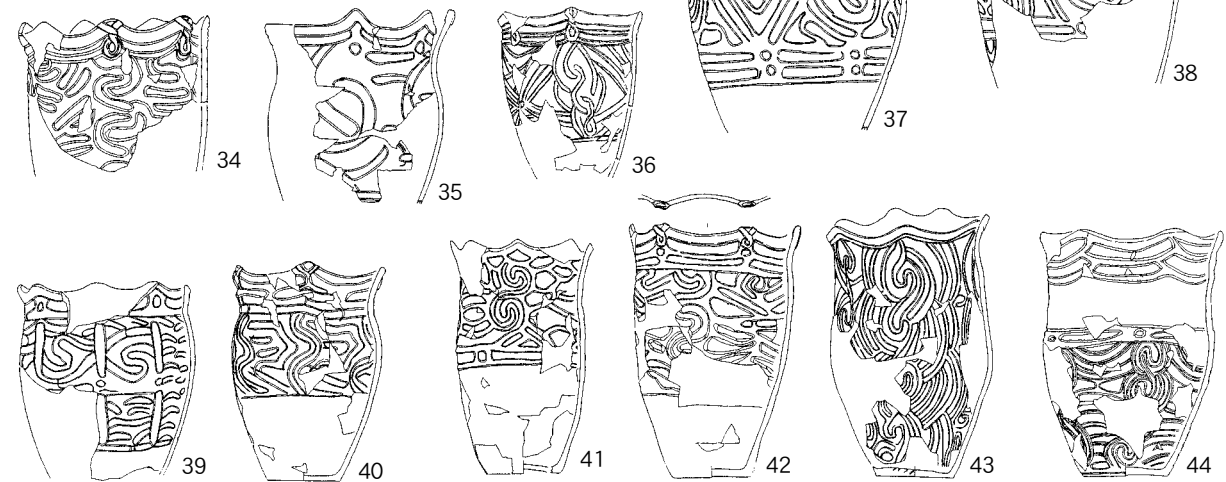
2期



3期



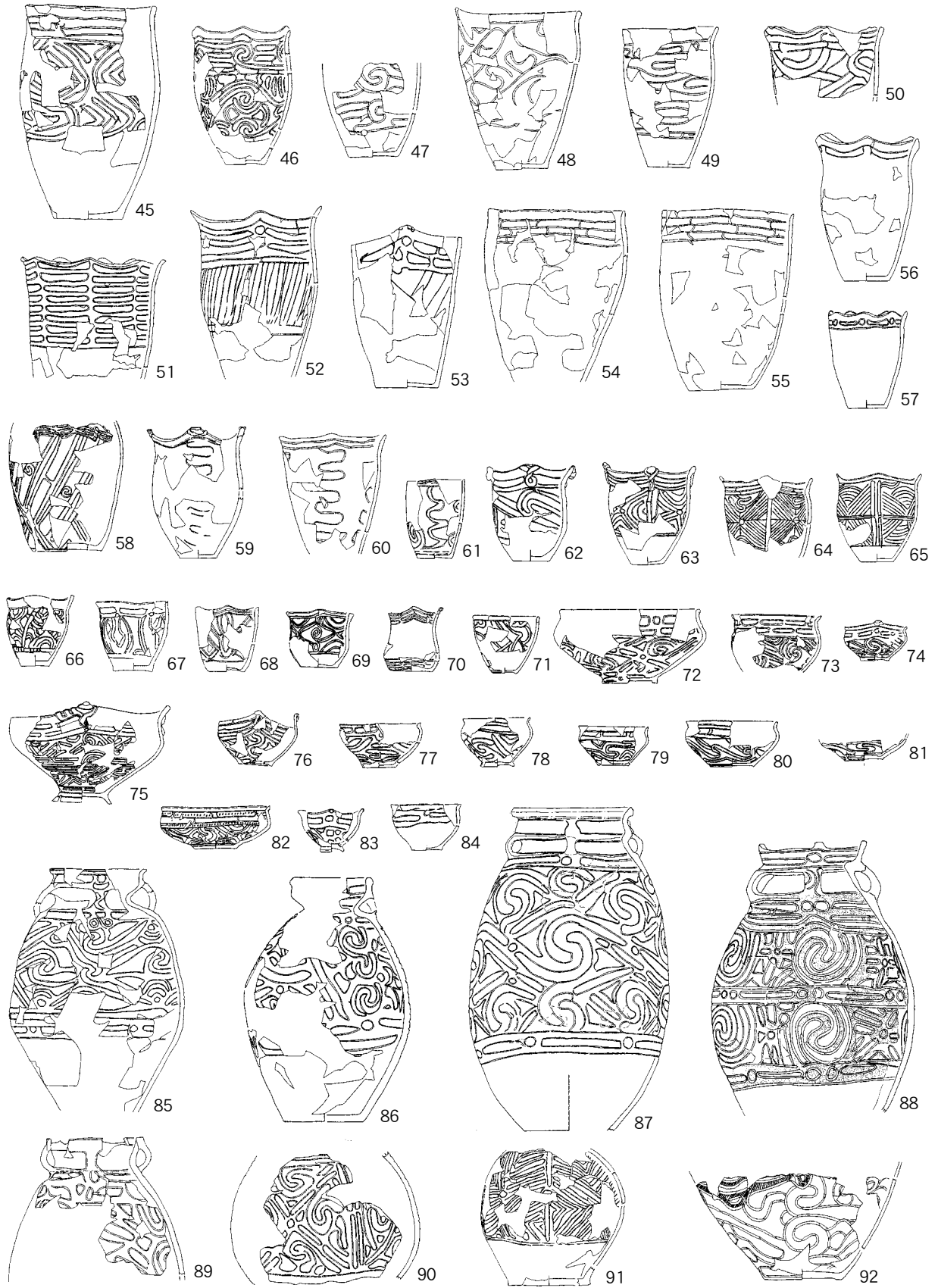
4期



S=1:10

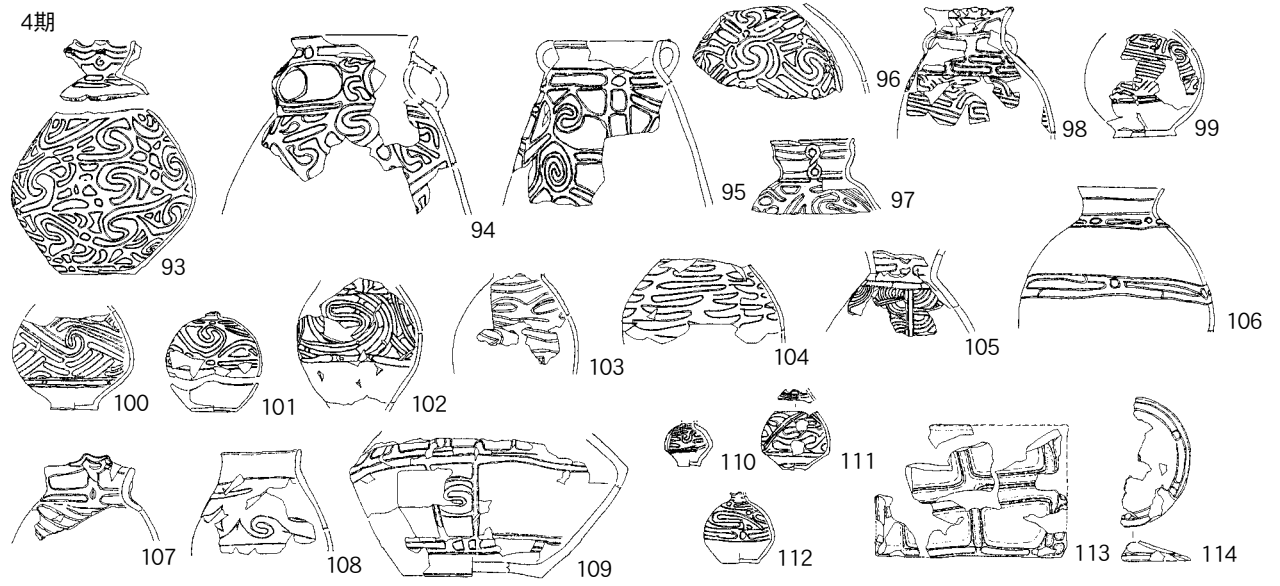
図14 小牧野遺跡における土器編年(1)

4期



S=1:10

図15 小牧野遺跡における土器編年(2)

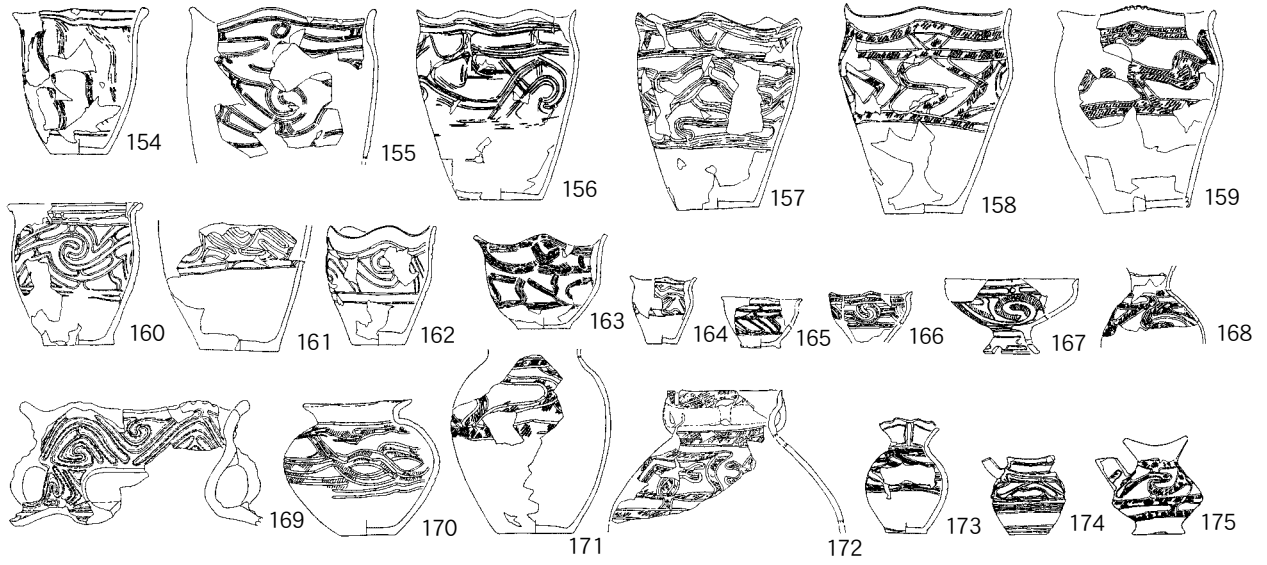


4~5期

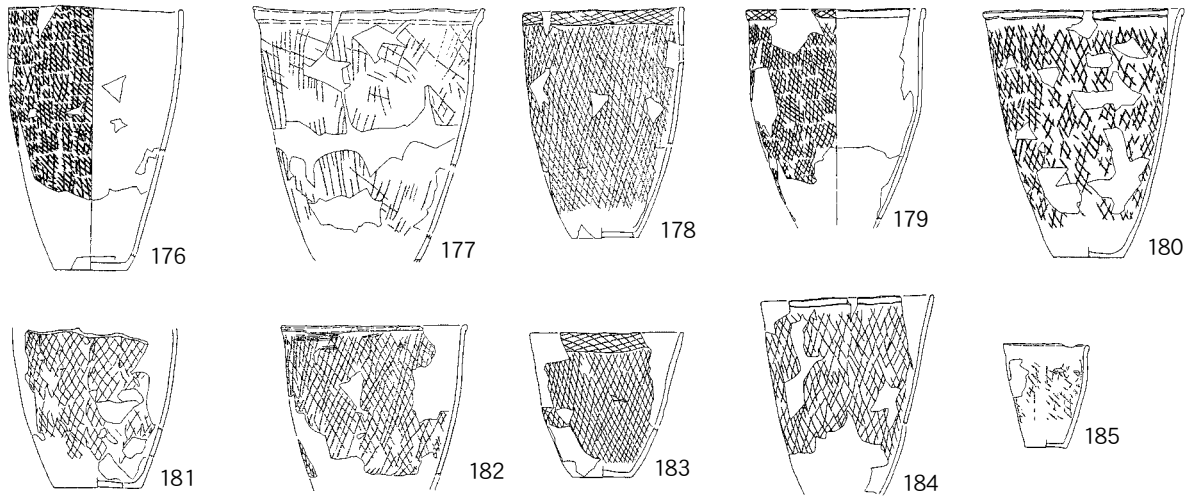


図16 小牧野遺跡における土器編年(3)

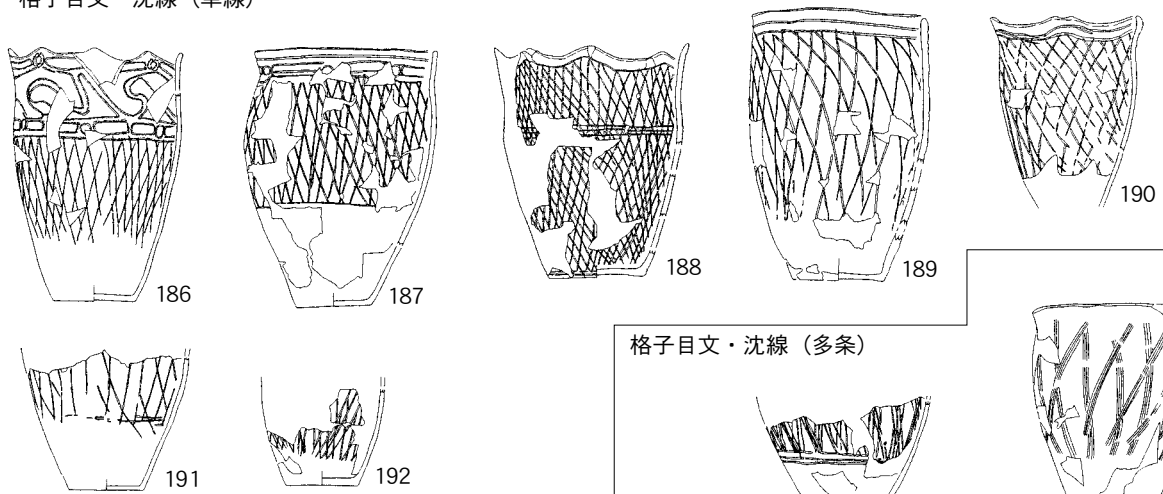
5期



格子目文・燃糸圧痕



格子目文・沈線（単線）



格子目文・沈線（多条）



S=1:10

図17 小牧野遺跡における土器編年（4）

## ま と め

小牧野遺跡は、青森市大字野沢字小牧野に所在し、縄文時代後期前葉に大規模な土地造成と特異な配石によって構築された環状列石を主体とする遺跡である。

本報告書は、平成14年度調査の概要及び平成12・13年度調査の遺構外出土遺物についてまとめたものである。

平成14年度の発掘調査は、環状列石の全体形の確認、石の個数、推定重量の把握、土地造成に関わる切土・盛土等の土量の把握を目的に、これまで未調査区域であった道路部分、および環状列石中央帯の調査を実施した。調査は平成14年10月30日～11月20日の期間、70㎡を対象に実施したが、例年よりも降雪が早く、また雨による悪天候が続き、当初目標としていた作業を全て終了することができなかった。未達の作業については、平成15年度に継続して実施する予定である。

道路部分の調査では、環状列石の外帯・内帯を確認し、遺跡の発見以来はじめて全体形が明らかとなった。遺物は、縄文後期前葉の土器や石器のほか、続縄文文化に属する土器も出土した。中央帯の調査では、その中心より楕円形の土坑が検出され、堆積状況などから墓である可能性が考えられる。出土土器から、環状列石外帯・内帯よりも一型式新しい段階で中央帯とともに構築、あるいは使用された可能性が考えられる。また、中央帯中心にあったとされる巨石については、土坑の規模や窪みの位置、石と土坑規模の相関などから立石であった可能性が高いと判断し、10月末に立石としての復元作業を実施した。

平成12・13年度の遺構外出土遺物については、ダンボール箱換算では土器が57箱、石器が25箱（753点）、土製品が3箱（256点）、石製品が4箱（391点）の計89箱が出土した。

土器は、第 群土器がほとんどで、3類土器、4類土器、4～5類土器、5類土器が出土し、4類土器が主体的であった。これらの土器については、本報告書の第 章でこれまでの調査成果をもとにした編年案を作成した。

石器は、石鏃や石錐、石匙、石篋、不定形石器、磨製石斧、石皿、石錘、敲磨器などが出土しており、不定形石器が6割以上を占めている。

土製品は、土偶、鐔形土製品、ミニチュア土器、手形付土版、有孔土製品、耳飾、キノコ形土製品、焼成粘土塊、土器片利用土製品などが出土しており、土器片利用土製品が5割弱と割合高く、次いで焼成粘土塊が2割強となっており、土偶、鐔形土製品、ミニチュア土器も割合目立った。

石製品は、三角形岩版、円形岩版、有孔石製品、碗状石製品、球状石製品、石冠などが出土しており、三角形岩版が4割強、次いで円形岩版も3割強と高い割合となっている。

以上の土器、石器、土製品、石製品の出土の割合は、これまでの調査とほぼ同じ傾向にある。

今回実施した自然科学的分析については、放射性炭素年代測定、樹種同定、顔料等の由来調査、土器胎土分析、土器片の貝殻圧痕の同定等を実施した。放射性炭素年代測定（AMS法）では、平成12・13年度調査の土坑より出土した炭化材が補正<sup>14</sup>C年代で約3550～3620年前の測定値が得られた。土坑墓より出土した炭化材は、ハンノキ属やクリと同定された。土坑より出土した顔料は、赤鉄鉱が検出されたが、赤土など赤鉄鉱以外の物質も含まれる可能性が提示された。胎土分析ではこれまで本遺跡でみられなかった雲母を含んだ切断壺形土器を分析したが、重鉱物組成分析では、これまで本遺跡で出土した土器の組成と類似する結果となった。土器圧痕の貝殻は、本州以南に生息し、山林に多く見られるミジン

ヤマタニシと同定された。土器製作地の周辺には木本を中心とする植物が存在していたことが想像される。

今後の予定についてであるが、これまで当委員会では平成2年度より発掘調査を主体とした事業を進めてきたが、平成15年度より研究や整理作業主体の事業へと移行する予定である。事業の内容としては、これまで出土した遺物の再整理や統計的な分析、環状列石の構築や土地造成に関わる作業量の把握、これまで実施してきた自然科学的分析等の総合的な考察などをまとめる予定としている。それと併行して、試料採取目的の補足的な発掘調査も実施する予定である。事業の期間は、平成15～17年度の3ヵ年とし、最終年度にこれらをまとめた報告書を刊行する計画である。

また、上記の事業と併行して、史跡の保存・活用の分野でも本格的に事業化する予定である。具体的には、平成15年度の事業として史跡内の共有地の登記整備、菌類や地衣類などにより黒色化した環状列石の洗浄作業等を実施する予定である。また平成16年度以降は、公有地化に向けた作業、環状列石や出土遺物の活用について積極的に実施する計画である。



## 引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1975 『近野遺跡発掘調査報告書( )』
- 青森県教育委員会 1977 『近野遺跡発掘調査報告書( )』
- 青森県教育委員会 1984 『一ノ渡遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1985 『大石平遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1986 『大石平 遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1986 『沖附(1)遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1986 『沖附(2)遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1986 『弥栄平(1)遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1987 『大石平遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1988 『上尾駸(2)遺跡 発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 2000 『三内丸山(6)遺跡』
- 青森県教育委員会 2001 『三内丸山(6)遺跡』
- 青森県教育委員会 2002 『三内丸山(6)遺跡』
- 青森市教育委員会 1993 『小牧野遺跡発掘調査概報』
- 青森市教育委員会 1996～2002 『小牧野遺跡発掘調査報告書～』
- 青森市教育委員会 2001・2002 『稲山遺跡発掘調査報告書』
- 青森市蚩沢遺跡発掘調査団 1979 『蚩沢遺跡発掘調査報告書』
- 秋田県教育委員会 1999 『伊勢堂岱遺跡』
- 今井富士雄・磯崎正彦 1968 「十腰内遺跡」『岩木山』
- 遠藤正夫 1997 「青森県小牧野遺跡 - その掘削・整地・配石作業」『考古学ジャーナル』412 ニュー・サイエンス社
- 葛西 勳 1979 a 「第6章 後期編」『蚩沢遺跡発掘調査報告書』
- 葛西 勳 1979 b 「十腰内 式土器の編年的細分」『北奥古代文化』第11号 北奥古代文化研究会
- 葛西 勳 2002 『再葬土器棺墓の研究 - 縄文時代の洗骨葬 - 』再葬土器棺墓の研究刊行会
- 葛西 勳・高橋 潤 1990 『青森市小牧野遺跡調査報告』
- 鹿角市教育委員会 1985～2002 『大湯環状列石発掘調査報告書(1)～(18)』
- 児玉大成 1997 「三角形岩版について」『青森県考古学』10
- 児玉大成 1999 「小牧野遺跡における環状列石の構築時期」『青森県考古学』11 青森県考古学会
- 児玉大成 2001 「縄文後期前半の岩版類と大型配石遺構」『北海道考古学情報交換会20周年記念論集 渡島半島の考古学』 北海道考古学情報交換会
- 児玉大成 2002 「くびれ石考 - 縄文人の好奇心をくすぐる自然石 - 」『市川金丸先生古稀記念献呈論文集 海と考古学とロマン』 同刊行会
- 児玉大成・遠藤正夫 2000 「小牧野遺跡における環状列石と水場遺構」『季刊考古学』第73号 雄山閣出版
- 鈴木克彦 1998 「東北北部における十腰内様式の編年学的研究・4」『縄文時代』9 縄文時代研究会
- 鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』 雄山閣出版
- 鷹巣町教育委員会 1998～2002 『伊勢堂岱遺跡詳細分布調査報告書(1)～(5)』
- 函館市教育委員会 1999 『石倉貝塚』
- 八戸市教育委員会 1986 『丹後谷地遺跡』
- 成田滋彦 1989 「入江・十腰内式土器様式」『縄文土器大観4 後期・晩期・続縄文』 小学館

- |               |      |   |
|---------------|------|---|
| 成 田 滋 彦       | 2002 | 「第4章第1節(1)第 群土器(縄文時代後期)」『三内丸山(6)遺跡』青森県教育委員会   |
| 本 間 宏         | 1987 | 「縄文時代後期初頭群の研究(1)」『よねしろ考古』第3号 よねしろ考古学研究会   |
| 山 内 清 男       | 1969 | 『日本先史土器の縄文』   |
| Daisei Kodama | 2003 | 「Komakino Stone Circle and Its Significance for the Study of Jomon Social Structure」『Senri Ethnological Studies 63:Hunter-Gatherers of the North Pacific Rim』National Museum of Ethnology |



## 報 告 書 抄 録

ふりがな	こまきのいせき はくつちょうさほうこくしょ							
書名	小牧野遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第70集							
編著者名	児玉大成、蝦名 純							
編集機関	青森市教育委員会							
所在地	〒030 8555 青森県青森市中央一丁目22 - 5 TEL 017 - 734 - 1111							
発行年月日	西暦 2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		旧日本測地系 (Tokyo Datum)		調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
こまきの野	あおもりけんあおもりし 青森県青森市 のざわあざこまきの 野沢字小牧野	02201	176	旧日本測地系 (Tokyo Datum)		平成12年度		学术調査
				40° 44 5	140° 43 53	20000817 } 20001028	834	
				日本測地系 2000(JGD2000)		平成13年度		
				北緯	東経	20010730 } 20011019	464	
				平成14年度				
				40° 44 15	140° 43 40	20021030 } 20021120	70	

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項		
小牧野遺跡	環状列石	縄文時代	平成12年度		平成12・13年度の遺構および遺構内出土遺物については『小牧野遺跡発掘調査報告書』および報告(2001、2002年刊行)		
			竪穴住居跡	1軒		遺構内	
			土坑	33基		土器	5箱
			埋設土器遺構	1基		石器	5箱
			配石遺構	4基		土製品	2箱
			集石遺構	1基		石製品	2箱
			環状配石炉	1基			
			盛土遺構	1ヶ所		遺構外	
			直線状列石	1基		土器	22箱
			焼土遺構	1基		石器	10箱
						土製品	2箱
						石製品	2箱
			平成13年度				
			竪穴住居跡	1軒		遺構内	
土坑	33基	土器	18箱				
小ピット	32基	石器	7箱				
焼土遺構	3基	土製品	1箱				
粘土埋納遺構	3基	石製品	1箱				
剥片埋納遺構	1基						
		遺構外					
		土器	32箱				
		石器	18箱				
		土製品	1箱				
		石製品	2箱				
平成14年度							
環状列石外帯・内帯 中央帯中心の土坑	1基		土器、石器、石製品等 1箱				

## 既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	『三内霊園遺跡調査概報』	青森市埋蔵文化財調査報告書	第37集	1998 『新町野遺跡発掘調査報告書』
"	2	『四ツ石遺跡調査概報』	"	第38集	1998 『野木遺跡発掘調査報告書』
"	3	『玉清水遺跡調査概報』	"	第39集	1998 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
"	4	『三内丸山遺跡調査概報』	"	第40集	1998 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	5	『野木和遺跡調査報告書』	"	第41集	1998 『野木遺跡発掘調査概報』
"	6	『玉清水 遺跡発掘調査報告書』	"	第42集	1998 『熊沢遺跡発掘調査概報』
"	7	『大浦遺跡調査報告書』	"	第43集	1999 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
"	8	『孫内遺跡発掘調査報告書』	"	第44集	1999 『葛野( 2 )遺跡発掘調査報告書』
		1979 『蚩沢遺跡』	"	第45集	1999 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
		1983 『四戸橋遺跡調査報告書』	"	第46集	1999 『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野峠遺跡』	"	第47集	1999 『稲山遺跡発掘調査概報』
"	1985	『長森遺跡発掘調査報告書』	"	第48集	2000 『熊沢遺跡発掘調査報告書』
"	1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』	"	第49集	2000 『稲山遺跡発掘調査概報』
"	1987	『横内城跡発掘調査報告書』	"	第50集	2000 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	1988	『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』	"	第51集	2000 『桜峯( 1 )・雲谷山吹( 3 )遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書	第16集	1991 『山吹( 1 )遺跡発掘調査報告書』	"	第52集	2000 『大矢沢野田( 1 )遺跡調査報告書』
"	第17集	1992 『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』	"	第53集	2000 『市内遺跡発掘調査報告書』
"	第18集	1993 『三内丸山( 2 )遺跡発掘調査概報』	"	第54集	2001 『新町野遺跡発掘調査報告書』・野木遺跡発掘調査報告書』
"	第19集	1993 『市内遺跡発掘調査報告書』	"	第55集	2001 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	第20集	1993 『小牧野遺跡発掘調査概報』	"	第56集	2001 『稲山遺跡発掘調査報告書』
"	第21集	1994 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第57集	2001 『稲山遺跡発掘調査概報』
"	第22集	1994 『小三内遺跡発掘調査報告書』	"	第58集	2001 『大矢沢野田( 1 )遺跡発掘調査概報』
"	第23集	1994 『三内丸山( 2 )・小三内遺跡発掘調査報告書』	"	第59集	2001 『市内遺跡発掘調査報告書』
"	第24集	1995 『横内遺跡・横内( 2 )遺跡発掘調査報告書』	"	第60集	2002 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	第25集	1995 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第61集	2002 『大矢沢野田( 1 )遺跡発掘調査報告書』
"	第26集	1995 『桜峯( 2 )遺跡発掘調査報告書』	"	第62集	2002 『稲山遺跡発掘調査報告書』
"	第27集	1996 『桜峯( 1 )遺跡発掘調査概報』	"	第63集	2002 『稲山遺跡発掘調査概報』
"	第28集	1996 『三内丸山( 2 )遺跡発掘調査報告書』	"	第64集	2002 『市内遺跡発掘調査報告書』
"	第29集	1996 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第65集	2003 『雲谷山吹( 4 )~( 7 )遺跡発掘調査報告書』
"	第30集	1996 『小牧野遺跡発掘調査報告書』	"	第66集	2003 『稲山遺跡発掘調査報告書』
"	第31集	1997 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第67集	2003 『深沢( 3 )遺跡発掘調査報告書』
"	第32集	1997 『桜峯( 1 )遺跡発掘調査概報』	"	第68集	2003 『近野遺跡発掘調査報告書』
"	第33集	1997 『新町野遺跡試掘調査報告書』	"	第69集	2003 『市内遺跡発掘調査報告書11』
"	第34集	1997 『葛野( 2 )遺跡発掘調査報告書』	"	第70集	2003 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	第35集	1997 『小牧野遺跡発掘調査報告書』			
"	第36集	1998 『桜峯( 1 )遺跡発掘調査報告書』			

青森市埋蔵文化財調査報告書第70集

### 小牧野遺跡発掘調査報告書

発行年月日 平成 15 年 3 月 31 日

発 行 青 森 市 教 育 委 員 会

〒030 8555 青森市中央一丁目22 5

TEL 017 734 1111

印 刷 青森オフセット印刷株式会社

〒030 0802 青森市本町二丁目11 16

TEL 017 775 1431